





六二二(七)の傳授并真名序の事(筆) 俊成卿(一四) 小野道風(書ける) 貫之(書たる) 定家の書たる 祖徠(正) 正徳なる

古今集打聽 古今集の三鳥 古今集の三木 古今集の序 古今集遠鏡 古今節

こくねのちのさちやく ことくゆ 石

米穀にさいふ 獄 獄門寺 穀物 國恩記 國家

「サイ」裁判ナモ見ヨ 獄門 「ク」泉首ナモ見ヨ 穀物 の字(難米四ノ一) 國恩記 さいふ書(一話二ノ四四)

國家萬葉記 國歌八論 國學 國語 國郡封目 國名

國家萬葉記 さいふ書(白紳一ノ二) 國歌八論 の話(泊々五) 國學 和學(年々二ノ二)

古語は 羅大經 神代語 上世傳國 外國交通 羅大經 神代語 上世傳國 外國交通 羅大經 神代語

古語は 羅大經 神代語 上世傳國 外國交通 羅大經 神代語 上世傳國 外國交通 羅大經 神代語

國史 國子 國師 國司

國史 日本の古史(二上五七) 國子 公君子なり(眼雲二ノ一三)

國主 國粹 國是 國姓爺 國體 國朝大業 國土の菓子

國主 日本(松筆八ノ二二) 國粹 皇國の學者(松筆九三ノ三三)

國府 國府と稱すること(鹽尻七七)

國府宮 同社神主の略系(鹽尻三二ノ二)

國風 (安隨一ノ四一) 守るべき事(我宿三)

和漢の異同(安隨一八ノ二九)

我國事失古風(安隨五ノ一六)

我々風俗に化せん(安夜一ノ二九)

國文 文のしるべ(三ノ卷ノ下)

文章の弊(松語四八)

強て文章に與あらせんとする弊(くせ四)

物語ふみさうし日記もの定め(三ノ下)

伊勢源氏の類を女子に讀ましむるの弊(松語一四)

和書の評(花月一〇八)

今人の歌文ひつ多き事(玉か八ノ七)

歌も文もよくしつは難き事(玉か八ノ七)

かな文の旅路の日記(松語四ノ二七)

一流の日本文章(二話四一ノ九)

と漢文と文字の順序に相違ある事(安夜一ノ五)

「フ」文章「サ」作文ヲモ見ヨ

國分寺 (傍廂六〇)(難江五ノ三八)

尾張國の(鹽尻二一ノ一七)

尾張寺の再興(鹽尻四四ノ三)

護國寺 東山(松筆九八ノ二)

大塚の(一話二六ノ六)

の什寶(一話三六ノ三)

にある家康家光二公の像の由来(一話二九ノ三九)

の五社(一話二四ノ三)

九重 大内心といふ(圓珠二九)

小鯉 石衛門(一話六ノ四〇)

性(事(乘烟二ノ一四)

人の(花月一〇九)

道(事(觀上ノ三一)

本心の妙明(梧拾七)

其知(餘餘五ノ三〇)

三界中以爲主(餘餘四ノ三一)

にて物を見よ(花月五六)

の誠は口を耕りて言ふを須ひす(不問)

を許すこと恐るべき事(心双四)

我を欺く事(心双一八)

人莫不有知(鹽尻三〇ノ三)

人と世間(鹽尻三〇ノ一七)

心たに誠の道 (のうた(松筆一〇ノ一)

心の駒 (松筆七ノ二七)

心の外なるもの (圓秋二六)

心はせ (七)

志 (を立るを肝要とす(閣下ノ八)

子殺 (生兒を殺すの弊、子の多きを欲せさ

殺生兒の弊風(圓意六ノ二三)

庄内の弊風(念二六〇)

「セン」洗兒ヲモ見ヨ

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五果 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五果 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五果 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五果 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五果 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五果 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

こさるへん (留三ノ一九)

ござんなれ (世事八八)

胡砂吹く (さいふ詞(四方、花月四)

胡曹抄 (さいふ書(難未八ノ二二)

胡蓋 (嬉遊一ノ上ノ九)

五材 (續長四一)

五雜俎 (和版)の脱文(安隨七ノ四〇)

梧窓漫筆後編 (を評す(談小三ノ四七)

御座直の侍 (松筆九三ノ二五)

後櫻町天皇 (の御引等(一話三〇ノ一四)

後三條御記 (さいふ書(如蘭三四ノ一)

後三條天皇 (の政事改良の件々(鹽尻一

藤原氏の權を奪ひしこと(閑

次二ノ九)

の第三皇子(白紳一ノ一九)

こさるへん (留三ノ一九)

ござんなれ (世事八八)

胡砂吹く (さいふ詞(四方、花月四)

國名 舊事記に載せたる一の事(南留二

國民 一の賢愚は憂ふまじき事(白紳一

國領村 (松筆一六ノ一七)

谷糞集 (一話一九ノ二)

小櫛 「ト」窓ヲ見ヨ

黒漆屏風上 の詩(餘餘四ノ一)

黒善 附の發心(松筆一ノ一九)

黒甜 軟飽(技海一ノ一〇)

告身 (松筆六ノ四三)

告文 の書き様(松筆九三ノ四一)

告文清書 (一ノ一)

木屎 といふもの(松筆九五ノ二)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五月 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五月 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五月 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五月 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

五月 (凶月考(如蘭一ノ二四)

五月 (念二六〇)

極樂寺 (鎌倉(鹽尻五二ノ二三)

常陸新宿(鐘銘(松筆一五ノ一八)

五月 (孝經三ノ二七)

五月 (孝經一ノ六)

後三年役 の給巻物に付(鹽尻一五ノ一三)(半日六ノ二二)

●コシ

こしく さいふ詞(松筆七八ノ七三)

こしやく さいふ俗語(松筆九八ノ五二九二ノ三八)

こしやく者 (松筆二五ノ二三)

こじれる さいふ詞(安隨一〇ノ二二)(二上六七)

故事 の出處につきて(見小上ノ三八)

故實 の字(秋齋三ノ二二)

悪 の物すき(四方月ノ一〇)

居士 の語の出處(松筆四〇ノ九)

吾子 さいふ字(賸餘一ノ三四)

腰當 (春淡下ノ一五)

腰帶 女人の(藝苑一ノ三〇)(松筆五ノ六)

腰折 は歌に限らず(安隨一九ノ四一)

腰刀 「タウ」刀剣ヲ見ヨ

腰瓦 「ヤシ」屋敷ヲ見ヨ

腰越状 (理齋三ノ五)

腰差 の解(安隨一ノ一七)

腰物奉行 (一話一三ノ一)

扈從 さいふ詞(難未四ノ二七)

古詩歸 さいふ書(賸餘四ノ一四)

古事紀 の撰者(安隨四ノ二九)

古事紀傳 の撰者(安隨四ノ二九)

古史通 に付て(自筆上ノ五八)(同下ノ三)

古書 の事(風土記、書紀、續紀より後)

古人 の評に付て(鹽尻二ノ一九)

乞食 乞有ニ義事(乘燭四ノ七)

物吉(嬉遊一ノ一九)

物實(二〇)

物實の爲(仲間六部又鳩のこひ(嬉遊一ノ一五))

非人(嬉遊一ノ一八)(四方尊ノ二〇)

佐渡にて(なホイトミいふ(茶維前上ノ一六))

の一族(雲華二ノ一四)

の境界(嬉遊附ノ五)

松右衛門(五二)

非人に上下ある事(救助、施行)

のザン切となる初(我衣二六)

取給方書付(半日二ノ二二)

江州(一話四ノ一)

非凡なる(一話五ノ三〇)(百家)

正直なる(一話五ノ三〇)(百家)

既林卷六の内(わくさ一巻)

の言(提醒四ノ一八)

を感化せし語(病問二)

を耻ぢて死せし者(鹽尻三五ノ二三)

真家の婦女を辱しむ(半日二ノ二六)

六如居士作(圖(嬉遊附ノ三))

東都の詩(宮川一ノ四)

人を罵て(さいふ(松筆二〇六ノ三四))

乞食袋 (松筆九三ノ六〇)

五色 「イロ」色ヲ見ヨ

五紙禮 「シ」辭表ヲ見ヨ

五十音 五十連音(暗語上ノ一)

の配字(松筆一六ノ一五)

國音五十母字(藝苑二ノ一ヨリ三五)

第六行第十行の音(老牛下ノ一四、一五)

の本源(碩鼠一ノ一)

五十文字(海四ノ二八)

五十文字(如蘭二ノ三九)

和蘭人に唱へさせたる事(玉か二ノ四二)

「コオ」語音「イロ」いろは「モン」文字ヲモ見ヨ

五十三驛 さいふ事(一話二ノ一九)

五射 (安隨二〇ノ五六)

五常 (我俗二)

五常樂 の常の字よみ方(南留三ノ二二)

五障 (鹽尻一ノ一五)

五尺の菖蒲 の義(一話三ノ四三)

五松館筆語 抄録(一話二ノ一)

五所明神 の祭神(鹽尻二ノ四)

甌島 薩州の地理(茶筆一ノ一五)

小式部内侍 の懸敬(幽遠上ノ二七)(四方月ノ二四)

小十人 の由緒(一話一ノ一)

小侍從 といふ人二人あり(春淡上ノ一五)

小島のすさび の發心(北邊一ノ三二)

大宮 と其著者(鹽尻二五ノ三二)(同三五ノ二九)

後拾遺集 の序につきて(年打上ノ一九)

後生 の道(雲華一ノ一五)

碁子麵 願に心得違多き事(梅叢八)

吳升 吳定菴(賸餘四ノ一)

戸主 (松筆一〇五ノ五九)(一〇六ノ六三)

狐書 さいふ事(難未四ノ一〇)

胡椒 にむせて絶息したる治法(雲錦四ノ一九)

御所 の號(松筆八二ノ二八)

御所詞 (玉か一ノ一三)(内安一六)

御所様 「キウ」宮中ヲ見ヨ

御所染 大御所の稱(孝經四ノ四)

御塚 (世談一八)

輿塚 大和國(玉か三ノ一九)

兒島 備前國一郡の事(笈埃七ノ二)

兒島高德 (笈埃七ノ二)

拾遺 の字(安隨一三ノ二八)

護身法 (病問五)

●コス

吳洲 「タウ」陶器ヲ見ヨ

小索襖 (二上二二)

小菅稻荷 の書付(一話一九ノ三九)

小菅御殿 (一話一四ノ三八)

梢も見えぬ とよめる歌(隣女一ノ三〇)

不來 「カズ」數の子ヲ見ヨ

●コセ

巨勢金岡 と五系譜(安隨四ノ三五)

小瀬復菴 の書(一話二七ノ一一)

小瀬市菴 の子孫(白神七ノ一)

盲女 (嬉遊六ノ上ノ一七)

五星聚る の瑞(續見一〇)

五性 の説(難未三ノ九)

五節 (松筆八五ノ五八)

五節供 明朝の事(鹽尻一ノ八)

五節繪 「セツ」節供ヲ見ヨ

五節櫛 (安隨一〇ノ二七)(二上八七)

五節舞 (嬉遊五ノ一〇)(理齋五ノ六七)

五節童 に妓ヲ奉る(安隨一五ノ三五)

五節家 (安隨一ノ五九)

家禮業の事(鹽尻四ノ一)

（四）井武家政界の事（山下一九）

寤生 の字義（餘一〇一九）

戸籍 戸帖（松筆一九〇二）

人別帳（松筆八六〇四）

天保十四年人別取録（寛天二九）

「ヤキ」籍帳ヲモ見ヨ

古蹟 心無く、を改むるを嘆す（鹽尻三〇）

古銭 「クワ」貨幣ヲ見ヨ

古戦場 談（笈埃六〇一六）

小宣旨紙（松筆七二〇二二）

御前（南留三〇一五）

御饗殿（略語下ノ三）

後選集 拾遺集のうた（玉ッ一四）

のうたの假字たかひ（樞閣下ノ三）

●コソ

こそ といふ詞（松筆九五〇九七）

（隣女二四）

與の字を、といふ事（南留一〇二〇）

入をよぶに昔は何のし、といひし事（松筆一〇六〇三三、五九）

社の尊稱（松筆一〇六〇三三、五九）

「シ」社ヲモ見ヨ

こそける といふ詞（松筆六四〇三三）

こそく といふ詞（松筆九六〇四）

姑息 といふ語（鹽尻六〇三八、同七〇八）

子そだて村 子六月村を、

前ノ下ノ三九

小僧 給仕の、

（松筆四〇二〇）

小袖 給仕の、

（松筆二〇一五）

小袖引 といふ古實（松筆一〇二〇三〇）

狐鼠進退 の義（鹽尻二〇二二）

●コタ

こたひ 古物語の詞、

（安夜五〇一七）

こたれ といふ、

（松筆九四〇四五）

五大山 鹽尻二〇二九

五代史 注（長陽二〇四）

五道天 鹽尻七〇一

後醍醐天皇 の勅東下されし元享四年

九月十日の繪巻（鹽尻二延元一年）

の御出京（鹽尻五四二）

笠置に入御の時供奉の人（鹽尻四〇一〇）

天皇の皇后に二院號ある事（鹽尻二五〇二七）

後唐院大師（略語二〇一九）

小大君 のよみ方（玉ッ四〇三四）

悟道 「サト」帳ヲ見ヨ

火燧 又火ひつ、板倉の冷、

（松筆六〇一八）

炬燵（松筆五七〇二七）

巨燵（松筆四〇一四）

波邊水庵客に、

（松筆五三〇一七）

支那の、

（松筆九六〇九）

木立 といふ詞（松筆九六〇九）

木魂（松筆八〇二〇）

見玉空々（一話二八〇三三）

●コチ

こちく 備へ、

（松筆一五〇一）

こちく、しう といふ詞（安夜一九）

こちよれ といふ詞（鹽尻上ノ九）

狐注 の事、其出處（四方花ノ二七）

護持院 の創立并大僧正暨光事（長春一話一六）

の什寶（一話三六〇一四）

五帝 一六帝（傍廂二〇）

吳竹老人 事（一話三〇五）

●コツ

こづく といふ詞（松筆九六〇二二）

こつそり といふ俗語の文字（安夜五〇）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）

こつちよう といふ詞（松筆一一二〇四）



—某卿寶永三年關東下向の事并に詠歌  
 「(國府三ノ四ノ八)」  
 近衛家熙 入道前攝政(欲齋書院目録  
 備録の事(國府一ノ九)  
 の詩(一話四ノ一六)  
 近衛内前 近衛准后の薨去(一話二ノ三  
 五)  
 近衛伊尹 龍山公の能書(嬉遊三ノ六)  
 近衛信時 龍山公の歌(大海四)  
 近衛基前 の和歌(半日八ノ一七)  
 兄弟部 (松筆八四ノ四〇)  
 鱈 といふ名詞(安永七ノ二七)  
 鱈を食用とする(松筆五〇)  
 の古名をツサセといふ(半馬二八)  
 見手相 (安永八ノ三六)(橋本二ノ一ノ三  
 (安永五ノ二〇))  
 は其物あるにあらす(白筆下ノ二  
 (三))  
 「カシ」柏サモ見ヨ  
 木葉猿 (松筆九二ノ三二)  
 木花 梅にあらす(茅塞中ノ三九)  
 五ノ丸殿 「テ」の傳方ヲ見ヨ  
 五ノ目紋 (松筆七ノ二五)  
 好める道 人に(一)に備す(春波  
 コノサカ  
 海鼠腸 (茶筆四ノ九)(松筆一〇五ノ一  
 ●コハ

こは といふ事(安永五ノ三二)  
 こはた といふ衣服(嬉遊二ノ上ノ六)  
 子は三界の首柳(松筆九三ノ七〇)  
 古貝 はペンヤなる事(羨燭四ノ一四)  
 聲色 (嬉遊五ノ三五)(同二〇ノ上ノ二六)  
 昔の(後昔二ノ一)  
 五方聖賢會 (羨燭七ノ二)  
 五幡 五方(一)の名なつくる事(技藝二  
 ノ四)  
 小袴 「ハカ」袴ヲ見ヨ  
 小早川氏 の先(國府二八ノ三)(同三八  
 ノ七)  
 小早川隆景 (白筆二ノ四)(茶筆二ノ一  
 小早川秀秋 の法名(國府四ノ一八)  
 小林元備 の小傳(鳥おとしノ首)  
 小春 (松筆二六ノ四六)  
 琥珀 (白筆考八)(白筆考卷四ノ内)  
 琥珀糖 (羨燭九ノ三四)  
 後花園天皇 の即位の始末(國府二ノ  
 強飯 カカロハといふ(玉五ノ一)  
 赤白吉函の(嬉遊一〇ノ上ノ四  
 地食(安永九ノ四〇)  
 赤飯(松筆九六ノ八九)

護法常應録 の撰者(國府三八ノ九)  
 碁盤人形 (嬉遊六ノ上ノ四五)  
 ●コヒ  
 こひぢ 混み(一)といふ(圓珠二四)  
 こひたるもの (一)ノ九  
 戀の事二條(前編三二)  
 老人の(安永八ノ三二)  
 江戸の根岸に女の住居をもちありきし  
 情の折々(春ノ四)  
 情の詩(國府三八ノ九)  
 を詠むる詩歌に付(國府一八ノ一六)  
 の題にて別なよめる歌(國府四ノ三  
 三)  
 戀歌に付(は)はしたる歌(茶筆下ノ二)  
 戀歌に付ては(ウタ)歌ヲ見ヨ  
 戀娘昔八丈 の大當り(半日一三ノ一三)  
 鯉 名物(形)の(足)新(一)ノ(八)  
 丹後國松本某の撰(安永八ノ一〇)  
 龍さなる(松筆六ノ二三)  
 小送る狂歌(半馬七ノ六)(孝經四ノ二五)  
 (崎女一ノ五二)  
 鯉口 刀の(松筆九七ノ二六)  
 鯉筆 といふもの(一話八ノ三七)  
 鯉の瀧登り (一)骨(二ノ二)  
 古筆 「シヨ」書ヲ見ヨ

古筆氏 古筆鑒定平澤氏の略語(難江五  
 九ノ八七)  
 古筆手鑑 (安永一八ノ一)  
 古筆了音 の鑒定(筆上ノ二六)  
 五筆和尚 「コウ」弘法大師ヲ見ヨ  
 五百羅漢 聖前邊田村の(一)の石像  
 (提燈一ノ二一)  
 ●コフ  
 こぶし打 (嬉遊四ノ一八)  
 こぶしの花 (年々一ノ三〇)  
 護符 「フ」符ヲ見ヨ  
 葉をさらす といふ詞(松筆一〇六ノ一  
 八)  
 葉鏡 といふ詞(松筆七九ノ七)  
 後風土記 の作者(孝經四ノ一八)  
 吳服商 の竹馬(嬉遊一ノ六)  
 木向伊豆屋(龍山公の字、越後屋、  
 釘貫、越後屋、大丸屋の事(後昔三)  
 狐不狐 (技藝二ノ二〇)  
 小普請 の駱を収む(圓珠三五)  
 衆(松筆一五ノ五六)  
 當時の有様(圓珠四八)  
 支那の沿革(圓珠六二)  
 金紙の事(半日一三ノ一七)  
 小普請奉行 (一話一三ノ二)  
 古風 の物好は君子の所耻(松筆五二ノ九)  
 好古逸話(四方月ノ一四)  
 古物 土人と瓦偶人(桂林下ノ四)

ふるき物また其のなをいっはり作る事  
 (玉八ノ三)  
 京都三條より掘出したる古物(開次三ノ  
 九)  
 古輪數種(開次三ノ五)  
 津輕松屋の(隨意五ノ三八)  
 日向國諸縣郡境中の(桂林下ノ一)  
 三河國より掘出したる古鐘(開次一ノ二  
 六)  
 文島村關懸銅牌及骨董(北條上ノ四)  
 威奈刺葉銅器來由私記(北條上ノ八)  
 古鐵函(提燈四ノ三)  
 古文學斯 (國府一七ノ八)  
 古文眞寶 の編者(圓珠二ノ二二)  
 後集異同辨并目錄(難  
 三ノ二七)  
 癩取り 支那の(一)の語(嬉遊四ノ五)  
 國府臺 の地名(傍廂一五ノ四)  
 子分親分 の唐語(南敵上ノ二四)  
 ●コハ  
 胡椒 の説(安永八ノ三三)(安永五ノ一六)  
 といふもの(松筆六ノ七)  
 浦倍尼 (一話一五ノ三三)  
 ●コホ  
 こほりの魚 といふ事(松筆八ノ二〇)  
 こほると鳴る (松筆九六ノ三三)  
 五木 といふ遊戯(梅日三ノ三九)

五歩詩 (年打七ノ六七)  
 五韻七 (圓珠一ノ二二)  
 小堀氏 の姓(白筆一〇ノ一八)  
 小堀政一 (遠州)の精練(憲道三四)  
 郡 といふ郷の原(談小四ノ二五)  
 氷 在(ト)といふ(圓珠七)  
 コホリといふ名(圓珠二六)  
 昔は(心)附(し)と(嬉遊七ノ一三)  
 古(心)附(し)事(如)七ノ二九)  
 六月朔日に(食)ふこと(六)月ヲ見ヨ  
 氷室(氷)池(筆)下ノ(一)  
 氷上(孤)渡(而)後(人)應(渡)(松筆七ノ一)  
 創(し)の(事)(國府四ノ三三)(安永一ノ四  
 六)  
 寛延三年(降)る(事)(憲)一(三)  
 一(ト)氷(文)ヲ(見)ヨ  
 氷遊ひ (嬉遊六ノ下ノ三三)  
 氷を敲て火を求む といふ諺(松筆一  
 〇五ノ一)  
 氷献上 (難江六ノ五六)  
 氷豆腐 (嬉遊一〇ノ上ノ四〇)  
 氷柱 (松筆五ノ二二)  
 氷開 春(一)の(う)た(國府四ノ二七)  
 蟬 といふ(圓珠)キリ(ス)(松筆一五  
 ノ四四)  
 といふ(圓珠)キリ(ス)(松筆一五  
 ノ四四)  
 といふ(圓珠)キリ(ス)(松筆一五  
 ノ四四)  
 ●コヒ  
 こひぢ 混み(一)といふ(圓珠二四)  
 こひたるもの (一)ノ九  
 戀の事二條(前編三二)  
 老人の(安永八ノ三二)  
 江戸の根岸に女の住居をもちありきし  
 情の折々(春ノ四)  
 情の詩(國府三八ノ九)  
 を詠むる詩歌に付(國府一八ノ一六)  
 の題にて別なよめる歌(國府四ノ三  
 三)  
 戀歌に付(は)はしたる歌(茶筆下ノ二)  
 戀歌に付ては(ウタ)歌ヲ見ヨ  
 戀娘昔八丈 の大當り(半日一三ノ一三)  
 鯉 名物(形)の(足)新(一)ノ(八)  
 丹後國松本某の撰(安永八ノ一〇)  
 龍さなる(松筆六ノ二三)  
 小送る狂歌(半馬七ノ六)(孝經四ノ二五)  
 (崎女一ノ五二)  
 鯉口 刀の(松筆九七ノ二六)  
 鯉筆 といふもの(一話八ノ三七)  
 鯉の瀧登り (一)骨(二ノ二)  
 古筆 「シヨ」書ヲ見ヨ



こま札 八方こま(嬉遊四ノ三四)  
 こまざら(一)こまざら(松筆一〇〇ノ五)  
 こまるといふ俗語の字(安随八ノ二六、  
 一三ノ三二)(安夜五ノ三三)  
 獨樂(松筆一〇六ノ二)  
 の和名、の流行(嬉遊六ノ下ノ二  
 二)有孔(開耕四ノ三二)  
 文祿年中、の流行(鹽尻二ノ二五)  
 スベタの流行(半日二ノ二四)  
 錢(嬉遊六ノ下ノ四五)足踏三ノ七  
 錢の流行(用捨下ノ四)はんミ  
 うせう(嬉遊六ノ下ノ二三)  
 松風—の流行(見小上ノ一三)  
 駒掛堂 淺草(一話二ノ二二)  
 駒形 —の堀(足踏二ノ二八)  
 —の築(骨董上ノ二二)  
 駒嶺 奥州(一)に人家無き事(鹽尻三  
 三)奥州(二)に鶴棲む(半日六ノ二)  
 駒木根大明神 (開次一ノ三三)  
 駒込神明 祭禮(鹽尻四七)  
 駒込富士 —の由來(見小上ノ二二)(嬉  
 遊七ノ三三)  
 駒場石 駒場太郎(鹽尻三六ノ三五)  
 駒引錢 —「クマ」貨幣ヲ見ヨ  
 駒迎 —「ツマ」馬ヲ見ヨ

駒よせ 「カキ」垣ヲ見ヨ  
 護摩 眞言宗—の二串(鹽尻四七ノ一  
 六)神道—「シン」神道ヲ見ヨ  
 胡麻とうらん さいふ俗語(松筆一〇九  
 ノ三〇)  
 高麗日妙 僧(一話二六ノ三)  
 高麗人 (北邊二ノ三)  
 高麗唐土 さいふ事(松筆三ノ三五)  
 高麗王者 日本大也の聲イシシ碑ヲ見ヨ  
 狛犬 —考(溫知叢書第八編ノ内)  
 —の事(鹽尻三ノ二五)  
 狛子 —(安隨四ノ八、四ノ二、一九ノ  
 一)二(松筆一〇三四)鹽尻九ノ五  
 神前の子(鹽尻二七ノ一八)  
 —は高麗犬と云く(き説(鹽尻二〇ノ  
 二)獸類の頭を神前宮門等に用ふる俗(鹽尻  
 四六ノ一六)  
 —の足を括る兜(嬉遊八ノ一七)  
 「チン」鐘離屋「シ」獅子ヲ見ヨ  
 狛犬考 解題(溫知叢書第八編ノ内)  
 狛人姓 解題(談小五ノ二三)  
 小町踊 —「オト」踊ヲ見ヨ  
 小松殿教訓狀 の寫(安隨二〇ノ二  
 四)  
 小松屋百龜 落語の上手(假世  
 一〇)  
 小松彌助 由緒書(一話四七ノ七)(提  
 禮四ノ七)

小まとみ —初(白神四ノ二)  
 小間物 さいふ名(四方、花ノ六)(白神八  
 ノ七)  
 小間物見世 (松筆九ノ二七)  
 知更雀 (安隨一ノ二三)(安夜一ノ一五)  
 木舞 舞の—(嬉遊一ノ上ノ二三)(松筆  
 九六ノ九)  
 同慶し(嬉遊一ノ上ノ二三)  
 來日部 (拾玉一ノ一八)  
 田作 (松筆九ノ二六三)  
 ②コミ  
 こみ 「テリ」座ヲ見ヨ  
 後水尾天皇 以下六帝の母名(鹽尻二六  
 元和の帝のうた(大海二ノ二)話四ノ一  
 九)  
 天皇新内裏に遷幸の時の御歌(鹽尻三七  
 天皇八十二歳の御歌(一話四一ノ六)  
 小御門神社 獻(長歌并短歌)如關二  
 九ノ一六)  
 小水戸 ミ稱する三侯(談小二ノ二〇)  
 小宮 客殿(玉ノ六ノ二三)  
 小宮山内膳 の忠節(鹽筆、禮ノ二九)  
 小宮山内昌秀 富田長洲—の文を評す  
 (談小一ノ二二)  
 小宮山昌世 (一話一三ノ四三)  
 五民 僧、山伏、賢者、茶人、器工(鹽筆一ノ  
 二七)

②ミ  
 護謨 アラヒヤム(筆中ノ二二)  
 虛無僧 (鹽筆一ノ三二)  
 古の—(鹽筆一ノ二八)  
 和道(嬉遊六ノ上ノ八)ハロロ二一)  
 こま僧の尺八を業とする起り(鹽尻二四  
 ノ四)  
 尺八を以て繩を吹く(鹽尻二六)  
 僧の一種ホロとホロシ(鹽尻三三ノ一  
 五)  
 ぼろ(安隨一五ノ二四)  
 海音の事(一話二六ノ三八)  
 衛定(見小上ノ一三)  
 後村上天皇 の賀名生に移り給ふ事(鹽  
 天皇崩御年月の異説(鹽尻一七ノ三三)  
 天皇の崩御并七回忌(鹽尻三六ノ一三)  
 ③メ  
 こめ(松筆八ハノ五三)  
 —の古字(鹽尻一四ノ一八)  
 —の字古訓(安隨一五ノ五)  
 かシ子さいふ(安隨一〇ノ三二)  
 こシ子又ヨ子さいふ(三上九ノ一)  
 子さいふ(鹽筆一ノ一)  
 か猿の身さいふ(松筆上ノ一)  
 八木さいふ(安隨四ノ五五)(玉ノ六  
 ノ二二)(南敵上ノ二)(松筆一六ノ  
 四)  
 —を鑿牙といふ(南敵上ノ一)(松筆上  
 粒を佛菩薩のさいふならる事(玉  
 粒を佛菩薩のさいふならる事(玉

④モ  
 米市場 八木のはなし(溫知叢書第十二  
 大阪の—(一話二七ノ三二)  
 米百 符辨(提禮五ノ二五)  
 米相場 —御題意被仰渡(半日一四ノ  
 二五)  
 米題 會所の設立(寛天五)  
 「トウ」堂島ヲ見ヨ  
 米搗 昔ばなし(嬉遊、附ノ一五)  
 五明扇 「アフ」扇ヲ見ヨ  
 吳明國 (鹽筆七ノ四二)  
 籠様 (松筆六六ノ二四)  
 ⑤ミ  
 こもり 山こもり大座、こもり等の  
 (南敵三ノ四)

⑥メ  
 拔(五磔二ノ二六)  
 神社に薦を敷川ふる事(談小三ノ三六)  
 一食、葉(松筆七八ノ四三)  
 拔野山 豐州—溫泉勝景の圖(鹽尻  
 四三ノ一)  
 薦の子 海軍、委弱、こもるめ、こもつ  
 の、こもふ、がんづる(五磔二ノ  
 二七ノ二八)  
 枯點上人 紫衣を許されし時の歌(一話  
 三ノ四)  
 五目ならべ 格五新體加關一〇ノ三二)  
 五文字 「フチ」婦女の稱ヲ見ヨ  
 子持筥 白神三ノ九)  
 子持壺 さいふ詞(北邊二ノ二二)  
 子守歌 蓮如上人の—(遊京下ノ八)  
 後桃園天皇 の時の御局(一話十二ノ二  
 女御入内(半日二ノ三〇)  
 天皇御遊(半日二ノ三三)  
 天皇御不豫、皇子被仰出(一話二二ノ二  
 二)  
 本守 (松筆九六ノ六)  
 籠僧 (松筆九八ノ二二)  
 小紋 市松、龜殿—(談小二七)  
 大久保 (世談二〇)  
 衙門 (乘烟二ノ二三)  
 古文書 古樂跡(柳隨初ノ一七)  
 近代社寺 分散の事(南敵二ノ二二)  
 の偽(一話一七ノ六)



**古** 我邦人娶支那婦人者(隨志四ノ一)  
 古代に於ける事玉(三ノ二)  
 命の(一) 國(隨志四ノ二)  
 同姓不娶(隨志四ノ二)  
 早婚の弊(春波一ノ五)  
 嫁女必須晉察(隨志四ノ二)  
 持參金(隨志八ノ九)(隨志二)  
 妻を娶るに附してする餘財(隨志三七)  
 馬を賣つて財を聚る事不言(松筆六ノ一)  
 出陣再婚(隨志四ノ一)  
 出陣時(隨志四ノ一)  
 本多忠政の女(一) を拒みし事(隨志二)  
 死二女を葬に託せし事(隨志二ノ四八)  
**婚** 女(一) 南(隨志二ノ二)  
 赤坂女下(隨志二ノ二)  
 上古婚(隨志二ノ二)  
 女下嫁の禮(隨志二ノ二)  
 男子婚(隨志二ノ二)  
 戸(隨志二ノ二)  
 五月十九日(隨志二ノ二)  
 五月十九日(隨志二ノ二)  
 五月十九日(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)  
 結納の儀(隨志二ノ二)

**因** 因快止動(一) 因快止動(一) 因快止動(一)  
 因快止動(一) 因快止動(一) 因快止動(一)  
**良** 良則子(一) 良則子(一) 良則子(一)  
 良則子(一) 良則子(一) 良則子(一)  
**混** 混堂(一) 混堂(一) 混堂(一)  
 混堂(一) 混堂(一) 混堂(一)  
**混** 混本(一) 混本(一) 混本(一)  
 混本(一) 混本(一) 混本(一)  
**混** 混天(一) 混天(一) 混天(一)  
 混天(一) 混天(一) 混天(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)  
**混** 混(一) 混(一) 混(一)  
 混(一) 混(一) 混(一)

**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
**鏡** 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)  
 鏡(一) 鏡(一) 鏡(一)

**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)  
**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)  
**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)  
**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)  
**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)  
**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)  
**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)  
**座** 座(一) 座(一) 座(一)  
 座(一) 座(一) 座(一)

**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
**西** 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)  
 西遊記(一) 西遊記(一) 西遊記(一)

**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
**西** 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)  
 西宮記(一) 西宮記(一) 西宮記(一)

賽馬 (遊遊七ノ内)  
 賽の場 (遊遊四〇ノ三)  
 賽に臨みて神主を定むる事 (玉か八ノ三)  
 賽ふりの天神の祭天皇を天に祀さいふ事 (玉か二ノ四)  
 牛を殺して漢神を祭りしこと (玉か一四)  
 桓武帝祭屠牛祭神 (鹽尻三四ノ二八)  
 桓武帝祭屠牛祭神 (鹽尻三四ノ二七)  
 賽馬 (遊遊七ノ二)  
 賽馬 (遊遊七ノ一)  
 賽馬 (遊遊七ノ二)  
 賽馬 (遊遊七ノ一)

才難 (我儀一ノ二七)  
 才井河 大和國の才 (鹽尻二〇ノ二七)  
 三枝 佐伊久佐の訓 (安隨一七ノ二七)  
 三枝 佐伊久佐の訓 (安隨一七ノ二七)  
 財貨 殖財の比喩 (一話八ノ三三)  
 財貨 殖財の比喩 (一話八ノ三三)  
 財貨 殖財の比喩 (一話八ノ三三)

財布 「タカ」賽「ハツ」賽物ヲモ見ヨ  
 財布 「ハナ」賽紙入ヲモ見ヨ  
 蔡花 「レン」蓮花ヲ見ヨ  
 妻子 「ツマ」妻コノ子ヲモ見ヨ  
 妻子 「ツマ」妻コノ子ヲモ見ヨ  
 妻子 「ツマ」妻コノ子ヲモ見ヨ

彩色佛師 「フツ」佛師ヲ見ヨ  
 彩色佛師 「フツ」佛師ヲ見ヨ  
 彩色佛師 「フツ」佛師ヲ見ヨ

齋藤龍口 出世の緒 (鹽尻一三ノ三三)  
 齋藤龍口 出世の緒 (鹽尻一三ノ三三)  
 齋藤龍口 出世の緒 (鹽尻一三ノ三三)

細工 (松筆九八ノ二)  
 細男 「モイ」細男ヲ見ヨ  
 細男 「モイ」細男ヲ見ヨ  
 細男 「モイ」細男ヲ見ヨ

板倉伊賀守越前公平の事(白秘三九)  
 榊木(續見一〇六)  
 裁縫 古の女は「するに手から棉をつみ  
 縫ひをよりにし事(婦遊二ノ上ノ八)  
 縫留の綿を縫ひて縫ひ事(良陽六七)  
 上ノ一〇〇)  
 在應 さいふ語(松筆九五ノ八、九七ノ四  
 一)  
 在番衆 遠國へ使者の途中供御并  
 道具の事に付白石の意見書(自  
 秘考七ノ一、二六、三三)  
 駿府 役高の事に付白石の意見書(自  
 秘考七ノ三三)  
 大番組 二條大坂在番の法(自秘考七ノ三  
 一)  
 在名 (松筆九三ノ五一)  
 柴燈 「トウ」燈同ヲ見ヨ  
 柴門 柴の門にあらす(南敵上ノ一)  
 採藥使記 (婦遊二ノ四六)  
 ザツ  
 さう さいふ俗語(安隨三ノ二二)  
 さうかぶ の字(玉五ノ七)  
 さうく しき さいふ詞(安隨一四ノ  
 さうじふ さいふ語(松筆四ノ四三)  
 相 の字(續見七ノ二〇)  
 相於 の字義(如蘭三五ノ三二)

相生相剋 の説(橋卷初ノ二ノ九)  
 相牛經 偽作なり(隨意四ノ一九)  
 相續 有子傳其業(隨意二ノ二二)  
 相場 海に溺る者(訓讀五)  
 相賣 又相消(松筆二〇五ノ五九)  
 相馬内親 の結構(屠龍四四)  
 相馬大作 「シモ」下斗米考之進ヲ見ヨ  
 相觀 観相者の道(橋卷初ノ二ノ一二)  
 非相 印相、物相、松筆一〇〇ノ三六)  
 非相(松筆二ノ一五〇)  
 「カサ」家相(二ノ八)相ヲモ見ヨ  
 壯 又「約爲」(隨意五ノ一七)(梅日二  
 四二)  
 象 象の字(談小一ノ四三)  
 の字を爲し書く事(二話二ノ一七)  
 の字を爲し書く事(二話二ノ一七)  
 の字を爲し書く事(二話二ノ一七)  
 象 象の字(談小一ノ四三)  
 象 象の字(談小一ノ四三)  
 象 象の字(談小一ノ四三)

鎗金(續見二ノ四)  
 寄瑣(安隨三ノ三六)(婦遊一ノ上ノ二四)  
 遺使者於朝鮮國求(平日四ノ二  
 八)  
 象 象の字(談小一ノ四三)  
 象 象の字(談小一ノ四三)  
 象 象の字(談小一ノ四三)  
 草紙 (婦遊一ノ上ノ二九)  
 草書 草書の字(談小一ノ四三)  
 草書 草書の字(談小一ノ四三)  
 草書 草書の字(談小一ノ四三)  
 草書 草書の字(談小一ノ四三)  
 草書 草書の字(談小一ノ四三)  
 草書 草書の字(談小一ノ四三)

草木 名解(鹽尻三ノ九六)  
 の名に馬犬熊など冠せていふ言(松筆  
 一ノ一八)  
 寶永六年「悉く水事(鹽尻二〇ノ一)  
 「ツエ」植木「シ」樹木「ヨ」植物ヲモ見  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)  
 草履 一の沿革及種類(我衣八五ヨリ九  
 〇)

雙魚 「シヨ」書狀ヲ見ヨ  
 造化 の功(燕石六ノ三四)  
 耶佛二教の「一説(談小一ノ四三)  
 捨火 (乘廻五ノ一八)  
 裝演手 「ヘウ」表装ヲ見ヨ  
 精難 魏武帝の殘忍、一の露逆(隨意  
 一ノ三四)  
 曹操 の假語可惡(松筆八〇ノ七)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)  
 曹司 (安隨八ノ二二)(安夜四ノ二九)

死者三日にして嘔す(き事(慈道三〇)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)  
 死者の嘔を用ふる事(鹽尻三ノ一六)



盃を乾す さいふ話 (松筆八〇ノ二六)  
 盃流し (辯遊七ノ九) (假世六ノ二)  
 肴 サカサといふ名 (燕石一ノ二二)  
 三種の字の論 (秋聲三ノ二二)  
 三種の字の論 (松筆一〇五ノ四七)  
 式三献の取柄 (松筆一〇五ノ五〇)  
 出陣凱陣の組の事 (安隨二ノ二七)  
 瓜茄子の酒の組の事 (松筆二ノ三四)  
 「モン」膳部「レ」料理チモ見ヨ  
 肴店 「ホン」木郷チモ見ヨ  
 魚 「ウヅ」魚チモ見ヨ  
 魚商 古の「鹿」(鹿塚四〇)  
 堺 泉州左海(笑埃七ノ二七)  
 泉州の海中 (一話二二ノ二六)  
 泉南の鷹の事 (松筆二ノ二六)  
 堺 山分田介(桂林上ノ二四)  
 江川(橋等)の事 (松筆一六ノ七)  
 堺町年代記 (理齋五ノ一九)  
 相模川 古い(居龍四七)  
 相良氏 の由緒 (白紳五ノ三)  
 月代 (安隨四ノ二九) (辯遊一ノ下ノ二二)  
 (世談一七) (彌生四ノ三) (玉か四ノ一)  
 (その)額 (辯遊一ノ下ノ三)  
 の疾さいふ事 (前留一ノ七)  
 (な)むさいふ事 (松筆七八ノ九二)  
 月額の事 (南洲四)  
 月願 (葵苑一ノ二六)

武家の「の」の義、の沿革 (茅窓二ノ二二)  
 三ヶ月形 (松筆五ノ二二)  
 下り松 一乗寺村の「」 (笑埃五ノ一七)  
 ◎ササ  
 さきう の義 (安隨四ノ一一)  
 さきと、さいふの (一話二ノ一八)  
 前 藤岡と佐佐の差又後と佐佐さいふ事 (玉か二ノ二二)  
 鷹 白鳥といふ (松筆四ノ三〇)  
 鷹 五位「」 (松筆七ノ一八)  
 鷹 其後「」 (松筆七ノ一六)  
 鷹 烏賊甲にて作りし「」の玩具 (辯遊六ノ下ノ三七)  
 鷹足 「ク」竹馬チモ見ヨ  
 鷹のしりぎし 「前」 (圓珠三)  
 驚大明神 (一話一三ノ二五) (我衣一六)  
 驚草 の三種 (傍柳二二四)  
 三枝 「サイ」三枝チモ見ヨ  
 佐喜草 「ヒ」橋チモ見ヨ  
 芍 (支向二ノ四)  
 左義長 (安隨一九ノ一三) (松筆七二ノ二五)  
 井田文 (辯遊一〇ノ下ノ五)  
 三徳打 (一話二二ノ一九)

正月十五日の「」 (松筆四〇ノ三二)  
 櫻竹と飛馬朝 (松筆三ノ二二)  
 「イ」忌竹「」唱文師チモ見ヨ  
 幸福 「カツ」幸福チモ見ヨ  
 先觸 排馬腹 (葵苑三ノ四)  
 ◎ゾク  
 さくく、汁 (辯遊一〇ノ上ノ五)  
 さくくさめ といふ詞 (松筆六七ノ三〇)  
 さくくさめのとじ さいふ事 (半馬三四)  
 古六ノ三二)  
 さくくじり といふ詞 (玉か三ノ三二)  
 さくくづ の解 (白紳二ノ一四)  
 さくくづ箱 (居龍四〇)  
 さくくり (松筆七四ノ三〇)  
 さくくりの上に尻かけて さいふ詞 (松筆九ノ八)  
 積 左藤中ノ誓 (黨樓一ノ三)  
 「カ」冠チモ見ヨ  
 錯 不能爲此「の」義 (梅日三ノ三〇)  
 錯列法 四十七言の敷衍 (兎集九二) (兎策の字義 (松筆六三ノ四七))  
 柵 わかき讀み例 (松筆一一九ノ二二)  
 劉 (昆陽二八)  
 佐久佐神社 (比古六ノ三九)

佐久那太理 (安隨一ノ三二、九ノ一八)  
 (安夜一ノ一八) (傍柳七ノ九) (上二六)  
 佐久間氏 の姓并盛政の事 (白紳一〇ノ一八)  
 佐久間九郎右衛門 (白秘三〇)  
 佐久間曾平 の睡氣 (窓子二二)  
 佐久間大膳亮 の系譜 (松筆八ノ二五)  
 佐久間信盛 の事蹟 (兼度五ノ九)  
 佐久間立齋 的事 (窓子二五四)  
 佐倉 の洪水に田浮出の事 (兎小中ノ二七)  
 佐官 (松筆九三ノ一七)  
 作事 「ケン」建築チモ見ヨ  
 作事奉行 越中守 (渡さし書 付) (半日六ノ一八)  
 作文 物かくに心すへき事 (玉か七ノ二二)  
 「は」讀書にあり (松筆七ノ二二)  
 不傳 (松筆七ノ四七)  
 巧拙 (松筆七ノ一八)  
 巧拙 (松筆七ノ一八)  
 「カン」漢文「ロク」國文「ブン」文章チモ見ヨ  
 鮮答 (撫書二ノ一〇)  
 上 (二二五)  
 鹽龍珠 (桂林下ノ二〇)  
 上横町の珍事 (半日五ノ八)  
 朔旦 冬至 (安夜一ノ三三) (安隨一ノ四六) (雲錦三ノ二四)  
 「下」冬「上」チモ見ヨ

朔望入閑 (松筆六三ノ七)  
 座喰すれば山も盡る (松筆六〇ノ六)  
 櫻 (隨意一ノ五) (如蘭一〇ノ一)  
 (花さいふ) (玉か四ノ二〇) (茅窓中ノ三九)  
 の説 (茅窓中ノ三九)  
 海土に「」 (松筆六五ノ一六)  
 梅の花と「」 (松筆二ノ一四)  
 梅の名 (松筆二ノ一四)  
 梅の木色 (年打上ノ三九)  
 梅の花 (松筆五ノ三四) (清閑三)  
 花の興 (松筆九ノ一)  
 花の舞 (松筆九ノ一)  
 山に「」 (松筆七ノ一九)  
 都にて「」 (松筆七ノ一九)  
 六「」 (松筆七ノ一九)  
 十六「」 (松筆七ノ一九)  
 犬「」 (松筆七ノ一九)  
 鳥帽子 (松筆七ノ一四、八ノ二六)  
 鞍馬山のうす (居龍四二)  
 東光寺のうす (支向三ノ下ノ二三)  
 小吉野 (松筆五ノ九)  
 金王 (松筆五ノ九)  
 秋色「」 (松筆七ノ二二) (奇跡一〇〇)  
 幡布「」 (松筆七ノ二二) (奇跡一〇〇)  
 大「」 (松筆七ノ二二) (奇跡一〇〇)  
 普賢象 (松筆三ノ一七) (松筆八七ノ三五)  
 冬「」 (松筆三ノ一七) (松筆八七ノ三五)  
 さもあら「」 (松筆三ノ一七) (松筆八七ノ三五)  
 山「」 (松筆三ノ一七) (松筆八七ノ三五)  
 正月十六日に開く「」及四時花ある「」 (銀屑二)

伊豫國正月咲の「」 (一話一ノ一〇)  
 香ある「」 (一話二ノ二八)  
 吉野嵐山の「」 (閑耕一ノ一四)  
 吉野嵐山の「」に鳥の害をなせし事 (閑次一ノ一三)  
 南殿の御階の「」 (玉か六ノ九)  
 朝鮮の「」 (昆陽七三)  
 三井寺の夜「」 (橋本二ノ四ノ五)  
 貞福寺の「」 (橋本二ノ四ノ五)  
 植「」 (長春下ノ一七)  
 須磨寺の制札評判 (清閑二)  
 祝「」 (一話三ノ三二)  
 祝「」 (一話四ノ一八)  
 祝「」 (一話五ノ三二)  
 祝「」 (一話五ノ三二)  
 花月の詩 (松筆五ノ一〇)  
 山に入重「」 (年打上ノ八〇)  
 八重「」 (年打上ノ八〇)  
 兼平「」の歌の清濁 (安隨一三ノ二二)  
 吉野の雪と見し古歌 (松筆四ノ一四)  
 「ハ」散れるを見て「」 (松筆五ノ一八)  
 「ハ」花見チモ見ヨ  
 櫻井永仙 (松筆一五ノ八)  
 山城 付西行の歌の事 (鹽尻二ノ一七)  
 少八忌 (松筆九三ノ四四)  
 櫻川池 遠州「の」奇事 (笑埃六ノ二五)  
 櫻川石 の祝 (松筆八六ノ二二)  
 櫻川お仙 茶屋女「」 (半日一三ノ三四)  
 櫻井 安永年間「の」流行 (辯遊二ノ三七)

櫻島 薩州の噴火(一話四四ノ二)

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

櫻田 江戸の地名(巻海二七)松筆九

酒

竹葉、わさ、木香、みき、七ツ梅星
(梅日一三〇)(一話二〇ノ四四)(瓦
(五磯二)ノ一ヨリニ)

「サケ」酒ヲ見ヨ
「サケ」酒ヲ見ヨ
「サケ」酒ヲ見ヨ

酒戦 高陽剛飲巻、題一(一話三八ノ
(松筆九)ノ二)
酒を酌む さいふ詞(玉か二ノ二七)
酒の息 (松筆一四ノ二〇)

下緒 鎌倉(一秋登三ノ六)
提げ重 「イウ」遊女ヲ見ヨ
左驗 の字義(松筆一〇五ノ二)

さ、折 (嬉遊二ノ下ノ二三)
さ、かに 蜘蛛を——さいふ(燕石
(一ノ二三))
さ、きつにすがきさぼせり 解の義
(松筆八ノ三)



九  
 佐々木盛綱 かの藤戸を渡るの説(安随二  
 の評(脛餘三ノ二二))  
 佐々貴神社 近江(尻七ノ三三)の祭神(鹽  
 榮螺の角の有無(笈埃八ノ二))  
 笹魚 (笈埃四ノ一)  
 飛騨國 國説(兼葭二ノ六)  
 酒折宮 甲斐(玉が八ノ三)より出たる古物の事  
 捧げ物 (松筆九三ノ四三)  
 篠船 といふ玩具(嬉遊六ノ下ノ四七)梅  
 日(一ノ一三)  
 狹々波 さいふ地名(續見五六)  
 雀部 ハリ、ハ、イ、ハなる事(南留三ノ二六)  
 座不冷御修法 (松筆九五ノ三八)  
 簾 の事(二話一ノ三三)  
 鏡すり の圖説(玉が四ノ一七)  
 小好男 さいふ月の異名(圓珠五)  
 山茶花 をツハキと混する事(鹽尻二七  
 の珍貴粉の風(一話四五ノ二))

さし 物を書きして等の(安隨九ノ二五)(二上三五)  
 さしも 井さもといふ詞(安隨三  
 ノ四八)  
 さしもくさ の説(世事四二)  
 砂紙 (續見六〇)  
 沙嘴 (松筆一〇九ノ二四)  
 匙 清の李勇郷の樂(兼葭二ノ二四)  
 座敷 屋のうちの間(松落三ノ四九)  
 茶 小(嬉遊一〇ノ下ノ  
 二〇)  
 居間 飾物(嬉遊一ノ上ノ九)  
 櫓敷 五(松筆九三ノ八八)(松落三ノ五  
 の文字(玉が八ノ三三)(松落三ノ五  
 の正字(安隨九ノ二九)(二上二八)  
 (孝經四ノ三三))  
 差几帳 「キチ」几帳ヲ見ヨ  
 差籠 「ムシ」籠ヲ見ヨ  
 指油 「アブ」油ヲ見ヨ  
 指子 (安隨九ノ八)(二上二二)  
 指出る 三木某かうた(松筆九三ノ八七)  
 指貫 主上の御(井水口(安隨一四ノ九)  
 指羽 翳(鏡層二)  
 指物 甲士の(安隨一八ノ三〇)  
 八(四ノ七四)シヒナ小旗(松筆  
 尾州家人(松筆九三ノ八八)(松筆  
 尾州家人(松筆九三ノ八八)(松筆  
 尾州家人(松筆九三ノ八八)(松筆

介川家 赤き引綱の事(安隨一一ノ  
 目賀田氏の(宮川一ノ二三)  
 挿花 「イケ」生花ヲ見ヨ  
 刺身 (孝經三ノ二五)(玉が二ノ一七)  
 (松筆九三ノ七三)(〇四ノ三八)  
 サス  
 さす さいふ字の數義(安隨一四ノ四)  
 さすが さいふ俗語の字(安隨八ノ二六、  
 一ノ九、四六)(安隨五ノ三)  
 鞍の (松筆九六ノ三三)  
 武藏鎧 といふ事(閑耕三ノ一五)  
 さすらふ さいふ詞(松筆六九ノ二〇)  
 座衆 門徒の(松筆一一五ノ二〇)  
 座主 の始(理齊六ノ一一)  
 指册 (松筆九五ノ三二)  
 サセ  
 沙石集 (年打土ノ二四)  
 座席 の法(擲海下ノ二八)  
 座禪 靜座安座(安隨九ノ一一)(二上  
 座と(一六)同じ(鹽尻四ノ一四)  
 の時却て妄想の浮ぶ事(閑次四ノ三  
 九)  
 座禪豆 「ニマ」煎豆ヲ見ヨ

左遷 の時七種の逆事(松筆五ノ一)  
 サソ  
 さぞ といふ詞(安隨一〇ノ七)(二上五  
 九)  
 サタ  
 砂糖 (糖(糖苑九ノ二六)  
 砂糖の効用(續見五四)  
 昔は (松筆八〇ノ三九)  
 倭製 (松筆八〇ノ三九)  
 唐土 (松筆八〇ノ三九)  
 江戸人 (松筆八〇ノ三九)  
 砂糖漬 冥果(糖苑九ノ一九)  
 砂糖豆 沙羅(糖苑一〇ノ二六)  
 砂圍 「ツツ」竊燒ヲ見ヨ  
 座頭 四分の袴(柳記下ノ五七)  
 座頭 妙音講 (松筆六六ノ五六)  
 座頭の夜這 といふ諺(嬉遊九ノ四三)  
 佐田天満宮 (松筆六六ノ四五)  
 佐竹 さいふ地名(談小一ノ三三)  
 佐竹氏 の事(白紳一〇ノ二六)  
 の系譜(白紳五ノ四)  
 蹉跎寺 土佐國(七不思議(笈埃  
 三ノ二九))  
 貞元親王 清和帝第三王子(桂林下ノ二二)の墳

貞行親王 七歳の和歌付令失明給事(閑  
 自二ノ七)  
 サチ  
 佐治氏 尾州知多郡系圖(鹽尻四八ノ  
 三一)  
 幸の神祭 雜祭(鹽尻二〇ノ  
 六)  
 サツ  
 さつさ立 「アテ」借戲ヲ見ヨ  
 急 の字(乘燭四ノ九)  
 五月山 攝州(望海亭碑(雲錦二ノ六)  
 雜學 (松筆八二ノ七)  
 雜行 さいふ語(松筆一一五ノ二三)  
 雜事 さいふ語(松筆九〇ノ三四)  
 雜色 の名目(蒼梧三ノ一六)(二上九  
 三)  
 如木 (松筆九七ノ四二)  
 (白紳五ノ二四)(一話八ノ二七)  
 (嬉遊附一五)  
 は唐の執金吾なる事(一話二二ノ二  
 四)  
 雜草 (安隨三ノ五六)  
 雜訴決斷所 (松筆九一ノ九)  
 殺人刀 活人劍(松筆七八ノ九四)

殺風景 (隨意四ノ三一)  
 颯踏 (松筆九八ノ五五)  
 察天筒 「セイ」晴雨計ヲ見ヨ  
 册府元龜 の編纂(隨意六ノ二九)  
 薩摩 在唱東國といふ(比古四ノ一)  
 の風土(茶筆四ノ八)  
 薩摩氏長 (松筆九六ノ九五)  
 薩摩小平太 (奇跡二ノ二二)  
 甘藷 (世談五二)(隨意七ノ二七)(鹽筆五  
 八)  
 番薯の栽培(昆陽一四九)  
 南瓜 (安隨一四ノ二四)  
 の効用(茶筆上ノ三四)  
 の植始め(一話四〇ノ二四)  
 江戸に(一話四〇ノ二四)  
 の流行(嬉遊一〇ノ上ノ一九)  
 八里半(おろ下ノ一九)  
 「ヤキ」燻字ヲ見ヨ  
 幸矢拔 の義(傍廂一ノ一六)  
 サテ  
 さて さいふ俗語の字(安隨八ノ二五)(安  
 夜五ノ一)  
 サト  
 佐渡 多湊ふり付ホイト、非人、善知鳥(茶  
 筆前ノ上ノ九ヨリ三)  
 の國の地誌(鹽尻四九ノ二二)  
 の國名(鹽尻一七ノ一二)(蒼梧二ノ  
 七)

佐渡金山 震災の記(一話二八ノ二四)  
 (松筆九八ノ三三)  
 佐渡廻米 の焼失(半日八ノ二六)  
 佐渡風土記 さいふ書(如蘭一七ノ二二)  
 佐藤一齋 批評頼山陽文(如蘭二ノ二四)  
 佐藤嗣信 と忠信の父(鹽尻二ノ二〇)  
 佐藤直方 の言(窓五ノ四)  
 二度致仕せし事(窓一ノ八四)  
 國政の重んずべきを論せし事(窓道四八)  
 佐土原 日向國の地震(一話一ノ一)  
 里神樂 「カク」神樂ヲ見ヨ  
 里歸 (世談一六九)  
 「コン」神樂ヲ見ヨ  
 里子 ミ乳子買(嬉遊附一)  
 預子、里扶持(松筆一〇四ノ一)  
 里海人 阿波名所(松筆八七ノ二三)  
 の家臣(鹽尻四八ノ二二)  
 里見氏 給金の制(柳菴三ノ一七)  
 重代の太刀(一話二ノ三七)  
 の印影三顆(如蘭一八ノ二六)  
 里見義高 國を奪ふの説(柳菴一ノ二四)  
 悟道 (餘餘一ノ二五)  
 の事五條(春波二)  
 悟る者は稀にして知りたる人は多し(雲津一七)  
 如急寶珠(理齋三ノ一三)

世の人のこさかしき事をよしとする事  
 頼然開悟(餘餘二ノ一〇)  
 悟り繪 「ハン」列ノ物ヲ見ヨ  
 サナ さいふ物(雲萍三ノ二二)  
 早苗 正綱會にのうた(鹽尻四九ノ二六)  
 佐那伎 は鈴(答問三)  
 銅鑼(比古五ノ三四)  
 三河國より捕出したる古鐸(閑耕一ノ二六)  
 「ス」鈴ヲ見ヨ  
 眞田氏 の事(自紳二ノ六)  
 眞田表七本鎗(安隨二〇ノ四三)  
 の六文錢の紋(屠龍二八)  
 眞田紐 の稱(安隨一九ノ三四)  
 眞田打(世談二九)  
 サニ といふもの(老牛上ノ二四)  
 審判者  
 サヌ 菅家の頭(戸口の敷(玉が六ノ三五)  
 國の山の谷なる怪しき影物(玉が六ノ一九)  
 國の人女をよばふに菓を結びておく事(玉が三ノ二九)

讃岐學校 (柳菴初ノ一五)  
 サ子 さね木 (松筆八八ノ四六)  
 實生 といふ詞(松筆一〇ノ一)  
 サノ さのふくろ  
 佐野氏 姓(自紳一〇ノ一八)  
 佐野政言 (善左衛門)田沼山城守刃傷一  
 件(一話三九ノ三五)(柳菴二五)  
 サハ 古物語の(さいふ詞(安夜五ノ一七)  
 さは さいふ詞(安隨一〇ノ二二)(安夜五ノ一七)(二上七七)  
 さはれ さいふ詞(安隨一〇ノ二二)(安夜五ノ一七)(二上七七)  
 生飯 文散飯(傍廂一〇六)(安隨一四ノ一六)(鹽尻七ノ二七)(松反上ノ一)  
 (松筆一〇四ノ四六)  
 「メシ」飯ヲ見ヨ  
 鯖 後三條帝頭を嗜み給ふ(昆陽七)  
 鯖尾琴 「コト」琴ヲ見ヨ  
 澤井氏 の先(鹽尻八ノ三一)  
 澤觀音堂 尼張の(鹽尻四三ノ九)  
 澤田源内 偽書を作る(安隨一八ノ五三)

澤田東江 偽作せし書(松筆一一ノ三七)  
 の性行、戯作の書(奴風二二三)  
 家の集會并南畝狂詩(假世六九)  
 の忌日(一話一七ノ二七)  
 澤田名垂 小傳(百家説林卷七家屋雜考ノ首)  
 澤橋權太夫 母子の忠義(一話五ノ二四)(鹽尻三ノ三九)  
 (自紳七ノ一九ヨリ)  
 澤木履 (玉が七ノ二六)  
 澤村長十郎 俳優の死去(老の定紋(おる中ノ一〇))  
 左方右方 「フカ」舞樂ヲ見ヨ  
 多湊 「サト」佐渡ヲ見ヨ  
 鱈 さばらにの字を用ふる事(自筆上ノ二二)  
 サヒ さいふの錯(屠龍二七)  
 さいふ詞(老牛下ノ一八)  
 散齋 神樂譜中の(さいふ語(松筆一七ノ五三))  
 サフ さぶる子 「イウ」遊女ヲ見ヨ  
 雜巾 は淨巾なり(雲樓下ノ七)  
 雜具 の名(安隨一七ノ四〇)

雜戸 (松筆一一九ノ一一)  
 雜蕨 「コウ」小唄ヲ見ヨ  
 雜司谷免子母神 の出現(一話二三ノ二二)  
 の哀(鹽尻四八)  
 盛の開帳(半日二ノ三七)  
 奉納額(半日三ノ二二)  
 嬉遊一〇ノ上ノ二二(談小三ノ三九)  
 増水、増(松筆九五ノ二二)  
 の説(柳菴初ノ一九)(一話二ノ一九)  
 餅(鹽尻二二ノ七)  
 雜人原 (松筆八三ノ七八)  
 雜役 牝馬を(さいふ(世談一八ノ一八)(鹽尻一四ノ四)(松筆六二ノ五二))  
 佐部の神 「タウ」道祖神ヲ見ヨ  
 侍 「フシ」武士ヲ見ヨ  
 侍長 さいふ職(松筆一〇四ノ八)  
 詞考(一話二三ノ一六)  
 花圖説(茅窓中ノ九)  
 サハ さいふ詞(松落三ノ三七)(鹽江七ノ五一)  
 さいふ詞(一話一七)  
 古物語の(さいふ詞(安夜五ノ一七))  
 佐伯 (松筆九五ノ六八)  
 左辨將軍 清(一七)の忠節(鹽尻四六)

サホ 剽王樹花 の圖説(鹽尻三四ノ三八)  
 仙人堂(東屋下ノ一六)  
 棹の間 「キウ」宮殿ヲ見ヨ  
 佐保姫 立田姫(雲錦一ノ一六)  
 (年々四ノ二七)(二上七七)  
 佐保姫社 (玉が四ノ二六)  
 生饅 さいふ橋(鹽尻五四ノ一)  
 サマ の字(安隨二〇ノ九)(秋密三ノ二二)  
 (半日五ノ四)(松筆四〇ノ一三)  
 の字(安隨一九ノ五三)  
 の字(鹽尻二ノ四一)(玉が七ノ八)  
 と貴様(松筆八五ノ三五)  
 と貴様(孝經四ノ五)  
 禁裡仙洞にの字を用ふ(からず(橋菴初ノ二ノ六))  
 磋磨詞鏡 といふ書(海西三ノ八)  
 サミ さいふ(松筆六六ノ六三)  
 さみす さいふ詞(松筆七五ノ三〇)  
 禰 といふ字(安隨一五ノ一九)  
 三味線 三絃考(温知叢書第五編ノ内)  
 奈良榮一巻(温知叢書第八編ノ内)  
 三絃(安隨一ノ五六)(安夜一ノ三七)(談  
 屠二八)(鹽尻四ノ二八)(世談六五ノ談)



狐公 (嬉遊二ノ二) (藝苑五ノ二七)  
 猿丸大夫 (略語下ノ二〇〇) (年打下ノ二五)  
 猿若 (嬉遊五ノ三七) (傍海下ノ一四)  
 筆 (玉ツ一ノ三八)  
 籠屋 (松筆七ノ四) (二〇二ノ四八)  
 百日紅 (猿郎邊樹の義) (梅日五ノ六)  
 千日紅 (松筆一ノ七) (三四)  
 讀留靈記 (さいふ古書) (一話九ノ一九)  
 ●サレ  
 され 戯な—といふ (松筆九ノ一九)  
 されば (さいふ詞) (安隨三ノ四八) (年々四ノ六)  
 ●サワ  
 騒き といふ唄 (後世二六)  
 ●サン  
 さんがら節 (一話一四ノ三二) (柳筆上ノ二ノ一九)

さん (といふ俗語) (南留四ノ二二)  
 さんしよの者 (松筆一〇五ノ七)  
 さんとも縮 (ナリ織物ヲ見ヨ)  
 三 (ミツ) 三ヲ見ヨ  
 三石ノ海 (といふ佛語) (松筆一八ノ九)  
 三が (佐野) (さいふ馬具) (安隨九ノ三九)  
 三我 (子日菴) (終焉寄事) (宮川三ノ六)  
 三界萬靈 (のよみ方) (一話八ノ二六)  
 三綱 (諸寺の) (松筆一ノ二〇)  
 三綱行實圖 (の作者) (略餘ノ六)  
 三覺 (戒定恵) (安隨九ノ一)  
 三勝 (義屋) (嬉遊五ノ三三) (宮川一ノ一六)  
 三合 (三合、三壺) (松筆六ノ三三) (九四ノ二九)  
 三合の厄 (松筆九三ノ七〇)  
 三韓 (「テリ」朝鮮ヲ見ヨ)  
 三勅兵衛 (一話四ノ三九)  
 三危 (鹽尻二ノ一〇)  
 三議一統大雙紙 (の考) (隨見三ノ一七)  
 三器集説 (さいふ書) (談小五ノ三四)

三器通考 (といふ書) (一話四ノ一八)  
 三瓦を成さず (松筆一四ノ一一)  
 三槐集 (さいふ書名) (難江三ノ一一)  
 三皇 (の説) (隨見七ノ四四)  
 三光院 (「ニシ」西三條實隆父子ヲ見ヨ) (松筆九六ノ二九)  
 三光石 (松筆九六ノ二九)  
 三月盡 (松筆九ノ一七)  
 三教 (松筆八ノ三六)  
 三教不齊論 (の著者) (一話一五ノ三三)  
 三元 (兼燭) (一話一) (如蘭六ノ一)  
 三公 (甲子考) (梅日四ノ九)  
 三公 (二話一五ノ三四)  
 三公星 (松筆六三ノ一五)  
 三國 (の解) (老牛中ノ一一)  
 三國志 (中の正統) (隨見七ノ四三)  
 三國志 (陳壽) (の評) (松筆五ノ一九)  
 三獻 (「サケ」酒ヲ見ヨ)  
 三者 (の解) (難未三ノ二五)  
 三史 (世に—といふ者) (一話一五ノ三二)  
 三豕 (四羊) (の故事) (難未四ノ四)  
 三州志 (といへる書) (一話四五ノ二)  
 三州寺 (の邊領主の遷遷) (鹽尻二九ノ五)  
 三七 (といふ植物) (一話二三ノ一六)  
 三日 (月の) (老牛上ノ一七)  
 三日 (の禮) (松筆六〇ノ一)

三十三間堂 (の棟梁) (南留四ノ一八) (嬉遊附ノ七)  
 江上 (の創起) (嬉遊附ノ九) (遊京)  
 浅草深川の (額井本尊) (笈埃二ノ三)  
 深川 (の通し矢) (キウ弓術ヲ見ヨ)  
 三十四老 (佛の) (略餘三ノ七)  
 三十番神 (鹽尻九ノ一) (同二七ノ一九)  
 三十番神次第 (の引用書) (一話五ノ三六)  
 三十六詩仙 (松筆七ノ二)  
 三十六人家集 (幽遠下ノ三三) (遊京)  
 三十六人集 (古抄本の) (遊京)  
 三社権現 (の靈現) (一話二九ノ四二) (遊魂下ノ二二)  
 三社託宣 (考) (温知叢書第十編) (一話二ノ一八) (孝經四ノ一七)  
 三社託宣考 (解題) (温知叢書第十編ノ内) (老牛上ノ二二) (松筆一ノ二〇)  
 三上 (作文章多在) (隨意四ノ三六)  
 三莊太夫 (鹽尻三三ノ二六)  
 三尺 (劍の通稱を—といふ) (技接二ノ一六)  
 三車法師 (鹽尻五四ノ一六)

三首 (の別) (拾玉二ノ四)  
 三種大祓 (二上八五) (老牛上ノ一九)  
 三種神器 (安隨五ノ二五) (七ノ一五) (安夜二ノ二二) (多波上ノ二二) (如蘭一六ノ三) (松筆二ノ一八) (如蘭一六ノ三)  
 南朝の神靈北朝に移る事 (鹽尻一九ノ一六)  
 草薙劍の由來 (松筆九三ノ七六)  
 草薙劍の名 (安隨一ノ六六) (談小三ノ二)  
 寶劍の事 (玉か) (一三ノ一五) (一六)  
 貞和四年に四海に沈みし寶劍出來れり (玉か) (一三ノ一六)  
 文治元年神鏡神璽京に歸り入りせ給ふ事 (玉か) (一三ノ一七)  
 内侍所 (安隨七ノ三〇) (安夜二ノ二五)  
 内侍所の神鏡 (鹽尻二四ノ三) (安隨一ノ四) (松筆一八ノ三五)  
 假置 (於) (閑次) (一)  
 八咫鏡の名 (安隨一ノ五五) (安夜一ノ三)  
 内裏炎上神鏡燒損の事 (玉か) (二ノ五) (同八坂壇曲玉) (安隨一ノ六五) (一九ノ六)  
 八坂壇曲玉 (安隨一ノ四七) (四七)  
 神璽 (三の別あり) (安隨一七ノ九)  
 神璽 (さいふ字) (秋聲) (九)  
 神璽 (さいふ字) (松筆九四ノ三〇)  
 「ナイ」内侍所ヲ見ヨ  
 三宿而後出晝 (の解) (眠雲一ノ二二)  
 三所権現 (鹽尻二〇ノ一七)

三神 (安隨七ノ一三) (安夜二ノ一〇) (理齋五ノ五)  
 三介 (理齋五ノ五)  
 三助大明神 (の靈現) (兔小中ノ八七)  
 三駿河 (一話四ノ三九)  
 三寸叔 (の義) (續見五七)  
 三正 (松筆九二ノ四二)  
 三省 (兼燭二ノ一六)  
 三聖吸酢 (の圖に付て) (鹽尻九ノ二〇)  
 三焦 (略餘五ノ二〇)  
 三笑 (略餘五ノ二五)  
 三絶 (藝苑三ノ二三)  
 三千世界 (海西二ノ二〇)  
 三僧 (松筆六ノ二三)  
 三尊窟 (伊豆) (の奇異) (笈埃四ノ一四)  
 三代集 (の人名のよみ方) (半日五ノ七) (と) (比古七ノ七)  
 三代實錄 (の假字) (一話四ノ六) (中有通天文者の調點) (安隨一四ノ一五)  
 三體詩談義 (玉ツ二ノ一八) (昆陽二)  
 三智 (昆陽二)  
 三遲 (酒) (松筆九〇ノ四五)  
 三重韻 (さいふ書) (昆陽四九)

三條裝束抄 (安隨三ノ三五) 三種あり(安隨一八ノ五二)

三條天皇 の御製(鹽尻一ノ一七)

三條西公福 の逸事(大海一八)

三條西實隆 (道遠院の強記及和歌(大海三))

三條橋 京の(一話四ノ一八)

三斗九升 「シト」ヲ見ヨ

三徳 といふ懐中物(瓦礫一ノ三〇)

三人寄れば文珠の智恵 といふ諺(瓦礫二ノ一)

三之一 韓文送道土序にある得(一話四ノ一七)

三ばう といふ諺(松筆八ノ三二)

三方 (鹽尻三ノ一三)

折敷の裏にて切る物(松筆一ノ一三)

三寶 (松筆六ノ六〇)(餘餘二ノ二二)

三寶荒神 (嬉遊七ノ二)(鹽尻一九ノ二)

三亡 (松筆八九ノ四四)

三白酒 「サケ」酒ヲ見ヨ

三番叟 (雜江六ノ一三) 次第(一話六ノ五)

三法印 (一話四ノ二八)

三筆 「シヨ」書散ヲ見ヨ

三不開 の諺名をとりし人(松筆一〇九ノ二五)

三伏一向 といふ事(雜江二ノ三四)

三伏日 の事(安隨一九ノ二七)(鹽尻九ノ二九)

三部神經 といふ偽書(玉が二ノ二二)

三聘 古賦の後に起し(白神一ノ六)

三瓶山 といふ名(老牛中ノ六)

三平二満 「オタ」ヲ見ヨ

三木三鳥 「コキ」古今集ヲ見ヨ

三味 といふ語(餘餘四ノ二八、一一二ノ四八)

三摩耶形 (鹽尻四ノ一、五ノ二)

三萬六千神祭 (玉が二ノ五)

三豚 の法(傍廂二八)

三餘 の義(圖意七ノ四)(松筆八ノ四七)

三律撫要 といふ書(如蘭一ノ一七)

三隣亡日 (安隨一〇ノ九)(二上六ノ二)

三弄 の圖(嬉遊三ノ七)

散 散人散位散事等の字(安隨三ノ二)

散位 六位子と訓む(鹽尻四七ノ一六)

散切髪 「カミ」髪ノ風ヲ見ヨ

散禁 の義(北邊二ノ四一)

散官 の事(一話二ノ二七)(松筆九ノ二九)

散華 に金銀辨を用ひし始(松筆八六ノ三七)

散物 (松筆六六ノ二六、三九)

散木 の義(北邊三ノ三)

散米 (安隨七ノ五)(安夜二ノ一)(嬉遊七ノ三二)(松筆二ノ七)(松筆四〇ノ五)

米をワテマキといふ(閑耕四ノ三三)

うらまき(老牛上ノ二五)(隣女二ノ四五)

御くま(糴米)花米(松筆九三ノ七四)

「サイ」糴錢ヲ見ヨ

散藥 (昆陽一〇四)

撒 の字義(昆陽八九)

蓋 の容量(續昆二四)

贊 の字義(傍海下ノ一八)

撰 左右行の事(兼燭三ノ三)

撰 の字(昆陽六三)

酸餠 (藝苑一〇ノ一八)

酸子 の字義(松筆一〇九ノ二九)

山菴茶寮 仙臺(一話三七ノ二七)

山向 「フン」墳墓ヲ見ヨ

山家義苑 といふ佛書(一話四〇ノ二二)

山海經 は借すべからず(安隨一三ノ三)

山祇大明神 房州の神話(松筆六七ノ三三)

山槐記 といふ書名(雜江三ノ二二)

山神祭 武將の狩の時の(鹽尻一四ノ二四)

山水畫 の妙手(一話一六ノ四四)

山椒 椒有用椒而無之目(鹽意四ノ七)

山椒魚 朝倉のうた(松筆九四ノ四九)

山鼠 (松筆六二ノ二四)

山東 (松筆一ノ九)

阪東(安隨二〇ノ一六)

由東京傳 の死去(後言一九)

京傳机塚の記(一話三八ノ四)

古机の記并歌(擁書三ノ一六)

山北紀行 朱子の短評(鹽尻二ノ一六)

山門 寺院の名(鹽尻二八ノ二)

山門の名(鹽尻二八ノ二)

山門神輿振 (松筆二八ノ三七)

山陵 靈事(閑耕一ノ二八)

諸帝の事(帽軒二ノ一)

山王院 (餘餘二ノ一九)

山王靈聖 「ラク」齋院ヲ見ヨ

山和尙 といふもの(一話一九ノ一七)

參 の字義(松筆七三ノ一九)

祭儀(比古一ノ二〇)

古代古陵の制(比古三ノ九五)

大和古陵の制(鹽小三ノ九)

京都の(鹽尻五三ノ六)

仁徳神功、孝謙諸御陵の事(白神五ノ二)

天智、光仁、桓武の御陵の事(白神九ノ五)

堺にある諸帝の(多波上ノ一九)

康徳帝廢陵に守家を置く(松筆五〇ノ二)

山陵志 蒲生君平の(一話一)

山林 伐木の禁(鹽尻三四ノ三一)

山路か笛 (孝經四ノ四一)(嬉遊六ノ上)

山王 日吉(鹽尻三〇ノ九)

七重鳥、の使者(鹽尻一九ノ二)

二十社(鹽尻四七ノ一七)

望海(望海二五)

祭禮(嬉遊七ノ二)

祭禮の景況(雜末六ノ六)

祭禮に付神輿押御徒頭へ達(一話二九ノ二六)

祭禮上覽(半日二ノ二三)

祭禮奉納の大綱(半日三ノ五)

の神事に山僧を忌まざる事(鹽尻三ノ五)

「ヒエ」日吉神社ヲ見ヨ

參考 といふ字(安隨一九ノ三二)

參考太平記 の年歴不合(見小下ノ四四)

參議 補任(年々六ノ一八)

三位之下(鹽尻三ノ四九)

を八座といふ(松筆六二ノ一一)

參勤交代 諸家の(定)(鹽尻四一ノ一四)

參詣 小兒願禮の姿にて(一話四〇ノ三二)

參内 昔僧侶の(一話一)

算學 「スウ」算學ヲ見ヨ

算經 といふ書(松筆五二ノ七)

算木餅 (嬉遊一〇ノ上ノ三七)

殘菊宴 「キク」菊の宴ヲ見ヨ

殘景 を題としてつくれる辭(遊京上ノ一六)

殘月 (孝經三ノ一一)

殘忍 漢高祖の(鹽意二ノ三三)

殘夢 僧の性行付僧殘月異同考(提燈一ノ一)

産科 産醫可憐事(茶筆四ノ二四)

産業 津和野藩の殖産奨励(如蘭一七ノ二)

産語 太宰徳夫(隨意三ノ七)

産婆 穩婆(安隨六ノ二五)

**産婦** のよこに臥す事(難江三ノ七一)  
 「シユ」出産ヲモ見ヨ

**産物** 出入口の比例(屠龍五三)  
 新嘉坡 會品目(茶葉二ノ三三)  
 小野蘭山 賀宴出品の目録(筆下ノ一八)

**諸言** 禮記の雷同題説の解(白柳三ノ一〇)  
 「サイギヤウ」ヲ見ヨ

**讒着** (白雜考卷四ノ内)(自造考八)  
 樹(昆陽六七)

**珊瑚** 島原の遊女(歌の語)(松話二ノ一)  
 清涼殿(始)(松筆八ノ四七)

**懺佛** といふ事(難未四ノ八)

**變寮** の字義(一話二三ノ九)

**シ** 一首にて三の一を知る歌(幽遠上ノ二六)  
 一よりトを受くる事(難未一ノ四九)  
 子と一と音の通ふ例(松棟一ノ一九)  
 息をといへる例(松棟一ノ一六)

**子士己四師** 利子の一字(昆陽二二九)  
 子細の一字(安隨一三ノ一五)  
 「キシ」に「己」ヲ見ヨ  
 隅の方、一面、一丁(松筆二ノ一〇ノ四八)  
 人の字訓(安隨六ノ一九)  
 人の字を和尙さいひし事(鹽尻四ノ一)

**氏死** 繪佛等の一字(安隨一ノ二八)  
 「シテ」師弟ヲモ見ヨ  
 是の字を一字に用ふる事(理齋五ノ一五)

**指質** の稱に別あり(安隨二ノ四〇)  
 山ノ水(松筆一〇〇ノ三五)  
 河村隨見(松筆一〇〇ノ三五)  
 「セイ」生死ヲモ見ヨ  
 洋尺の一字(昆陽六四)

**詩體** 「カシ」擲棄餅ヲ見ヨ  
 一の六義(鹽壁、信ノ二〇)  
 一は唐より盛なるはなしといふ説(多波下ノ一)

**師** 作の語、一に俗意を思ふ(多波下ノ二)  
 作の語、一に韻を合はす事(多波下ノ三)  
 音調にかなふる事(多波下ノ四)

**指** 作の才、我國の一字(多波下ノ四)  
 作の工、唐音の通不通に關せず(多波下ノ五)

からうたのよみさま(玉一ノ四二)  
 初學のつくくる(きやうを教へたる説(玉一ノ三三))  
 意動中看(意相似)(餘三ノ三六)  
 一の事(唐人の詞)(玉一ノ三三)  
 一を伴らざるもの言(八水一七)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)

一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)

一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)

一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)

一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)

一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)  
 一語に白字を交ふる説(茶筆四ノ二三)

**唐人の** 唐人の一字(隨意八ノ五)  
 唐人の佳句(一話一六ノ一七)  
 構思期せずして同じき(一話一七ノ二)

**和漢合意** (茶筆四ノ一〇)  
 佳節の作に最も多きもの(一話一七ノ二)

**鬼** (一話一七ノ二四)  
 日本人の一字(一話一七ノ二四)

**實景** 我邦の故事をよむ(如蘭四ノ一)  
 國風忠孝(松話一ノ二〇)  
 絶句の書(南留三ノ一九)

**古** 文の品評(松筆七ノ一七)  
 六朝の五言古詩(一話四五ノ三九)  
 悲白頭翁(橋初ノ三ノ一)

**話數條** (一話二〇ノ四五)(松話三五)  
 以古(茶筆四ノ二二)  
 古文辭(茶筆三ノ二〇)  
 佳句名を後世に傳ふ(隨意七ノ二八)  
 松平越中守(一話を思ふ)(八水二六)  
 武將の詩(尾の義宣と伊達政宗(提醒二ノ上ノ六))  
 多悲(多樂)(隨意五ノ一〇)  
 清人(浮世給の女に贅せる)(一話二ノ八)

**太田** 聖と大進行(松筆二ノ一六)  
 岩瀬(松筆二ノ二七)  
 祇園(松筆二ノ二八)  
 夜(松筆二ノ二九)

**補** 正通關(東下向の)(理齋四ノ一〇)  
 草(松筆一ノ一四)  
 湘(松筆一ノ一四)  
 中(松筆一ノ一四)

**東** 坡(松筆一ノ一四)  
 中(松筆一ノ一四)  
 孟(松筆一ノ一四)  
 松(松筆一ノ一四)

**松** 蘇州の(松筆一ノ一四)  
 章(松筆一ノ一四)  
 李(松筆一ノ一四)  
 章(松筆一ノ一四)

**四阿** の解(訓淺一八)  
 貴人の旅(花月五二)

**思案橋** の名(モモ二五)

**シイ** といふ調(井字)(一話二一ノ八)

**鞆** 「ユサ」鞆ヲ見ヨ  
 もろくの物の事をよく記したる書

**事** ありまほしき事(玉一ノ四)

**四邑** 魯の名(蕪樓上ノ一)



凌標 〃の解(安隨三ノ二三)  
 縦横 〃の字義(松筆五ノ一六)  
 紫雲 (松筆七ノ一)  
 士雲 「ソノ語戸太華ヲ見ヨ」  
 似雲法師 〃の逸事(長春上ノ三四)(翁草五ノ八)  
 シニエ

慈圓 「シニエ慈和尙ヲ見ヨ」  
 シオ  
 師をとる 〃といふ詞(玉上ノ一〇ノ二八)  
 枝折 (牛馬四九)(才密七ノ二七)(玉上二ノ一)  
 〃(老牛中ノ三一)  
 〃(クダクダ字ヲ見ヨ)  
 以字不成八字不足 〃といふ語(松筆七ノ二二)  
 字音字訓 「オン」音訓ヲ見ヨ  
 紫苑 〃の和名(〃)圓珠七ノ一  
 〃(松筆一〇六ノ六三)

シカ  
 しかと 〃といふ俗語(安隨八ノ二二)  
 しかのみならず 〃といふ俗語(安隨八ノ二五)  
 しかみ火鉢 〃といふ名(八水二七)の書き様に究

鹿 〃(假世三〇)  
 〃を俗にカシトシ、といふ(鹽尻二ノ九)  
 〃カセギといふ(玉上二ノ一四ノ一〇)  
 〃カセギ又シ、といふ(嵯峨二ノ二六)  
 〃カセギ、といふ(比古六ノ二二)  
 〃カセギ、といふ(比古六ノ二二)  
 〃カセギ、といふ(比古六ノ二二)  
 〃カセギ、といふ(比古六ノ二二)  
 〃カセギ、といふ(比古六ノ二二)  
 〃カセギ、といふ(比古六ノ二二)

志賀の山越 (炭埃六ノ二)  
 死骸 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)  
 〃(炭埃六ノ二)

叱咤聲 〃(松筆八ノ二四)  
 支干 〃(松筆九ノ一三)  
 子痛 〃(松筆六ノ三三)  
 耳聾 (松筆八ノ三三)  
 シキ  
 しま 〃(安隨八ノ二五)  
 しま 〃(松筆九ノ一三)  
 しき 〃(松筆九ノ一三)  
 しき 〃(松筆九ノ一三)  
 四季 〃(松筆九ノ一三)  
 四季施 〃(松筆九ノ一三)  
 四休居士 〃(松筆九ノ一三)  
 史記 〃(松筆九ノ一三)  
 史記抄 〃(松筆九ノ一三)  
 自棄 〃(松筆九ノ一三)  
 自休 〃(松筆九ノ一三)  
 時機 〃(松筆九ノ一三)

時宜をする 〃(松筆八ノ二八)  
 磁器 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)  
 敷居の道 〃(松筆八ノ二八)

色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)  
 色紙 〃(松筆九ノ一三)



の功能(閑歌四ノ一六)  
正月に(松本二ノ二二)  
愛宕(秋登二ノ二二)

詩經 不能解詩者(隨意五ノ二二)  
詩無遺義(技藝二ノ三五)  
の文字(年々一ノ三一)

毛詩といふ名稱(隨意二ノ四一)  
關雎の詩の評解(年々五ノ一〇)  
小雅の常儀をタウテイといふ事(柔順二ノ四)

食籠 食籠考(隨意三ノ一八)  
食籠(遊遊二ノ下ノ一七)

絲金 といふもの(昆陽四ノ一)

シヤ といふ詞(安隨一〇ノ二二)

しぐち といふ詞(安隨一〇ノ二二)

しぐま 熊をいふ(南留二ノ三)

尸俱 といふ名(松筆六ノ四四)

鐘禮 といふ名(安隨八ノ九、安夜四ノ八)

時雨 野の(な)をいふ(隨意三ノ九)

時雨亭 といふ名(松筆二ノ一七)

時雨のやどり 見(松筆二ノ一七)

詩會 短冊切會(遊遊五ノ一)

唐土にて(三ノ一八)  
に景物を出せし事(撈海下ノ八)

慈光寺 武州比企郡岩殿山觀音開井同寺  
所藏唐版の經(提解一ノ二五)

四月朔日氏 といふ名(松筆二ノ一七)

仕官 といふ名(松筆二ノ一七)

止觀 といふ名(松筆二ノ一七)

シヤ といふ詞(松筆二ノ一七)

寺家 南留二ノ七

死刑 古は(六ノ七)いふ少かりし事(松筆四ノ六)

紫荆樹 といふ名(松筆二ノ一〇)

慈惠大師 といふ名(松筆二ノ一〇)

滋野 といふ名(松筆二ノ一〇)

茂久景久 源左衛門の剛直(松筆二ノ一〇)

重松氏 尾張二ノ宮(松筆二ノ一〇)

四絃 といふ名(松筆二ノ一〇)

シヤ といふ詞(遊遊九ノ四二)

時候 「キコ」氣候ヲ見ヨ

時刻 「トキ」時ヲ見ヨ

子穀 「トリ」度量衡ヲ見ヨ

四船 「シヤ」商山ヲ見ヨ

四國 分國(菅橋二ノ八)

四庫全書 欽定(松筆八ノ一三)

掃骨聽聞法 松筆八ノ一三

仕込物 松筆二ノ一五

鑑引 八島の(理濟六ノ一七)

子細 子の字(安隨一三ノ一五)

子細らしい といふ俗語(松筆一〇ノ五)

子産 論(憲樓下ノ一七)

自在 といふ物(松筆九ノ四九)

自在餅 遊遊一〇ノ上ノ三

自罪 といふ語(松筆一〇ノ三六)

自殺 旅僧自ら水葬す(宮川五ノ一八)

資財帳 「ワツ」太秦ヲ見ヨ

シ、 「ミ」の差別(松筆六ノ一三)

し、 萬葉集に歌を十六とかくこと(隨意一〇ノ八)

し、 「イン」陰莖ヲ見ヨ

し、ま といふ詞(北邊一ノ二五)

し、ま 金打ヲ見ヨ

し、ま 御遊 (松筆一ノ五)

し、ら 平組の(松筆五ノ二)

し、ら 地の綾 「アヤ」綾ヲ見ヨ

完 といふ姓(隨意五ノ三六)

完戸 今の完戸は(昆陽二七)

四至 (昆陽一七)

四十五歳 志(松筆二ノ一七)

四十三轉 (松筆五ノ一)

四十二の物争 といふ冊子(世事一ノ三)

四書 の名の出處(松筆七ノ六六)

四書 の國人の字讀み方(二話一八ノ三九)

朱子學 の來由(松筆上ノ二)

「ケイ」經書ヲ見ヨ

四書章句 の評(隨意五ノ二四)

四書増釋 の選者(松筆四ノ一)

四職 足利氏の(松筆二ノ一〇)

四所神鏡 「シン」神鏡ヲ見ヨ

四所神劍 「シン」神劍ヲ見ヨ

四神相應 (松筆二ノ一〇)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

獅子 獅虎(牛馬二ノ九)

戸子 (松筆六ノ二五)

刺史 (松筆四ノ三九)

刺商肥 史記蔡澤傳の字義(憲樓上ノ四)

呆思 の字解(松筆二ノ一〇)

時事 論古義不干(松筆一〇六ノ五三)

時習 論語の(松筆一ノ五)

肉市 (松筆九ノ二九)

侍從 次、非(安隨三ノ三三)

鹿垣 「カキ」垣ヲ見ヨ

使者 松平忠房の(主君を辱しめず(憲樓上ノ九))

使者 在昔の者(道九ノ一)

使者 新何々(松筆九ノ四四)

使者 神祇と佛寺(南畝四ノ五)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

使者 神社(松筆九ノ四四)

慈心降一切魔 (松筆七九ノ六)  
 磁石 (松筆二〇)  
 五) の力(橋本二ノ四ノ七) の方向(鹽尻二ノ二六、三〇ノ二) の妙(春波六三) 分金(松比一六) 鐵盤(松筆一一五ノ三) 磁石洋 (松筆一一七ノ三二) 兜傳 (松筆一七ノ二) 紫宸殿 (翁草五ノ一〇) (松筆六三ノ七) 關東使者 拜見の事(内安一七) 士人 「ア」武士ヲ見ヨ 嘲 之辛苦(隨意一ノ三八) 詩人 「シ」詩シイ詩歌ヲモ見ヨ (餘餘九ノ二四) 自信 の大切なる事(病間六八) 字信錄 (鹽尻四九ノ一九) ●シス 事須 さいふ事(難未四ノ四七) 死する藥 (傍加八〇) ●シセ しせき 「シ」四壁ヲ見ヨ 市井 の義(橋本初ノ三ノ二六) 死生 「セイ」生死ヲ見ヨ

死せる姚崇生ける限説を算る (餘餘一ノ三七) 四聲 昔は「カ」を分ちて論議せし事(茶筆四ノ五) 四聲字林 接語(難未二ノ五三) 四少三安 (閑耕四ノ三八) 辭世 は笑ふへし(閑次四ノ二六) 入々の代弁(閑次四ノ二七) 一桑門のうた(鹽尻二六ノ三二) 時勢 遊其時難養安益(隨意六ノ四一) 時節 西三條の「カ」を詠める歌(鹽尻六ノ三) 詩聖堂詩集 の序(二話二六ノ七) 詩仙堂 (袋埃五ノ一七) 咫尺 の義(隨意五ノ四三) 紙錢 (松筆六三ノ三三) 支那にて幽魂祭に用ふる「カ」(鹽尻五ノ一八) 自然 は道なり(幽遠下ノ一九) 愛 説(隨意一ノ二二) 遊事貴 (餘餘四ノ一八) 成親命あり(鹽尻二八ノ一九) 感應のうた(鹽尻一ノ一三) 自然居士 (遊遊二ノ一〇) (東岸居士(餘餘二ノ三二))

自然齋 のうた(元集二八) 慈善 奇譚(見小中ノ一五八) 報謝齋の「カ」(假世六五) 捨子を養ひし家の話(鹽尻三ノ一六) 龜を放ちて善報を得たり(見小中ノ二五) 「シ」仁愛「シ」慈悲ヲモ見ヨ 寺川郷談 さいふ詩(二話一ノ一四) ●シソ しそり (松筆九六ノ一三) 子息 女子に「カ」といふ(松筆一〇〇ノ五〇) 紙燭 「カ」なまりの歌(梅日一ノ三三) 氏族辨正 淺見泰軒の「カ」(鹽尻二ノ九) 士卒 の義解(松筆八六ノ五七) 紫蘇卷 (松筆三七ノ二一) ●シタ したがさね (松筆二ノ五二) したがひのつま (難書四ノ一九) (難したき 何としかき幸いふ俗語の「カ」(安隨八ノ二五) したぢ 「マ」怒ヲ見ヨ したしる さいふ詞(二上六六) したみ さいふ員(居龍四八)

じだらく さいふ詞(松筆一一五ノ五〇) しだらなし さいふ俗語(遊遊九ノ一) しだらてん の本字(安隨一八ノ五七) 肢体 手足を切る刑(如關一六ノ一七) (カ)を以て人物に喩ふる例(東岸上ノ三) 四大 五行(松筆三ノ四六) 四端 (眼雲二ノ二二) 四大 南島の俗の事(隨意一ノ一九) 私大 南島の俗の事(隨意一ノ一九) 時代遊 の話する事を奇特さいふ事(假世四七) 續 したうづ(南留三ノ二二) 志道軒 の傳(一話一六ノ六) (遊遊九ノ一) (塵塚六三) 支道林 養馬の辨(隨意四ノ一五) ム講談の様(遊遊二二) 下帯 (秋密二ノ一) (居龍三七) (松筆九四ノ一) (松筆九四ノ七) 明衣(今衣(安隨一四ノ七) (松筆九四ノ九) (安隨四ノ一六、三三) (松筆九二ノ九) 下袋(遊遊二ノ上ノ二八) 手綱(遊遊二ノ上ノ二六) 用捨下(一九) (春波下) (安隨一五ノ三) (鹽尻五ノ一四) (春波下ノ一)

續鼻繩と手綱と同物なり(安隨八ノ一四) 肌帶(松筆八四ノ七三) 早川(遊遊二ノ上ノ二〇) 風呂帽鼻繩(骨董上ノ一〇) ふさし(ふさし) (安隨一八ノ五四) (遊遊二ノ上ノ一四) (牛馬四七) (遊遊七) 湯具(遊遊二ノ上ノ二六) 越中(ふさし) (遊遊二ノ上ノ二六) 遊女(遊遊二ノ上ノ二六) 遊女(遊遊二ノ上ノ二六) 下姿 (松筆九〇ノ四) 下樋小川 (玉が三ノ三二) 下ひも (居龍三八) 下町 江戶といふ(塵塚七〇) 舌切雀 (遊石四ノ三〇) (茶筆前、下ノ四五) (遊遊九ノ四九) 舌ざこ 小兒の「カ」の児(鹽尻三ノ四) 舌喫 (松筆九六ノ一〇) 舌の根すくみて (松筆一四ノ二) 支度 さいふ詞(松筆九一ノ一〇) 親しきもの 君子不旋其親(餘餘五ノ一) 馬蹄螺 (松筆八八ノ二九) 持遊 さいふ遊戯(骨董中ノ二六) (遊遊五ノ一) 付設樂の訓、執轉提(遊遊五ノ一)

設樂九二郎 の奇聞(後昔四四) 自墮落先生 の奇行(假世五) ●シテ 四ちやうにかくる さいふ詞(松筆一四知 楊雲「カ」(梅日二ノ一六) 四智問明 さいふ事(難江五ノ八七) 七 前問三五(理齊六ノ二) 七 度(山入、中、甲、乙、丙、丁、人、遊、八) 七 八の敷(鹽尻五三ノ四) 七向 (安隨四ノ一三) 七高山 さいふ事(玉が三ノ四六) 七學 (難未一ノ二〇) 七月七日 の咒方(松筆六四ノ二二) 七月十三夜 文天祥の「カ」詩(松筆一八) 七賢人 (世事二二) の論(傍加九六) 七字口傳 (平日四ノ一) 七使八使 の義(鹽筆上ノ二〇) 七十二番職人合 の繪詞の解(見集九) 七十二番職人盡歌合 の校合(雲錦七) (世談一三五) 七十二候 夢覺の關(提提四ノ一九) 七情 夢覺の關(提提四ノ一九)

**七僧** (松筆二ノ二〇)  
**七道** 五畿 (唐龍七) (松棟一ノ二一)  
**七堂** 伽藍唐様 (禪家) (眞言) (安隨一ノ二二)  
**七顛八倒** (松筆七八ノ八五)  
**七頭** 足利氏の (松筆二〇ノ八)  
**七なんがそゝの毛** (三義四ノ二一)  
**七人の子はなすとも女に心ゆるす**  
 な (松筆九三ノ六九)  
**七寶山座** (隨意四ノ二七)  
**七福神** (隨意二ノ二九) (三義四ノ二八)  
**七部秘抄** (安隨一六ノ三三)  
**七變化** の所作 (嬉遊六ノ上ノ四六)  
**七步詩** 曹子建 (餘餘三ノ五)  
**七本鎗** 賤岳の (安隨二〇ノ四三)  
**七面明神** (鹽屋二ノ一九)  
**七里けつばい** といふ俗語 (三義二ノ二四) (南留三ノ二二)  
**七里** 波 (笈埃五ノ六)  
**質** 衣物の一字 (安隨一九ノ三九)  
 衣服を「入するを殺すといふ (桶菴二ノ三三)  
 「宅取」 (松筆八六ノ五四)  
 「宅取」 (如藤三ノ九)  
 質 直好義の一字 (談小二ノ二三)

**質屋** の看板 (用捨中ノ二二)  
 質屋 (守保七年) 仲間連判帳寫 (一話三ノ三六)  
**芫花** の有毒 (鹽屋二ノ一〇)  
**侍中要略** (白筆上ノ六二)  
**資治通鑑** の中の文 (隨意六ノ一九)  
 「三度手寫せる」の語 (談小二ノ一九)  
**詩帳** (松筆五ノ四)  
**紙帳** 「ガキ」政帳ヲ見ヨ  
**紫座** 野相公の詩にある (白筆上ノ四六)  
**慈鎮和尚** の傳 (比古一〇ノ一七)  
 慈鎮の論 (松筆九七ノ三〇)  
**シツ**  
**しづはた** ミシツノオタマキの本字 (鹽屋三ノ一八)  
**室** 人の妻を「いふ (松筆二ノ九)  
**倭文** しづの訓み (筆下ノ四)  
 「を掛たる書」嬉遊附ノ  
**倭文字** 縣居の門人 (消々二ノ八)  
 話 (消々二ノ六) を悲しめる歌の  
**倭文布** (安隨三ノ三二) (玉か一三ノ三)  
**拾芥抄** (開次二ノ二六) (白道考三ノ九)  
 (筆下ノ五) (松筆四ノ一八) (難江五ノ九九)

**拾得** 「カン」寒山一ヲ見ヨ  
**執行** 寺院の (の名) (南留三ノ二)  
**執金吾** といふ官 (隨意二ノ三〇)  
**執齋詠草** の中 (一話二五ノ二七)  
**執奏** (奏燭二ノ五)  
 閑なるのみ (解題) 温雅書第四編ノ内)  
**静前** 静前 (松筆九ノ二五)  
 「玉」 (玉) (四ノ五)  
 「勇氣」 (傍廂八ノ六)  
 「の古跡」 (閑遊二ノ六) (笈埃七ノ二九)  
 (半日四ノ三〇)  
**静岩屋** (閑遊一ノ二五) (玉か九ノ三一)  
**十千** 十二支 支干 (隨意三ノ二四) (松筆一ノ一七)  
**十千** 老牛中ノ一九)  
**十千** の訓 (玉か四ノ一九)  
**十千** の訓 (松筆六ノ三三)  
**十千** の訓 (松筆七ノ七)  
**十千** の訓 (松筆八ノ九)  
**十千** の訓 (松筆九ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一〇ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一一ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一二ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一三ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一四ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一五ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一六ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一七ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一八ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆一九ノ一七)  
**十千** の訓 (松筆二〇ノ一七)

干支に關して浦井傳藏 (申渡) (一話四八ノ二)  
**十二支の詩歌** (嬉遊二ノ四)  
**鳥丸光廣の十二支のうた** (嬉遊附ノ二)  
**朱鷺** の詩 (餘餘二ノ二二)  
**十訓抄** の作者 (安隨一ノ四〇) (談小五ノ四)  
**十手** といふ刑具 (近事八)  
**十徳** (孝經三ノ七) (鹽屋三三ノ二八) (松筆八七ノ一〇)  
**十返舎一九** 二代目一九の亡命 (嬉遊附ノ二)  
**字突** 角筆 (安隨一五ノ三〇) (同三ノ三〇)  
 (談小一ノ三九) (安隨九ノ四二) (五ノ二六) (二ノ一)  
**漆器** の始 (錫屑三)  
 飯椀等漆塗の始 (四方花ノ一〇)  
 漆金の沈金、存星、堆朱、四皮、ぐり、きんま、ら、ん (嬉遊二ノ一八)  
 泥金、漆、(嬉遊二ノ一八)  
 「ヤキ」漆繪「ヤコ」根來塗、クイ、桂漿サモ見ヨ  
**取** といふ字 (鹽屋七ノ一四)  
**尻付、尻所** (安隨三ノ五〇) (六ノ二一)  
**日月** を神に配する事 (鹽屋二八ノ一)  
**日次記** (安隨一九ノ一六)  
**日林園** (隨意七ノ四一)  
**實語教** と童子教 (三義一ノ一七)

**實直** 「リチ」律義ヲ見ヨ  
**實年** 「テ」年輪ヲ見ヨ  
**實力** なきもの事 (一話八ノ八)  
**實録** といふ林の史籍 (松筆一ノ一九)  
**疾日** (隨意五ノ二六)  
**疾病** の解 (一話一七ノ二四)  
**質素** 古代の質朴 (雨窓五ノ二)  
 昔時武士の風極めて「なりし事 (鹽屋二ノ二二)  
 古代の奢、一村に羽織一つ (富川一ノ一)  
 (二)  
 徳川初世の風 (雲道九三)  
 華美を禁ず (提解五ノ二)  
 なを尊び (話二條) (提解二ノ二)  
 節儉の公卿 (翁草五ノ七)  
 「ケン」儉勤 (セツ) 節儉ヲモ見ヨ  
**嫉妬** 妬と妬との別 (鹽屋三ノ五)  
 妬害相憐の邊 (松筆一〇ノ三五)  
 男子の疑ひし夫の話 (くせ三三)  
 なき妻の話 (憲一八)  
 「ヤキモチ」ヲモ見ヨ  
**悉曇** 眞言の (消閑四四)  
**賤のを大巻** 解題 (賤小一)  
**竹篋** (松筆九ノ二五)  
 六) け付耳引かけ (嬉遊六ノ下ノ六)  
**叱達** の解 (暁樓下ノ二三)

**食卓** (桶菴二ノ二〇一)  
**食卓料理** (嬉遊一〇ノ上ノ一九)  
**シテ**  
 して、い (松筆七八ノ八三)  
 しての六をさ 杜宇か (嬉遊五ノ二) (松筆三七ノ一〇)  
**子弟** 儀式の書中に見えたる (安隨二ノ一) (松筆一〇九ノ五九)  
**子弟** 「ホト」時鳥ヲモ見ヨ  
**師弟** の説 (一話八ノ二二)  
 師の術 (松筆一〇ノ二二)  
 師の大切なる事 (不問八)  
 師人を師とす (談小二ノ四八)  
 弟子其師の癖のあしき所を見覚えたる者 (八水二三)  
 弟子を「る事」を嫌へる僧人 (閑遊二ノ二七)  
 安而受教 (技藝二ノ一三)  
 師僧の慈悲 (雲津四ノ六)  
 惡僧師の恩に感じて歸善せし話 (雲津二ノ一三)  
**四鳥** の別 (松筆八ノ四六)  
**四條納涼** 「ス」納涼ヲ見ヨ  
**四條天皇** の御諡の沙汰 (玉か一ノ二九)  
**四天王** 種々の (松筆九三ノ九二)  
 保昌貞光、金時等 (隣女一ノ三)

四天王寺 「テン天寺ヲ見ヨ」  
詩輒 抄(一話一七ノ一九)  
詩天 の字義(如蘭三五ノ三三)

視察 (乘蘭五ノ五)  
私田 「テン」田制ヲ見ヨ  
司天臺 の移轉(一話二四ノ二四)

●シト  
しどけなき といふ詞(幽遠上ノ八)  
しとにぬるゝ といふ詞(一話八ノ八)  
しとめ の木字(鹽尻七ノ三五)  
しどろもどろ といふ俗語(幽遠上ノ七)

米餅搗 姓氏録に「書ける人名の訓(比古一〇ノ三九)」  
侍讀 尚復の職(安隨七ノ三九)  
三斗九升 といふ地名(松筆一ノ五ノ四)

尿筒 (松筆一〇ノ四九)  
鷓鴣 (老牛上ノ三二)  
褥子 (安隨一〇ノ三二)  
濱床 (安隨一九ノ三四)  
部 「カキ」部ヲ見ヨ

倭文氏 の祖(長陽七五)  
倭文神 建業神トは別神カ一神カ(答問六)

●シナ  
しながとら 曰其名にあらす(安隨一〇ノ九)  
支那 和漢問答授筆(鹽尻四四ノ六)

支那 和漢問答授筆(鹽尻四四ノ六)  
支那 和漢問答授筆(鹽尻四四ノ六)  
支那 和漢問答授筆(鹽尻四四ノ六)  
支那 和漢問答授筆(鹽尻四四ノ六)  
支那 和漢問答授筆(鹽尻四四ノ六)

華山より西峯に至るの險道(長陽一三四)  
唐人 漢流紀文(茶筆一ノ八)  
大明 統使所設戸數及人口(鹽尻二二ノ三)

市街 市街家屋の圖(鹽尻三二ノ八)  
風俗 市街の風俗(鹽尻三二ノ八)  
唐人の歌曲(曲談一ノ〇)

唐人の歌曲(曲談一ノ〇)  
唐人の歌曲(曲談一ノ〇)  
唐人の歌曲(曲談一ノ〇)  
唐人の歌曲(曲談一ノ〇)  
唐人の歌曲(曲談一ノ〇)

支那語 清國の語州によりて異なる事(鹽尻二ノ五)  
支那語 清國の語州によりて異なる事(鹽尻二ノ五)

支那商 唐商の來る事久し(續長三)  
支那人 唐の國人あだし國ある事ヲ知ら

支那人 唐の國人あだし國ある事ヲ知ら  
支那人 唐の國人あだし國ある事ヲ知ら

支那風 唐人に地を賜ふ(續長八〇)  
支那風 唐人に地を賜ふ(續長八〇)

支那料理 (鹽尻四七ノ二〇)  
支那料理 (鹽尻四七ノ二〇)

品川 の大門(一話二二ノ四〇)  
品川遊廊 の様(武俗二六)

品川遊廊 の様(武俗二六)  
品川遊廊 の様(武俗二六)

信濃國 の風俗(半日一五ノ六)  
信濃布 (安隨一八ノ三三)

信濃宮 「ム子」宗實親王ヲ見ヨ  
●シニ

●シニ  
視肉 の解(訓淺一四)  
死人 の問逆(意す一〇)

●シテ  
しね 米を「さいふ」メヲ見ヨ  
しねくる さいふ詞(松筆九六ノ九一)

自然珠 の品集の產地并採集法(鹽尻三ノ二)

●シノ  
しのいは草 (蘭秋二二) 雜書一ノ一七  
しのめ の説(玉カ一三ノ三二)

篠崎小竹 の詩(一話二二ノ三二)  
篠本竹堂 の文浮舟夜遊の記(一話二六ノ一)

信太社 の祭神記并泉州五社次第(一話三ノ二)

不忍池 さいふ名(鹽尻五二ノ九)

忍廻り 幕府市中「」の事(内安二二ノ一)

忍池文庫 の書目(一話一四ノ二〇)

忍か岡 九、向か岡、入砂の岡 (望海)  
 忍か岡南塾 の乗抄 (一話二四ノ二六)  
 忍草 (松筆五ノ九)  
 忍反摺 「モヤ」反摺ヲ見ヨ  
 詠詞 (比古五ノ八ヨリ二〇)  
 ●シハ  
 しは 櫛 椎 (松落四ノ六二)  
 しはつ山 (玉ヶ六ノ三三)  
 士は己を知る者の爲、死す 事(松筆九ノ二二)  
 芝 の木字 (鹽尻六ノ二二)  
 芝居 の地名 (關東一ノ二五)  
 芝石 「カフ」歌舞伎ヲ見ヨ  
 芝神明 (望海二二)  
 芝手 (松筆九三ノ五三)  
 芝田樂 「テン」田樂ヲ見ヨ  
 芝山持豊 (權中納言)の和文 (一話二二ノ一五)  
 柴 の説 (安隨一七ノ一三)  
 柴屋宗長 (圓珠九ノ隣女一ノ二六)

小隱木をワカクヌキ又はシバと訓む事  
 柴垣踊 (嬉遊五ノ二三)  
 柴垣節 明哲中來つきた  
 柴田勝家 の姓 (白紳一〇ノ一七)  
 柴野栗山 の祖先 (談小三ノ二二)  
 柴屋宗長 連歌師 (一話二〇ノ三六)  
 柴屋町遊廊 (嬉遊九ノ三〇)  
 柴山元昭 (笑埃八ノ二五) (春波五ノ三)  
 斯波氏 尾州清洲の城主 代々 (鹽尻五ノ五)  
 斯波義統 の滅亡始末 (鹽尻五ノ二二)  
 司馬 さいふ職 (蕨樓上ノ二)  
 司馬温公 の美事 (鹽意四ノ四)  
 司馬江漢 の小傳 (春波ノ首)  
 江後後悔記 (春波二六ヨリ)

紀州侯に召されし時の事 (春波九〇)  
 仙臺侯に召され (春波四四)  
 先生死去 (一話四一ノ三二)  
 司馬芝良 の長話 (蕨樓上ノ二五)  
 支配 さいふ詞 (昆陽一三八)  
 四方 をよめる歌 (一話五ノ四七)  
 四方拜 考 (如蘭一九ノ八)  
 師走 「シフ」十二月ヲ見ヨ  
 師走坊主 (用捨中ノ二五)  
 習 さいふ演劇 (如蘭三二ノ二)  
 ●シヒ  
 椎 の假字 (安隨七ノ二八)  
 椎茸 豊後にての作り方を教へしもの (兔小上の二)  
 椎の葉 をナラノハとよむ (難江一ノ八)  
 慈悲 慈悲 (技藝二ノ五)  
 慈悲心鳥 「フツ」佛法僧鳥ヲ見ヨ  
 紫微宮 (松筆六三ノ四〇)  
 虐る をシホタクルとよむ (鹽尻四七ノ三)  
 四姫 (橋本一ノ三ノ一)  
 四百四病 (松筆七七ノ二七)

習 (嬉遊二ノ上ノ二)  
 習の辨 (難江一ノ五三)  
 習「ヒ」裝ヲ見ヨ  
 脚麻 を治する咒 (嬉遊八ノ一四)  
 詩品 異同辨 (雜末二ノ四六)  
 ●シフ  
 しぶくる さいふ詞 (松筆一〇ノ三七)  
 しぶる さいふ詞 (松筆九ノ一)  
 詞不可疑 さいふ古書 (傍州一三五)  
 十 の字音 (鹽意六ノ四四)  
 十一月 を霜月といふ (藝苑七ノ一七) (鹽尻三九ノ一六) (善卷一ノ八)  
 十牛堂 紀州邸の (鹽意七ノ一)  
 十九日 愚者な (一といふ) (奴風一〇)  
 十九文店 (我衣五六)  
 十月 を神無月といふ (安隨八ノ三五) (同二〇ノ九) (安夜五ノ一八) (孝經一ノ二) (年打ノ三〇) (白紳二ノ一五) (同二〇ノ九) (居龍五ノ一五)  
 祭神 (安隨八ノ三五)  
 十三經駐旒 の目錄編纂者 (一話三六ノ三六)  
 十三夜 「ツキ」月見ヲ見ヨ  
 十字 さいふ頭と異なる事 (鹽尻一ノ二二)

十二月 四種 (藝苑七ノ一八)  
 師走に世の中詰るさいふ事 (一話一五ノ八)  
 十二紅 さいふ鳥 (技藝一ノ二八)  
 十二叢 角等村十二所權現 (一話三四ノ一五)  
 十二支 「シツ」千十二支ヲ見ヨ  
 十二神 (鹽尻七ノ一)  
 十二提灯 さいふ流行うた (賊小一八)  
 十二天 の順序 (鹽尻四ノ二二)  
 十二人藝 (おろ上ノ二〇)  
 十二單衣 さいふ裝束 (一話八ノ二八) (孝經三ノ一九) (嬉遊二ノ上ノ三) (年打ノ五七) (玉ヶ八ノ三〇) (松筆一五ノ一)  
 十念 無量壽經の (鹽尻四ノ二五)  
 弘法大師 の大事 (鹽尻四八ノ二四)  
 十八公 (松筆一三ノ一二)  
 十八大通 (蜘蛛九、四九)  
 十八日 かとオカヤウカといふ (玉ヶ一ノ六)  
 十波羅密 十指を (三ノ二〇) といふ (南留三ノ二〇)  
 十部從事 (蕨樓下ノ三)

十字絨 (松筆六七ノ二六)  
 十夜 の法事の初 (鹽尻三ノ二五)  
 十六神 (鹽尻七ノ一)  
 十六角豆 を十八角豆といふ (奴風二九)  
 十六むさし 六指、指がり (松筆九二ノ二三)  
 十六羅漢 又八道行成 (足齋三ノ二二)  
 十王經 の妄誕 (玉ヶ一ノ一五)  
 四分被攝 流外 (白紳九ノ六)  
 字舞 の解 (傍海下ノ四)  
 拾遺集 後選集のうた (玉ヶ一四のうた) (權閣下ノ一八)  
 拾玉集 の別本 (雜末六ノ二)  
 澁川圖書 曆學者 (春長上ノ二)  
 澁商 澁黒塗の事 (鹽尻三九)  
 指腹 の字義 (昆陽九〇)  
 時服 さいふ文字 (安隨一九ノ二七)  
 時分 さいふ詞 (昆陽一三七)  
 習慣 習成性 (松筆九ノ二二) の勢力 (不問二〇)

新習の改め難きこと(茶筆四ノ二)  
 猫鼠と獅(提燈五ノ八)  
 門前の小僧(隨意一ノ三三)  
 習字 寺にて習ふ(松筆九ノ三七)  
 寺にて習ふ(松筆九ノ三三)  
 手習の文字(北波三ノ二)  
 六の初に習はしむるもの(笈埃四ノ二)  
 手習の文字(松筆一ノ三)  
 手習の文字(松筆一ノ三)  
 手習の文字(松筆一ノ三)  
 手習の文字(松筆一ノ三)  
 手習の文字(松筆一ノ三)  
 手習の文字(松筆一ノ三)  
 手習の文字(松筆一ノ三)  
 手習の文字(松筆一ノ三)

紙幣 鈔符(隨意八ノ三五)  
 紙幣 寶永四年(松筆八ノ二)  
 辭表 五紙禮(安隨一九ノ二)  
 四壁 一しき(松筆八ノ三)  
 藥切餅 和州婚儀習習のうら(松筆二ノ三七)  
 シホ といふ調(松筆八ノ二六)  
 師保 の任(隨意八ノ三七)  
 字母 (松筆五ノ一)  
 鹽 の説(病問五七)(二番一ノ四)  
 鹽 生地(隨意一七ノ四)  
 鹽 山州の事(一話一ノ二八)(笈埃七ノ一)  
 鹽 井の事(松筆五)  
 鹽 一(世談四三)  
 鹽 一(松筆四三)  
 鹽 一(松筆四三)  
 鹽 一(松筆四三)

鹽井 業一(松筆二ノ六)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)  
 鹽市 信濃國の(松筆五ノ二〇)

シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ  
 シマ 布帛の(機物)ヲ見ヨ

島津義弘 關原敗後歸國の話(窓道三八)  
 島津義久 の兄弟の事(白紳五ノ八)  
 島津 旅芝居を(松筆一六)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)  
 島原 陣中拂方書付(一話九ノ三四)

清水港 駿州志水(隨意四ノ二二)  
 四民 士農工商苦樂の別(病問二八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)  
 シム ついしむ祭の(といふ助語(安隨六ノ八)

**下河邊長流** の小傳(年打下ノ三九)  
**下野** 上野の古名(南留三ノ一)  
**下妻氏** 賴政の後裔(安隨二〇ノ三〇)  
**下間宗重** 親鸞上人に助けられ子孫に顯(松筆八ノ二九)  
**下斗米秀之進** 碑銘(如蘭二八ノ一四)  
**下野花** (傍廂九六)  
**下總** 國郡村組替の事(一話二四ノ九)  
**下村宗福** 永正記を著す(鹽尻八ノ二二)  
**霜をれ** (松筆八八ノ三九)  
**霜月** 唐土の(蕉樓上ノ二二)「シフ」十一月ヲモ見ヨ  
**霜除け** 樹上覆裏(一話四ノ三八)  
**凍疥** 雪やけ又(北邊三ノ七)「遊遊六ノ下」(松筆六ノ一四)  
**の治法**(雲錦四ノ一九)

●シヤ  
 シヤ 小さな詞(安隨一ノ二七)  
 シヤウ 娘(松筆二ノ二四)南留三ノ一六)老翁稱(安隨一〇ノ二五)上ノ八四)「シヤ」町入ヲモ見ヨ  
 シヤウどもなく (松筆二〇ノ四)

シヤウね といふ俗語(松筆一五ノ二〇)  
 シヤウぢの木字(南留三ノ二二)  
 シヤクづれ (松筆七八ノ七三)  
 シヤくと といふ詞(松筆一八ノ三八)  
 シヤにかまへる といふ俗語(安隨六ノ九)  
 シヤの衣 (柳記下ノ五二)  
 シヤら といふ詞(遊遊九ノ二五)  
 シヤらく といふ詞(松筆七八ノ八七)  
 シヤる おもしろおもしろ等の(安隨三ノ一七)  
 者の字義(昆陽一五)兼(四ノ三)  
 射 さまの字(燕石三ノ三八)  
 射義 「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射 射「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射覆 の字義(松筆八ノ五三)  
 射禮 (鹽尻七ノ二二)  
 和漢の(鹽尻九ノ三五)  
 神前(鹽尻一〇ノ一三)  
 車佑 の字義(昆陽七二)  
 車胤 の逸事(昆陽一七〇)  
 車渠 (白雜考卷四)(白遺考八ノ一)  
 車琥 (屠龍五二)  
 車軸の雨 (梅日四ノ四〇)

四羊三豕 の故事(雜末四ノ四)  
 保(安隨三ノ一六)  
 國郡の内(鹽尻九ノ三七)  
 郷領の別(松筆一六ノ一)  
 號なき地(松筆九八ノ一)  
 東(松筆三八ノ一七)  
 庄の事(南留一七)南留四ノ七)  
 考(支同ノ下ノ二)山下ノ一)  
 及庄司庄官(鹽尻二ノ一四)  
 庄官 (松筆九四ノ四四)  
 庄代官(松筆一〇ノ四六)  
 庄公 の義(松筆九五ノ三八)  
 庄司 の號(鹽尻二七ノ二〇)同三ノ二)  
 補任の書式(鹽尻一五ノ二〇)  
 庄内 の弊風(窓二六〇)  
 庄の三職 (松筆一〇〇ノ四一)  
 庄兵衛のば、様 といふ流言(足薪一ノ三九)  
 庄屋 「ナメ」名主ヲ見ヨ  
 庄領 庄預所(松筆九七ノ五三)  
 性根 といふ詞(橋卷二ノ五九)  
 性靈集 「セイ」部ヲ見ヨ  
 商 算家のいふの字(四方花ノ二八)  
 商山四皓 の名(蕉樓上ノ七)

**商人** の屋號(柳卷二ノ二五)關三ノ三  
 商家の符號(見小上ノ二九)  
 商家の奉公人(雲錦三ノ七)  
 農工商の恒産(柳卷三ノ一)  
 の心掛け(病問三ノ九)  
 の學問(不問三〇)  
 商家の儉勤と公平(雲錦四ノ一〇)  
 殊勝なる(鹽尻三ノ二三)  
 奸商の弊(鹽尻八ノ一)  
 天和以來町人風習の沿革(我衣六三)  
 大商人の家の斷絶せしもの(鹽尻四四)  
 「チヤ」町入ヲモ見ヨ

**商賈** 業事(遊遊一ノ二)  
 の不振(我衣六二)  
 商人の頼才(花月一六)  
 の狡術(餘餘五ノ三五)  
 珍らしき(遊遊一ノ二〇)  
 尤利の多き貨物(遊遊一ノ九)  
 商品の相場なふれ行く風(遊遊一ノ七)  
 物の寄り登品々(遊遊一ノ四)浪花三ノ一)  
 撰とり十九文(遊遊一ノ八)  
 懸商源左衛門の事(春波一一)  
**商賈忌敵** (松筆九三ノ二二)  
**商賈** の語の出處(松筆四〇ノ九)  
**醬** (鹽尻八ノ二四)  
**醬を乞て酒を得たり** といふ語(一五ノ三)  
**醬油** (鹽尻八ノ一六)松筆一〇四ノ四〇)豆油の(五樂二ノ一四)  
**椽** を任する事を二合といふ(安隨一五ノ三五)二六ノ一五)

●シヤ  
 シヤウね といふ俗語(松筆一五ノ二〇)  
 シヤウぢの木字(南留三ノ二二)  
 シヤクづれ (松筆七八ノ七三)  
 シヤくと といふ詞(松筆一八ノ三八)  
 シヤにかまへる といふ俗語(安隨六ノ九)  
 シヤの衣 (柳記下ノ五二)  
 シヤら といふ詞(遊遊九ノ二五)  
 シヤらく といふ詞(松筆七八ノ八七)  
 シヤる おもしろおもしろ等の(安隨三ノ一七)  
 者の字義(昆陽一五)兼(四ノ三)  
 射 さまの字(燕石三ノ三八)  
 射義 「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射 射「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射覆 の字義(松筆八ノ五三)  
 射禮 (鹽尻七ノ二二)  
 和漢の(鹽尻九ノ三五)  
 神前(鹽尻一〇ノ一三)  
 車佑 の字義(昆陽七二)  
 車胤 の逸事(昆陽一七〇)  
 車渠 (白雜考卷四)(白遺考八ノ一)  
 車琥 (屠龍五二)  
 車軸の雨 (梅日四ノ四〇)

●シヤ  
 シヤウね といふ俗語(松筆一五ノ二〇)  
 シヤウぢの木字(南留三ノ二二)  
 シヤクづれ (松筆七八ノ七三)  
 シヤくと といふ詞(松筆一八ノ三八)  
 シヤにかまへる といふ俗語(安隨六ノ九)  
 シヤの衣 (柳記下ノ五二)  
 シヤら といふ詞(遊遊九ノ二五)  
 シヤらく といふ詞(松筆七八ノ八七)  
 シヤる おもしろおもしろ等の(安隨三ノ一七)  
 者の字義(昆陽一五)兼(四ノ三)  
 射 さまの字(燕石三ノ三八)  
 射義 「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射 射「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射覆 の字義(松筆八ノ五三)  
 射禮 (鹽尻七ノ二二)  
 和漢の(鹽尻九ノ三五)  
 神前(鹽尻一〇ノ一三)  
 車佑 の字義(昆陽七二)  
 車胤 の逸事(昆陽一七〇)  
 車渠 (白雜考卷四)(白遺考八ノ一)  
 車琥 (屠龍五二)  
 車軸の雨 (梅日四ノ四〇)

●シヤ  
 シヤウね といふ俗語(松筆一五ノ二〇)  
 シヤウぢの木字(南留三ノ二二)  
 シヤクづれ (松筆七八ノ七三)  
 シヤくと といふ詞(松筆一八ノ三八)  
 シヤにかまへる といふ俗語(安隨六ノ九)  
 シヤの衣 (柳記下ノ五二)  
 シヤら といふ詞(遊遊九ノ二五)  
 シヤらく といふ詞(松筆七八ノ八七)  
 シヤる おもしろおもしろ等の(安隨三ノ一七)  
 者の字義(昆陽一五)兼(四ノ三)  
 射 さまの字(燕石三ノ三八)  
 射義 「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射 射「キウ」弓術ヲ見ヨ  
 射覆 の字義(松筆八ノ五三)  
 射禮 (鹽尻七ノ二二)  
 和漢の(鹽尻九ノ三五)  
 神前(鹽尻一〇ノ一三)  
 車佑 の字義(昆陽七二)  
 車胤 の逸事(昆陽一七〇)  
 車渠 (白雜考卷四)(白遺考八ノ一)  
 車琥 (屠龍五二)  
 車軸の雨 (梅日四ノ四〇)

歌舞伎の遊藝(翁草四ノ五)  
講式より(松筆九ノ三九)  
の流録(松筆九ノ五六)  
京都の事(一話二ノ二九)  
山彦鳥羽の三結(武徳上ノ四)  
曲舞節の内面(武徳上ノ四)  
河東節の文句(俗耳六〇)  
薩摩都古路(松筆九ノ三四)  
春駒(關の戸、高尾の) (蜘蛛五二、五)  
一、中節(遊遊六ノ上ノ三六)  
新内節(遊遊六ノ上ノ三七)  
半大夫節(遊遊六ノ上ノ三五)  
宮古節(遊遊六ノ上ノ三六)  
宮園節(遊遊六ノ上ノ三七)  
作者(遊遊六ノ上ノ四二、世談二二)  
十二段作者(安隨一ノ二二)  
操の戯作(雲錦三ノ六)  
「コッ」小唄(櫻田治助「キダ」義大夫  
浄瑠璃「ガト」河東節「セツ」説教節「ナ  
カ」長唄「モ」見ヨ

不足賀(隨意六ノ二)  
人主好端(支那二ノ二七)  
から國聖人の世の(といふもの(玉か  
二ノ一三)  
國家將起必有祥麟(橋卷初ノ五ノ二〇)  
非言の物の言ふは不祥(松筆一〇〇ノ三  
六)  
白雉白鹿九尾狐等か(とする事(松筆  
六ノ四ノ九)  
我國(を以てつらひの助させす(多  
波上ノ九)  
「セ」前兆ヲモ見ヨ

上使 に来豆の俵を贈る古例(設小五ノ二  
三)  
上日 上夜(安隨六ノ二八)(松筆一  
二ノ一四)  
上衆 下衆(松筆一〇ノ七)  
上疏 は自筆なるべき説(昆陽二五)  
上大人、丘乙巳 (安隨一九ノ三三)(續  
昆三七)(乘燭五ノ二  
二)  
「シ」習字ヲモ見ヨ

芝神明にて(を賣る(松筆一五ノ五  
〇)  
生死の海 といふ佛語(松筆一八ノ二五)  
生歎 齋結(藝苑一〇ノ六)  
生類御憐 元祿二年(一)の書付(一  
ノ二六)  
の禁を犯せし者の罰(一話二六  
ノ三六)  
城下 「イヌ」天「トク」徳川綱吉ヲモ見ヨ  
む根小屋又宿城といふ(松筆六ノ  
一五)  
城主 (松筆八ノ二二、八三ノ四七)  
慶牙 「コメ」采ヲ見ヨ  
嫦娥 月中(隨意七ノ八)  
象海和尚 東福寺(園耕二ノ一  
一)  
彰考館 (年打上ノ八二)  
別館の記(年打下ノ一)  
唱歌 (松筆九五ノ三〇)  
唱更國 (比古四ノ一)  
唱曙 の發解(一話一ノ七)(乘燭三ノ二)  
(東屋下ノ一)  
唱平 (松筆六ノ一〇、一七)  
唱文師 「シヨ」ヲ見ヨ又「サキ」左  
義長ヲモ見ヨ  
正覺院 三田(の山緒(翠海五五)  
正覺法師 「ウ」宇野熊王ヲ見ヨ  
正月 桑事(藝苑六ノ一)  
「カ」む「キ」といふ(難江一ノ四五)  
(橋卷初ノ一)(白紳一〇ノ一)

夏以十三月爲正(隨意七ノ二四)  
時ならぬ(遊遊八ノ一七)(平日二  
二ノ二五)(同(四ノ二)  
流行の(松筆五ノ三)  
天竺の(松筆一四ノ一)  
の景況(一話四ノ一)  
の氣の(前歌上ノ四)  
「マツ」松飾「ク」元旦ヲモ見ヨ

正平染 (世談二二)  
正法に不思議なし といふ事(松筆九  
三ノ二二)  
傷寒 を病まざる法(松筆八五ノ五九)  
傷胎論 は偽書なる事(橋卷二ノ二五)  
傷胎觸穢 といふ事(一話四ノ一五)  
將棋 象棋(孝經四ノ三)  
馬の高上(中、廣、狭、飛  
(遊遊四ノ二九)  
付(遊遊四ノ三二)  
明(世談一〇)  
明月記に見ゆ(至カ八ノ二三)  
七國 (武徳四八)  
の駒(松筆九三ノ七三)  
の駒の銘(長春上ノ九)  
の王將(善卷一ノ一)  
階級の事(平日三ノ二四)  
を弄ぶを禁す(傍照一〇八)  
王者遣將(松筆九三ノ六五)  
日本 の始(理齊六ノ八)  
の裝束(一話二ノ二二)(平日一  
一)  
「タイ」大樹ヲモ見ヨ



將軍宣下 大猷公 (半日二ノ一)

嚴有公 (半日二ノ一ノ一五)

天明七年の (半日二ノ一ノ一七)

德川氏 (半日二ノ一ノ一八)

將軍塚 (半日二ノ一ノ一五)

將軍名代 御名代上京 (半日二ノ二ノ二九)

將士 御名代 (半日二ノ二ノ二九)

漏斗 (松筆一〇〇ノ四九)

嘗祭 (半日二ノ三)

障子 唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

唐紙 (孝經四ノ三三)

尙齒會 (安隨七ノ四三)

遊五ノ三 (隨意四ノ三〇)

天朝前後 (支同三ノ中ノ一四)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

尙書 (半日二ノ五ノ三)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承兌和尙 (松筆三七ノ一)

承鹿 (安隨八ノ三三)

承明殿 (松筆六三ノ二二)

承和昌寶 (松筆九〇ノ二二)

鼻殿 (松筆九〇ノ二二)

掌燈 (安隨一九ノ二二)

聖天 (安隨一九ノ二二)

聖德太子 (安隨一九ノ二二)

聖德太子 (安隨一九ノ二二)

聖德太子 (安隨一九ノ二二)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

東帯次第 (孝經三ノ一八)

聖德太子未來記 (安隨七ノ一九)

聖人庄助 (安隨七ノ一九)

聖武天皇 (安隨七ノ一九)

樟腦 (安隨七ノ一九)

賞罰 (安隨七ノ一九)

賞與 (安隨七ノ一九)

相伴 (安隨七ノ一九)

葛蒲 (安隨七ノ一九)

葛蒲 (安隨七ノ一九)

葛蒲 (安隨七ノ一九)

**釋** 俗僧の何々と稱する事 (松筆八〇ノ三五)  
**釋迦** 世尊、調達、難陀出生 (鹽尻一〇ノ二九)  
 一 牟尼佛をニクルベシ訓む (南留三ノ五)  
 一 の生長 (藝苑六ノ一六) (餘餘二ノ二五)  
 一 太子たりし時の三妃 (鹽尻一〇ノ二五)  
 一 尾州山田庄摩子堂の木像 (鹽尻三九ノ二)  
 一 出山圖の詩 (鹽尻四四ノ二〇)  
 一 成道の像 (鹽尻四五ノ四)  
 一 嵯峨清涼寺の像 (松筆一七ノ六一)  
 一 遊七ノ二九)  
 一 同上開帳 (幽系二六) (一話二三ノ三三、四〇ノ四) (平日二ノ八)  
 一 法隆寺の背銘 (松筆八九ノ四七)  
**釋迦岳** と金峰山 (孝經二ノ九)  
**釋迦岳** 大男 (松筆六六)  
 一 力士の身の長 (平日二ノ二〇)  
**釋迦誕生會** 浴佛會 (藝苑六ノ二〇)  
**釋教歌仙** といふ書 (筆下ノ七)  
**釋寺野** 地名考 (一話二五ノ三三)  
**釋書蒙求** といふ書 (一話一八ノ四四)  
**釋日本紀** 漢劉暉 多音彙強附會 (隨意三ノ三三)  
**釋門千里之駒** (松筆七二ノ一)

**邪蒿** さいふ植物 (一話一六ノ三七)  
**麝香** 佛前にて焚くべからず (鹽尻四ノ九)  
**商宮律** (嬉遊六ノ上ノ二三)  
**砂金** 通用の時代 (續見二)  
**砂利** 一考 (嬉遊一ノ上ノ二)  
 一 考 (難江三ノ三八) (松筆六ノ九、五ノ六九) (一話二七ノ二八)  
 一 さいふ字 (安隨一ノ三三、三五)  
 一 の辨 (秋聲一ノ七)  
 一 の上下 (鹽尻二ノ九、二二)  
 一 の相 (松筆六ノ四)  
 一 の用 (安隨一〇ノ三三)  
 一 五位以上用白木 (鹽尻三四ノ二九)  
 一 吉田の制 (一話一五ノ三三)  
 一 把の宮人のなまる事 (松筆四ノ五)  
 一 ぬさり落せる時の作法 (玉二〇ノ四三)  
**繻** 一考 (安隨二ノ六)  
 一 以爲香爐 (錦屏四)  
**爵** 一考 (續見四ノ九)  
**爵位** 一考 (如蘭一八ノ二六)  
 一 官品正從 (一話二二ノ二五)  
 一 樹島に授けたる事 (鹽尻二ノ二八)  
 一 「イカ」位階 (一話二二ノ二五)  
 一 「衣領」心 (長陽一四八)

**擲拾撈擲** さいふ文字 (難江六ノ八〇)  
**若干** の二字 (隨意八ノ二四) (餘餘二ノ二二) (談小三ノ一) (松筆四〇ノ九)  
**借金** 借金の説 (雲津三ノ一〇)  
 一 借金をしたるもの (多波上ノ二五)  
 一 金銀貸借の裁許 (我衣三三)  
 一 金銀貸借の心得 (山下二九)  
 一 「カシ」貸借 (見見見)  
**借馬** せり馬 (嬉遊四ノ四)  
**借家** さいふ語 (孝經四ノ三)  
 一 店借、貸家 (松筆九七ノ三八)  
**寂光寺** 一考 (東屋下ノ二二)  
**寂室** 一考 (東屋下ノ二二)  
**寂照法師** 「エン」圓通大師 (見見見)  
**寂蓮法師** 顯昭法橋 (一優劣論 (閑耕二八七))  
**赤後** の字義 (松筆一〇五ノ三)  
**赤の日** 赤後出仕 (松筆一〇五ノ八)  
**杓子** 鍋取、杓子の古製 (用拾上ノ七)  
**杓子定規** さいふ事 (足新三ノ三二)  
**石神井村** 武州 (一話三四ノ一)  
**錫杖** (安隨二ノ四〇、四ノ四八、一八ノ二九) (九ノ五三)  
**錫杖寺** 武州 (一話八ノ一五)  
**尺度** 一考 (手渡せぬものといふ事 (南畝上ノ一〇))

**大尺北尺** (幸港二ノ一八)  
**竹尺** (松筆九ノ二四)  
**几帳尺** (北邊一ノ二七)  
**絹布丈尺** (嬉遊二ノ上ノ二二)  
**和漢** (藝苑四ノ一)  
**支那之尺** (隨意五ノ二三)  
**唐尺の本寸** (我衣二三)  
**阿蘭陀尺** (長陽八二) (續見四)  
**田圃** 一考 (世談一七六)  
**トリ** 度量衡ヲモ見見  
**尺拍子** (松筆九五ノ二八)  
**尺八** (安隨一九ノ四三) (世談六六) (談正一五)  
 一 笛 (安夜一ノ七) (傍廂八)  
 一 付一節 (嬉遊六ノ上ノ二〇)  
 一 の制 (藝苑四ノ二二)  
 一 の曲 (見見見) (一八)  
 一 一節切の考 (一井圃 (南畝下ノ二五)) (一話二〇、三九) (難江二ノ五八)  
 一 一節切の曲 (一話二ノ三六)  
 一 放下音傳來略記 (一話三三ノ六)  
 一 にて経を吹く事 (鹽尻二ノ六)  
**源氏物語** (安隨一ノ一五)  
 一 に合する吉野山といふ節 (足新一ノ三七)  
**芍藥** (松筆九三ノ三八)  
**花** (松筆七四ノ三八)  
**鷓鴣** (橋初ノ五ノ九)  
**肥前肥後の** (長陽一七〇)  
**蛇骨** といふもの (炭埃八ノ一三)  
**蛇足** (松筆七四ノ二三)

**蛇之助** の字義 (柳筆上ノ二二ノ二三)  
**蛇の道は** (次か知る) といふ諺 (松筆七八ノ九〇)  
**謝座** (安夜五ノ一四) (安隨八ノ三二)  
**謝在杭** の蔵書 (榜海下ノ二四)  
**謝筆瀾** (平日一ノ二二)  
**謝枋得** の忠節 (駿騫禮ノ二四)  
**謝靈運** と張良 (鹽尻二ノ二二)  
**沙子** (續見一三)  
**沙尾鏡** (續見二二)  
**沙彌** 一新發意 (南留三ノ七)  
 一 の稱 (松筆九三ノ七六)  
**沙門** さいふ語 (隣女一ノ二三)  
**沙門島** (長陽一六九)  
**沙錢** 「セニ」錢ヲ見見  
**社寺** 「シシ」寺社ヲ見見  
**社若** といふ社語 (如蘭四ノ二二)  
**社稷** 孟子變置の義 (鹽尻四九ノ一)  
 一 (松筆一四ノ二二)  
**社務** といふ語の出處 (鹽尻三七ノ一九)  
**奢侈** 「ケウ」奢ヲ見見  
**寫字** 「トウ」騰寫ヲ見見  
**寫本** の誤字 (一話八ノ二三)  
 一 古「誤多」理由 (閑次三ノ一四)  
 一 「シヨ」書籍「トウ」騰寫ヲモ見見

**寫真鏡** (嬉遊三ノ六)  
**鯨** の事 (藝苑一ノ九三)  
**娑婆** の意義 (鹽尻二ノ二三)  
**娑羅樹** (松筆六二ノ三六)  
**石鹼** (嬉遊三ノ一四)  
**赦** 「タイ」大赦ヲ見見  
**赦免** 唐太宗不欲 (鹽尻三九ノ三二)  
 一 「タイ」大赦ヲモ見見  
**赦令** の文 (長陽四三)  
**軍鷄** しゃむ、の渡來 (嬉遊二ノ一八)  
**暹羅國** の記 (一話一ノ二六)  
**暹羅染** (世談二〇)  
**舍利** (桂林下ノ二〇) (屠龍五二) (鹽尻四一ノ八)  
 一 并バサルの説 (芽窓上ノ二五)  
 一 の義 (隨意七ノ三三)  
 一 隋文帝下より (佛舍利ヲ見見)  
**舍利塔** といふ佛語 (松筆二一八ノ二五)  
**舍利寺合戰** (一話四ノ四二)  
**舍利瓶** (松筆八八ノ二四)  
**シム**  
**しゆ** をスといふ詞 (安隨一ノ二七)  
**しゆらい錢** (松筆六六ノ六三)





左傳哀十七年の條(讀小一ノ四二)  
 同 衛侯與元帥討之條(讀小一ノ四二)  
 同 魯公二十二年條(鄭公太子洧堵寇)ノ考(讀小一ノ四二)  
 同 魯公三十一年の條の解(讀小三ノ三一)  
 同 昭七十年の條の誤字(讀小三ノ三一)  
 同 昭七年の條の誤字(讀小三ノ三八)  
 同 劉康公の條に付(讀小三ノ三八)  
 「クイ」經書ヲモ見ヨ

春秋通志 の作者(餘餘四ノ二)  
 春抄 四月朔日ニ書ク事(一話三三ノ三四)(附註上ノ二〇)  
 淳化閣帖 (一話二五ノ二)

淳和院學兩院別當源氏長者 (如關八ノ二)

淳仁天皇 淡路廢帝の陵(安隨一〇ノ六)(二上五九)

俊寛 附都歸洛説(安隨一九ノ二一)  
 阿蘇山麓に住せし事(讀小四ノ六)

俊慶 陶工藤四郎(嬉遊二ノ下ノ二三)  
 別(松筆九四ノ二九)

巡給 諸道(松筆一〇九ノ二九)

巡察使 寶永七年(讀小五四ノ七)  
 (松筆一一〇ノ二)

巡の舞 松筆一二二ノ二)

巡狩 松筆一二二ノ二)

順德天皇 崩御の御事(玉サノ一三ノ五)(京雜前上ノ二三)(一話二六ノ五)

佐渡にて生ぜ給る御子の事(如關九ノ一)  
 六十六部(三十三ヶ所、廿四部、十四部)  
 西國(嬉遊七ノ一四)(松筆一六ノ一)  
 三十三ヶ所の札(松筆三ノ一〇、一三ノ二、江戶(足遊二ノ一七))  
 京 行人の服の事(附註上ノ二五)  
 京 并 歌(閑次二ノ二八)  
 「ロク」六部ヲモ見ヨ

准 后 大匠等の一字(讀小二ノ二三)

准 穎 の字義(松筆九八ノ二)

准 后 一 考(松筆九八ノ二)

准 三后 考(百家説林卷九ノ内)(白遊考六ノ四)  
 遺考六(白遊考六ノ四)

尊 菜 舟、御膳方池の(雲錦四ノ二六)

殉 死 徳川初世(松筆一〇九ノ二)  
 本多平八郎(松筆一〇九ノ二)  
 本多平八郎(松筆一〇九ノ二)  
 論(如關二ノ二二)(松筆六七ノ五七)(松筆一四ノ二三)

馴鹿 一 事(春波二四)

シヨ

しようの餅 「セツ」節分ヲ見ヨ  
 しようの三字を額させしもの言(不問二六)

じよさい 粗略にする事(安隨一三ノ一〇)

しよくむじよく さいふ狂言の詞の義(牛馬三六)

不識字而能(讀小六ノ二八)  
 本門に懸て論難を求む(松筆七二ノ二)

文天祥の詩(松筆一一八ノ三)

書院 (嬉遊一ノ上ノ七)(讀小五ノ二六)  
 (松筆六四ノ四五八三ノ三)

書院 押板の節(讀小五ノ二六)  
 (松筆一一七ノ五八)

書家 能書家(筆上ノ一、二、三、四、五)  
 三絶(一話六ノ四)

書家 寶曆用好筆(松筆一三ノ四)  
 寶曆用好筆(松筆一三ノ四)  
 書蹟と近世の(附註下ノ二六)  
 「シヨ」手蹟ヲモ見ヨ

書記官 一 訓(安隨五ノ二二)  
 古文尙書(東屋上ノ一)  
 古文尙書、今文尙書、孔安國序(眼雲一ノ一ヨリ)

豊崎文庫の尙書(遊京下ノ二二)  
 納子大宛烈風雷雨云々の義(東屋上ノ一五)

「クイ」經書ヲモ見ヨ

書畫 一 文學の餘韻(燕石三ノ四六)  
 展覧會(讀小一ノ二八)

古書畫(一話四ノ九)  
 古事(二話一六ノ四三)  
 人の爲めに扇紙に書ク事(南歌下ノ三三)  
 米粒の(嬉遊三ノ五)  
 引首の題(一話三三ノ二二)  
 青木氏所藏の古(一話一九ノ五)(同二〇ノ九)

淺草島越伊勢屋所藏の(一話一四ノ三四)  
 深川四軒寺町廻屋所藏の(一話三二ノ三二)

「ワン」雲茶會「エ繪」シヨ「手蹟」ヲモ見ヨ

書畫會 (嬉遊五ノ四)  
 「ワン」文庫ヲ見ヨ

書庫 一 文字の死活(茶筆四ノ一九)  
 の終に記す以上の事(讀小二四ノ四、三三ノ〇)

書札 一 の上所に奉と書ク事(安隨一七ノ五五)

書寫山 一 はスサノ山なる事(白紳八ノ三〇)

書寫山上人傳 一 作者(讀小三ノ四〇)

書狀 手紙の義(柳記上ノ三二)  
 手紙といふ名(安隨一九ノ四七)  
 消息文を水丞又は玉梓といふ事(玉サ一)

魚腹に文を納る事(安隨二ノ二九)  
 尺素(松筆七一ノ六)

釣 梅日五ノ一)

密書に關する事(松筆一一二ノ五)

密書を篋の紐にして使せし事(松筆九三ノ九)

の返書(花月七三)

の書(安隨三ノ一)(讀小一ノ一三)

文のちらし書、口づ、手づ、(嬉遊三ノ三)

女の文のちらし書(安隨一ノ五)(安夜一ノ三)

書翰文の變遷(嬉遊三ノ三)

文の調(北遊二ノ二)

一筆(松筆六九ノ六)

候の文(用拾中)

女の文に「く」の事(南留三ノ四)(年打上ノ六一)

不備不具不(梅日四ノ三〇)

に死刑死罪(讀小五ノ二六)

公卿の署名の事(安隨二ノ四二)

包狀の文(安隨一九ノ四)

堅文(安隨一九ノ四)

結ひ文、玉(禮紙、懸紙、官旨、口結ひ文の形(南留三ノ三〇))  
 直ひ文(松筆二ノ一六)

封書、封の始(四方花ノ一〇)  
 封の切封、の宛名、あながしく(孝經四ノ四)

封印、糊つけ、封筒(遊嬉三ノ三)  
 糊封文(安隨六ノ一)

封の字(芽窓下ノ一四)(梅日四ノ一)

封に墨をひく事(松落四ノ四六)

の封目に「とく」事(嬉遊三ノ二)

(讀小三ノ二)

一見後早破さく事(松筆一〇四ノ二八)

空々竹堂春園三老の手簡(一話二八ノ三)

「セツ」消息「ソロ」候「フミ」文ヲモ見ヨ

本さうし(松落四ノ二九)

裁制(拾玉三ノ一八)

六ノ一〇)

板本寫本の利害、を秘する弊、一に折目つくる事(玉サノ一六)

簡之策(遊江二ノ六九)

我國に始めて(安隨三ノ四四)

唐土板本の始め(理齋六ノ八)

宋版書の始(讀小四ノ六)

九ノ二)

古代の版行(世談一四一)

唐に亡びて我國に傳はれる書(閑散上ノ二)

古書の搜索(松筆七〇ノ一五)

古書、稀なりし事(筆上ノ一八)

家康踏書の版行せし時代(讀小二ノ四六)

編窩先生時代、乏しかりし事(橋卷二)

林道春野趣を出版せる事(長頭三)  
 献書の例(松筆七一四) 一三(辯遊附)  
 藏書家の注意(筆上ノ二四)  
 狼籍を重に扱ふべき説(雲萍一ノ六)  
 秘書の寫し方に付て(白筆下ノ三六、三  
 八) 一、朱點あるを脱去る法(白筆下ノ五)  
 二、白魚の生せざる法(燕石五ノ五)  
 三、水漬香冊(續昆四四)  
 四、書作枕(辯遊附ノ五)  
 五、未見書と已讀書(松筆二ノ一八)  
 六、大部の書(秋齋二ノ四)  
 七、同名異書(安隨一九ノ二四)  
 八、我紙を送りて摺りたる唐本(閑散下ノ三  
 〇)  
 九、神祕好書(隨意五ノ四五)  
 十、神祕景雲年間大宰府に史記漢書等を賜ふ  
 世に傳ふる事に誤多き事(我宿一)  
 十一、藏書の轉賣、謝在杭の藏書(榜海下ノ二  
 三)  
 十二、唐本直段付(一話一三ノ一)  
 十三、唐本の鮮明なるもの(隨風二ノ二〇)  
 十四、出版の取調(一話四〇ノ三五)  
 十五、正徳六年正月新刊本(一話三五ノ二九)  
 十六、同年二月同(一話三五ノ三四)  
 十七、古刻本(柳隨初ノ二)  
 十八、珍書(隨意一ノ二〇)  
 十九、青山堂所見珍書(一話二六ノ三)

弘安板本の三大部(松筆六〇ノ二)  
 八雲軒の朱印ある(一話一五ノ三六)  
 安永三年の古寫本(隨風三ノ三九)  
 一、シヤ、寫本ヲモ見ヨ  
 二、シユ、手蹟ヲ見ヨ  
 三、シユ、除去る法(燕石五ノ六)  
 書損  
 書棚  
 書法  
 筆法の事(大海一四)(後言四一)(松  
 筆六ノ二九)  
 論、飛白字、鱗魚の篆跡(辯遊三ノ三)  
 能書の秘事(理齋五ノ二)  
 重用の字、行を附て書まじきといふは非  
 重(松筆一ノ一七)  
 藏書、心手相應(技藝一ノ二〇)  
 曲筆、弘法大師の五筆、小野道風のふるひ  
 筆(辯遊三ノ一)  
 早書、藤原敏行の早書、去り書、散し書、放  
 筆(辯遊三ノ一)  
 醉筆、甲斐筆法(續昆五ノ三)  
 弘法、賢の書法論(金剛談一巻)  
 王羲之の筆法(消閑談三)  
 草書に記せる(梅日一ノ九)  
 細書に記せる(梅日一ノ九)  
 書品  
 異同辨(離朱二ノ四九)  
 書名  
 撰ぶに慎むべき事(隨風三三  
 九)  
 の冠字(隨風五三ノ一五)

書の切りつめ(一話四五ノ三七)  
 書の新撰新編の號(安隨一〇ノ三三)  
 一、往來の字をつくる事(橋樑初ノ四  
 一六)  
 二、日本國見在書目録等諸一の事(擁  
 書四ノ三五)  
 三、見在書目録を寫して奥に書つたる(比  
 古九ノ一九)  
 四、堤氏藏書目録(一話四〇ノ三)  
 五、謝在杭の藏書(榜海下ノ二三)  
 署名  
 位署の一字よみ方(安隨一九ノ二)  
 一、位署、連署、連判(安隨九ノ九)(二上  
 敬ひては名をさきに姓官位を後にいふ事  
 (松筆四ノ二〇)  
 二、位署に藤原の字細大の事(安隨九ノ二)  
 三、名書に姓氏を細書するは藤原末家の例  
 (松筆三ノ七)  
 四、名と字とをかく事(理齋五ノ二四)  
 五、名を切るに官をいふ事(南留三ノ二五)  
 六、入道の女の名をかく事(松筆九ノ三三)  
 七、姓のみありて名の分明ならざるもの、書  
 式(談小五ノ二)  
 八、血淋漓の一字(隨意七ノ一三)  
 九、忽の道の説(梅日九)  
 十、背負板(松筆八ノ三〇)  
 十一、稱唯(一話五ノ一八)  
 十二、稱德天皇の崩御(幽遠上ノ二四)

稱謂 喚辭又の例(難江二ノ一四)  
 蕭友孜 五雜俎朱友敬を——と誤る(慈  
 樓上ノ一九)  
 松雲 韓僧——(談小一ノ一〇)  
 松花堂 繪の墨(假世二〇)  
 松炬島 (隨風四ノ三八)  
 松竹梅 (世事一〇九)  
 松蘿館 「ニシ」西原好和ヲ見ヨ  
 鍾馗 (一書二ノ一九)(辯遊八ノ一五)(續  
 昆四ノ三三)(兔集三三)(兔小中ノ一七)  
 早樞大臣(松筆七ノ二〇)  
 詩(松筆七ノ二〇)  
 鍾乳石 (老牛中ノ三四)  
 證空上人 西山善峯寺——(隨風一  
 二ノ五)  
 證據 一、支證といふ(安隨一三ノ六)  
 二、爲後日といふ事立ち物といふ事(玉  
 田の寶渡の古一話九ノ三三)  
 清人の券書(一話九ノ三三)  
 衝口發 藤叔藏と——(筆上ノ八)  
 勝國 一、の解(乘端五ノ一)(榜海下ノ六)  
 二、鳥羽——の寶物(玉一  
 三ノ二五)  
 勝持寺 山城國小院山——境内圖(隨  
 風四ノ一六)  
 勝複 准南子汜論訓中——の箋(慈樓上ノ  
 一)

勝樂寺 遠州川路——由緒(松筆一〇  
 六ノ二七)  
 乘田 「テン」田制ヲ見ヨ  
 乘風 一、旌而不縣の——(慈樓上ノ一七)  
 二、騎馬の別(隨意七ノ二九)  
 乘馬 將之單騎(隨意七ノ二二)  
 「ハシ」馬術ヲモ見ヨ  
 乘輿 一、の字義(松筆五ノ一五)  
 「アリ」ヲモ見ヨ  
 悉報 一、の義解(安隨三ノ七)  
 從容以和 一、いふ語(談小一ノ四九)  
 暑氣 一、用ふる藥(安隨二ノ一〇)  
 二、不勝暑而勝者(隨意六ノ一八)  
 三、台廟の頃の大事(隨風八ノ一)  
 四、享保九年奥州岩城領の炎(隨風一ノ  
 九)  
 雌鳩 周南關雎の——考(筆中ノ八)  
 「シカ」嗜好ヲ見ヨ  
 嗜欲 一、の音に二様ある事(難江二ノ七七)  
 食椒 一、の字義(續昆九)  
 食祭 一、の義(隨意五ノ一六)  
 食事 一、食者天下之本(隨意八ノ一〇)  
 二、食色は人の大欲(年々三ノ三三)  
 三、愚蒙之人不知重飲食(隨意二ノ三二)  
 四、九事といふ事付非時の事(辯遊八ノ  
 一四)  
 五、日々に何度なるべきや(一話三九ノ  
 一)  
 六、昔は晝飯を食はざりし事(辯遊一〇ノ上  
 二度の)(柳記上ノ九)  
 七、(松筆六ノ七一)

晩食を齋素にする風(梧拾三五)  
 一、法ある事、物食ふに心掛くべき事  
 (辯遊一〇ノ上)  
 二、物食の儀の事(安隨二〇ノ五五)  
 三、を節するの大切なる事(辯遊一〇ノ  
 上ノ一)  
 四、浪費する飲食者(隨意二ノ二三)  
 五、多飲食(隨意六ノ八)  
 六、祭飲食(昆陽一ノ四)  
 七、喪中の(談小三ノ五)  
 八、宮中再飯といふ事(談小二ノ三六)  
 九、關ヶ原役家康の御膳仕立場(一話二三ノ  
 三四)  
 十、「アツ」惡食、タン「斷食」ヲ「點心」シヨ  
 食物ヲモ見ヨ  
 食時不言 一、といふ事(松筆一一ノ六〇)  
 食傷 一、の治方(松筆七四ノ一九)  
 食索 一、の義解(梅日三ノ二)  
 食物 一、漢語法語の——論(一話四ノ一三)  
 二、我國人の量(瓦礫二ノ二二)  
 三、一人の食料(安隨一八ノ二三)  
 四、下部一人の食料(松筆一一ノ三三)  
 五、人間一生の食料(松筆一一ノ三七)  
 六、五合扶持(孝經三ノ二五)  
 七、の善惡(續三ノ二五)  
 八、飲食の美味(續四ノ一)  
 九、飲食の質素(隨風四ノ一)  
 十、古人の質素(隨風四ノ一)  
 十一、鹿食に堪えざりし梅(雲萍三ノ二五)  
 十二、を強ゆる事(松筆四ノ二)  
 十三、を強ゆる事(松筆四ノ二)  
 十四、險發すべからず(松筆七ノ二)  
 十五、飲食の爲に人を殺せし國王(雲萍四ノ七)  
 十六、を斷ちし尼の話(談小二ノ一六)  
 十七、往生の妨をなさず(松筆九五ノ九四)

初物の停止(我衣二五)  
 食草(本草法(昆陽一八))  
 食經類目録(餘餘四三九)  
 各種種々の(春波一〇六)  
 禁裡にての(婚遊九三三)  
 「シヨ」食事ヲモ見ヨ

職  
 一と役との別(南留五九九)

職員令  
 のよみ方(安隨七〇二七)

職官  
 「クワ」官職ヲ見ヨ  
 家業(松筆七七ノ三六)  
 人不可以無(餘餘一〇二六)  
 各々(雲萍二二ノ二二)  
 哀む(安隨三三三五)(鹽尻二七ノ一)

職原抄  
 (安隨三三三五)(鹽尻二七ノ一)  
 北島顯統ヲ寫せる(鹽尻二七ノ一)  
 六)「已上號見任公卿是也」の訓點(安隨一六〇二五)

職事官  
 (南留二〇)

職田  
 (南留四〇)

職人  
 「テン」田制ヲモ見ヨ  
 の稱は工商に限らず(婚遊一)

職  
 工匠の事(一話一四四)  
 鳥丸亞相(歌合(一話一四四))  
 「ゴッ」工匠ヲモ見ヨ

職務  
 一を重せし武士の語(愈す二二六)

織錦齋  
 「ムラ」村田春海ヲ見ヨ

織女  
 「タナ」七夕ヲ見ヨ

織文  
 「シヤ」裝束ヲ見ヨ

蜀江錦  
 「ニシ」錦ヲ見ヨ

蜀山人  
 「オホ」太田南畝ヲ見ヨ又二代目  
 右衛門ヲ見ヨ

贖罪  
 日本紀の記事(鹽尻七三三)  
 御贖物(安隨八〇二二)(安夜三二二六)

燭臺  
 松筆九六ノ八九  
 龜龜臺(松筆九六ノ八九)

續日本紀  
 (二七)のよみ方(安隨七ノ一七)

植物  
 各種(鹽尻四〇二九)  
 落花と落葉との理(花月七六)  
 異木生す(一話四〇三五)  
 「ウエ」植木サツ草本「シユ」樹木ヲモ見ヨ

汝主  
 書簡諸國紀行の事(半日九ノ二三)

助語  
 「字」代二字(安隨三三ノ八)  
 「ケル」シムムル「ヤル」ナフ(安隨六ノ八)

諸葛亮  
 評(鹽尻二二二八)(隨意六〇三七)

諸葛瞻  
 前比補正行(隨意一〇三九)

諸葛亮  
 武侯論(鹽尻二二二八)

孔明の軍裝(四方露一〇七)

諸子  
 子類の事(安隨一〇三二)

諸州採藥記  
 抄録(安隨七)

諸大夫  
 筆(一五五)

往時  
 の住家(鹽尻二二〇五)

白小袖  
 家(鹽尻二〇一三)

諸分店御  
 一名浪花鉦の作者(假世五三)

如才ない  
 といふ詞(松筆九一ノ二六)

如木  
 胡琴教録にある(南留五〇七)

如木雜色  
 (一話八〇二七)(白紳五〇二四)  
 如木水干(續遊附一五)

所司代  
 (安隨一〇五三)(二〇一〇)  
 の席(提離四二二)  
 の名(鹽尻二〇一九)(同三四)

所帶  
 「カセ」家政ヲ見ヨ

所由  
 (乘燭五〇一七)

處世法  
 「ヨソ」世渡リヲ見ヨ

初度  
 の後(理齋五〇一六)

初老  
 の後(隨意五〇二九)

叙任  
 「クワ」官位ヲ見ヨ

叙文  
 の作者其名を稱す(設小一〇二二)

序破急  
 (南留二〇一六)

徐渭(文長)  
 の評(餘餘三〇八)

徐光薄  
 睡相の目あり(松筆一〇九ノ二四)

徐昭文  
 (餘餘一〇二九)

徐福  
 渡來考(發埃三〇三二)

唱文師  
 熊野神齋祭(隨意二〇一〇)  
 (安隨二〇一九)(南留二〇三〇)

シラ  
 「カシ」櫃ヲ見ヨ

しら構  
 「ス」桶盆ヲ見ヨ

しらぢ

しらま弓  
 「コト」琴唄ヲ見ヨ

白石一如  
 (設小四〇三八)

白糸餅  
 (發埃九一五)

白魚  
 (昆陽七六)  
 を幾チヨモいふ事(柳上ノ二九)

白繪  
 「エ」繪畫ヲ見ヨ

白髮  
 の故事(南留四四)

白髮部  
 考(如爾八〇二二)

白髮山  
 肥後八代郡(比古五〇四六)

白重  
 の裝束(松筆一〇四ノ三四)

白川  
 といふ地名(屠龍三三三)  
 肥後の(檀園下三六)

白川天皇  
 男色を愛し玉ひし事(鹽尻四二一)

白河  
 奥州 甲子山の絶景「キノ」甲子山ヲ見ヨ  
 景況(關秋六)  
 景況(關秋六)  
 景況(關秋六)  
 景況(關秋六)

白河關  
 白河の二所の關并權原景季の歌(松筆一五二)

白川雅裔  
 歌の傳受を辭す(大海一四)

白菊  
 自休の歌詩(老長三三)

白くぼ  
 (今白雲といふ頭語(松筆九三ノ三七))

白子  
 (鹽尻三二〇二七)(白筆上ノ五二、五四)

白子屋お熊  
 (江著二七)

白洲  
 といふ言葉(婚遊一ノ上ノ三二)

白炭忠知  
 「カン」神野忠知ヲ見ヨ

白太夫  
 管公に奉仕の(松話四八)

白杖  
 といふもの(松筆六二ノ二)

白土山  
 (松筆七九ノ九)

白鳥大明神  
 上野東野村(鹽尻四二〇三九)

白波  
 付録林(難江二〇五三)(松筆四〇三六八ノ五)

白根山  
 越の山川の事(鹽尻一〇一七)

白縫  
 の語源(鹽尻三〇一)

白齒者  
 (松筆八四ノ七七)

白濱  
 豊後國 黒濱(半日五ノ五)

白拍子  
 男舞付舞女桐大藏(婚遊五ノ一〇)

男舞  
 藝子(五〇三三)

の根元(安隨一五〇二六)

の奇談(理齋四ノ一〇五)

妙音院相國  
 を評す(鹽尻一四ノ一〇)

**二郎** (松筆七八ノ二)  
**見郎偉** 厩上ノ二三  
 知らざる事 必す笑ふまじき事(内安) 不知爲不知(隨意二ノ四六) 信西敦親を評す(鹽尻一四ノ九) 不知火 (比古五ノ四二、四七)(二誓二ノ陰火潜燃の事(齋野三三))  
**武** 以占方向(隨意三ノ四一) 向北方(安隨七ノ三五)(安夜二ノ三三) 松筆五ノ二、〇九ノ二八) 送小倫(海西一ノ二二)  
**支蘭** 藏の義(技藝一ノ三)  
**●シリ**  
 シリへ うしろ又 (圓珠二六)  
**後言** といふ言葉(北邊一ノ三三) 後言(書名) の作者(鳥おとし首) 難後言二卷(同卷八の内鳥おとし及金剛談各一巻)  
**尻打祭** 越中船政神社の (鹽尻三ノ六)  
**尻馬に乗る** といふ事(松筆一〇六ノ一八)  
**尻を捲て逃た** なまぬい俗語 (牛馬三ノ八)  
**尻尾を見せぬ** といふ事(瓦礫二ノ二) 尻からげ 東からげ、ちんちばしより(嬉遊二ノ上ノ三三)  
**尻切** 勢田からげ(嬉遊二ノ上ノ一三) 「サウ」草履ヲ見ヨ  
**尻くらへ観音** (玉ノ八ノ三七)(川捨ノ六〇)(柳筆上ノ一六〇)  
**尻付け** (松筆六六ノ二五) 尻餅をつく といふ事(嬉遊六ノ下ノ二九) 鞆 (安隨一ノ二九)  
**事力** (松筆九二ノ二九、九二ノ六九、一ノ九) 思慮 分別なきものに怖ふさの説(梅叢七ノ一) 早分別に後悔多しといふ説(梅叢二七)  
**四隣** の説(松筆九三ノ六三)  
**●シル**  
 しるしの反古 抄録(二語六ノ三九) しるよし さいふ古語の義(安隨一七ノ三八) しるよしして の義(比古六ノ七三)(玉汁・ふし汁(安隨二ノ上ノ二二) 汁かけ飯 (嬉遊一〇ノ上ノ二二) 汁講 (嬉遊五ノ四)(玉ノ一〇六ノ二〇)(松「イン」一種物ヲ見ヨ) 汁粉 善哉(嬉遊一〇ノ上ノ三三)(おろ上ノ二)(松筆九五ノ一)  
**●シレ**  
 しれもの さいふ俗語の字(安隨八ノ二) 白物といふ事(鏝屑三七)  
**●シロ**  
 シロテーイ 種子島に於て外國人 死去の事(白筆上ノ五七)  
**城** シロと訓める事(鹽尻三八ノ一八) (同四八ノ二七)(松筆一四ノ二四) 字訓及義の沿革(如關一六ノ九) 新羅人 倭軍といふ事(鹽尻七ノ三二) 造 (安隨九ノ一一) 築(昆陽一六九) 築の必要(摺拾四一) 築の始(松筆八〇ノ九)(二ノ六三) 始めて 築を造る(二二ノ二五) 上古の 築(如關一〇ノ二二) 子の本丸 (白秘八ノ一八) の本丸 (松筆八八ノ一八) 松永久秀天守多門を荆む(理齋六ノ七) 阿蘭陀城(昆陽六一) 諸の無き國々(半日六ノ二) 江戸四丸普請の節佐久間將監の答(白秘六六) 尾州村村宿村古の事(鹽尻二〇ノ四) 眞臘の門に金獅子を設く(鹽尻七ノ二六) 廣き一は籠城に不便なり(松筆一一ノ二二)

山上の 水を貯ふるを第一とす(鹽尻四三ノ三) 伊達氏編を一時(前留四ノ一七) 「アツ」安土「エト」江戸「オホ」大阪「スン」駿府「ヒメ」姫路「ヒツ」備前「クニ」伏見「マヘ」前田「テン」天神守ヲ見ヨ  
**城攻** 城を圍む時受待を定むる事(白秘四ノ五) の時仕寄場見分の心得(白秘四五) 支那にて 竹束を用ふる事(撈海下ノ七) 苗、田 (松筆九二ノ四二) 代官 「タイ」代官ヲ見ヨ  
**代物** (松筆三八ノ二)  
**白薄様の色々の公事** を書たる といふ詞(松筆九ノ一四)  
**白うるり** の義(比古四ノ二二)  
**白銀御殿** (瀬田二二)(松筆七ノ三三)  
**白銀師** 後藤氏(松筆一〇五ノ四)  
**白木屋** の起り(我衣五七)  
**白く** さいふ詞(松筆一〇四ノ七)  
**白薬** 一向宗の (松筆三九ノ一三) 黒酒(傍廂一四)(蠟昆一〇二) 「サケ」酒ヲ見ヨ  
**白猿物語** の文き其時代(長頭一一) の義(隨意二ノ二五)  
**白妙** 寛宴歌に則の假字を用ふる(松筆一五ノ六)  
**白槌** 一人(松筆一一七ノ四)  
**白鼠** 善き手代な (さいふ(柳記下ノ三六))  
**白無垢** を着する事(孝經三ノ二二)(松筆八九ノ五)  
**白人** 白女 (黒人(瓦礫二ノ二九、三六))  
**白人狂言** (嬉遊五ノ三六)  
**白綿ひける野邊** といふ事(松筆八ノ五)  
**戸祿** (松筆九〇ノ二三)  
**●シワ**  
 しわへり (松筆九六ノ一三) しわん坊 (足新一ノ五七)(松筆一〇九ノ二九) 之福(松筆八〇ノ三八) 四王王四州 (松筆四ノ三四)  
**●シン**  
 しんき といふ俗語(鹽尻三〇ノ三、四七) 「タン」團子ヲ見ヨ  
 しんこ 「タン」掛釜ヲ見ヨ  
 しんざし 「カケ」掛釜ヲ見ヨ  
 しんじやう なる人等いふ事(松筆八五ノ六三) 景満草子にある (松筆九三ノ二三)  
**しん張棒** (松筆九三ノ二三)  
**しんまく** 物の始末する事(す) (世事八八) 臣 弄臣(松筆五二ノ一一) 「クニ」弄臣ヲ見ヨ 臣下堂 (松筆三ノ六) 信 神佛を信する事(花月二五) 信仰 信心の眞 (雲津四ノ二五) 信心の徳 (花月九五)(隨意一ノ三六)(松反上ノ一四) 神に祈るもの(心中(心奴一六) 専心の (四方花ノ五) 「キタ」祈禱(リ)他方信心ヲ見ヨ) 信義 蒲生氏郷自ら欺かす(提醒二ノ九) 提榮長卿の (附自四ノ三) 厚き武士の語(附次四ノ一六)(窓道四) 兩僧の (四方月ノ一六) 「セイ」誠實ヲ見ヨ 信義堂 話三則(鏝屑三ノ二) 信州四頭 (白紳四ノ二) 信心 といふ詞(松筆一一五ノ三三) 「シン」信仰ヲ見ヨ 信物 一の事に付白石の意見書(白雜考一七) 「オク」附物ヲ見ヨ 信用 某侯を重んぜし事(八水一〇) 沁 支元白詩の一字をヒタスキ調む(白筆下ノ五七七)



晋 —の字義(隨意六ノ二八)  
 晋語 —卷四の誤(談小二ノ一九)  
 晋書 和刻 —の奥書(一話一ノ三三)  
 秦 周 —滅亡の速速(技藝一ノ一)  
 秦歸 (蘇樓下ノ四)  
 秦始皇 —は明君なり(秋齋二ノ九)  
 秦韓 「テリ」朝鮮ヲ見ヨ  
 宸 一の稱(安隨三ノ一一)  
 宸翰 —の額と勅額との相違(秋齋二ノ二四)  
 宸殿 と殿殿と同訓別義(若梧五ノ二二)  
 軫 —の字(撈海下ノ二〇)  
 眞 —の字(隨意二ノ一七)  
 眞阿彌陀佛 後龜山帝皇子 —遷化年月(隨三三ノ一八)  
 眞雅僧正 —の思ひ出るの歌に付て(閑次三ノ二二)  
 眞隱 辨 泉州貝塚 —の獻上物(二話一ノ三三)  
 眞教院 —の常見外道(隨四〇ノ五)  
 眞言 —の秘書(一話五ノ三)  
 眞言宗 —五部の秘經(隨九ノ二二)  
 密家眞言盛光佛頂の法(隨九ノ二四)  
 密家大元帥の法(隨九ノ二四)  
 密家に崇る十二天(隨四四ノ一〇)

密行の僧殿階を経て事(隨四四ノ九)  
 眞言立川流の事(隨二二ノ二一)(一話四三ノ二五)  
 立川流と文觀派(隨二二ノ一六)  
 「ミツ」密教ヲモ見ヨ  
 眞濟僧正 —の染殿後に懸幕せる事(閑次三ノ一)  
 眞宗 —は名教に害なき(病間三ノ二)  
 一 向宗といふ名義(松筆一ノ五ノ二)  
 一の極意(病間三ノ三)  
 三ヶ條條目(松筆一ノ五ノ二)  
 六ヶ條條目(松筆一ノ五ノ二)  
 一 向宗徒無道(談小三ノ二五)  
 門徒は曲者(隨四三ノ二四)  
 一 向宗一撰家康苦戰の事(白柳三ノ二五)  
 「ホン」本願寺モ門徒ヲモ見ヨ  
 眞珠 あはび玉をあこや玉といふ(圓珠六ノ一)  
 眞盛豆 —の由来(茶度三ノ二四)  
 眞俗雜記 —卷十六奥書(松筆二ノ一)  
 眞如 (松筆八ノ二二)  
 眞如寺 山城國 —の山緒(筑埃八ノ五)  
 眞如波 隨緣 —(松筆七ノ二四)  
 眞武 —の事(隨九七ノ二一)  
 眞武湯 (松筆八ノ二八)  
 眞娘 —の恭(隨意八ノ二二)  
 眞理 (北邊二ノ三二)  
 進 貢をいふ(松落四ノ四二)  
 進士 (南留二ノ二四)

進止 (采燭五ノ一)  
 取 (隨意四ノ四五)  
 人な—といふ(玉か六ノ二二)  
 仁 —の說(梧拾七ノ一)(餘四ノ三三)  
 (談小一ノ四ノ一)(四ノ一八)(一九)  
 仁 —は專言ありといふ事(梧拾七ノ三)  
 仁 —なり(梧拾七ノ四)  
 仁 —は諸徳の根源(梧拾七ノ四)  
 安 利の別(梧拾七ノ四)  
 仁 —の本心(梧拾七ノ九)  
 仁 —の字(理齋五ノ一〇)  
 仁 —の本義(梧拾七ノ一〇)  
 仁 —の愛敬との差別(隨意六ノ二七)  
 仁 —天下を治るに以てす(梧拾七ノ一〇)  
 仁 —不仁の榮枯、善仁の徳病を愈す(雲錦四ノ一〇)  
 仁 —詩(餘四ノ一三)  
 仁愛 「ヨシ」五常ヲモ見ヨ  
 仁愛 曹武惠王彬の—(隨三ノ一七)  
 「シ」徳川光友ヲモ見ヨ  
 仁義 戰國に—少し(隨四一ノ一三)  
 仁山智水 (松筆九ノ二九)  
 仁壽殿二間觀音 (松筆一ノ四)  
 仁智 (梅日四ノ二〇)

藤 —といふ字(離未四ノ四四)  
 清 「シナ」支那ヲ見ヨ  
 清高宗 乾隆帝の賀(平日四ノ二〇)  
 清聖祖 康熙帝詩(一話二ノ三五)  
 清太宗 —の在位(隨四一ノ三二)  
 清三大家 (海西二ノ三〇)  
 甚 —の字義(如蘭三ノ三二)  
 新安手簡 —の序跋(若梧三ノ二二)  
 新韻集 —の評(擁書三ノ二二)  
 新葉集 —按琴井評(四方書ノ四)  
 新高野 (嬉遊七ノ一六)  
 新熊野社 (閑耕一ノ四七)  
 新國史 一名續三代實錄(春淡中ノ一一)  
 新五左 遊廊通言の内 —(嬉遊九ノ九)  
 新在家文字 「モン」文字ヲ見ヨ  
 新造 御 (慶應二五)(橋初ノ五ノ一)  
 「フチ」婦女の稱ヲモ見ヨ  
 新集藏經音義隨函錄 是世に稀なる事(擁書三ノ三)  
 新司宣 (隨筆九三ノ四五)  
 新庄氏 —駿河守の姓(白柳一〇ノ一八)  
 新嘗祭 伊勢兩宮并住吉神社の—(雲錦一ノ二三)

新説 新なる説をいたす事(玉か一ノ三六)  
 新にいひ出たる説はさか人にのうけひつゝの事(玉か二ノ二二)  
 新撰龜相記 といふ書(如蘭八ノ三)  
 新撰御ひいな形 「ヒイ」ひいな形ヲ見ヨ  
 新撰集 (離江三ノ八)  
 新撰字鏡 (桂林上ノ一五)(玉か一ノ四ノ一三)  
 新撰和漢合圖下 といふ書(松筆七ノ二二)  
 新千載集 —の作者(隨五二ノ一八)  
 新續古今集 —の序に付て(年打上ノ二〇)  
 新勅撰集 (玉か九ノ二二)  
 新勅撰百首 (孝經四ノ一七)  
 新津久波 宗紙の—の撰に付落書(假世三ノ三)  
 新田 「タ」田ヲモ見ヨ  
 新内節 (嬉遊六ノ上ノ三七)  
 新年 大阪 —の食用品(浪花七ノ一)  
 「クワ」元旦「子」年賀ヲモ見ヨ  
 新場九郎兵衛 (武俗三ノ九)  
 新番組頭 —の御褒美(一話二四ノ一四)  
 新番衆 (松筆一〇八ノ五七)  
 新日吉社 (閑耕一ノ四八)  
 新編江戸志 (離江三ノ八)  
 新編集 「エト」江戸志ヲ見ヨ

新發意 沙彌 —(南留三ノ七)  
 新見正路 幕府の奥向を改革す(内安七)  
 神詠 (秋齋二ノ三三)  
 神役 (松筆九ノ三三)  
 神應經 (松筆四ノ一)  
 神降于莘 —の註(一話一ノ二八)  
 神氣 (春波六ノ四)  
 邪氣 (波擲二ノ三八)  
 神祇 神の氣緒(北邊三ノ二六)  
 神の氣緒(春波五ノ九)  
 神をカミといふ(圓珠六ノ四)  
 神の御名(隨三三ノ一七)  
 外國の神(隨四二ノ一六)  
 神は我なり(花月四ノ二)  
 神の御名(後唐三ノ九)  
 神の御名(老牛上ノ二二)(一四)  
 神の御名(松筆三ノ六二)  
 神名を種々に書く事(隨七ノ一九)  
 神の中の萬の事は皆神の御しぼなる事(玉か一ノ四ノ一四)  
 漢國に股人鬼神をたふとむさいへる事(玉か一ノ三三)  
 おのゝ仕奉る神を尊き神になさまほしくする事(玉か七ノ四)  
 八百萬神といふを書紀に八十万神と記されたる事(玉か九ノ三七)  
 神をなほざりに思ひ奉る世のならひをかなしむ事(玉か九ノ四〇)  
 神になれたしむを論ず(南留四ノ二〇)

大神宮に神幣を奉らす東照宮を私宅に祭入は死にたらん後の爲にも神を祭りのるべき事(松落三ノ四五)

神宮寺 伊勢大神宮寺(玉カ一四ノ二二) 尾張の重修(鹽尻三九ノ二三)

神鏡 准佛像(安夜三ノ三二) 四所(鹽尻三ノ一四) 「サン」三種神器ヲモ見ヨ

神社

大神宮(松筆七ノ一七) 八六ノ三五) (圓珠六ノ四)(松筆ヤシロに社字を用ふ(南留三ノ二五)

神祇官

正一位の神(春湊下ノ八) 天下の諸神おしな(正六位上に叙せらるる事(玉カ一三ノ四〇)

神社帳

神鏡 准佛像(安夜三ノ三二) 四所(鹽尻三ノ一四) 「サン」三種神器ヲモ見ヨ

神代

神代 人の義 (南留三ノ二五)  
 神代卷 兼其の 神代卷 (鹽尻二ノ八)  
 神道 神道獨語一卷 (溫知叢書第六編内)  
 神道集 神道者の異名 (南留四ノ一六)  
 神道護摩 下部家の 供 (鹽尻一ノ九)  
 神道獨語 神道者の異名 (南留四ノ一六)  
 神託 崇神紀なる小兒の 詞 (玉三ノ四)  
 神道河 小兒の才 (松筆一ノ五ノ四二)  
 神童 小兒の才 (松筆一ノ五ノ四二)  
 幼穉の成長の後の事 (白神三ノ一)  
 長多凡庸 (隨意四ノ一七) (閑耕二ノ六)  
 多天死 (隨意四ノ一九) (隨意五ノ三)

神乳石 出雲可々の浦 (鹽尻四七ノ三)  
 神農會 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神拜 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇和記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神佛 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神別記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神木 神農祭 (牙室下ノ二五)

神農會 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神拜 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇和記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神佛 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神別記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神木 神農祭 (牙室下ノ二五)

神農會 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神拜 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇和記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神佛 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神別記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神木 神農祭 (牙室下ノ二五)

神農會 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神拜 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇和記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神佛 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神別記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神木 神農祭 (牙室下ノ二五)

神農會 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神拜 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇和記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神佛 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神別記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神木 神農祭 (牙室下ノ二五)

神農會 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神拜 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神祇和記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神佛 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神別記 神農祭 (牙室下ノ二五)  
 神木 神農祭 (牙室下ノ二五)

神武天皇

神武天皇 天の原神といふ (玉三ノ四ノ一)  
 神代卷 兼其の 神代卷 (鹽尻二ノ八)  
 神道 神道獨語一卷 (溫知叢書第六編内)  
 神道集 神道者の異名 (南留四ノ一六)  
 神道護摩 下部家の 供 (鹽尻一ノ九)  
 神道獨語 神道者の異名 (南留四ノ一六)  
 神託 崇神紀なる小兒の 詞 (玉三ノ四)  
 神道河 小兒の才 (松筆一ノ五ノ四二)  
 神童 小兒の才 (松筆一ノ五ノ四二)  
 幼穉の成長の後の事 (白神三ノ一)  
 長多凡庸 (隨意四ノ一七) (閑耕二ノ六)  
 多天死 (隨意四ノ一九) (隨意五ノ三)

心學

心學 (遊遊九ノ五三)  
 心氣 心氣の源 (隨意四ノ一七)  
 心觀院 殿後去御出棺行列 (半日)  
 心敬僧都 殿後去御出棺行列 (半日)  
 心頭に掛る 殿後去御出棺行列 (半日)  
 津介 殿後去御出棺行列 (半日)  
 屋氣樓 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人口 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人國志 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人牙 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人事 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人心 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人身賣買 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人道 殿後去御出棺行列 (半日)  
 人頭税 殿後去御出棺行列 (半日)

人肉

人肉 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人排 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人物史 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人物評 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考三 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考四 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考五 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考六 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考七 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考八 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考九 人肉の源 (隨意四ノ一七)  
 人名考十 人肉の源 (隨意四ノ一七)

名乗の反シ (安隨一九ノ一六) (南留三ノ一六)  
 名乗の字 (續長七ノ一八) (同二二)  
 名乗の字の例 (續長九ノ一九) (同二二)  
 名乗の字の訓 (南留二ノ三二)  
 名乗の字の和 (南留二ノ三二)  
 名乗の字の訓 (南留二ノ三二)  
 名乗の字の和 (南留二ノ三二)  
 名乗の字の訓 (南留二ノ三二)  
 名乗の字の和 (南留二ノ三二)  
 名乗の字の訓 (南留二ノ三二)

古今の世の名 (玉川ノ一四ノ九)  
 平人の名 (玉川ノ一四ノ九)  
 名乗の字 (玉川ノ一四ノ九)  
 名乗の字 (玉川ノ一四ノ九)  
 名乗の字 (玉川ノ一四ノ九)  
 名乗の字 (玉川ノ一四ノ九)  
 名乗の字 (玉川ノ一四ノ九)  
 名乗の字 (玉川ノ一四ノ九)  
 名乗の字 (玉川ノ一四ノ九)

長き (松筆九ノ五ノ七)  
 奇妙なる名 (松筆九ノ五ノ七)  
 寶曆時代の名 (松筆九ノ五ノ七)  
 同名的の始 (松筆九ノ五ノ七)  
 同名的の人々 (松筆九ノ五ノ七)  
 名乗の字 (松筆九ノ五ノ七)  
 名乗の字 (松筆九ノ五ノ七)  
 名乗の字 (松筆九ノ五ノ七)  
 名乗の字 (松筆九ノ五ノ七)

人面獸心 (松筆七ノ三九)  
 人力車 (松筆七ノ三九)  
 人倫 (松筆七ノ三九)  
 伸針 (松筆九ノ一八)

親子 (我子を人に對していふ詞 (四方月ノ一))  
 親族 (九族 (安隨一九ノ二九))  
 親族正名 (太宰氏の (江二ノ八四))  
 親族拜 (松筆九ノ四ノ二九)

親王 (叙任 (安後二ノ二七))  
 親和染 (松筆二ノ七)  
 尋常 (といふ語 (松筆八ノ六ノ一))  
 身替 (松筆一ノ四ノ二五)  
 情死 (心中の説 (松筆二ノ三ノ三〇))

申竹葉 朝鮮使——(護小三ノ九)  
 寢殿 井中門(春淡上ノ二〇)  
 寢廟 考(難未一ノ三)  
 振動 御事(難燭五ノ一〇)  
 後取 御薬の——(安隨六ノ二七)  
 針小棒大 といふ語(護小二ノ二二)  
 針妙 (柳記下ノ五八)  
 盡未來際 といふ語(松筆八四ノ二二)  
 森羅亭萬象 (後言三〇)

ス

ス 鳥の雌雄をオス、メスといふスの字(燕石一ノ一八)  
 ス 片假字の「水」字(南留二ノ六六)  
 須 一の字訓(理齋五ノ一六)  
 洲 一の字(辨居二五)  
 酢 一の性(雲錦四ノ一〇)  
 風儀に生(川)ふる事(筆中ノ七)  
 一の看板三種(足新三ノ一六)(遺魂下ノ六)  
 ●スア  
 すあひ (辯遊一一ノ二)(松筆九八ノ一)  
 一をさるさいふ詞(松筆八一ノ九)

素襖 (春淡上ノ一九)(辯遊二ノ上ノ三)  
 九、素袍(安隨三ノ四)(松筆九八ノ九)  
 素袍(安隨九ノ三)  
 小(安隨九ノ八、二〇ノ五)  
 ののやうもん(安隨一五ノ二二、九ノ三)  
 「カ」符衣ヲモ見ヨ  
 素襖引 といふ故實(松筆一一ノ三〇)  
 素足 といふハダシとの別(柳記下ノ九)

水宴曲 (安隨四ノ二三)  
 水害 山國の人に出遇し話(花月一七)  
 享保二年大水(隨意二ノ二二)  
 文化乙亥年の(隨意六ノ二二)  
 天明六年武蔵大水の景況(見小下ノ四)  
 享保十三年及寛保二年關東の大水(窓九ノ九)  
 武蔵上野二國の(折々秋ノ一八)  
 寛永十年尼崎を祈る(隨九二五ノ四)  
 「コ」洪水「エ」江戸「キヤ」京都「カ」上総「サ」佐倉「ム」陸奥ヲモ見ヨ

ス

ずのき 芋葉ハ——といふ(松筆九ノ二)  
 すいは 一のさふら(南留二ノ二二)  
 粹 一のいふ詞(辯遊九ノ二五)(幽遠上ノ五)(世事八九)  
 帥 一の字音訓(安隨七ノ九)  
 藥 陽一除(海四三ノ一)  
 隋 一の世の版圖(一話九ノ二三)  
 隋煬帝 一の説(方(隨九七ノ三四)  
 一)(隨意二ノ三二)  
 好書(隨意五ノ四五)  
 受戒(隨九一九ノ九)  
 水泳 付水馬(辯遊七ノ一〇)  
 水練の事(松筆九八ノ一〇)  
 浮香「ウ」浮香ヲ見ヨ  
 「ス」水馬ヲモ見ヨ

水干 (白紳四ノ二〇)(安隨二ノ三、五ノ三)  
 問答(安隨一五ノ三三)  
 如木(安隨一ノ四八)  
 眞打の(を)縫製する事(安隨四ノ三三)  
 眞直垂ハ——なる考「ヨ」眞直垂ヲ見ヨ  
 「シヤ」裝束ヲモ見ヨ  
 水戯 一の具(松筆七ノ三三)  
 水牛 (松筆七九ノ一九)  
 水脚賃 一の乘(四方、雪ノ二〇)  
 水銀 一の水に擬す(松筆七八ノ六六、八ノ三九)  
 一の説(葉段二ノ二三)  
 水滸傳 語金聖歎、——作者考、  
 類考(支同三ノ下ノ二、ヨリ一九)  
 水産 浪花(輸入の)物(雲錦二ノ二四)

水次 ——と確戸(一話四五ノ二)

水晶 玉考の中(白雜考卷四ノ内)(白遺考の出處(居龍五))

水上書畫 一を、白字、水を吹て字を流し(安隨五ノ九、八ノ一五)(安夜四ノ一八)

水腫 一を治する法(理齋三ノ七)の妙藥(松筆六五ノ四)

水心記 一を、清慎公記ヲ見ヨ

水心亭 三島驛——記(遊京上ノ二)

水仙花 一の香(松筆八〇ノ一八)

水仙山 (傍廂一〇)

水道 一に毒ありとの流音(蜘蛛二七)江月——玉川神田上水の開鑿(辯遊一〇ノ下ノ二二)

水道橋 一を、玉川上水の始(瀨田一三三)の古名(一話一五ノ五)

水鳥記 (擁書三ノ三一)

水天宮 一を、天后を祀る(松筆六〇ノ二九)祀天后詩(松筆六ノ三三)

水東竹枝 一を、詞三十首(一話一八ノ一)

水馬 一を、朝士——の心得(四方花ノ四)(辯遊七ノ一〇)

水盤 「スイ」水泳「ハシ」馬術ヲモ見ヨ 東奥といふ銘ある(三養三ノ一)

水餅 といふもの(一話三三ノ一〇)

水門 (松筆九〇ノ二二)

水園 一に二人あり(一話一九ノ二二)

隨身 一の裝束(安隨一七ノ二二)童(安隨一九ノ五)

隨身 一の(安隨三ノ二二)本府の(松筆八七ノ八)

隨神 一の「カ」辛給(ヲモ見ヨ)荒波婆伎(碩鼠三ノ一〇)

隨筆 一の説(年々ノ二二ヨリ二五)

瑞雲山 一の釋迦堂(隨九五ノ一四)

瑞光寺 一の京の(一話四ノ一八)

瑞祥 「シヤ」祥瑞ヲ見ヨ

出擧 (安隨九ノ二二)(二上三七)(松筆一一ノ一〇)

出帥表 一を、突將無前(乘燭五ノ七)(安隨一〇ノ一九、一六ノ三四)(二上七六)

推擧 一を、松平伊豆守人を——せし時の言葉(八水一)

推移大藏 一を、漢其賀禮する者なし(隨九四三ノ二七)入才(隨意二ノ三六)

推量 一を、晏子春秋中——の義(蓋樓上と擧意(擲海下ノ二五))

西瓜 (傍廂一四九)(辯遊一〇ノ上ノ二二)(世談五〇)

垂髮 一を、香月牛山——の事(南敵下ノ五)古は——を食する者少かりし事(北茶中蕃椒)の毒を治す(一話一ノ一九)

垂仁天皇 一の御陵(傍廂一一〇)

垂跡 (松筆六八ノ二二)

垂仁天皇 遊部は——の裔なる事(比狭穂姫——を弑せんとせし事の論(如關二二ノ一〇))

垂髮 一の皇后的禰(一話四ノ三六)

睡相 一の「チ」男色「カ」ミ「セ」セノ風ヲモ見ヨ(松筆六九ノ一、七〇ノ三)

睡眠 安心すれば熟眠を得(隨意八ノ七)

吹毛劍 一の解(松筆七八ノ九四)

酢煎 「イ」醋ヲ見ヨ

●スウ  
 數學 算學の系統(松筆七六ノ二二)

數奇 といふ文字(難江五ノ六)

數字 一の「チヤ」茶の湯「スキ」數寄ヲモ見ヨ(一ツ二ツ等の意味(南留二ノ一四))

支那に用ふる(傍廂一三九)(技後三ノ三)

南蠻の(隨九二一ノ二二)

崇神紀 なる小兒の神託の詞(比古二一)  
スウチキヤ  
 芻蕘 のこみ方(撈海下ノ二五)

●スエ

陶 「タウ」陶器ヲ見ヨ  
 陶氏 の姓(白神一〇ノ一六)  
 陶原の記 (白神一〇ノ二四)  
 未大なれば折る といふ事(春波六八)  
 未次平藏 の屋敷(一話一三〇一九)  
 未摘花 「ハニ」紅花ヲ見ヨ  
 末森 尾州—古城の跡(鹽尻四四ノ三)  
 末の珠名 さいふ女(如蘭三三ノ一七)  
 末の六十日 といふ事(梅菴初ノ二ノ二)

●スカ

すかしき 「コト」琴ヲ見ヨ  
 すかしほらかす さいふ詞(松筆一四  
 すがり 「ハチ」蝋ヲ見ヨ  
 すがる といふ詞(松筆八ノ二〇)  
 すがる 鹿と誤れる説(圓珠一)  
 すがる 鹿か—又サセキといふ由

(比古六ノ一)  
 「シカ」鹿ヲ見ヨ  
 菅菰物忌 (松筆八二ノ二)  
 菅沼氏 の祖先(白神五ノ一九)  
 菅沼喜左衛門 等武術練達之事(寧す一  
 菅沼元景 (白神一〇ノ一九)  
 菅原文時 の官位(談小五ノ四)  
 菅原道真 菅公(支向二ノ四三)(秋齋二  
 —左遷の原因(如蘭三〇ノ二二)  
 の宛(閑耕二ノ二)  
 菅原の辨(源氏物語第二編ノ内)  
 菅原の辨(南留三ノ九)(秋齋二ノ二)  
 江州菅山寺神の異説(雲錦二ノ一)  
 渡唐の天神(安隨一九ノ一六)(提醒一)  
 菅原相(安隨二ノ一六)(安夜二ノ  
 菅三(安隨二ノ一七)  
 菅家の龍帯となりし説(鹽尻一〇ノ五)  
 菅公天香山に祈る事(笑塊七ノ四)  
 口詩を驛長に贈ふ(鹽尻八ノ二三)  
 筑紫の詠詩及其前跡(提醒一ノ二四)  
 配處の詩(理齊六ノ一六)(銅屑三九)  
 聖廟神詩(桂林上ノ二二)(銅屑三九)  
 發(餘餘三ノ三九)  
 「テン」天満宮ヲ見ヨ

●スキ

すきに赤烏帽子 といふ説(五磘二ノ  
 一)

すきもの 好色人(傍廬一〇四)  
 すき焼 (嬉遊一〇ノ上ノ九)  
 數寄 下ノ一五) 者—屋(嬉遊一〇ノ  
 —をサケナシといむ(松筆九六ノ二八)  
 道(松筆七一ノ四二)  
 「テヤ」茶の湯「スウ」數寄ヲ見ヨ  
 數寄屋 「チヤ」茶の湯ヲ見ヨ  
 悠紀 (同七ノ二九)  
 主基 (同八ノ三)  
 「タイ」大嘗會ヲ見ヨ

杉 さいふ名(圓珠七)  
 さいふ名(圓珠七)  
 文(銀屑三四)  
 一の挿木の母(松筆五ノ三〇)  
 一の湯脚氣によし(梅目二ノ八)

●スニ

杉田 三) 月の名所并梅の事(権書三ノ  
 杉田壹岐 (鹽尻二ノ一)  
 杉田鸛齋 (支白)の略傳(野叟獨語解題  
 ノ内)  
 杉谷柯求翁 の歌(年打上ノ三三)  
 杉女 阿杉阿玉(嬉遊七ノ二)  
 杉形 (松筆九二ノ一五)  
 杉野源介 (如蘭三四ノ六)  
 杉原氏 の系圖(鹽尻四一ノ九)  
 杉原紙 (玉ハ八ノ二七)  
 「カミ」紙ヲ見ヨ

のみにてよめる歌(牛馬九〇)  
 なる小兒の神託の詞(比古二一)  
スウチキヤ  
 芻蕘 のこみ方(撈海下ノ二五)

●スエ

陶 「タウ」陶器ヲ見ヨ  
 陶氏 の姓(白神一〇ノ一六)  
 陶原の記 (白神一〇ノ二四)  
 未大なれば折る といふ事(春波六八)  
 未次平藏 の屋敷(一話一三〇一九)  
 未摘花 「ハニ」紅花ヲ見ヨ  
 末森 尾州—古城の跡(鹽尻四四ノ三)  
 末の珠名 さいふ女(如蘭三三ノ一七)  
 末の六十日 といふ事(梅菴初ノ二ノ二)

●スカ

すかしき 「コト」琴ヲ見ヨ  
 すかしほらかす さいふ詞(松筆一四  
 すがり 「ハチ」蝋ヲ見ヨ  
 すがる といふ詞(松筆八ノ二〇)  
 すがる 鹿と誤れる説(圓珠一)  
 すがる 鹿か—又サセキといふ由

好きこそ物の上手

さいふ事(松筆九  
五ノ二一)

●スフ

すくひ上る 物を—さいふ詞  
(松筆一〇六ノ三四)  
 すくむ さいふ詞(松筆九七ノ三五)  
 すくろ 萬葉の中—略説(難江一ノ七  
四)  
 すくろの薄 さいふ詞(松筆八ノ二〇)

●スチ

酸莖 賀茂の—(雲錦四ノ二八)  
 宿世燒 (骨董下後ノ一八)  
 宿禰 の事(南留三ノ三)  
の名(支向三ノ上ノ四)  
 少名毘古那神 の御名の義(比古三ノ  
九)  
 醫師—を祭る事(鹽尻七ノ三四)

●スセ

村主 (支向三ノ上ノ八)  
 勝呂住吉社 千葉常胤の歌(松筆一  
五ノ一六)

●スセ

すげなき さいふ詞(幽鑑上ノ三)(松筆  
四ノ八、八ノ二〇)  
 介 上總常陸上野の國守を—と稱す(隨意  
二ノ一六)  
 千葉—三浦—なさいふの事(松筆二二  
ノ一一)

楷柱 「ツ」衝梁ヲ見ヨ  
スミヤキ  
 菅貫 荒和鞍の—(松筆三八ノ一六)  
 菅の御笠 (鹽尻七ノ一)  
 菅谷氏 の先(鹽尻八ノ三一)  
 菅谷半之亟 の跡跡(茶筆二ノ二四)  
 佐田 「テン」田制ヲ見ヨ  
 助六 —狂言考(奇跡一三九)

●スロ

すこたん といふ詞(嬉遊九ノ四二)  
 すこふる さいふ詞(安隨一三ノ四二)  
 双六 (世談一)(嬉遊四ノ二三)  
 淨土—付治良—治長教揚枝、道中  
(還魂上ノ一〇)  
 佛法—淨土—道中—官位—  
(嬉遊四ノ二五)  
 靈紙局(松筆八五ノ四)  
 唐の—并圖(南留上ノ一三)  
 の沿革(如蘭三ノ二二)  
 禁斷(安隨一ノ二二)

●スサ

すさまし さいふ詞(松筆二二ノ二)  
 凄しきもの (四方月ノ二)  
 從者 —、賊—(松筆九六ノ一九)

酢さひ (松筆九六ノ三六)

●スシ

酢 (難江四ノ四)  
の字義、古の—、  
みみ、釣瓶、雀、江戸(嬉遊一  
 ノ上ノ二〇)  
 みさこ(安隨二ノ一八)(鹽尻四ノ  
 三)(撈海上ノ一七)  
 宇治丸(嬉遊二ノ上ノ九)  
 昔の—賢(後普三〇)  
 索性 士の貧賤に出るを惡む事(餘餘四ノ  
三〇)

●ス

す、—すつすといふ詞(松筆一一ノ  
四四)  
 すい木 付長篠井鈴木さいふ姓(燕  
石三ノ三五)  
 すいし —の漢字三種の別(鹽尻八ノ  
一)  
 すいみ 「ホウ」烽火ヲ見ヨ  
 すいみ 古昔稱夢の靈を設置か—と  
 といふ事(鹽尻二ノ一七)  
 すいむ 人か—といふ時の—の字(鏡  
小一ノ一八)  
 鈴 —の起(答問三)  
 —、さなき、わりの辨(比古五ノ三  
四)(松筆一七ノ三九)  
 —をマリアテヌテといふ(圓珠三三)  
 古語拾遺のサナヤミ(惟す中ノ二)  
 神前の—(老牛上ノ一六)  
 神前にて—を振るさ(安隨五ノ二四)

古(桂林下ノ二) (閑次三ノ五)  
 金寶橋次の古(一話二五ノ一)  
 備後國中條村の古(老牛中ノ二六)  
 「五キ」驛路鈴「サナ」鐺ヲモ見ヨ  
 鈴懸 (辯遊六ノ下ノ四一)  
 鈴懸 (松筆九ノ二二)  
 鈴木氏 の本姓(南辨七) (鹽尻二五ノ一)  
 三州 江井伊谷の先(白柳一〇ノ一九)  
 鈴木脩慶 の好古癖(四方月ノ二四)  
 鈴木白藤 の詩三首(一話三二ノ四四)  
 鈴木春信 大和繪師 役(半日二ノ八)  
 鈴木平左衛門 三枝の名手  
 鈴木行長 の戦死(鹽尻三二ノ一五)  
 鈴生 さいふ語(松筆三八ノ九)  
 鈴奏 (玉か一〇ノ三三) (松筆一七ノ一)  
 鈴舟 (安隨一〇ノ三一) (同二〇ノ三二)  
 (同三三ノ二〇) (二上九〇) (茅葱上ノ四)  
 鈴蟲 松蟲(幽遠上ノ一八)  
 松蟲(傍廬一九) (北邊三ノ一) (松落一ノ五)  
 の聲、一を種る法(辯遊二二ノ一)  
 海 (松落一ノ五)  
 一とま(折々秋ノ三五)  
 鱈 (藝苑八ノ二六)

珠洲郡 鹿登國 一の事(白柳四ノ二)  
 生 さいふ織物(松筆八七ノ八)  
 響 「カミ」疑の風ヲ見ヨ  
 慧苴子 の訓(安隨五ノ一六)  
 錫のもの (一話三ノ四六)  
 煤拂 (孝經四ノ一五) (藝苑七ノ一九) (暗我國の語) (松筆四七ノ二六)  
 新宅三年煤をさらす(南歌下ノ二八) (松筆九ノ四七)  
 年の暮の(梅日一ノ一八)  
 御 御煤の熱壁并春日田樂(雲御二ノ一) (鹽尻三六ノ二八)  
 御の規式(半日一ノ二二)  
 酢吸三聖 井園(南歌上ノ四)  
 納涼 鴨河四條の(藝苑七ノ一) (鹽尻五ノ二)  
 「フナ」船遊ヲモ見ヨ  
 納涼臺 風柳(松筆六ノ三四)  
 漸 大漸瀾留の事(乘燭五ノ一八)  
 疾大に(一)といふ事(足新一ノ一九)  
 雀 吉原(京)宮(江戸)等の義(柳筆上ノ一三)  
 住吉のすみに(一)といふ事(足新一ノ一九)

高野山の 郭公を養ふ(閑次四ノ一六)  
 雀踊 (辯遊五ノ二三)  
 雀かくれ さいふ詞(松筆八ノ五)  
 雀の子飼 耕三ノ九  
 雀の子たつ さいふ詞(松筆八ノ五)  
 硯 さいふ字(隨意七ノ四〇)  
 の始(鹽尻三三ノ三)  
 瓦 (一)白石を賣ふ(三養一ノ二三)  
 の面に物をいさる事(安隨四ノ一四)  
 (三養三ノ二三) (辯遊八ノ一〇)  
 瓦 (松筆五ノ四)  
 櫻川石の(松筆六ノ一三、八六ノ二)  
 澄泥研井園(茅葱上ノ三六)  
 一の蓋の銘(一話四ノ一三) (桂林上ノ一八)  
 京師匠石目録(一話一ノ一五)  
 片倉元周の持たりし(一)の事(松筆三三)  
 寛文帝御製(年打上ノ一六)  
 鳳足(銘)并序(年打上ノ一五)  
 御水尾院御製和歌の寫(一話一ノ一)  
 忍池藏瑞溪(の圖) (一話二九ノ三〇)  
 をよめる歌(四方雪ノ一五)  
 硯かめ (玉か九ノ三九)  
 硯箱 上古の(稽遊二ノ四ノ四)  
 硯蓋 廣蓋(辯遊二ノ下ノ一四) (骨董中ノ一九)  
 嘸嘸祝 (安隨一〇ノ三四) (二上九六)  
 「シヨ」出産ヲモ見ヨ

●スツ  
 裾 (安隨二三ノ四〇)  
 の長さ(玉か九ノ四)  
 裾長 (安隨一ノ一九) (安夜二ノ一〇)  
 ●スタ  
 すた(坊主 (柳記下ノ五九)  
 一) 演義胡蝶(藝苑五ノ二)  
 崇道社 (老牛上ノ八)  
 籬 といふ名(鋤屑五)  
 のもつ(鹽尻三〇ノ一七)  
 伊豫(安隨四ノ一五)  
 管(世談六九)  
 泊酒舎の得たる古代の(な)へてよめる長歌短歌(遊京上ノ四〇)

●スト  
 素通り さいふ詞(松筆九ノ二一、二二、二ノ四四)  
 崇徳天皇 一親長に代りて御歌よみて給(る)事(玉か七ノ一七)  
 散州遷座(北邊二ノ三二)  
 ●スナ  
 すなはち 又や(て) (圓珠二七)  
 といふ詞(松筆二二〇ノ四六)  
 砂の種類(筆す中ノ一〇)  
 立(盛) (松筆四ノ一六)  
 砂 水上(一) (辯遊一ノ上ノ三九)  
 砂繪 沙書(藝苑五ノ二七)

砂三十郎 の大力(奥波四三)  
 ●スズ  
 臍當 臍病金の事(安隨二ノ二七)  
 寸法(安隨二〇ノ七)  
 臍押 「ツテ」臍押ヲ見ヨ  
 ●スノ  
 簀子 (安隨一七ノ四八) (鋤屑一六)  
 ●スハ  
 すは さいふ詞(安隨一〇ノ二) (二上五二)  
 さいふ詞(難未七ノ一三)  
 すはえ さいふ詞(難未七ノ一三)  
 諏訪 の縁起(白柳一〇ノ二五)  
 信州の七不思議(藝苑四ノ三)  
 七不思議の内塔影入屋(松筆六ノ三)  
 古代 國境考(如蘭一〇ノ七)  
 諏訪湖 の水(鋤屑一四) (松筆一七ノ二七)  
 を驚湖さいふ(隨意七ノ三〇)  
 諏訪神社 南方刀美神社二座考(比古三信州) の下社は女神の事(白柳四ノ二)  
 信州の神官肉食の事(鹽尻五ノ三)  
 下總駒木村の神像(辯遊七ノ三)  
 長崎の祭禮(鹽尻五ノ六)  
 「タテ」建御名方神ヲモ見ヨ

諏訪縁起繪 (玉ヶ一ノ三)

諏訪氏 の姓 (白神一〇ノ一六)

諏訪頼音 の説 (一話四一ノ二七)

周防 の國名 (老牛中ノ二)

蘇芳にかきつく (松筆九ノ四)

寸白 さいふ病 (一話一五ノ三三)

洲濱 (桑畑一ノ七) (松筆七ノ三九)

楚割 (蘇一〇ノ二五) (松筆二ノ四四)

座法 (安隨一ノ六、二ノ二、二〇)

●スビ

すひかつら 邪法 (居龍四六)

吸口 料理の (松筆九ノ三九)

吸物 解酒湯 (蘇苑八ノ三一)

地爐 (蘇一五)

●スハ

すべなし さいふ調 (松筆九ノ一)

皇親神滿岐神滿美命 (二上二五)

●スマ

すまし 「スモ」奴婢ヲ見ヨ

須磨 の地勢 (居龍五〇)

須磨記 偽書なり (秋齋二ノ五)

須磨寺 櫻の制札 (清園三) (南政上ノ二)

相撲 傳書一巻 (温知叢書第六編ノ内)

●スマ

すみとくさ 猗草 (松筆三八ノ一)

炭賣 婦人の詩に付て (白神一ノ一九)

墨

我國の始 (鑑尾三ノ二五)

朝鮮の色 (白神三ノ九)

頼朝の遺水 (桂林上ノ八)

李家撰 (梅日五ノ三三)

●墨色

相字、相印、相手板、相笏 (蘇江七ノ七)

墨繪 「エ」繪畫ヲ見ヨ

墨たふれ (蘇遊六ノ下ノ七)

墨流し 「スイ」水上書畫ヲ見ヨ

隅田川 詩曲 (鑑尾二二ノ一〇)

●スミ

すむつかり (安隨二ノ三八)

すめらぎ き、むきみ 醉ふり (瓦礫二ノ一八)

●スマ

すやされる といふ俗語 (權書二ノ五)

●スラ

すら さいふ俗語 (安隨八ノ二五)

●スリ

すり 須利、波太古 (略語上ノ二九)

●スミ

すめらぎ さいふ俗語 (安隨八ノ二五)

●スリ

すり 須利、波太古 (略語上ノ二九)

●スミ

すむつかり (安隨二ノ三八)

●スム

すむつかり (安隨二ノ三八)



摺衣 襟 (安随一七ノ二〇)  
磨鏡嶺 (藝苑三ノ一二) (餘餘三ノ一二)  
受領 古の (瀬上ノ二四)

スル

するすみ 匹如 (三九ノ一七) と訓む (鹽尻  
する) (さいふ詞 (松筆一〇ノ一八))  
駿河 伊豆の界 (松筆六〇ノ七)  
駿河煮 (辯遊一〇ノ上ノ八)  
駿河の海の濱つらら (難江六ノ三)

スワ

楚鞞 (松筆八六ノ六五)

スン

寸 なきと讀める (世事二二八) (難江四ノ  
七六)  
寸切 (松筆五ノ五)  
寸錦 の響言 (鹽尻二五ノ四)  
順の舞 (辯遊五ノ三六)  
駿府 在番の者役高の事に付白石の意  
見書「ライ」在番ヲ見ヨ

駿府城 の四足門 (一話二四ノ一四)

セ

妹 いもせ等のせは妹にあらず一なる事  
畝 田崎 (一話二ノ五)  
●セイ  
せいたら昌 (さいふ俗語 (三養二ノ二五))  
生 太腹生太俗生太僧生等の一字 (乘燭  
四ノ四)  
生尅ノ性 (勝餘一ノ一〇)  
生死 (隨意五ノ二九) (春波一四) (餘餘  
有生者有死 (鹽尻五ノ三八) (五ノ二七)  
死生と輪廻の説 (鹽尻三ノ八) (七)  
人情安則樂生 痛則思死 (鹽尻四ノ二二)  
死の覚悟 (病問二三)  
生異死同 (松筆九七ノ三八)  
人の死する時 (春波九〇)  
死を知らず (春波七三)  
生前死後の理 (梅叢三)  
人のうまるははめ死て後の事 (玉か一  
一ノ九)  
生を重す (き事 (白神一ノ四))  
平常の覺悟 (雨窓三四)  
死を恐れず (餘餘二ノ一八)

生殖 鳥蟲類の (鹽尻四〇ノ一〇)

性 三あり (梅叢七二)

性 論并序 (如蘭一八ノ二)  
五の善惡 (花月六八) (春波六八)  
荷子悪 (秋露二ノ九)  
惡之說 (茶筆二ノ三)  
道之教 (眠書一ノ七)  
「セン」善惡ヲモ見ヨ

性 高院 尾州 (鹽尻二五ノ二九) 五  
性 空上人 (春波六一)

性質 人のうまれつきさまある事 (玉  
學以可憐性情性 (隨意二ノ九))

性 理群書 (餘餘五ノ一四)

性 靈集 のよみ方 (閑次三ノ二)

晴雨計 察天筒 (松筆一七ノ三三)

青雲 の字義 (隨意七ノ二二)

青瑣 「サリ」象散ヲ見ヨ

青菴 三田の (辯遊三ノ下ノ二四)

青州白丸子 (餘餘四ノ九)

青松寺 愛宕下 の山緒 (望海四四)

青特 時代遊の語する事 (さいふ (假  
世四七))

青妖 (松筆五二ノ一五)

青祿 (續長五八)

清圓尼 の長壽 (玄同三ノ中ノ一三)

清狂百棒 の鐵手 (一話四ノ九)

清華 (松筆九三ノ四〇)

の家新に勅許 (松筆九三ノ一一)

の七流 (松筆一一ノ二二)

清見寺 駿州 (鹽尻五ノ三三)

三條實澄卿の詩 (南畝上ノ二七)

清淨 外 (さいふ (鹽尻一九ノ七))

清慎公記 (さいふ書 (如蘭二八ノ一八))

清少納言 (安隨六ノ二二) (松筆八七ノ  
香爐茶の雪 (理齋六ノ一三)  
安隨國にて掘出せし (藝苑七ノ三〇) の墓碑 (鹽  
尻四ノ一四)

清文鑑 御製増訂 (一話一六ノ一  
八) (松筆六〇ノ二六)

清平調詞 李太白 (技藝一ノ  
二)

清煩腦 の磯 (閑次三ノ二二)

清明 寒食 (隨意四ノ一六)

清吏司 (長陽一三六)

清流記 さいふ書 (一話三九ノ一)

清涼寺 蟬嘯 (松筆六三ノ二二)

清涼殿 (松筆六三ノ二二)

清和天皇 の御位争 (傍廂七八) 天下を領  
し給ふの説 (梅叢一)

齊家寶要 張文喜 (鹽尻二ノ  
一)

姓解 宋栗本の (雜末二ノ一五)

姓氏 氏族の三本紀 (鹽尻三ノ一三)

姓を稱する (安隨四ノ二五) (藝苑一ノ一九) (玉  
名) (一三) (一五) (一七) (一八) (一九) (二〇) (二一) (二二) (二三) (二四) (二五) (二六) (二七) (二八) (二九) (三〇) (三一) (三二) (三三) (三四) (三五) (三六) (三七) (三八) (三九) (四〇) (四一) (四二) (四三) (四四) (四五) (四六) (四七) (四八) (四九) (五〇) (五一) (五二) (五三) (五四) (五五) (五六) (五七) (五八) (五九) (六〇) (六一) (六二) (六三) (六四) (六五) (六六) (六七) (六八) (六九) (七〇) (七一) (七二) (七三) (七四) (七五) (七六) (七七) (七八) (七九) (八〇) (八一) (八二) (八三) (八四) (八五) (八六) (八七) (八八) (八九) (九〇) (九一) (九二) (九三) (九四) (九五) (九六) (九七) (九八) (九九) (一〇〇)

姓を稱する (病問六五)

支那の常姓及不用姓 (我養一ノ二三)

支那の古姓 (我養一ノ二三)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

支那の文字 (玉か一ノ四) (四ノ二)

姓 苗字の起 (世談一六二)

姓 ありて苗字なきもの (苗字を姓と定む  
へき事 (南留二ノ二二) (南留二ノ二六)  
苗字にして姓なるもの (南留一ノ二六)  
稱を名とせし事 (鹽尻二四ノ一〇)  
片苗字 (老牛下ノ二八) 氏族辨正ヲモ見ヨ  
「ウチ」氏印「シツ」氏族辨正ヲモ見ヨ

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

姓 氏録 (鹽尻六ノ一一) (談小三ノ八)

一八九の錯誤を改刊せしむ(鹽尻三七ノ二五)(松筆八七ノ二二)  
 砌下(松筆八七ノ二二) 安居院ヲ見ヨ  
 聖覺法印 「ア」 安居院ヲ見ヨ  
 聖牛 猪子ノ解(隨意一ノ六)  
 聖君 ミいふ字(松筆六二ノ五三)  
 聖教序 鳩集字(松筆七二ノ二二)  
 聖賢 樹本(松筆五一ノ一)  
 聖賢 君子小人愚人の別(橋本初ノ二)  
 聖賢 聖人と賢人(安隨一九ノ二八)  
 聖賢 天野丈右衛門「ミ」なる心得を説く(八水一三)  
 聖賢 酒を「ミ」いふ「サケ」酒ヲ見ヨ  
 聖賢障子 「シヤ」障子ヲ見ヨ  
 聖賢之道 詠める「ミ」(年打上ノ六二)  
 聖賢之道 「ケイ」經書ヲ見ヨ  
 聖賢之道 賢君(方雪ノ五) 賢君ヲ見ヨ  
 聖賢之道 道は聖人の作るものにあらず(駿臺仁「シユ」儒學ヲ見ヨ)  
 聖像 考(白雜考卷一)(白雜考九)

聖人 一の道(安隨七ノ二二)(安夜二ノ二一)  
 聖人 一の道(駿臺仁ノ三九)  
 聖人 一の道(多波上ノ六)  
 聖人 一の道(玉「ミ」事(閣下ノ七)  
 聖人 一の道(花月三三)  
 聖人 一の道(松筆九八ノ三六)  
 聖人 一の道(松筆九八ノ三六)  
 聖堂 一の道(松筆八五ノ三四)  
 聖廟 一の道(松筆八五ノ三四)  
 聖賢僧正 一の道(松筆八五ノ三四)  
 棲筠 一の道(松筆八五ノ三四)  
 征隼人持節將軍 一の道(松筆八五ノ三四)  
 征隼歌 一の道(松筆八五ノ三四)  
 正氣 一の道(松筆八五ノ三四)  
 正鶴 一の道(松筆八五ノ三四)  
 正朔 一の道(松筆八五ノ三四)  
 正寢 一の道(松筆八五ノ三四)

正徹 一の道(松筆八五ノ三四)  
 成功 一の道(松筆八五ノ三四)  
 成功人 一の道(松筆八五ノ三四)  
 成業官 一の道(松筆八五ノ三四)  
 成選 一の道(松筆八五ノ三四)  
 井華水 一の道(松筆八五ノ三四)  
 井田 一の道(松筆八五ノ三四)  
 惺窩文集 一の道(松筆八五ノ三四)  
 西光寺 一の道(松筆八五ノ三四)  
 西湖 一の道(松筆八五ノ三四)  
 西江月 一の道(松筆八五ノ三四)  
 西山山人 一の道(松筆八五ノ三四)  
 西山賦 一の道(松筆八五ノ三四)  
 西仙寺 一の道(松筆八五ノ三四)

西川東童 一の道(松筆六一ノ二四)  
 西臺働哭記 一の道(松筆六一ノ二四)  
 西洋 一の道(松筆六一ノ二四)  
 西洋人 一の道(松筆六一ノ二四)  
 西王母 一の道(松筆六一ノ二四)  
 誓願寺 一の道(松筆六一ノ二四)  
 誓言 一の道(松筆六一ノ二四)  
 誓文拂 一の道(松筆六一ノ二四)  
 盛京 一の道(松筆六一ノ二四)  
 盛衰 一の道(松筆六一ノ二四)  
 政權 一の道(松筆六一ノ二四)  
 政治要略 一の道(松筆六一ノ二四)  
 政治 一の道(松筆六一ノ二四)  
 國を治むるの法(松筆六一ノ二四)

治國治家の術(松筆六一ノ一九)  
 仁政の神事(松筆六一ノ一九)  
 天下の貧富(松筆六一ノ一九)  
 賢に任ずるの法(松筆六一ノ一九)  
 百姓の疾苦(松筆六一ノ一九)  
 我々の治め(松筆六一ノ一九)  
 在治官の職(松筆六一ノ一九)  
 平政の道(松筆六一ノ一九)  
 板倉直宗(松筆六一ノ一九)  
 中山藩(松筆六一ノ一九)  
 物産(松筆六一ノ一九)  
 五十君(松筆六一ノ一九)  
 康照(松筆六一ノ一九)  
 徐賢(松筆六一ノ一九)  
 省佐法師 一の道(松筆六一ノ二五)  
 省錢長錢 一の道(松筆六一ノ二五)  
 精衛鳥 一の道(松筆六一ノ二五)  
 精液 一の道(松筆六一ノ二五)  
 精爽 一の道(松筆六一ノ二五)  
 精神 一の道(松筆六一ノ二五)  
 制札 一の道(松筆六一ノ二五)

制度 一の道(松筆六一ノ二六)  
 情視 一の道(松筆六一ノ二六)  
 誠實 一の道(松筆六一ノ二六)  
 靜悍 一の道(松筆六一ノ二六)  
 靜勝軒 一の道(松筆六一ノ二六)  
 稅所 一の道(松筆六一ノ二六)  
 費塔 一の道(松筆六一ノ二六)  
 細男 一の道(松筆六一ノ二六)  
 星經 一の道(松筆六一ノ二六)  
 星莖 一の道(松筆六一ノ二六)  
 歲暮 一の道(松筆六一ノ二六)  
 勢陽軍記 一の道(松筆六一ノ二六)  
 勢力 一の道(松筆六一ノ二六)  
 セウ 一の道(松筆六一ノ二六)  
 せうと 一の道(松筆六一ノ二六)  
 せうばくない 一の道(松筆六一ノ二六)

抄 歌書の註を「と名くる事」(玉三ノ二一)

鈔 「シハ」紙幣ヲ見ヨ

尉 「シヤウ」尉ヲ見ヨ

嘯 の義(隨意五ノ二九)

笙 の調(南留五ノ二)

名(念佛丸(四方花)一〇)

洞(曲四季の五音(一話一四ノ三))

魏晉傳(如蘭三ノ一六)

紹賜 武野(の滑稽(橋樑二ノ二八))

小合色紙八重むぐらの事(白柳九ノ二二)

紹介 さいふ語(松筆八九ノ七九)

紹宅 「キヤ」木山惟久ヲ見ヨ

紹智 香爐を火いけにするの説(雲萍三ノ一五)

紹巴 宗匠にならざる事、の付句(光秀の天の下しるの句を「吹むる事(白秘三))

逍遙遊 大宗師 論(餘餘四ノ二)

逍遙院 「ニシ」西三條實隆ヲ見ヨ

小阿彌陀經 (松筆一四ノ二)

小角 「エン」役行者ヲ見ヨ

小學 曆學を「といふ」(綴長一〇二)

小悲 稱文字學以爲「(隨意一〇八)の字(松筆八六ノ一五)

小午 大牛といふ(離米二ノ二)

小山園 の記(一話三七ノ二八)

小春候 (一話一九ノ三五)

小心 信長小性を試むる事(白秘一六同五)

小人 の字(松筆六二ノ三五)

下司の癖(傍下ノ九)

有始無終(松筆八〇ノ五)

地玉有舞(松筆九六ノ二〇)

龜と鼠に比ふ(松筆二二ノ一四)

「タニ」君子ヲ見ヨ

小人國 傍廂二三

小淑 加賀御四寺尼の詩歌(一話四四)

小説 平賀鶴溪の論(一話四五ノ三八)

三國同日の談(松筆四ノ九)

皇威にては「にも雅文を用ふ」(離江二ノ七八)

略評(空同三ノ下ノ一九)

八文字屋浮世草紙の事(慶長五ノ四)

讀神史詩(南畝)一話(一五ノ四三)

本出版に付題狀(一話二七ノ三〇)

「クサ」草叢紙「モノ」物語ヲ見ヨ

小除夕 讀小五ノ二

小兒 名稱種々(松筆一〇三ノ三)

育兒法さま(眼雲二ノ一八)(多波中ノ五)

狗の子を見て「を撫育す」(多波中ノ三)

腹兒の手あて(世事二)

の衣服に注意す(事(閑次四ノ一)

の衣を夜外に晒す(松筆三ノ一四)

大なる「を確みし事」(一話七ノ四一)

奇兒(閑次三ノ一七)

啼止(松筆九三ノ五四)

小飯 「テン」點心ヲ見ヨ

小便 小兒の「するを」シツカスル」

殺肉 となる事(慶長十三)

殺肉を通ずる法(兼波三ノ一三)

京都の「寶」(遊遊一ノ上ノ三〇)

無用「ホン」細非廣澤ヲ見ヨ

小歴本 小ワカクメキ又ハシバと訓む(白筆下ノ三)

消渴 淋疾を「といふ」(隨意六ノ二四)

消息 消息の字義(松筆五ノ一六)

消息 消息の語の出處(松筆四ノ八)

消息 消息の語の語源(隨意一〇四)

消息宣下 (隨意二四ノ四)

消防 定火消はや大波の事(一話四〇ノ三)

町火消の初(一話一四ノ四〇)

大消と根來同心の喧嘩(半日三ノ三四)

「トヒ」馬の者ヲ見ヨ

照岩寺 武州忍の景境(一話二五ノ二四)

照射 の字義(一話二ノ四五)

照君村 の奇風(隨意三ノ一五)

招魂 招魂の古義(如蘭二六ノ三二)

招魂社 「ウラ」孟蘭盆ヲ見ヨ

招提 の濫觴(如蘭二二ノ一九)

招提 招提の字義(松筆六二ノ五)

少在屬無 之目(技藝二ノ二五)

少目 大目(離江四ノ五二)

少女 童女の子をうみし話(一話三三ノ一)

同上に付發句(一話三六ノ九)

怪しき(見小上ノ七九)

少女風 (技藝二ノ六)(隨意二ノ四)(同六ノ六)

少納言 昔は「を小納言とかきし事(閑次二ノ二八)

少年易老學難成 の詩(松筆六六ノ六)

肖像 似給(松筆七九ノ一、九二ノ七、九二ノ六)

草宵(松筆九〇ノ四二)

を寫さするに似むものなり(遊遊附一)

肖像を壁にかく(松筆六二ノ二)

宵柏 牡丹花老人考(南留三ノ五)(隣女二ノ四七)(餘餘二ノ九)

牡丹花の號(玉三ノ三ノ二)

の死去(玉三ノ三ノ九)

蕉窓漫筆 の作者(一話四〇ノ二八)

蕉迷 蕉窓漫筆の解(靈樓下ノ二四)

焦氏筆乘 評(隨意三ノ三〇)

正身 の訓み方(老牛下ノ一〇)

瀟湘 (餘餘五ノ三〇)

瀟湘八景 の命名(餘餘四ノ一)

燒香 の詩(餘餘二ノ四〇)

燒耐 燒香(松筆七三ノ八)

詔勅 (松筆六三ノ四七)

詔と勅との差(二上九四)(安隨一〇ノ二)

辨(離米一ノ一八)

式(繪見六八)

代々の勅文(牛馬一三)

天明二年節儉之(半日三ノ四二)

蠅螟殺敵 蚊の上、蠅交争蠅

笑具 一場、笑柄、笑端(松筆七九ノ七)

笑林廣記 さいふ書(筆中ノ二三)

椒房 (松筆八七ノ三一)

●セオ のよみ方(靈樓下ノ一)

●セオ 背を推て悦ぶ といふ事(松筆八八ノ九)

●セカ 母がむ といふ詞(松筆二二ノ四三)

世界 世と界(離江四ノ一六)

施餓鬼 (興苑七ノ一〇)

の初(離江九ノ三)

明太宗無祀の鬼を祭らしむ(離江二九ノ一)

瀨川 傾城(俗耳一四)(兼筆二ノ四)

瀨川 武備(一五)

瀨川菊之原 菊の頭才并無圓鏡のうた(後書八)

死(半日二ノ三三)

の墓(俗耳二五)

瀨川路考の傳(江著五三)

赤國の瀨川屋(一話四五ノ三)

倅 さいふ詞(遊遊九ノ四二)(銀屑一三)

養三ノ五)(隨意三ノ一四)(足薪一ノ六四)(遊遊六ノ下ノ二八)

せかれの木字(南留二ノ二七)

●セキ せきづる 「ユミ」刃ヲ見ヨ

尺 一尺の「字」(安隨一七ノ二〇)

尺素 「シヨ」書狀ヲ見ヨ

赤 一字を尺と通ずる事(乘燭四ノ七)

赤縣神州 さいふ稱(餘餘二ノ四一)

赤雀合書 さいふ事(松筆六五ノ六)

赤錢 「セニ」錢ヲ見ヨ

赤道 黃道(隨意六ノ三〇)

赤地 辨(梅日五ノ一)

赤飯 「コハ」強飯ヲ見ヨ

赤壁 東坡三度遊(南畝下ノ一六)

**赤壁山** の所在(隨筆二ノ一六) 赤壁山(隨筆二ノ一七)  
**赤壁賦** は賦にあらす(茶筆四ノ一八) 中洞窟を吹く客とあるは誰か(隨筆二ノ九)  
**赤保々** 解題(温知叢書第六編ノ内)  
**關** 一と委の別(隨筆五ノ四〇) 務停止井手(松筆九ノ八ノ三六) 三關(松筆一ノ八)(孝經二ノ一七) 三關の中受發は愛發なり(隨筆一〇ノ一四)(乘烟一ノ三) 逢坂の一の葛跡(隨筆七ノ一六) せきと(松筆三ノ五五) 「シラ」白河「オホ」大拱「ニシ」二所一ヲモ見ヨ  
**關所** 過所(南留一ノ二四)  
**關氏** 鍛冶 七家の祖(隨筆二三ノ二九)  
**關新助** の名(白神六ノ一) の墓(一話一三ノ二三)  
**關東陽(恩莖)** の小傳(見小首ノ一) 呂宋に渡りて其主となる(慈道四〇)  
**關文左衛門** 家康(隨筆四ノ一四) 家康西軍の變を待つ(隨筆一八ノ一四) 家康出陣の理由(談小二ノ一四) 家康の神速(馬誌に似たり(松筆一〇ノ五九)  
**關戸** 川の古歌(松筆一ノ二六)  
**關戸木工左衛門** の沈勇(慈道四五)

**關藤川記** の著者(隨筆二五ノ三二) 關城 高師冬一を攻む(隨筆三六ノ二〇) 咳嗽 の高きを自負する事(南留四ノ三四) 百目(隨筆五ノ一三) の流行(隨筆五ノ一三) 驚咳 の合圖(松筆九ノ二九、九五ノ九六) 石尤風 の義(隨筆七ノ二八) 石敢當 の碑(桂林上ノ一) 藤州にて見る(笑埃三ノ二七) 石器 太古の(比古五ノ四九) 石窟寺 (一話一五ノ三六) 石臥 隱士(長野米女)の小傳并歌(年打上ノ三七) 池上木門寺にて掘出せし(半日一五ノ一七) 石棺 (東屋上ノ一〇) 石經山 「シヤ」石殿ヲ見ヨ 石解 の圖説(一話四一ノ二三) 石像 の始(松筆九ノ三六) 石菖 後光嚴院の御歌(隨筆九ノ三七) 「ホン」益石ヲモ見ヨ 石僧山 題詩(隨筆四ノ二八) 石尊 「オホ」大山石尊ヲ見ヨ 石帶 大紋の(橋港初ノ四ノ一四) 石炭 (鶴野一三)(松筆一七ノ七三) 江州武佐 長州舟木の燒土燒石(半日六ノ一)

長州藤曲の圖説(笑埃五ノ二二) 石炭油 瓦斯石油(秋里中ノ八) 草生水井火井(南留二) 越後泉水の油(笑埃二ノ一八)(隨筆六ノ二七)(半日六ノ一) 石塔 石卒都婆(松筆一ノ二五) 江戸にて有名な(一話四二ノ一六) 芝倉杉にて掘出したる古碑(一話二五ノ三一) 石竹 「イシ」石碑ヲモ見ヨ 石弩 盧慎氏(東屋上ノ九) 石幢 さいふもの(橋港下ノ一) 武昌普濟寺(一話二ノ二、一四)(南留下ノ六) 石柏 といふ植物(續昆六〇) 石筆 (遊遊三ノ一五) 石蜜 考(隨筆六ノ二五) 石龍子 人相見(春波四八) 石淋 の病理(技藝二ノ三三) 石梁 の死去(白神八ノ一三) 浙江 と西湖を同じ(松筆九七ノ二〇) 節季候 (世談一三四) 籍帳 (松筆一九ノ一三) 「コセ」戸籍「ミヤ」名籍ヲモ見ヨ 釋奠 (柳野初ノ一〇)(隨筆三ノ一〇) 釋菜(隨筆九ノ一三)(雜末三ノ一)

**積徳叢談** 小山田與清(後言一八) の評 脊然上人 他人の詩を盗む(老牛下ノ五) 夕陽 の字義(隨筆六ノ七) 躑柳 (東屋下ノ一四) 鶴鶴 と稻負鳥(碩鼠五ノ一) ●セウ せく といふ詞(松筆一四ノ二四) ●セケ 女術 といふ名(世事七七) 世間 「ヨ」世間ヲ見ヨ 世間知らず 本内風といふ(柳記下ノ三七) ●セコ 貴子 雜説(一話三八ノ一〇)

●セサ 是山法師 の死と辭世(隨筆八ノ三九) ●セシ せし といふ詞(松筆一四ノ二四) せし の差別(松筆六〇ノ一三) せしう の義(安隨二ノ七) 軟障 (安隨二ノ二、一九ノ四八) 夾額 (安隨一九ノ一〇) ●セ、 せし かつむ といふ詞(松筆一三ノ四三) せしらぎ (玉が八ノ二四)(松筆九ノ一八) せしる といふ詞(松筆一三ノ四三) 膳所 江州(橋港二ノ三ノ二二) 膳所城 (松筆一〇六ノ五〇) 手々甲 (世事六八) ●セソ 世俗字類抄 (碩鼠六ノ二〇) ●セタ 勢田からげ 「シリ」尻からげヲ見ヨ

世田谷 の舊跡(提醒五ノ一五) 瀬田問答 解題(瀬田一) ●セチ せちみ といふ古語(安隨一九ノ二二) 節 おせち(孝經三ノ二四) 「年の始の」といふ事(玉が七ノ四三) 「セツ」節句ヲモ見ヨ ●セツ せつちる といふ俗語(松筆五三ノ二六) せつなし といふ俗語(安隨八ノ二六) 切 の字(瓦礫一ノ三) 切腹 上古に「なし」(安隨一七ノ一) の人の腹に劍を用ふる事(屠龍八) 扇腹(松筆一三ノ五〇) 切木四之泣 又折木四哭「カリ」尸金ヲ見ヨ 雪隠 「カハ」廁ヲ見ヨ 雪山 (松筆八〇ノ三八) 雪山 「キタ」北島三立ヲ見ヨ 雪舟 (東屋上ノ一八) 舟 逸話(隨筆三ノ三) 宋人 の説を賞す(南留下ノ一九) 雪踏 (遊遊二ノ中ノ三)(世談八六)(談正八四)(柳記上ノ一二)

毛の沿草并種類(我衣九〇ヨリ九三)  
 尻切(柳下ノ三)  
 丹前(柳筆上ノ二ノ三〇)  
 「ケタ」下駄「サウ」草履ヲモ見ヨ

雪粉團(險餘三ノ八)  
 褻ハ 服等ノ一字(懸樓下ノ二二)  
 褻ハ 驚(嬉遊九ノ三八)

殺害 過りて人を殺したる小兒の處分(窓御番方與方の子殺害の裁斷(白柳一ノ二六))  
 麴町貝坂の人殺(半日一五ノ一〇)  
 内藤殿五郎夫婦の(半日一五ノ二)  
 下谷の人殺(半日一〇ノ二七)  
 女を銃殺せしもの處刑(半日一四ノ二)  
 森正之進謀殺一件(半日一五ノ二)

殺生 の説(隨意五ノ七)  
 物の命を斷つとも又助くる理ありといふ論(梅落二)  
 の報(閑次四ノ四〇)

殺生石 の説(安隨七ノ三)(安夜二ノ二八)  
 の類事(險餘三ノ三七)  
 は磁石なり(鹽尻三九ノ一七)

絶海 僧ハの杖(提醒五ノ二)

舌耕 といふ字(隨意二ノ二八)

舌苔 舌胎(隨意二ノ二六)

折角 といふ俗語(安隨八ノ二五)(安夜四ノ二六)  
(南留四ノ二)(松筆九ノ一)

折檻 の説(松筆九ノ一八)  
(隣女一ノ一)

折乾 の説(嬉遊附ノ五)  
(隣女一ノ一)

折骨 の説(閑次三ノ二)  
 を全くするの法(病問一三)  
 を改めずして死するの説(鹽尻一ノ二九)

折義 武士ハを尙ふ(一話五ノ二四)  
(鹽尻二ノ二)  
 松興和不及道傍花(鹽尻三ノ一)  
 に付ての金言(鹽尻六ノ二四)  
 於貴賤貧富易其操者(隨意八ノ七)  
 渡部番の付平を賭士の無ハの事(隨意七ノ一八)  
 夏完淳の(隨意七ノ一八)  
 忠臣真女の(鹽尻八ノ三九)  
「チウ」忠義ヲモ見ヨ

節句 節日(安隨四ノ五〇)(一七ノ一七)  
 民間談話(鹽尻六ノ七)  
 五節お酒(松筆六ノ八)  
 節序交賀(長陽七)  
 節序の五節風俗(龍花九)  
 支那の官人體験の事(鹽尻九ノ一七)  
「セチ」節ヲモ見ヨ

節下大臣 安隨六ノ二六(玉六ノ三)

節儉 儉約と吝嗇(安隨二ノ二)(梅落六〇)  
 の大切なる事(我宿二)(山下二七)  
 名のみの(多波上ノ二九)

小事にのみ心を用ふるもの(多波上ノ一)  
 費といふ事(花月一〇四)  
 創業人(昆陽一)  
 天明七年御約の勅語(半日三ノ四二)  
 寛政元年再臨の勅語(一話二八ノ二)  
 寛政六年再々臨の勅語(一話二八ノ三)  
 明和八年御約の御書付(半日二ノ一三)  
 御約解除(半日二ノ三二)  
 李崇の(隨意二ノ三三)  
 延喜帝(隨意二ノ三三)  
 喜帝(隨意二ノ三三)  
 大諸侯(閑次四ノ二六)  
 名君(雨窓七〇)  
 大関の割彌并利久(雨窓二八)  
 家康の教訓(玉一四ノ三九)  
 岡本半助の事(雨窓七三)  
 菊田喜太夫の(奥波六六)  
 黒田如水の(隨意六ノ一九)  
 土井侯の(隨意六ノ一九)  
 臨客の(隨意六ノ一九)  
「チウ」小學のし話(閑次下ノ二〇)  
「クン」偷勤「シツ」貧業「リン」吝嗇ヲモ見ヨ

節刀 考(如蘭四ノ一三)  
「アカ」阿蘭圭「ミノ」美濃部伊織妻ヲモ見ヨ

節分 豆打(鹽尻九ノ三四)(同四〇)  
(一五)(安隨九ノ一五)(同上二)  
 鬼外福内(隨意四ノ二三)(松筆五ノ六)  
 のしよの餅(松筆九ノ四二)

ひらぎとよしの頭(比古三ノ一〇)  
 に白魚の成物を(内安二〇)  
 は春に限らず(隣女一ノ六)  
 に菓木を打つ事(茶筆三ノ一三)  
 四月の橋(安隨四ノ一七)  
 支那の橋(松筆一ノ二八)  
「ツイ」道徳ヲモ見ヨ

節用集 饅頭屋本(比古一ノ六)  
 五(橋本二ノ二)  
 の作者(孝經四ノ一九)  
 の作者并所記陸奥國の郡數につき(白筆上ノ七〇)  
 最初の(桂林上ノ一五)  
 今の(ぶり)(くせ二)

説教師 鹽尻一五ノ八(安隨一七ノ一)

説教節 天満節(天満八大夫)(日暮小大夫)  
(柳記下ノ二八)  
 説教淨瑠璃 奥淨瑠璃(用捨下ノ四)  
(用捨下ノ五)  
 説教歌 嬉遊六ノ上ノ二七  
「シヤ」淨瑠璃ヲモ見ヨ

説明 物を説きさす事(玉一〇ノ八)

攝州群談 といふ書(鹽尻一ノ二)

攝取不捨 といふ佛語(松筆一五ノ二)  
(三)

攝提場 接待茶(松筆七八ノ八)  
(松筆七八ノ四)

攝津國 といふ國名にあらず(玉一ノ三)

攝津氏 興(多賀半一)の事(白柳一ノ一九)

攝政 殺侯景、綱目直書日盜(東屋下ノ一三)

拙者 の稱(孝經四ノ四)(玉一ノ二)  
(二)  
「タウ」盜賊ヲモ見ヨ

●セト といふ名詞(老牛中ノ四四)

瀬戸焼 尾州ハの初(鹽尻四ノ三)  
「タウ」陶器ヲモ見ヨ

瀬戸助焼 武俗四七

●セナ

せない 遠上ノ二

背中 又モびら(圓珠二六)

瀬名狐狂軒 貞雄ハの小傳(瀬田一ノ七)  
(七)

●セニ

錢 「クワ」貨幣ヲ見ヨ

錢うち 意錢といふ戲(嬉遊四ノ三四)  
「アノ」穴一ヲモ見ヨ

錢占 秋青(一話二〇ノ四五)  
(支同三ノ中ノ三七)  
「ウ」卜筮ヲモ見ヨ

錢をえる 「クワ」貨幣ヲ見ヨ

錢を呑む 小兒(次四ノ一)  
たる時の事(閑)

錢か叩る 「カチ」金錢ヲ見ヨ

錢瓶橋 の舊名(一話二ノ四三)

錢首 「エモ」衣紋ヲ見ヨ

錢小賣 浪花一五

錢太鼓 といふ玩具(嬉遊六ノ下ノ三五)

錢病 安隨一八ノ二〇

●セハ といふ詞(松筆六六ノ七)

●セヒ (隨意二ノ一五)(險餘一ノ二五)  
 是非 愛之則見其是、惡之則見其非(鹽尻一ノ七)  
「セ」善惡ヲモ見ヨ

●セフ 側室の事(乘烟三ノ一四)  
カメカケといふ(松筆九三ノ八)  
カメシウ下といふ(安隨一九ノ五六)  
カメシウ下といふ(安隨一九ノ五六)  
一筆の末路(くせ三四)  
「松筆一六ノ一三)

敵歩 松筆一六ノ一三

姪好 の字義(長陽八)

涉獵 といふ官(險餘四ノ二)

●セミ

蟬 さいふ名(老牛下ノ六) 周年は少きさいふ説(二話八ノ二七)

せめて さいふ詞(安隨九ノ三〇) (二上)

せめ馬 「シヤ」借馬ヲ見ヨ

責而者 さいふ書(雞米一ノ三〇)

●セヤ 享保七年の設立(鹽尻四ノ一ノ二五)

●セラ 被捕(鹽尻三六ノ八、一五)

●セリ 競賣の初(嬉遊二ノ一二)

芹河行幸 戦戦帝の(松落一ノ四一)

黨詞 「カフ」歌舞伎ヲ見ヨ

●セロ 何と「カミ」といふ(幽遊上ノ二)

●セウ 世話をやく(さいふ語の漢字(松筆一〇ノ三五))

●セン せんたてたる文箱(さいふ事(松筆一〇ノ五))

せんたん巻 「タツ」刀劍ヲ見ヨ

せんづり 「シユ」手淫ヲ見ヨ

せんまゝい さいふ詞(嬉遊六ノ上ノ四三)

先生 年々六ノ三(松筆七ノ三九)

先祖 始祖の名稱種々(松筆八ノ二二)

先陣 折少事(自秘二)

先天 の義(筆上ノ四)

先王 の義(年々五ノ二二)

先王法服 (自秘一ノ一)

夕 夕の字(牛馬六五)

仙 一字訓(安隨七ノ一八)(安夜二ノ一六)

仙翁花 の詩(松筆九八ノ一〇)

仙壽院 青山(二話二四ノ一三)

仙田龜鶴女 の歌(二話二五ノ三二)

仙臺 の舊名(歳小四ノ九)

仙臺菽 演義草木(二話三二ノ四)

仙洞御所 (南留五ノ一) 及庭作の事(閑自二ノ四)

仙人 神の事(鹽尻一〇ノ三三)

仙人 考(支同三ノ上ノ三四)

仙人 道人(花月九)

仙人 道人(花月九)

仙人 道人(花月九)

仙人 道人(花月九)

仙人 道人(花月九)

仙人 道人(花月九)

仙波北院 (二話二二ノ一)

仙木 唐俗元日の(鹽尻一ノ二九)

疝 古の字義(昆陽二六)

疝氣 細川三誓(を苦しみてよめる歌(鹽尻一ノ一九))

木 古の字考(梅日五ノ一六)(松筆六五ノ二)

錢 古の字考(梅日五ノ一六)(松筆六五ノ二)

錢五七 九、七(續長六)

錢幣獻 (松筆一六ノ二四)

錢文 (山下七)

錢量 さいふ事(昆陽二四一)

僧 古訓(答問二)

門 の字(昆陽四四)

竿 の字義(二話二五ノ六)(南畝上ノ一五)

龍 延喜式所載の字(安隨八ノ三)(安夜三ノ二八)

牋 さいふもの(松筆六七ノ四八)

識 詩(餘餘二ノ三三)

善 他人の(と能(鹽尻二六ノ四))

善 見(如不及(眼雲一ノ二))

善 ものしり人は殊に善事をす(き事(松落四ノ六八))

善 一行の心掛(雲萍一ノ五)

徒 徒法(開略上ノ一)

善惡 天性(春波六八)(花月六八)

佛氏 共に天地の道具なり(四方雪ノ六)

一言 行によりて人の(を定むる事(玉か)四ノ九)

世人 善く登るは悪人(松筆五ノ三二)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善人 善人善人善人の解(梅波六六)

善哉 「シル」汁粉ヲ見ヨ

善相公 の木名(餘餘二ノ一九)

善性寺 上總國(望海一三)

善導寺 筑後井上山(鹽尻五〇ノ一五)

善通士 (松筆一〇五ノ三)

善念 の見解(多波中ノ三一)

善の綱 又足の綱(柳記上ノ六)

善福寺 麻布(望海九五)

膳 一人前を(といふ(松筆一〇五ノ五七、一〇六ノ三二))

膳 枌木の具(嬉遊二ノ下ノ一九)

膳の定 糞糞推遷の(雲錦四ノ二三)

膳部 膳本立といふ事并七五三の事(嬉遊一〇ノ上ノ一)

禪 十の膳まである事(嬉遊六ノ下ノ二七)(原龍三)

禪 引渡し(うちみ、わたり(松筆一〇五ノ五))

禪 去聲の事(兼燭三ノ五)

禪 北條時頼(玉か)一ノ四八)

禪 僧をよめる歌(長頭九)

禪 百丈野狐の語(動静の沙汰(消閑三二))

禪學 愚俗の(開略下ノ九)

張子韶夢妙喜傷 (餘三ノ一〇〇)  
 禪語 一の事 (洞門五ノ一〇) (一話二八ノ二七)  
 一を青狀にも常の詞にも多く用ふる  
 よし (松筆八三ノ四五)  
 禪師 の始 (理齋六ノ一三)  
 禪師親王 考 (安隨五ノ五) (春湊上ノ四)  
 禪宗 問答二條 (一話一五ノ二九) 同  
 日本 四ノ一七  
 建立 (松筆九七ノ二九) (一話二〇ノ三)  
 風化風教に害あり (松筆九八ノ五三)  
 法問和解 (一話二二ノ一〇)  
 指華微笑 (善卷二ノ一)  
 神秀と慧能との偈 (餘三ノ二二)  
 禪家七堂 (安隨一四ノ二二)  
 浄土宗と色衣を許さる事 (鹽尻三ノ六)  
 禪語に高地を老雅といふ (鹽尻五ノ二七)  
 逸存禪錄 (一話三三ノ三三)  
 善化の驢鳴 (餘三ノ三六)  
 禪修 僧 (支同三ノ中ノ二二)  
 禪者 さいふ語 (松筆七九ノ八)  
 禪僧 の位階 (理齋一ノ二二)  
 禪家僧司 位序 (安隨二ノ二)  
 禪 (同二〇ノ二八)  
 禪定 (同二〇ノ二八)  
 禪如和尚 の逸話 (鹽尻一ノ三三)  
 禪林類聚 付四喜替集の事  
 鮮衣 の義 (理齋五ノ一八)

泉涌寺 山城 (難江五ノ八八)  
 二ノ二三  
 の山陵 (孝經四ノ三〇)  
 泉岳寺 品川 の由緒 (望海二八)  
 單子 (松筆六二ノ四八)  
 秋色來の (慈樓上ノ二六)  
 千一疏 さいふ書 (餘五ノ二四)  
 千葉杏 さいふ植物 (松筆一七ノ六三)  
 千家詩 の中清溪流出碧山頭の詩の作者  
 につきて (乘烟三ノ一八)  
 千貫樋 (辯遊一ノ上ノ二五) (理齋一ノ三)  
 三家満緒彦 (松筆一〇四ノ七)  
 千石從 (世談八七) (談正八六)  
 千三 「ウソ」ヲ見ヨ  
 千載集 の序に付て (年打上ノ二〇)  
 千艘や萬艘 (辯遊六ノ下ノ二八)  
 千差萬別 (松筆七八ノ八八) (四ノ二〇)  
 千字文 (安隨一九ノ三三) (一話一六ノ七)  
 (鹽尻四ノ二六)  
 千の波來 (一話二二ノ二五)  
 傳來考 (北邊三ノ一六)  
 王仁の獻せる (柳隨初ノ一)  
 王仁の獻りしは (一)に非る事 (安隨一八ノ二二)  
 文字の説 (安隨二ノ三七)  
 の重字 (隨意六ノ三)

義之の (牛馬三九)  
 水戸常照寺藏 記 (安積良齋) (年打下ノ一四)  
 二) の勅員外郎の勅の字 (餘四ノ二)  
 千社參 (辯遊七ノ一六) (松筆九六ノ九)  
 麴香吉丸 (龍花六八)  
 千首和歌草 の序 (半日九ノ二)  
 千秋萬歲 「マン」萬歳ヲ見ヨ  
 千秋樂 (松筆八六ノ四四)  
 千束郷 (海西三ノ一八)  
 千田庄兵衛 (一話二八ノ二六)  
 一五) (兎集三〇)  
 千駄櫃 (辯遊一ノ五)  
 千住 千手さいふ地名 (松筆一五ノ二〇)  
 千度被 「ハラ」被ヲ見ヨ  
 千なり瓢箪 太閤の (一話三ノ四二) の圖 (一)  
 千日照 (世談五五)  
 千日詣 (松筆一八ノ一八)  
 行人の風俗 (辯遊二ノ七月十日の (鹽尻四ノ八)  
 千人石 鴨長明の舊跡 (鹽尻一ノ一〇)  
 千人頭組 の指物帳 (一話六ノ三五)  
 千人斬 (辯遊四ノ九)

千場氏 (春波八七)  
 千本鎗百姓 大和十津川 (鹽九三)  
 千彌染 (世談一九) (柳記下ノ五八)  
 千利休 居士贊 (一話二四ノ二六)  
 居士ノ實を評す (雲萍一ノ三)  
 の僧横 (如關一七ノ一七)  
 に居士號を給はりし事 (鹽尻三三ノ一)  
 蒲生氏郷の歌に 和詠の事 (白秘六)  
 飛騨百翁を笑ふ (雲萍一ノ二)  
 と其辭世の歌 (雲萍一ノ二)  
 一〇ノ下ノ一六) (二七)  
 の幽靈 (提燈三ノ一七)  
 の墓 (及埃七ノ一八)  
 千里江南春 さいふ句 (一話二〇ノ四四)  
 千里切 さいふ織物 (鹽尻一ノ三三)  
 線香 (松筆八五ノ五)  
 の傳來 (世談一八六)  
 の初 (白紳六ノ一六)  
 詮義 評定さいふの別 (鹽尻八ノ三二)  
 詮擬といふ語 (松筆一九ノ八)  
 詮なし の詮の字 (安隨九ノ二) (二上二)  
 前鬼 前童鬼妙童鬼 (鹽尻七ノ一)  
 大峯の 後鬼 (南留一ノ二六) (松筆八八ノ二二)  
 前鬼村 大和國吉野 (鹽尻二九ノ一)  
 前後村 三河國 の拜領者 (鹽尻四八ノ三三)  
 前栽 (辯遊一ノ上ノ三一) (如關一三ノ一五)

の義 (年々四ノ二八)  
 前水 (南政上ノ二二)  
 野菜を さいふ (年々四ノ七)  
 前身 (松筆七七ノ四一)  
 前太平記 の作者 (安隨二ノ三三) (孝經四ノ二〇)  
 前唐院大師 (餘二ノ一九)  
 前兆 物の (多波中ノ一)  
 樹木折れ又枯る (松筆九四ノ一三)  
 「シヤ」祥瑞ヲ見ヨ  
 前王廟陵記 の誤 (安隨一〇ノ六)  
 戰國 我國 時代廢頽の狀 (玉が二ノ一)  
 一) には道理なく唯利害あり (鹽尻二ノ一)  
 戰爭 我國古來の論 (鹽尻五三ノ五)  
 勝敗は人の多少に由らず (兎小中ノ九四)  
 中の心得 (一話二二ノ四二)  
 軍中の艱難 (茶筆二ノ一七)  
 戰場の和歌 (春湊中ノ一八)  
 兼)と永 (一話二二ノ一〇)  
 朽木長綱叙任の (北峯下ノ一五)  
 宣旨書 (安隨一九ノ五〇)  
 宣室 (松筆六三ノ二二)  
 宣底 (松筆八六ノ六五)  
 宣備 の語の出處 (松筆四〇ノ九)  
 宣命 の文詞 (安隨一〇ノ七) (二上六〇)  
 料紙の色 (玉が三ノ二五)

發誓の儀 (玉が四ノ三七)  
 官府宣と鹽尻 (鹽尻三九ノ二八)  
 の天皇我詔旨の訓み方 (鹽尻五二ノ一四)  
 加茂行幸の時の (玉が二ノ六)  
 天皇元服のよしを山陵に告給ふ (玉が二ノ七)  
 久安五年忠通任太政大臣 (玉が二ノ一七)  
 船子和尙 の詩 (一話三三ノ九)  
 船頭多して山へ船を漕上る といふ (松筆一〇〇ノ二六)  
 煎し物 寶圖説 (雲錦四ノ二三)  
 煎餅 の字義 (松筆九二ノ六六)  
 六條 (鹽尻七ノ二三)  
 井 輕やき (辯遊一〇ノ上ノ三三)  
 古の (燕石五ノ一)  
 薄脆 (鹽尻九ノ一六)  
 符卷 (安隨九ノ一三) (二上二九)  
 大黒 (辯遊一〇ノ上ノ二二)  
 屋の看板 色々 (足薪二ノ一四)  
 専一 さいふ語 (松筆一八ノ三二)  
 下野芳賀郡 (鹽尻三八ノ二八)  
 専女 「キツ」狐ヲ見ヨ  
 専柳齋 儒者 (松筆一〇六ノ二二)  
 全浙兵制 の著者 (一話二〇ノ四二)  
 全芳備祖 さいふ書 (二話二ノ八)  
 穿鑿 妄にすへからず (松筆九九ノ四)  
 占城 さいふ地 (餘三ノ一六)

選叙令 例圖(蒼梧一ノ下二〇)
荀席 といふもの(慧樓下ノ一五)
蜚語 といふもの(慧樓下ノ一五)
...

その本字(南留二ノ七)
衣をいふ(難珠四)
熊襲蝦夷木曾等の一は夷なる事(南留二ノ一)
...

か生れし處(玉ノ二ノ一三)
の死去并其墓地(陶遊上ノ二六)
終焉の地(孝經四ノ九)
...

宋學 「シユ」儒学ヲ見ヨ
宋景濂 元一の逸事(脛餘四ノ三二)
宋祁 眞贊木將懷云々の出處(眼雙二ノ一五)
...

律を婿とせる愚(閑次四ノ八)
不知道理(隨意二ノ四)
廢人倫(隨意二ノ一)
...

古代別業染衣の制限并度者勅免度牒の寫(閑次二ノ四四)
古幼童を僧になす事(閑次二ノ四五)
右妻の説(病間三)
...



僧都 二人の例(松筆九三ノ六八)「タイ」大「チモ見」

僧尼 (藥苑一ノ二八) 僧に和訓なく又尼は梵語なる説(鹽尻二ノ二五)

僧服 清和帝僧尼の綾羅を着る事を禁す(鹽尻二ノ九)の月形(安隨一六ノ四)

僧録 豐臣以來「前任の事(望海三二)の事并五山長老金持院住持の事(白柳六ノ二二)

物石衛門 さいふ事(足跡二ノ二〇)の字(安隨一四ノ五)

物嫁 「イウ」遊女ヲ見ヨ

物講師 「カウ」講師ヲ見ヨ

總龜 さいふ書(昆陽六八)

總見記 の誤(談小四ノ一〇)

總國風土記 (比古七ノ三二) 總社 (松棟一ノ二三)

總髪 「カミ」髪ノ風ヲ見ヨ

總領 嫡子を「さいふ(談小三ノ一一)の甚六」といふ事(如蘭二ノ二二)

走解 (東屋下ノ一四) 棘矜 (鷹樓上ノ五)

崇源太夫人 (鹽尻一八ノ六四) 曾子 七人文學初就(鹽意六ノ七)

増上寺 三條山「由緒(望海三五)の山號(後言二三)

增長 我に増たらん者を領犯さんすれば必敗す(松筆九六ノ二三)

奏任 さいふ官(松筆一八九ノ七) 奏壽宣命 「セン」宣命ヲ見ヨ

鉦洞 といふもの(一話二五ノ六) 送別 の詩歌各一首(鹽尻六ノ二)「理齋五」

「ハナ」饗別ヲ見ヨ

東 稻一(安隨一ノ一五)(白柳六ノ二) 東脩 (鹽意五ノ二八) 東帶 「シヤ」裝束ヲ見ヨ

即位 踐祚(一ノ三三)との別(安隨七ノ一八) 御 新式并建元論(如蘭二ノ二〇)

仁治三年の節禮服御冠のさた(玉) 當日佩劍の様(安隨一七ノ四五)

後奉幣諸神祝詞(玉)七ノ二ノ一 伏見天皇の御料(玉)四ノ三ノ四

御料木願寺より獻納の事(鹽尻一ノ四) 御料毛利家より獻納の事(山下二ノ二)

正親町天皇御即位用途獻納(松筆一ノ一) 「セン」踐祚ヲ見ヨ

即祚 (安隨八ノ三五)(安夜五ノ一八) 俗 宇都宮にて賤女かうたふ(擁書)

俗語 田舎詞(世事八七)

ソク 琉球の「小唄ヲ見ヨ」 不可強究本字(雜末八ノ五)

俗語 川字(安隨六ノ一七) 今俗さいふの詞のやゝふるくもいへる

俗耳鼓吹 解題(俗耳一) 俗習 俗に從へば容れらる(春波六八)

俗別當 といふ書(安隨一四ノ二六) 測隱 は天性なり(鹽尻五二ノ二二)

足下 の稱(鹽意二ノ三八) 足恭 の義(技藝二ノ二〇)

續錦繡段 の作者(難江三ノ八) 續群書類從 合戦部目錄(一話四三ノ二)

續詞花集 勅撰に申しなさんせし事(玉)四ノ二六) 續資治通鑑綱目 の編纂(餘餘一ノ三)

續惺窩文集 抄録(一話一八ノ三八) 續神皇正統記 (安隨一九ノ一六)

叢林 (松筆七ノ二六) 葱嶺 (松筆八〇ノ三八)

ソカ 色より黄河と掛たるに付(年打上ノ二七)

蘇我馬子 (玉)六ノ一〇) 守屋執惡逆(鹽意三ノ二)

曾我兄弟 の名(橋本初ノ二ノ九)(春湊下ノ一七)

曾我記 (一話九ノ三五) 曾我禪師房 越後國登津羅寺

曾我物語 の時代考(安隨六ノ三〇)(南富士山木門寺の(一話三五ノ二)

ソキ 屋根板を「さいふ(幽遠上ノ九)そくい 物封する飯か(といふ(幽遠上ノ一一))

そくたい 「シヨ」燭臺ヲ見ヨ

そくらをかふ さいふ俗語(松筆五三ノ二七)

續世續 「エイ」榮花物語ヲ見ヨ

族刑 「ケイ」刑罰ヲ見ヨ

息命丹 の藥法(安隨二ノ一〇)

息耗 の義(技藝二ノ三六)(乘燭五ノ三)

素盡 の義(梅日三ノ二)

素觀道人 の傳(半日九ノ二〇)

ソケ (兎集五〇)(兎小中ノ二〇八)

ソコ 又そのほくの字(安隨八ノ二)

そこはか 八(安夜五ノ七)

ソサ さいふ字(餘餘一ノ一四)

素盞鳴尊 姪兒又進雄(支同一ノ上ノ一)

素盞 三韓に渡る(鹽尻三七ノ一〇)

素盞 新大蛇の説(鹽尻一七ノ一〇)

素盞 を疫神に祭る事(老牛上ノ四)

素盞 (松筆九〇ノ二三)

ソシ 重刻の序(一話二ノ八)

祖師御書



そへに といふ詞に三義あり (松筆九三ノ二)

副田吉成 其室(秀吉の妹)と離別する事(鹽尻八ノ五)

●ソホ

素封 素臣、素王(松筆六四ノ六)

●ソマ

そま 死馬を—といふ(安隨一八ノ五五) は作字なる事(鹽尻九ノ八) の字(鹽尻一六ノ四)

柚工 江戸の—(鹽塚八五)

素万須盛方 の辭世(平日四ノ二九)

●ソミ

そみかくた 「ヤマ」山伏ヲ見ヨ

ソ民將來 信州國分寺の—(二話 二四ノ二四)

●ソム

背く といふ詞(概圖下ノ一一)

●ソメ

ぞめきて落る といふ事(松筆九六ノ一七)

ぞめく といふ詞(鹽上ノ五)

染井 といふ地名(松筆九三ノ七八)

染色

—無地付かき給井模様の(嬉遊二ノ上ノ三六) (居龍五六)

藍の—(半日一三ノ一五)、茜染橘

伊豫染(世談二〇)

友禪染(世談二二)(俗耳三二)(嬉遊二)

憲法染(世談二二)(麗花四一)

親和染(世談一九)(麗花四三)

千綱染(世談一九)(麗花四三)

御所染(世談一八)(麗花四三)

染木氏 柳記下ノ五八

染木甚太郎 の書上げ(一話二五ノ三九)

染物 今の—、紺かき織(嬉遊二ノ上ノ一〇)

染模様 の事色々(世談一八ヨリ)

蘇迷魯山 の歌(世事四四)

●ソモ

什麼 —作麼(松筆七二ノ二四)

抑 といふ語(後言三五)(柳記下ノ四九)

素問 名義(技藝一ノ八)

素問靈樞 名許す(隨意七ノ二)

●ソヤ

そやし豆 (比古四ノ一六)

租庸調 (山下二二)(松筆一八ノ一〇)

ソラ 戸調(松筆一八ノ一〇)

そら といふ詞(松筆九〇ノ一〇)

そらとる鷹 といふ事(松筆二二ノ一六)

そらめき といふ詞(松筆六四ノ三二)

空 天氣天色(如蘭二ノ一〇)

徂徠集 の誤謄(難江二ノ八四)

蘇老泉 老蘇の號にあらす(隨意七ノ二四)(風雲一ノ二四)

●ソリ

そりや といふ俗語(安隨八ノ二六)(安夜五ノ三)

櫓 渡林(藝苑三ノ一五)

—に乗る(安隨二ノ三八) 榻又雪車(松筆一〇〇ノ六二) 雪車(松筆六〇ノ三〇)

●ソル

そる 鷹の—といふ事(玉カ九ノ三九)

●ソレ

それ の略語(安隨八ノ三九)

某 といふ事(隨意三ノ二三)

●ソロ

そろ汁 (松筆九五ノ一)

そろり といふ詞(松筆九二ノ三七)

候 なむとしる事(白筆上ノ一四) 古状の詞(早、了のよみ方(安隨一ノ四〇))

十露盤 の詩(嬉遊一ノ七八) (八二ノ七) 珠盤(松筆七六ノ二二)、七八ノ七四)

十露盤魚 (筆す中ノ三)

曾呂利新左衛門 (理齋二ノ一) (嬉遊九ノ五一)(牛馬七七)

自瀆 瀆(閑歌二ノ二八)

●ソソ

ソソチウニスル 「トク」時計ヲ見ヨ

存 —の字(安隨三ノ五一、五ノ二二) 存義 俳諧師—、淺黄布子の句不言なり(事(燕石二ノ一六))

存星盆 「ホシ」盆ヲ見ヨ

村花小稿 の詩(一話四八ノ一三)

尊圓法親王 (餘餘二ノ二二)

尊者號 (松筆八八ノ一五)

尊稱 の變遷(慶應二五、三三)

尊卑分脈 (比古九ノ一六)

孫君肋 「シキ」四休居士ヲ見ヨ

孫子 十一家注(白筆上ノ六二、下ノ四一八)

隴鶩 六朝三鳥の古本の話(松筆三六)

樽節 の訓み方(鹽尻一ノ三二)

●タ

タ の字(白筆上ノ九、一、一三)

田 地の字(松筆四ノ一四) 地の制(安隨一ノ一六) の数(方)(一話八ノ二)

春祭を祭る事(松筆四ノ七) 日本紀作云々池の儀(年々六ノ三三)

—の石盛り(事(安隨一ノ一六)) 高成、川成(松筆一〇〇ノ六四)

佐合にての浮出(事(寛小中ノ二七)) 井地の損敗(談小三ノ一七)

非地を築(讀小三ノ一七) 書讀岐國古圖巻後(如蘭三ノ八)

「タハ」田島「テン」田制ヲ見ヨ

一俄(一孝經三ノ二六)

●タア

他阿上人 南朝の子孫なること(鹽尻後村上の皇子尊親法親王(鹽尻四八ノ一八))

●タイ

ダイラボツチの足跡 (松筆五ノ一)

代 田敵に—といふ事(老牛中ノ二)

代官 (安隨四ノ四六)(松筆九三ノ七三、九八ノ二二)

代匠 手代(被仰渡書付(半日六ノ一八)) 文化十二年(下け金(半日八ノ二五)) 碑を建て土民祭祀す(松筆三七ノ一)

代匠記 の序(年打上ノ六四)

臺 蝶足、花足、かけば、(嬉遊二ノ下ノ一五)

臺 何—といふ地名(松筆一〇九ノ三四)

臺侯 といふ書版の義(隨意五ノ三七)

臺城 梁武帝の詩(險餘三ノ八)  
臺子 (孝經四ノ四〇)の七人衆(白神九ノ三)  
臺所 金の(八水一〇)の(八水一〇)  
臺盤 一 次第(安隨四ノ六)  
臺牧 後漢書關帝傳中の字(臺樓上ノ六)  
臺目 (白神九ノ三)  
臺灣 の征服(敏長一〇五)  
臺灣軍談 の所記(平九ノ一九)  
臺灣漂流記 の所記(護小一ノ二六)  
題 盧實(松筆八七ノ七)  
榎 の字(松筆八七ノ七)  
大安寺 (松筆二ノ一四)  
大安殿 大官大寺(松筆七ノ三)  
南都の舊號(雲錦三ノ一七)  
大安殿 「オホヤスミト」ヲ見ヨ  
大衣 は波江とよむ(松筆八七ノ一〇)  
大和尚 の始(理齋六ノ一一)  
大海不容塵 といふ語(松筆七七ノ二八)  
大賀宮 一 解(臺樓上ノ八)  
大雅堂 「イケ」池野一ヲ見ヨ  
大學 支那の(隨意五ノ四四)

大學 (書)「ケイ」經書「シン」四書ヲモ  
石經 不足信(險餘四ノ一九)  
大學寮 に祀れる神像(鹽尻四ノ六)  
下五位以上子孫於(鹽尻三ノ三)  
大覺 といふ語(鹽尻四六ノ二七)  
大覺寺 と清涼寺との公事證(鹽尻六ノ四)  
大神樂 「シ」獅子舞ヲ見ヨ  
大機和尚 (巻波五二)  
大牛 小牛といふ事(雜末二ノ二二)  
大行天皇 「チト」地統天皇ヲ見ヨ  
大極殿 (乘燭二ノ一)(松筆八二ノ一四)  
西岡鶴冠井字 井其古瓦(閑耕一ノ三七)  
大工 工匠といふ(世談一六四)  
少工(或落二ノ一九)  
小工并飛騨匠(雜江三ノ五九)  
家作り其家人を呪ふ事(居龍三ノ一)  
匠匠といふ(安隨一三ノ二八)  
「コウ」工匠「トウ」棟梁ヲ見ヨ  
大官大寺 「タイ」大安寺ヲ見ヨ  
大灌頂神咒經 の所記(鹽尻二ノ一五)  
大慶 珍重といふ語(南留二ノ一五)  
大胡氏 (鹽尻四六ノ七)

大鼓 (世談一〇五)  
の紙しめ(安隨二ノ九)  
樂の大(松筆九五ノ二九)  
大阪にては諸事(鹽尻三五ノ三一)  
手吉田助六の心掛(八水二六)  
朝鮮の片面鼓(雲錦三ノ三三)  
「チン」陣大鼓ヲ見ヨ  
大鼓の家 (松筆三ノ一三)  
大黒 さいふ隠女(松筆八八ノ二三)  
大黒菴 「セウ」細鶴ヲ見ヨ  
大黒天 (松筆六二ノ二二、七五ノ七三)  
遊ヒノ一九)  
神(隨意二ノ二九)(世談一九)  
上四八(白神一〇ノ四六)眼雲三ノ二  
「答問三二」  
は大己貴命なるへきか(安隨九ノ三五)  
は軍神なり(鹽尻三〇ノ一一、五  
五ノ七)  
の像に付て(鹽尻五ノ一三、二〇  
ノ二四)  
摩訶迦維大黒天女(鹽尻七ノ一)  
近江國石山寺傳來(北條上ノ二)  
吉宗將軍自畫の(我衣二八)  
大黒祭、大黒講(松筆四〇ノ二二)  
「シチ」七福神ヲ見ヨ  
大黒舞 (遊遊五ノ三九)  
大根 伊吹山の鼠(閑次四ノ四七)  
「フ」風呂吹「セム」織羅割ヲ  
モ見ヨ

大根園 本郷(さいふ地(鹽塚三四)  
湯島)の起り(鹽尻三七ノ三八)  
大藏 令の考(安隨一九ノ一〇)  
大藏經 綠山三 緣起(一話四五ノ二四)  
宗像田島社の(鹽尻七ノ四、三七)  
大資 (乘燭五ノ一一)  
大字 整の(柳記上ノ六)  
大師 號の始(理齋六ノ一一)  
大師講 (遊遊五ノ五)(鹽尻二〇ノ五)  
大師河原 河崎の碑(南畝上ノ四二ノ一)  
大師粥 「カユ」粥ヲ見ヨ  
大師選座 東嶽山 送の事(塵塚三六)  
大師廻り (くせ二二)  
大赦 (松筆一八ノ八、一一九ノ一七)  
「シヤ」赦免ヲ見ヨ  
大嘗會 (昆陽二三)  
大抵 (蒼梧一ノ下、一)  
の再興(閑自一ノ二)  
悠紀主基(玉ヶ一ノ九、七ノ二九、八ノ三一)  
の齋場(玉ヶ二ノ二四)  
に齋場殿の額屏風の色彩書者の事(安隨二ノ三六)

大將 (ハ)の夜の警衛(内安一七)  
「ハ」標山ヲ見ヨ  
大將 一 危に臨ます(一話二九ノ四〇)  
「シヤ」將軍ヲ見ヨ  
大將軍 の號の始(隣女一ノ二二)  
大尺 さいふ名稱(松筆三八ノ一五)  
大守 の名稱(鹽尻三四ノ三三)(隨意六ノ一三)  
越前の(雜江六ノ九九)  
越前の(太の字(護小一ノ一一)  
「コウ」國守ヲ見ヨ  
大樹 將軍といふ(山下八、二四)  
「シヤ」將軍ヲ見ヨ  
大酒大食會 文化十四年の(宛小下ノ五〇)  
大食會 (茶筆三ノ一八)  
「タン」團魚會ヲ見ヨ  
大食黨 「タウ」陶器ヲ見ヨ  
大人 の稱(隨意四ノ三六)(松筆六二ノ五)  
「ウシ」大人ヲ見ヨ  
大人國 (傍廂一三一)  
大人米 (松筆五二ノ一七、七二ノ七)  
大臣 なアソといふ(白神八ノ八)  
當官の(の諺を呼ばす(松筆八五ノ四〇)  
大臣家 (松筆一一ノ三)  
大盡舞 (内)

大盡舞考證 解題(溫知叢書第一二編ノ内)  
大成經派 の張本永野采女(鹽尻四二ノ四〇)  
大小 大と小の對話(理齋五ノ二七)  
「タウ」刀劍ヲ見ヨ  
大僧正 の始(理齋六ノ一一)  
四「リウ」僧正ヲ見ヨ(松筆一〇六ノ一)  
大戴禮 といふ書(護小五ノ一〇)  
大戴禮記 當日考(雜末三ノ三一)  
大唐 「タウ」玉蜀黍ヲ見ヨ  
大塔宮 のよみ方(傍廂八八)  
大膽 「タン」膽略ヲ見ヨ  
大定通寶 「クワ」貨幣ヲ見ヨ  
大豆 寶永二年勢州に降る(鹽尻一九ノ七)  
大赤良之二世 さいふ卦(昆陽一七三)  
大抵御覽 といふ書(奴風九)  
大典和尚 相國寺の(筆上ノ一)  
「シヤ」柴博士(茶筆三ノ二六)  
大頭 佛愈評僧(隨意一ノ四四)  
僧之博辯(隨意一ノ四六)  
大燈國師 の異聞(鹽尻五三ノ二二)(四  
方月ノ二二)

大徳 さいふ佛語(松筆二八ノ一九)  
 大徳寺 住持繪旨(玉カ七ノ一三) 座敷庭并什物(一話二ノ三〇) 妙心寺開堂入院の禁(鹽尻七ノ一六) 源 中院 等書分くる例(松筆一ノ二二) 納言ナモ見ヨ

大日本史 不立神功記(難江五ノ九三) 月晦の歌(如蘭五ノ五)

大砲 (世談七五)(談正四七) 起原(如蘭一四ノ一五) 白砲の來因(如蘭一三ノ三二) 「ハウ」砲術ナモ見ヨ

大寶令 縣居翁令條略語の話(泊々一四) 事(安隨一九ノ一〇) 「レツ」令ナモ見ヨ

大八車 「クル」車ナモ見ヨ

大般若經 の古本(一話二七ノ一二)

大腹賈 の字義(辯遊附ノ八)

大佛 付其謬(柳記上ノ四〇) の話(驗靈智ノ二五) 松平信綱 を毆ちて錢を鎧る(窓ナ一ノ二六) 洛東の 入用(柳卷一ノ二六) 京都 殿宇造營費用(一話四ノ三〇) に関する古文書(一話四五ノ二三)

大佛餅 (世談三六)(橋遊初ノ五ノ一二)

大便 「クソ」糞ナモ見ヨ

大丸屋 の起り(我衣五八)

大名 (安夜一ノ四一)(松筆四ノ一八) 名稱考(如蘭二八ノ三) の名安元年中にあり(玉カ六ノ二四) 御取立(我衣一六) 諸侯家を下に置くの說(茶筆三ノ一六) 行列(世談一七九) 諸侯儀從(藝苑三ノ一三、四) 打物を持たする(一話二五ノ三九) の心掛け(春波二二) 某侯之愚(鹽尻一ノ二五) 徳川初世諸侯の薨去せる年月日並諸家の姓(鹽尻八ノ一〇) 「ヘキ」戸主ナモ見ヨ

大明一統志 (鹽尻二ノ一二)

大明宮 (一話二五ノ三四)

大物浦 (鹽尻一ノ一二) のよみ方(松筆一五ノ三)

大文字火 東山 (一話二ノ二) (安夜六ノ二四)(世談一三) (唐龍二四)(提燈三ノ一七) 中元大字(東庄上ノ一七) 大門窟 筑前國 一の奇景(安夜七ノ二四)

大問大對 (松筆八ノ二三)

大陽 日月を金鳥玉兔といふ 閑次一ノ一 辨日(技藝二ノ三〇) 二三三分の所在(難未五ノ四〇) 釋教 を本營とす(支向一ノ上ノ一九)

大 の色赤きを以て御祈禱被仰出(鹽尻二ノ二二) 色赤き事血の如し(鹽尻九ノ三二) 「シツ」日月「ヒ」日ナモ見ヨ

大養徳國 改大倭國爲(一餘二ノ三)

大平 (南留五ノ六)

大老 慶長の五(鹽尻九ノ三)

大力 多力(技藝二ノ七) 日本雜異記に記せる怪力のもの(鹽尻三ノ二二) 許殿の(辯遊附ノ八) 高木右馬介の(窓ナ二五) 砂三十三郎の(並惡食の事(奥波四三) 鎌田又八の(奇跡一四八) 石見屋しげの(武俗二八)

大林寺 三州岡崎の(鹽尻四ノ六)

大領 の稱(孝經二ノ一六) 擬、權(松筆一〇五ノ六)

大籠 納子(東庄上ノ一五)

大黃 (技藝二ノ五)

大王 親王を(松筆九三ノ七〇)

太一星 (松筆六三ノ一六)

太為尔歌 考(比古四ノ三七)

太閤 の號(安隨二六ノ一、五)(松筆一ノ一) 自稱(難江六ノ七二)

太閤記 繪本 絶版被仰付(半日八ノ二五)

太公望 の年齢(鹽意五ノ四)

太歳 何居(鹽意七ノ三四)

太子壽傳 太歳廣隆寺の(雲錦一ノ九)

太子傳 作者(安隨三ノ五三)

太子傳曆 偽書なり(安隨一七ノ二)

太神宮 「イセ」伊勢神宮ナモ見ヨ

太神宮御蔭參 「イセ」伊勢參ナモ見ヨ

太瘦生 さいふ語(餘五ノ四)

太々神樂 (三養四ノ一四)

太泥國 (談小二ノ一〇)

太夫 一の稱(孝經三ノ一三)(鹽意三ノ一) (龍鳳四ノ二二) 舞々(松筆六ノ七五) 伎藝に(玉カ九ノ六) 神の宮人を(松落一ノ一九) 清濁のよみ方(理齊一ノ六) 「イウ」遊女「シヨ」賭 ナモ見ヨ

太平 さいふ字(松筆六五ノ七)

太平記 の作者(安隨三ノ三八) の訛(孝經四ノ二) (安夜四ノ一) (春談中ノ九) (類本(難江五ノ二七) 十七卷の袖にの下讀み方(安隨二ノ三〇) 不審の中廣有射怪鳥(安隨一七ノ

一六 太平記評判 さいふ書(安隨一ノ二二)

太平記讀 「カウ」講談師ナモ見ヨ

太平記理盡抄 (望海七四)

太平御覽 といふ書(松筆四ノ三)(餘四ノ二)

太平廣記 評(鹽意六ノ一九)

太平寺 尾州春日井郡(鹽尻五ノ一三)

太平棒 の圖(半日一ノ三)(一話一九ノ三)

太平樂 等の樂の字音(安隨一ノ二八) 「フカ」舞樂ナモ見ヨ

第一 さいふ語(松筆八〇ノ三七)

第宅 「カガ」家屋ナモ見ヨ

醍醐山 (醍醐上ノ一) の詩(醍醐上ノ二四) 佛書に見たる(松筆一八ノ二六)

醍醐天皇 延喜の聖代(柳卷二ノ二七) 寒夜御衣を脱し給ひし考(燕石一ノ二八)(南辨八) 延喜御遺誠(如蘭一八ノ二五)

醍醐冬照 の逸事(大海一)

退紅 (白紳五ノ二四)

青間 太鼓もち(辯遊九ノ二六)

大鼓持の名稱の起(松筆一〇四ノ三) (談小一ノ二二)

耐罪 (談小一ノ二二)

對山 「トク」徳川光貞ナモ見ヨ

對山集 (一話一九ノ一二)

對食 の義(辯遊附ノ六) (榜海上ノ二五) といふ熟字(松筆六六ノ一一)

對雷家稿 抄録(一話四一ノ二七)

體矢 「サウ」葬式ナモ見ヨ

體用 の說(談小一ノ四六)

落紙 考(一話一四ノ四四)

内侍宣 (松筆八七ノ二、九一ノ二)

内裏 の字(松筆六ノ二)

免車 の義(辯遊附ノ六)

怠狀 (安隨四ノ三三)(松筆一五ノ三) 名符(安隨一ノ二六) おこたり文(孝經四ノ二八)(玉カ二ノ一)

「ミヤ」名簿ナモ見ヨ

帝釋 梵天(鹽尻一ノ一六)

貸借 「カシ」貸借「シヤ」借金ナモ見ヨ

泰水 の義(鹽意五ノ一八)

泰平 の民(橋遊二ノ一) 日久貨利業於商賈(鹽意三ノ三五) 治世の歌(鹽意二ノ四二) 「チウ」治亂ナモ見ヨ

泰和重寶 さいふ錢(二話一五ノ四四)  
胎見 の形(安富八ノ三七)(安富五ノ二二) 双生合鉢(死小中ノ一九〇)(一九三)  
胎息胎食 の方(松筆七ノ三)  
胎毒 小兒頭瘡の妙藥(兼葭三ノ二二)  
帶刀 勅授(拾五ノ三)  
帶刀 公卿の(鹽尻三ノ五) 佐賀川上の盲人(鹽尻一)  
町人の(柳巷二ノ二八) 給師町人の(我衣二二)(一話四八) 刀をさかぬ處(松筆九ノ五)  
御免(松筆六ノ三九)  
田井尻 鎌倉といふ地(松筆一〇ノ四)  
當麻 相州といふ地(松筆二〇ノ四)  
當麻寺 の法華堂(鹽尻一〇ノ二四) 曼荼羅(鹽尻三七ノ一九)  
玳瑁 の産地(安富八ノ七) の事(白雜考卷四)(白道考四)  
松明 脂燭(安富二ノ三八) 脂燭(鹽尻一〇ノ三) 神の製法(安富二ノ一五) 徹書記の頭(安富二ノ一四) 「ラウ」蠟燭ヲモ見ヨ  
江球 の柱の事(白雜八ノ二三)

②タウ  
たうざう といふ語(松筆七ノ二二)  
たうさき 「シタ」下帶ヲ見ヨ  
たうやく 「カウ」符葉ヲ見ヨ  
堂 小豆島の四ツ堂、柳木の傘堂(雲錦一ノ一八)  
堂兄弟 (采燭五ノ二)  
堂島米相場 の沿革(浪花四) 「コメ」米相場ヲ見ヨ  
堂童子 (松筆八ノ一)(一六ノ三三)  
唐 唐花唐鳥等の字(安富二四ノ一二)  
唐高宗 自作新羅破入倫(鹽尻七ノ三六)  
唐傅宗 の崩去(鹽尻五ノ四〇)  
唐憲宗 の賢愚(鹽尻七ノ三七) 通鑑綱目一の死を崩さす する事(鹽尻六ノ二五)  
唐玄宗 の論(松筆九) の性行(鹽尻四ノ二九三)  
唐一行豫知 曼摩(鹽尻六ノ四) の子女(鹽尻二ノ七)  
唐太宗 評(鹽尻一ノ二四)  
唐代宗 の好學(鹽尻七ノ三六)  
唐寅 明の別號(鹽尻二ノ三七)  
唐韻 (雜末四ノ一四)  
唐詩句解 (海下ノ三五)  
唐詩選 呂李于鱗の選にあらす(一話四ノ二)

の大流行(閑散下ノ二九) 雜句解釋條(海下ノ一九) の誤(鹽尻七ノ一五)  
唐書 五代史法(昆陽一〇四)  
唐船 「タワ」外國船ヲ見ヨ  
唐宋八大家選 (鹽尻一七ノ八)  
唐々春 といふ熟語の珍事(一話四五ノ四四)  
唐士鳥 「ナ」七草ヲ見ヨ  
唐拈提寺 大和(撰書二ノ二二) 金堂鷄尾の鈴  
唐九老 (支同三ノ中ノ一四)  
唐伯虎 の詩紙(筆上ノ四)  
當 の字のつひさまた此を今のといふ事 (玉か九ノ二七)  
當家 といふ詞(松筆九ノ二九)  
當色 (安富一ノ一五、一七、七ノ四、八ノ一六)(安富四ノ一九)  
當心 といふ義(兼葭上ノ一八)  
當世武野俗談 解題(武俗二)  
當番 一定番(松筆一三ノ一五)  
常立 「ハウ」袍ヲ見ヨ  
套語 (多波中ノ三二)  
黨 の字義(鹽小四ノ四〇) 一高家の差別(松筆九ノ三七) 松浦一兒玉(鹽小一ノ四)

道因法師 の月見ればの歌(鹽尻三四ノ二〇)  
道行 新羅の僧(一管二ノ三四)  
道學 三教論(鹽尻六ノ四五、八ノ二三) (如來)ノ二二二  
道家の教(鹽尻四ノ三二)  
道士の術と道書(鹽尻四ノ一六)  
鬼神の術(鹽尻二六ノ六)  
廢佛寺建佛觀(鹽尻七ノ三七)  
道具 といふ名詞(一話一四ノ四)(鹽尻四ノ一八)(松筆一〇ノ二九) 器物を「ミ」ふ(雜末上ノ九)  
道具落し(雜末上ノ九)  
道具屋 取賣、藏廻り(雜末二ノ下ノ二七)  
道灌山 (聖海一八)(兼葭前上ノ七)  
道元 曹洞宗の祖(鹽尻三ノ二五)  
道藏經 の函數(雜末四ノ二二)  
道士 呂洞賓の術(鹽尻五ノ二九) 神仙治癒法(鹽尻四ノ八) 「タウ」道學(鹽尻一) 仙人ヲモ見ヨ  
道者 (玉か八ノ三六)  
道昌 僧の偉績(鹽尻八ノ二七) の法力(雲錦四ノ三〇)  
道成寺 傳説(世事四一) 鐘銘(鹽尻五ノ二五)(松筆八ノ二二) の鐘の語(安富二ノ八)  
道成寺考 解題(溫知叢書第七編ノ内)

道照 僧(鹽尻一ノ一)(松筆二〇ノ三) 道祖神 (略語上ノ一六)(鹽尻九ノ四〇) 石神(雜書一ノ一) 佐部乃加美(鹽尻六ノ七五) 祖神、祖道、祖神(鹽尻六ノ七八) 岐神(三發三ノ一六)  
道中駕籠 といふ兒戯(鹽尻六ノ下ノ八)  
道澄寺 の號(南散上ノ二) 「カテ」鐘ヲモ見ヨ  
道場法師 の傳(鹽尻三ノ二二) 勝手(鹽尻三ノ二二) 道哲 土手の(奇跡三ノ三)  
道徳 日本古來の(三ノ上ノ八) 戰國には「なく唯利害あり(鹽尻二ノ一)」  
道念節 (雜末附ノ一七)(世談二一七) 「ヨウ」小唄ヲモ見ヨ  
道富丈吉 雜種(六ノ二九) 由緒書(一話道風のふるひ筆「シユ」手蹟ヲ見ヨ) 上の事(白雜四ノ二〇)(雜末二ノ一五)  
道服 拜領の(白雜七ノ五) 「ハオ」羽織ヲモ見ヨ  
道本禪師 の歸化(一話三ノ一九) といふ食物(雜末一〇ノ上ノ三) 道理 理解(鹽尻二ノ八) (梅叢二九) 「ミチ」道ヲモ見ヨ  
道隆 僧(雜末六ノ一三)

道了權現 (尊菴二ノ二〇)  
道路 匿路(松筆一〇五ノ五二) 造(昆陽七) 信長大に「を」修む(鹽尻四三ノ四) 導引 を能經といふ(尊菴一ノ八) 「アン」按摩ヲモ見ヨ  
田植 住吉遊女の(世談二二八) (柳記上ノ一)(一話一四ノ六) 雜末上ノ一(松筆七ノ二九) 寂寞自筆の(鹽尻一ノ一九)  
田淵明 の傳道、五柳先生(南散四二) 人物(鹽尻五ノ一九)  
陶器 清(鹽尻五ノ二二) の詩(一話三ノ一八) をスエミイ(老牛中ノ二三) 瀬戸物、各種(世談六九)(談正道)  
茶碗、秘色、柴窯、定窯、汝窯、哥窯、官窯、景徳鎮、龍泉、古窯、建水、油滴、南京、瀬戸、瀬田、藤田、後醍醐、常陸、祖母、懷妊、遊二ノ下ノ二〇ヨリ) 吳洲といふ(鹽尻三〇ノ一)(四方月一五) 吳洲(鹽尻二ノ下ノ二四) 桂林下ノ一 尾州(鹽尻四ノ四) 瀬戸物(南散上ノ二)(鹽尻二ノ一四) 瀬戸物の沿革(如來) 瀬戸物の諸名(宮川四ノ八) 十錦(雜末一ノ一〇) 大食(鹽尻二ノ下ノ二八)

やき付給(二ノ下ノ三〇)  
磁器をゆで、川ふる事(遊遊二ノ下ノ三)

磁器のレシウニョリの本字(鹽尻七ノ四)  
やきつき(遊遊二ノ下ノ三〇)(鹽塚六三)

唐津古(遊(一)話三九ノ三二)

唐土の(廣龍二六)

部焼「セイ」伊万利焼「イム」忌部焼「ヒセ」備前焼「マツ」松本焼「ミ」美濃焼「ラク」樂燒「ケン」乾山燒「セト」瀬戸焼「ヒラ」平戸焼「ト」土器「モ見」

陶器商 天和頃の(我衣二二)

陶九成 陶器の(餘餘四ノ二七)

陶工 「シヤ」祥瑞「シユ」俊慶「モ見」

蕃椒 (世談五)

蕃椒器 面白き(見小中ノ一〇〇)

蕃椒味増 (燕五四ノ四)(雲維前下ノ四)

蜀黍 (世談五)

鯛魚 「ウオ」魚「見」

鯛鶏 「ニハ」鶏「見」

鬪争 士の三不鬪(松筆五ノ一八)

湯陰羨 「ウシホ」チ「見」

太刀の名所(安隨一八ノ三七)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

太刀ののせめ(秋雷四ノ一〇)

峙(一)いふ字(一話二五ノ六)(南敵上ノ一)

刀圭 刀の名義(茅室中ノ三七)

刀剣 刀と劍との別(圓珠三四)

古來 刀の名義(傍叢七一)

太刀 刀の別(桂林上ノ二)(難江一ノ五)

刀 脇差、腰刀、さす、打刀、野太刀、刀の流の立派、柄、町人の大小、目貫、金鍔、牡丹の金具、くわ、金打し、ま、七子獅子、道、二ノ中、四ノリ、七

小刀、太刀、野太刀、さや巻(安隨二)

刀の「ム」子「ハ」ミ「ナ」なる事(松筆九四)

刀の焼きの事(一話六ノ四)

刀ののせめ(見陽九)

金刀 刀の支那名義(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀ののせめ(見陽九)

刀の徳(宮川二ノ八)

名作刀退妖魅(安隨一七ノ五)

太閤(二)を其持主を中つ(柳菴一)

淺邊水庵座敷(刀置を定置く事)(白秘四)

刀拜領に付神妙の振舞せる小姓の事(白秘三三)

人の(白秘三四)の見苦くして足袋の新きを嘲る(白秘三四)

血刀(松筆七ノ四)

三尺の劍(南留五ノ一)

古代劍(南留五ノ一)

神代劍(南留五ノ一)

四所劍(南留五ノ一)

飾劍(松筆六ノ一)

銀劍(松筆六ノ一)

川劍(松筆六ノ一)

平劍(松筆六ノ一)

天國劍(松筆六ノ一)

草薙劍(松筆六ノ一)

六切劍(松筆六ノ一)

白蛇劍(松筆六ノ一)

高松の海中より出山劍(柳菴一ノ一)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

太刀 昔の太刀(圓珠六五)

大小、刀脇差(松筆九ノ六五、八六)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀の大小(南敵上ノ一)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

刀劍 刀劍折紙代貫の事(安隨一一ノ二二)

強盗竊盜の字(安隨二ノ五)  
 盜才(傍廂九七)(安隨一ノ一六)(安夜  
 古は國守すら—を恐れし事(如蘭一  
 一九)  
 入たる時心得(茶筆三ノ二四)  
 入防くへき説(茶筆三ノ二五)  
 不慮の事(安隨一ノ二〇)  
 不慮の事(安隨一ノ二〇)  
 用心の事(安隨一ノ二〇)  
 奇談(半日一五ノ一)  
 源次郎部下の罪を負ふて自訴す(憲  
 二ノ四一)  
 恩を報す(老長二九)  
 牛込長安寺の(半日一四ノ一〇)  
 修明門院に強盜押入し事(玉六ノ三三)  
 芝如來寺に入りし(憲二ノ三〇)  
 代官町の追廻、四谷千日谷追廻(半日  
 五ノ九)  
 町人辻盗に逢ふ(半日一五ノ二)  
 大膽の小兒を殺せし話(憲二ノ四四)  
 警務録(死小下ノ六六)(憲二ノ二〇)  
 兼家集に伏せし話(不問三ノ一)  
 兼家に物盗まれし時よめる諸人の歌(及  
 埃七ノ二八)  
 のよみし歌(一話四八ノ三五)  
 通捕(憲一ノ七三)  
 吟味(不問四ノ三)  
 の嫌疑(半日一五ノ二九)  
 「シラ」白波「ドロ」さるほ「ラッ」亂  
 波チモ見ヨ  
 盗與 といふ語(松筆一〇ノ三三)

湯餅 さいふもの(松筆八五ノ三〇)  
 攤打 (松筆七六ノ八、八六ノ二六)  
 投枚記里 (擲海上ノ一九)  
 塘報 の字義(長陽五二)  
 專女 「キツ」狐ヲ見ヨ  
 專女 「アツ」狐ヲ見ヨ  
 玉蜀黍 大唐(松筆六ノ一七)  
 一莖二葉(傍廂一六四)  
 ●タエ  
 たえ 古語—の義(隨意二ノ二五)  
 筑前 仁徳紀の—字義(比古三ノ三一)  
 ●タカ  
 たかうれ といふ詞の義(蒐集九八)  
 多賀氏 半一の事(白紳一ノ一九)  
 の姓付高忠の事(白紳一  
 〇ノ一六)  
 多賀高忠 (安隨二ノ一四)(白紳一〇ノ  
 一六)  
 多賀常政 の所藏珍奇篋目録 一話一  
 一九)  
 多賀國府 多賀城(孝經二ノ二二)  
 多賀城碑 「ツホ」壺碑ヲ見ヨ  
 高 米錢の多少に—と書く事(燕石二ノ一  
 八)

高井宣風 の歌(一話一七ノ六)  
 高市 和州—地名考(笈埃五ノ二六)  
 高尾 遊女—(蒐集三六)(笈埃五ノ二六)(奇  
 跡三三)(松筆七四ノ二〇)  
 所持錢水入(奇跡一〇三)  
 の發句(一話四三ノ二二)  
 三浦 考(奇跡一〇七)  
 萬治 出生地(奇跡一九)  
 三浦遊女 の事(松田二五)  
 三浦屋 の文(一話三ノ三七)  
 遊女高尾 (死小中ノ一七八)  
 高尾山 鐘録「カチ」鐘ヲ見ヨ  
 高き屋の歌 は仁徳帝の御製にあらす  
 (難江五ノ七八)(半日五  
 ノ八)  
 高木右馬介 大力の話(憲二ノ五一)  
 高木清秀 (主水佐)の肖像(鹽尻三  
 ノ五)  
 高桑雲元 醫善長堂—家系并同家  
 奇蹟(半日七ノ二二)  
 高倉天皇 の崩御(鹽尻一ノ一六)  
 高砂 の謠曲(南嶺四ノ一)  
 高砂の尾上 さいふ語(松筆四ノ六三)  
 高砂樹娃 (安隨一〇ノ二五)(二上八三)  
 高階氏 の祖(鹽尻一四ノ四)  
 高階爲章 の名のな(玉六ノ二四)  
 高島 石見の海なる—(玉六ノ二四)  
 高島秋帆 (四郎太夫)の救免(内安八)

高島千春 の略傳及其歌(摺書四ノ二二)  
 高瀬川 京都—(拾玉四ノ〇)  
 高瀬舟 東川—(世談一七六)  
 高田與清 「オヤ」小山田與清ヲ見ヨ  
 高田友清 興清の祖—の傳(松話  
 一八)  
 高千穂峰 日向國—を連日峯とい  
 ふ(鹽尻四ノ一〇)  
 又二上卷(二上)  
 生稻(安隨一〇ノ一四)(二一七  
 〇)  
 高槻 攝州—(閑耕一ノ三三)(雲錦一ノ  
 一四)  
 高津神社 (拾玉一ノ三)  
 高津宮 のうた(拾玉一ノ二)  
 高津山 (拾玉一ノ七)  
 高殿 と高屋(松筆三ノ三九)  
 高荷 商賈の—(遊遊一ノ一五)  
 高野みこ (松筆六五ノ三八)  
 高野明神 の使犬(松筆一ノ一)  
 高橋氏 組連の家の興廢(白紳四ノ三二)  
 高橋右近將監 の姓(白紳一〇ノ一八)  
 高彦崎 (拾玉一ノ五)  
 高天原 (安隨六ノ二九)  
 高松 の講堂(談小三ノ三五)

高宮維齋 の本(一話六ノ三)  
 高盛 の飯(安隨三ノ四五)  
 高向玄理 さいふ姓名の考(乘燭一ノ四)  
 高山彦九郎 の傳(茶筆三ノ四)  
 上州—の事(一話  
 一三ノ三九)  
 高山仲繩 高行(假世六四)  
 さいふ名(圓珠六三)  
 四十八(松筆九七ノ二四)  
 くら(安隨二ノ三九)  
 一羽二羽といふ—の鳥(秋齋四ノ  
 一)  
 一の始の辨(秋齋四ノ二)  
 帝の起(笈埃四ノ九)  
 帝の起(隨意五ノ三)(遊遊二ノ二  
 四)  
 菓—を飼ふ事(白紳二ノ一四)  
 のせり(安隨一三ノ一三)  
 の餅袋に鳥さし(安隨一九ノ三四)  
 師の法(如蘭四ノ二四)  
 續日本後記中—の事(白紳一〇ノ一  
 二)  
 篠山の老臣—の事に付談めし話(憲道八  
 二)  
 「ガリ」對熊チモ見ヨ  
 應飼 (安隨八ノ二二)  
 源齋頼の事(斷遠上ノ二四)  
 無禮(安隨一三ノ一〇)  
 大爺の装束(安夜四ノ三)  
 大爺の帽子(安夜四ノ三)  
 承應中—の喧嘩のこと(談小一ノ八)

應狩 御鷹野御弓の白鳥下さる(半日二  
 六ノ三七)(松筆八八ノ五二)  
 應三百首 抄録(一話一九ノ九)  
 の著鷹の考(死小下ノ四四)(蒐集七九)  
 應備 の稱(白紳二ノ一四)  
 應匠 匠小刀銘(一話六ノ三七)  
 應掌の流(柳菴二ノ一八)  
 應司兼照 の流(大海四)  
 應の蟲 の比喩(花月一〇六)  
 應場 三家に—を賜ふ(談小二ノ三七)  
 「ハカ」種ヲ見ヨ  
 他界 さいふ詞(孝經四ノ二)(松筆九四  
 ノ五四)  
 箏刀 (安隨一〇ノ四)(二上五五)  
 籬懸 —證考(奇跡一三八)  
 籬廻し (遊遊六ノ下ノ三〇)  
 松榮 九州産の—(笈埃八ノ一〇)  
 互先 (孝經四ノ三)  
 田上 さいふ地名(松筆六六ノ一一)  
 鐵力木 鐵刀木は—なるべき事(一  
 話一八ノ四二)  
 寶 の字訓(二上八二)(安隨一ノ二三)  
 好める物即—(鹽尻二八ノ二五)  
 古は貝を以て—とす(橋筆二ノ一ノ二)  
 土中の—(閑耕四ノ二)



「サイ」は寶ヲ見ヨ  
寶合の記(奴胤一八)  
寶盡しといふものに違ある事(玉ツ六ノ一八)  
寶の山(さいふ山)(一話二〇二八)(燕石四ノ二)(松筆八三ノ四五)  
寶船(の給(安隨二三ノ九、一〇)(一話一ノ一九)(近事五)(松筆七三ノ一六)  
大隈にて「を賣る目(浪花八)にける歌(世事四七)

たき(何としたりき等いふ)の字(安夜五ノ二)  
たきのはん(松筆五ノ二二)  
たぎま道(松筆一四ノ二二)  
多紀氏(の語(難末二ノ五五)  
多氣大神宮(選ノ三)(鹽尻三ノ三五)  
瀧(「瀧の別(鹽尻三ノ九)  
瀧(「瀧布水瀧の差別(松筆一〇六ノ六)  
音なじの(安埃六ノ一〇)(難江四ノ一六)  
瀧井山三郎(歌師役者(川捨下ノ一)  
瀧川一益(一益のよみ方(善筆一ノ二六)  
瀧川雄利(白紳一〇ノ一八)  
瀧口(「フシ」武士ヲ見ヨ

瀧澤興繼(の小傳(苑小首ノ三)  
瀧澤興旨(馬琴の兄(六ノ二二)の句(燕石六ノ二三)  
瀧澤興春(馬琴の兄(六ノ二三)の句(燕石六ノ二三)  
瀧澤興也(馬琴の曾祖(石六ノ一九)の歌(燕石六ノ一九)  
瀧澤解(「キヨ」曲亭馬琴ヲ見ヨ  
瀧のちちわ(さいふこと(松筆一〇〇ノ下ノ一〇)  
打毬(「遊遊四ノ六)(同四ノ三六)(同六ノ下ノ一〇)  
打毬と(一話一〇ノ九)  
の山來及觀(詩(一話二ノ三三)と見えたる(骨董下前ノ一〇四)に關する(半日四ノ二七)(松筆六ノ二三)  
薪(「薪引(修廂四六)  
薪を抱て火を救ふ(さいふ事(松筆九ノ三七)  
紫吉尼(なタギニと訓む事(鹽尻三三ノ「イツ」飯糰ヲ見ヨ  
吒呎尼天(聖天の國(松筆一ノ三)  
たくらた(松筆九ノ三六、六七)  
たぐる(といふ俗語(蘭遊上ノ八)  
托(の字義(長陽五八)

托鉢(松筆七八ノ八九、八一ノ四四)をヤケと訓む(南留二ノ三)(南辨一〇)宅間(古佛指(か筆の事(鹽尻四ノ一九)鐸(「サナ」鐸ヲ見ヨ  
澤菴和尚(遺放の始末(碧海五ノ二)  
澤菴(「世談四)(松筆二ノ一)  
澤菴屋敷(「カウ」香の物ヲ見ヨ  
託宣(神託(安隨八ノ四)(安夜五ノ二八)禁濫解(者(鹽尻三ノ三〇)  
手袂(といふもの(傍廂八五)  
琢淳和尚(秘傳の藥法(善筆三ノ二二)田口(地名にはタカチにて姓にはタノクチなる(白紳下ノ二二)  
拷繩(圓珠四九)  
たけり(と非の義(理齊五ノ一八)  
竹(一説(松筆六三ノ三三)といふ名(圓珠七〇)

「瀧」(鹽小五ノ二八)  
大同(「瀧三ノ八)  
大明(「瀧三ノ八)  
班(及冬の筭(松筆六ノ四五)  
孟宗(四方(安埃八ノ九)  
方(「瀧三ノ一七)(松筆六ノ四六、一〇九ノ二九)  
瀧州高須の異(鹽尻一ノ二二)  
草津の班(安埃三ノ二八)  
藤光の秘密(記(一話三九ノ三四)  
唐(「瀧三ノ一七)(松筆六ノ四六、一〇九ノ二九)  
西北に瀧(松筆四ノ二二)  
瀧川(「瀧三ノ一七)(松筆六ノ四六、一〇九ノ二九)  
扶野名(安隨二ノ四五)  
主人亡ふ時(鹽色せる事(松筆九三ノ六六)  
東嶽山(瀧澤殿前に「瀧」の事(鹽尻一ノ一)  
御歌(會終(年久(鹽尻五ノ一四)  
の實なる(鹽尻三ノ三〇)(鹽小五ノ三八)  
竹馬(「遊遊六ノ下ノ四)(武藏一ノ五六)  
竹垣奇水(「梅日(一三三)  
竹腰道珍(狂歌師(宮川二ノ四)  
竹腰正信(鹽尻四〇ノ三三、五五ノ二三)  
奥野佐太郎を救ふ(鹽尻一〇ノ三三)

竹柴(武藏の事(南留五ノ一四)  
竹柴寺(武藏(蘭遊上ノ二三)  
竹編絆(「シユ」編絆ヲ見ヨ  
竹田近江(老樂二)  
竹東(松筆八ノ七五)  
竹煮草(の圖(鹽尻三ノ二)  
竹内氏(の系圖(白紳四ノ一五)  
竹内直躬(の略傳并詩歌(擁書四ノ二二)  
竹の子婆(武俗四二)  
竹之匠寺(鹽花三〇)  
竹籠(のよみ方(松筆五ノ二〇)  
竹村武藏(と其子(一話三九ノ三七)  
竹本安藝守(の自殺(半日一四ノ二二)  
竹本義太夫(竹肥前掾(遊遊六ノ上ノ三八)  
竹本住太夫(俗耳一八)  
武市善次郎(の兄弟復讐の爲出發の事(苑小上ノ一〇〇)  
武川衆(の文背(一話二五ノ三五)  
武田氏(の系圖(白紳四ノ二三)(同二ノ七)  
武田勝頼滅亡記(といふ書(一話二一ノ一五)  
武田信玄(鹽尻三ノ七)(鹽意一ノ二四)

の性行(茅窓上ノ七)  
の知言(梅叢八)  
の歌亡國の謠(なす(梧拾二)  
信州諏訪社にある(鹽五ノ三六)  
神州(「瀧三ノ一七)(松筆六ノ四六、一〇九ノ二九)  
武州八王子(の法度書(鹽尻三ノ二三)  
家臣惣騎馬の數(鹽尻二ノ二六)  
諏訪太刀打の時(の打物(鹽尻一六ノ一〇)  
の幼名勝千代の因縁(鹽小五ノ一八)  
諏訪氏の女を納る(鹽小五ノ三)  
銚野(「瀧三ノ一七)(松筆六ノ四六、一〇九ノ二九)  
の辭世(筆上ノ一七)  
は信玄の外孫なり(白紳一〇ノ一三)  
武田二位(は信玄の外孫なり(白紳一〇ノ一三)  
武田信繁(の賢明(驗靈智ノ四〇)  
武内宿禰(「菅二ノ一)(支同三ノ中ノ二五)  
論(如蘭二八ノ一七)  
の名(一話二ノ四五)(比古三ノ二五)  
の謠(鹽意四ノ二二)(南留一ノ二二)  
釋覽論(一話四ノ三七)  
は臣下の列にあらず(如蘭二ノ一一)  
武内宿禰紀宗徳(「ヨロ」體の名所ヲ見  
茸狩(詠(於和歌事(閑自二ノ六)

**多計久良戸** (松筆六ノ一六)  
**多氣窓の整** (といふ珍木(閑次三ノ二〇))  
**建筒革命** (簡の字九簡に作るべき事(鹽尻七ノ一九))  
**建御名方神** (事代主神(一五))  
**符** (符(遊遊一〇)上ノ一九)  
**多田院** (攝州(一話一三ノ二四)(笈埃六ノ一四))  
**多田六権現** (鹽尻五〇ノ二五)  
**多田義俊** (桂秋齋の著書(安隨五ノ二九))  
**多太加** (万葉集に「さいふ詞(玉か入ノ一七)」加といふ詞(玉か入ノ一七))  
**多々羅** (といふもの(松筆一六ノ二))

**蛭に化す** (閑掛三ノ一九)  
**蛙** (さなる(笈埃四ノ一)(兎小中ノ五四))  
**章魚船** (といふ動物(笈埃四ノ一)(鹽尻九ノ四三))  
**蜻蛉師** (橋本初ノ三ノ一五)  
**多胡碑** (上州(一話八)(柳初ノ一六)(松筆六ノ一八)(柳初ノ一六)(松筆六ノ一八)  
**多胡眞益** (文註釋抄(兎集九五))  
**田子浦** (笈埃二ノ二九)(松筆一五ノ一七))  
**太宰春臺** (小傳(獨語ノ首)の居所(一話六ノ四〇)の好奇、其著、其著書(鹽尻一六ノ三二))  
**太宰帥** (の父(閑散下ノ二〇))  
**太宰大貳** (小貳(秋齋二ノ八))  
**太宰府** (官人(鹽尻三三ノ三五))

**太宰府天滿宮** (の奇傳(秋里下ノ一))  
**たしかに** (といふ俗語の字(安隨三ノ一四)(安夜五ノ三))  
**たしべ** (といふ歌(一宵一ノ一九))  
**山車** (舞臺(遊遊五ノ二二))  
**打秋風** (の義解(續見五三))  
**但馬國** (の大雪(半日一四ノ一三))  
**田島宿** (海西一ノ七)  
**田島神社** (筑前宗像(一話七ノ三七))  
**田代** (松筆一六ノ一七)閑田未開田の  
**太政大臣** (久安五年通忠任(一話七ノ三七))  
**太上天皇** (のよみ方(安隨四ノ四八))  
**太中** (上皇天皇に御對面の裝束(安隨三ノ二三))  
**多謝** (といふ字(松筆四〇ノ八))

**タス**  
**樽** (藤(興重一ノ三五))  
**小兒** (安隨四ノ七、六ノ一)  
**木綿** (安隨五ノ一四)(居龍三)(老牛上ノ一五)  
**奪補** (安隨一八ノ二八)  
**タソ**  
**たそかれ** (さいふ詞(年々五ノ一九))  
**タ**  
**たしう紙** (玉か七ノ五)  
**たすをこねる** (といふ俗語(遊遊六ノ下ノ九))  
**たいたのめ** (といふ観音の歌(居龍三〇))  
**たいらめ** (の花(傍廂一〇八)(比古三ノ四七))  
**たいら山** (森岡城下(閑掛一ノ三九))  
**多田院** (攝州(一話一三ノ二四)(笈埃六ノ一四))  
**多田六権現** (鹽尻五〇ノ二五)  
**多田義俊** (桂秋齋の著書(安隨五ノ二九))  
**多太加** (万葉集に「さいふ詞(玉か入ノ一七)」加といふ詞(玉か入ノ一七))  
**多々羅** (といふもの(松筆一六ノ二))

**田達音** (は田口達音なるやの考(白筆下四ノ四六ヨリ八))  
**墮胎** (は古よりあり(閑掛下ノ一八)(北邊古の術(松筆一〇六ノ一〇))  
**敵放** (の刑(我衣一九))  
**但し** (の文字(我衣一ノ四〇))  
**只野眞葛女** (の傳(兎小中ノ二一六)(奥波)(遊遊一ノ上ノ八)(松落一ノ五二))  
**疊** (の上下(柳記上ノ三八))  
**龍** (に木末あり(一話四一ノ一三)(松筆一〇五ノ二四))  
**龍** (手(東屋上ノ五))  
**龍** (龍(松筆三ノ七)(安隨八ノ二)(安夜三ノ二七)(松筆五ノ二))  
**兩面縁** (北邊二ノ二)(安隨二ノ九)  
**皇居中ノ口** (内安二三)  
**土** (を積重ねて其上より飛ぶ事(アジ武土ヲ見)(松筆八七ノ二))  
**疊紙** (松筆八七ノ二)  
**疊詞** (離江七ノ一〇)  
**疊算** (遊遊八ノ二四)  
**疊浦** (松筆九六ノ二六)  
**臂** (たむきといふ詞(離江三ノ二二))  
**祟り** (神佛の(一話一七)(海四三ノ四))

**タチ**  
**たち** (神うち入ち公たち等の(一話二ノ三))  
**たちひの花** (圓珠一五)  
**太刀** (「タウ」刀剣ヲ見)  
**太刀契** (は二物なり(松筆八九ノ一))  
**立** (馬に何一さいふ(松筆九六ノ三三))  
**立雪齋** (故實家(安隨一ノ二))  
**立居** (さいふ詞(松筆九ノ三))  
**立板に水を流す** (松筆二ノ一)  
**立入氏** (上の御介(一話二ノ二))  
**立賣** (遊遊一ノ二)  
**立枝** (さいふ事(橋田下ノ八))  
**立枯** (松筆九五ノ一〇〇)  
**立聞** (松筆九三ノ三五)  
**立鏡** (松筆一〇六ノ二二)  
**立原任** (香所の逸事(如蘭四ノ一八))  
**裁付** (牛馬四七)(遊遊二ノ上ノ一一)  
**橋** (「モ」股引「カ」袴ヲ見)  
**橋** (座橋と(閑掛三ノ一〇)(松筆七五ノ三七))  
**南殿の御階の櫻** (玉か六ノ九)

橋氏 「ミカ」蜜柑ヲ見ヨ  
 のはしめ(春淡上ノ五)  
 の爵位(二上九〇)  
 是定移祿氏(安隨一〇ノ三〇)  
 橋枝直 狐憑を叱れる話(泊々三三)  
 狐憑(松話三四)  
 橋千蔭 「カト」加藤千蔭ヲ見ヨ  
 橋常樹 道徳のうた(松筆五ノ一九)  
 橋逸勢 のよみ方(閑耕二ノ一〇)  
 橋媛 の祭祠(前留一ノ二五)  
 橋諸兄 の墓(松筆九三ノ八二)  
 橋康廣 か朝鮮に使者する事(談小二ノ三三)  
 三(四六)  
 橋八衛 質名(奴風二四)  
 多治比 請(三)字爲丹界三字(安隨一七ノ二二)  
 多治比島 左府(中ノ七)の長壽(支同三ノ九七)  
 駄賃 又運賃(鹽尻三ノ六)(松筆九六ノ九七)  
 ●タツ  
 たつかう記 の本字(安隨一六ノ三三)  
 たつか弓 「エミ」弓ヲ見ヨ  
 たづき 「オノ」斧ヲ見ヨ  
 たつ春 さいふ事(松筆二ノ八)  
 田鶴 鶴(一)圓珠三  
 川(二)左談み合せたる歌(筆下八一九)

龍草廬 龍公美十三歳にして詩を作る(松話一七)  
 龍御山 (鹽尻三〇ノ九)  
 龍の口 水の落口を——といふ(松筆七ノ五)  
 龍の口 相模國——といふ地(松筆一〇ノ三九)  
 龍卷 龍の巻(一)背二ノ九  
 享保二十年の——(松筆一三〇)  
 不忍池の——(話四〇ノ四)  
 立つ さいふ詞(松筆九六ノ二二)  
 立田川 (玉)一ノ七、二ノ八(難江四ノ九)  
 立田姫 佐保姫(松筆一六ノ六)年々四ノ二七、二七七)  
 立田山 (鹽上ノ二四) 談談七ノ二七) 小ぐらの峯(玉)五ノ三七)  
 おきつ白波(難江二ノ五三)  
 達者 達人(松筆七〇ノ一)  
 達嚙 (松筆八ノ三四)  
 達池 (松筆八ノ三八)  
 韃靼國 (傍廬六六) 越前の商船——に漂流の記付 言語一斑(鹽尻三七ノ一一)  
 武官の品嘗(鹽尻三三ノ四)  
 無垢珍(鹽尻一ノ二二)  
 姉妃お百 の實説(話一ノ七)  
 調布 (安隨七ノ三三) 安夜二ノ三二)

貴ふ(きもの) 諸士の貴(松筆五〇ノ三〇)  
 手綱 「シタ」下帯ヲ見ヨ  
 手綱うたする 「エホ」鳥帽子ヲ見ヨ  
 辰の市 (梅日一ノ四)  
 辰祭 (傍海下ノ七)  
 辰巳屋惣兵衛 神樂師——(二話二〇ノ一五)  
 ●タテ  
 たてわけ さいふ物(房籠五七)  
 たてをつく さいふ詞(松筆七八ノ八〇)  
 たてくしき さいふ詞(松筆七八ノ七九)  
 たてまたし さいふ詞(松筆七ノ一四)  
 たてまつる さいふ詞の二義(安隨一四ノ七)  
 だてら 法師——(鹽下ノ八)  
 他天 物部系圖の他天鶴の大幡(前留三ノ一九)  
 橋 推古の朝大及殿を作る(安隨二ノ四)  
 伊達氏 精を城に貯ふ(前留四ノ一七)  
 伊達騷動 伊達對決又傷の日記(一話一七ノ一)  
 南盤日記の中原田中斐の又傷(一話二四ノ二八)

伊達政宗 遠國の志井詩(茶筆二ノ一八)  
 のいかもの食(安隨五ノ二九)  
 非伊直孝計りて家康の神文を焼く「イ、一非伊直孝ヲ見ヨ  
 和歌に堪能なりし事(鹽尻八ノ一三)  
 の和歌(半日三ノ一五)  
 伊達村和 (美作守)の廢絶(一話三七ノ三三)(松筆一五〇)  
 伊達吉村 の懺悔(一話二五ノ九)  
 伊達者 さいふ言葉(一話三三ノ三六)  
 (安隨一三ノ三三)(嬉遊一ノ一七)(松筆八八ノ一一)  
 伊達風 「オ」男達ヲ見ヨ  
 伊達小六 伊達の余作(嬉遊二ノ中ノ六)(松筆八八ノ一一)  
 蓼くふ蟲も好々(松筆一〇四ノ六)  
 駝鳥 の圖説(鹽尻四二ノ二二)  
 堅川 江戸——(一話三八ノ三三)  
 堅文 「シ」書状ヲ見ヨ  
 立川流 の邪法(一話四三ノ二五)(鹽尻二ノ二二)(鹽尻三ノ一六〇)  
 立物 錠(松筆六〇)  
 家藏とな——といふ(玉)八ノ二四)  
 建部綾足 歌(松筆五ノ一七)  
 建部彦十郎 の名(白紳六ノ二)

帯刀 なたテロキとよむ事(前留三ノ七)の稱(拾玉三ノ三)  
 ●タト  
 たどく歩む さいふ事(松筆一ノ一) 詞(難江四ノ七二)  
 たとひ さいふ職名(松筆一五ノ二一、九五ノ八二)  
 田所 さいふもの事(玉)一〇ノ七) 三條(橋筆二ノ一一)  
 比喩 貴人を木に成民を草に——(圓珠六四)  
 ●タテ  
 棚 遊(松筆初ノ三ノ七)  
 田中城 駿河國——(松筆一〇六ノ二) 酒匂川を治む(二話二四ノ一)  
 田中丘隅 の頼才(理齋一ノ三三)  
 田中省吾 (閑耕下ノ二〇)  
 田中道麿 (玉)一ノ六)  
 田中本孝 の傳(松筆二〇)  
 田中吉政 の姓(白紳一〇ノ一八)  
 田邊靜馬 (松筆七ノ一一)  
 七夕 談(松筆五ノ二二) 談(松筆七ノ一五) 談(松筆初ノ四ノ一〇) 談(白紳一〇ノ八) 談(世談一三〇)

乞巧奠(鹽尻二三ノ一一)の字(北邊三ノ七)とたなはたは異なる事(難江二ノ三九)七種の祝(松筆一〇五ノ七)織女祭(松筆六三ノ一七)二星の神形(おる中ノ二七)牛女交會の説(閑耕一ノ二)(鹽尻四〇ノ二二)二星を祭る起原(鹽尻三三ノ二二)七遊(鹽尻二ノ二二)(孝經一ノ一〇)に色紙の張物を條にする事(風(嬉遊六ノ下ノ四))大阪の景況(浪花八)紅葉爲媒(難江六ノ二四)紅葉爲媒(難江六ノ二四)の歌にさいふの糸をよめる事(玉)一三ノ一三)三十歳まで男もたぬ女の——の歌(消閑三四)七夕の感(鹽尻四〇ノ七)七夕踊 「オ」踊ヲ見ヨ  
 ●タニ  
 だに さいふ詞(松筆三ノ三七)(難江七ノ三二)(松筆六六ノ六)(梅園上ノ三)文章をかけるを見ず(假世四ノ七)(閑耕下ノ三三)自拍子を盗ける奇談(理齋四ノ五)紫石札(妙々二)寫山樞名聞を食る(嬉遊附一ノ六)弘仁寺小野篁の像を寫せし事(蘇一ノ二四)力士(俗耳一四)假世四七) 鶴を買ひし話



平貞能  
の無節操(醍醐紀四ノ二)  
平重衡  
の逸事(雲津ノ三)  
平重盛  
小松内大臣(支同三ノ中ノ三〇〇)  
平忠度  
の最期(白練九ノ二)  
平調信  
支藤調信(乘燭ノ二四)

平貞盛  
の不平(閑歌四ノ二) 嬉遊附ノ  
平貞文  
一名平仲事(難江ノ三七)  
平惟盛  
不入水(安隆一九ノ二)  
平玄中  
金華の和歌(一話三ノ三四)  
在兵庫の石塔(鹽尻四七ノ二五)  
の法名(南歌下ノ一)  
の歌(玉か九ノ六)

平時忠  
の殘忍(鹽尻五三ノ一九)  
平敏經  
の謀反(閑歌四ノ二)  
平將門  
の謀反(閑歌四ノ二)  
平宗清  
の字佐藤(安隆一九ノ二)  
平盛久  
の論(閑歌二ノ二四)  
平康頼  
の鬼界島の異説(鹽尻一〇ノ三)

平重衡  
の逸事(雲津ノ三)  
平重盛  
小松内大臣(支同三ノ中ノ三〇〇)  
平忠度  
の最期(白練九ノ二)  
平調信  
支藤調信(乘燭ノ二四)

多武峰  
の経(備書ノ二三)  
齋伯  
の字(松筆一二五ノ五九)  
田文  
の字(松筆八六ノ三〇)

だぼはせ  
の始(賤小九)  
さし  
の始(賤小九)

たまげける  
といふ俗詞(世事八七)  
たまらぬ  
といふ詞(松筆二一ノ五、一  
一五ノ三四)

玉  
の品位(鹽尻三八ノ五)

玉  
の字(松筆九九ノ九五)

玉  
の字(松筆九九ノ九五)

玉  
の字(松筆九九ノ九五)

玉  
の字(松筆九九ノ九五)

玉がつか  
本居の(年々一ノ二)  
玉かつか  
に二あり(國珠五四)  
玉川  
多馬川(松筆一ノ二七)  
玉川  
多馬川(松筆一ノ二七)  
多磨川考  
解題(温知叢書第十編ノ内)  
玉川上水  
「スイ」水道ヲ見ヨ  
玉川主膳  
歌舞伎役者(足跡三ノ一)  
玉川千之丞  
遺稿(遺稿下ノ二二)

玉來  
は雲芝にあらず(安隆一三ノ三八)  
玉菊  
遊女一傳(一話三三ノ四〇〇三發)  
玉琴  
遊女(一話三三ノ四〇〇三發)  
玉造温泉  
四方花ノ四  
玉づさ  
鳥瓜の種子を(といふ(嬉遊  
一〇ノ上ノ四〇))  
玉津島  
紀州(一) 幽遠上ノ三二  
玉津島  
玉出島(松筆一ノ四二)

玉の浦  
地名考(閑歌一ノ二三)  
玉の結  
といふ言葉(秋葉一ノ一)  
玉のつかり  
松筆三八ノ一九  
玉野  
敷女(雲津二ノ一七)  
玉鐙の道  
前留五ノ一  
玉まく葛  
といふ詞(比古四ノ二四)  
玉水焼  
嬉遊二ノ下ノ二六  
玉藻前  
律儀(一話二〇ノ八)  
玉藻所歸之島  
二話一五ノ三六  
玉吉明神  
白由(一話二〇ノ四〇)

玉の浦  
地名考(閑歌一ノ二三)  
玉の結  
といふ言葉(秋葉一ノ一)  
玉のつかり  
松筆三八ノ一九  
玉野  
敷女(雲津二ノ一七)  
玉鐙の道  
前留五ノ一  
玉まく葛  
といふ詞(比古四ノ二四)  
玉水焼  
嬉遊二ノ下ノ二六  
玉藻前  
律儀(一話二〇ノ八)  
玉藻所歸之島  
二話一五ノ三六  
玉吉明神  
白由(一話二〇ノ四〇)

民  
をアオホトリクサといふ(國珠三)  
民  
をアオホトリクサといふ(國珠三)  
民  
をアオホトリクサといふ(國珠三)  
民  
をアオホトリクサといふ(國珠三)

民百姓  
といふ詞(松筆一五ノ三六)  
民やすかれ  
の歌に付て(年打下ノ一)  
濃給  
松筆九一ノ二五  
田道將軍  
の碑(隨意二ノ一九)(茶筆四  
下ノ一〇)  
田築島  
拾玉一ノ二六

**田宮全延** カ和歌の名譽 (橋卷初ノ四ノ四二)

**田宮由藏** 大阪 (一話二七ノ三〇) カ書翰 (一話二七ノ三〇)

**タム** (婦遊七ノ二)

**手向** といふ詞 (暗語上ノ二六)

**手向卿** といふ書 (筆下ノ二五)

**手向山** 丹波 (鹽尻三ノ二〇)

**道神** (鑛屑一五)

**頑癪** の妙薬 (松筆七ノ一五)

**田むき** といふ地 (松筆四ノ二二)

**田村宗永** の出世 (一話三ノ二八)

**タメ** 恭等にいふ (松筆九ノ三二)

**ため息** ハウとをつく (松筆八ノ三五)

**試し斬** (鹽尻二ノ一八)

**タモ** 居物 (鹽尻八ノ三〇)

**だも** といふ詞 (松筆六六ノ六)

**袂浦** (鑛屑一四)

**多門** (松筆二一五ノ四四)

**多門院日記** 抄録 (一話一六ノ三〇)

**多聞** 「シロ」城ヲ見ヨ

**多聞城** 松永久秀の (一〇) (鹽尻四七ノ一〇)

**打夜胡** (藝苑七ノ一八)

**田安御殿** のくせ物 (半日八ノ二四)

**タラ** (ユミ) 写ヲ見ヨ

**たらし** といふ詞 (松筆九五ノ八七)

**たらす** たらちれといふ詞 (北邊四ノ四)

**たらちを** 後撰集の (鹽尻三四ノ二〇)

**たらん紙** 後撰集の (鹽尻三四ノ二〇)

**鱒** の字 (半馬六八)

**大口魚** (松筆四ノ二〇) (安隨七ノ三六)

**太郎橋荷** 立花袋の (一話二七ノ二七)

**太郎次郎** 物の魁 (用捨下ノ二)

**太郎塚** 尾州古井莊 (鹽尻三三ノ八)

**多羅樹** (安隨四ノ五四)

**陀羅尼輔** といふ藥 (一話三三ノ二七)

**盟** タラヒといふ名 (鑛屑)

**タリ** といふもの (一話二二ノ三三)

**他力信心** といふ事 (一五ノ二九)

**駝梁** (説小三ノ四七)

**タル** といふ詞 (玉ウ八ノ四七)

**樽** 柳樽 (婦遊二ノ下ノ一三)

**樽入** 天野 柳 兵衛 斗 (松筆九四ノ四三)

**樽冠** 婚儀に 柳 兵衛 斗 (安隨二ノ二四)

**樽三ぶ** (松筆九六ノ一六)

**樽代** (松筆九五ノ七九)

**樽人形** (婦遊六ノ上ノ四五) (世事二)

**樽屋與左衛門** の頼減 (半日八ノ二四)

**樽割商** (我衣五八)

**足る事を知る** といふ事 「マン」満足ヲ見ヨ

**達魯花赤** (柔蘭三ノ一四) (東屋下ノ四)

**達磨** 菩提達磨 (桂林七ノ九)

**達磨忌** (南敵下ノ二)

**達磨墳** 大和 (餘餘一ノ一〇)

**垂水** をタルヒとよむ (圓珠一九)

**垂氷廣信** 鳥有先生 (茶筆三ノ一)

**子** を學ぶ事 (鹽尻七ノ四)

**の** 有無 (安隨二〇ノ四七) (芽窓上ノ一三)

**タレ** 「チャ」帳ヲ見ヨ

**誰** に見せうとして 燕脂鎖漿つけうぞ (松筆二二ノ六〇)

**タワ** 人を驚てといふ (如蘭二ノ二)

**たわけ** といふ名 (如蘭二ノ二)

**手童兒** さいふ名稱 (松筆一〇三ノ一七)

**タン** 布の (孝經三ノ二三) (鹽尻二ノ四)

**だんびら物** (松筆九五ノ三七)

**反** 端に「半匹」の字をかく事 (玉ウ八ノ二五)

**半匹** の字を (玉ウ八ノ二五)

**田端** の事 (松筆二〇ノ三)

**町** の事 (松筆二〇ノ九)

**段** 志 (一話二ノ五二)

**段葛** といふ名稱 (松筆一〇五ノ五二)

**段錢** (松筆九三ノ二六)

**段々** の様 (松筆一〇九ノ三九)

**段物** (松筆八八ノ四)

**段揚示** 牛下ノ九

**卑** さいふもの (松筆一〇九ノ二六)

**蛋** の字 (松筆四ノ六)

**誕** の字を生産の字に換ふる (鹽尻五三ノ九)

**誕生** の字 (鹽尻五ノ二二)

**誕生** 「シユ」出產ヲ見ヨ

**誕生日** に七種の贈物 (松筆六六ノ四六)

**膽** 大 (松筆二ノ七)

**膽略** 信綱朝臣の臣の (松筆二四ノ七)

**膽略** 花外記の (松筆一六)

**痰** 大膽なる死因 (松筆二ノ二〇)

**痰** の妙方 (松筆七四ノ七)

**痰咳** 我國 (多波上ノ二九)

**彈劾** 我國 (多波上ノ二九)

**彈基八勢** (松筆上ノ七)

**彈丸** (安隨一ノ一四)

**彈左衛門** の山 (一話二六ノ四四)

**淡海公** 并善七の争論并能後者支配の事 (一話三八ノ一三)

**淡々** 平時 (松筆三ノ六) (假世五四)

**談義** といふ意味 (南留四ノ二)

**談話** 他人の (一話八ノ一七)

**團魚會** (玉ウ八ノ六)

**團子** (松筆九ノ三)

**團座** といふ文字 (年々二ノ一三)

**團頭** (松筆一〇ノ二八)

**團取** 大将を (南留一ノ二一)

**濳居子** の詩 (一話四ノ八)

**濳空上人** の塔と空行狀の碑、

**濳譽上人** の遷化 (鹽尻五ノ二六)

**貝過僧** といふ事 (一話一六ノ一四)

**且也** の字 (秋聲三ノ二)



中宮 「クワ」皇后ヲ見ヨ  
 中宮門所 「オク」應病者ヲ見ヨ  
 中華 華夏の稱(詞一ノ四)(安隨七ノ二六)(二上九三)  
 「シナ」支那ヲモ見ヨ  
 「アラ」アヲヲ見ヨ  
 中啓 (安隨一ノ五四)(玉一ノ二二)  
 中間 (松筆九四ノ五三)(一七ノ三)  
 考辨 (孝經三ノ七)  
 考辨 (孝經三ノ七)の服装(柳菴一ノ一)  
 中元 七月十五日を「さいふ」(玉一ノ二九)  
 「ウラ」孟蘭盆ヲモ見ヨ  
 中國 「多波上ノ八」といふ(玉一ノ三八)  
 山陰山陽兩道を「といふ」(玉一ノ三八)  
 「シナ」支那ヲモ見ヨ  
 中濟 の義(松筆六三ノ三五)  
 中謝 (乘燭三ノ一〇)  
 中將姫 の名(南留三ノ二二)  
 の薙髮(餘餘二ノ一八)  
 中將姫山居語 (一話一三ノ二八)  
 中雀門 (松筆八三ノ四八)  
 中書 さいふ官(訓淺一一)  
 中書王 前後の「(餘餘二ノ一九)」

中尊寺 奥州平泉 鐘銘 (一話三三)の金堂(餘餘四ノ四)  
 中方小者 (松筆九二ノ二四)  
 中風 の風(松筆二ノ六)  
 中門 (春淡上ノ二二)  
 中庸 論(訓淺四二)(眼鑿一ノ二六)を知る(春波一〇五)  
 能き程(茶筆二ノ一五)  
 中分の人(松筆一〇六ノ一七)  
 中庸 (書名)の作者(筆上ノ二七)  
 之書(松筆二ノ一五)  
 註解 文の「及」及「言」は「古書」の法(閑次三ノ一五)  
 例證(年々四ノ二七)  
 新註古語(松筆一ノ三二)  
 注釋本に「御言抄」字解と號する事(松筆六七ノ一三)  
 重交單折 (乘燭三ノ七)  
 重九 重五重三(松筆九七ノ三四)  
 重玄門 佛書「(松筆八ノ三八)」  
 重言 (玉一ノ三二)の略さふ(傍廂三四)  
 「ケン」言語ヲモ見ヨ  
 重身 「ミオ」身重ヲ見ヨ

重點 (北邊三ノ二)  
 重杯 といふ詞(松筆一一五ノ二七)  
 重箱 (骨董中ノ一九)「折、さ、折」(松筆二ノ下ノ一四)  
 重箱の掃除(楊枝と杓子 (松筆九〇ノ二五))  
 住居 居所に名づくる事(年々二ノ八)  
 「イ」家屋「カサ」家相「チカ」地下「チ」モ見ヨ  
 住持 といふ語(松筆一六ノ七)(松筆七七ノ二七八ノ六四)(二〇ノ三二)  
 住人 某國の「といふ事」(玉一ノ二ノ一八)  
 丑座 (乘燭五ノ四)  
 蟲々 といふもの(長陽二三九)  
 蟲々 蠶座の「(蠶座下ノ四)」  
 ●チエ  
 治要策苑 さいふ書(餘餘二ノ一九)  
 千枝女 士筆の歌よみし語(松筆二二)  
 智恵 一の字義(松筆五ノ一五)  
 智恵ありがは (松筆一四ノ一七)  
 智恵内侍 狂歌(擁書四ノ五)  
 智慧 一の百二十一字(松筆一一八ノ三三)  
 智慧劍 (松筆八四ノ二三)

智慧燈 (松筆一一八ノ一九)  
 智慧水 (松筆一一八ノ一九)  
 智演國師 (松筆五二ノ八)  
 ●チオ  
 ちあも 「ウバ」乳母ヲ見ヨ  
 智恩院 御法則のよみ方 (一話五ノ三三)  
 大僧正并宮門跡の始(松筆四八ノ二三)  
 足利將軍の女 住職となりし事(松筆二二ノ二四)  
 知恩寺岸州 前 復金上達江守書(一話九ノ三一)  
 ●チカ  
 近くて遠きもの (四方月ノ三)  
 近松氏 の系圖(松筆六ノ三三、三六ノ三八)  
 近松勘六母 の書置(松筆一一二ノ五二)  
 近松門左衛門 (遊遊六ノ上ノ四二)の逸事(稿卷二ノ五ノ九)  
 徂徠 の文辭を嘆美す(一話四五ノ三九)  
 の死日(一話八ノ三三)  
 の法名(龍花六五)  
 の法名(龍世)(老樂五)  
 の辭世の文、の法名(假世二ノ四)  
 の作文の自序及其小傳(曲漫下ノ一)

近 文評(俗耳二二)  
 近迎 遠迎(松筆二ノ二二)  
 親子内親王 和宮か成展の際(下に論し給ひし一篇(如蘭二ノ一))  
 地下住居 三十三年「(半日二五ノ九)」  
 遊棚 (松筆五二ノ三四、六二ノ一六)  
 「タナ」棚ヲモ見ヨ  
 力を用ふ 用力の字に題す(餘餘一ノ二三)  
 力金 (松筆九六ノ三二)  
 力革 の圖(安隨一五ノ二〇)  
 説(比古六ノ一五)  
 力車 「クル」車ヲ見ヨ  
 力糖 力筋力毛(松筆九二ノ五七)  
 力持 女の「(半日一三ノ一五)」  
 榮誠(松筆五ノ三八)  
 持節 説(安隨一五ノ三九)  
 ●チキ  
 ちきり (安隨一七ノ五一)(松筆五ノ二二)  
 ちぎり 「キン」巾ヲ見ヨ  
 ちぎれる (切斷)といふ詞(安隨九ノ三四)(二上四七)  
 ちぎる さいふ詞(安隨五ノ三六)(松筆九二ノ一〇)  
 千木 抄本(松筆七三ノ一〇)  
 論(秋實四ノ一)  
 鯨木(傍廂一三九)(半日五ノ四)(白紳九ノ五)(松筆三三ノ一六)

千木櫃 (遊遊六ノ下ノ二〇)  
 芝神明 考(奇跡九五)  
 知己 の字(茶筆四ノ一四)  
 知行 の字(安隨一七ノ四七)  
 の定め方(傍廂一〇七)  
 知行役 (松筆九三ノ五一)  
 地球 世界の東極(輔軒三四)  
 地動説(松筆七五ノ八)  
 地形 地突付水道、て(遊遊一ノ上ノ二二)  
 「クサ」草花ヲ見ヨ  
 地錦 天皇の御前に「せし事」(玉か六ノ一九)  
 直訴 一  
 直綴 (孝經三ノ二二)  
 さいふ衣(玉か七ノ五)  
 遲供 の義(一話四ノ一五)  
 池魚災 の義(松筆二ノ三三)  
 藤 といふもの(松筆一〇六ノ一)  
 ●チク  
 ちくの といふ詞の義(兎集九九)  
 ちくらか沖 (笈埃二ノ一)(松筆九二ノ二六)  
 竹阿 二六卷「卜居におくる」(幽遠下ノ二一)  
 竹葉集 連阿法師か「(松筆七四ノ八)」  
 竹格 「テン」天蓋ヲ見ヨ



竹枝歌 (一話二二〇一) (松筆五二〇一七)  
 竹醉 (一話二二〇二) (松筆五二〇一七)  
 竹醉日 (松筆七七〇四〇)  
 竹譜 (一話二二〇三) (松筆五二〇一七)  
 竹生島 (松筆六二〇二〇) (松筆五二〇一七)  
 竹夫人 (松筆七〇三三〇)  
 竹婦人 (松筆七〇三三〇)  
 竹林院 (松筆七〇三三〇)  
 竹林七賢 (松筆五二〇三〇)  
 竺菴和尚 (松筆五二〇三〇)  
 畜生 (松筆五二〇三〇)  
 畜生谷 (松筆五二〇三〇)  
 筑前國 (松筆五二〇三〇)  
 筑前國續風土記 (松筆五二〇三〇)  
 地口 (松筆五二〇三〇)  
 船艦 (松筆五二〇三〇)  
 智光法師 (松筆五二〇三〇)

管刑 (松筆五二〇三〇)  
 持敬 (松筆五二〇三〇)  
 地下 (松筆五二〇三〇)  
 地形 (松筆五二〇三〇)  
 地券 (松筆五二〇三〇)  
 見 (松筆五二〇三〇)  
 見か淵 (松筆五二〇三〇)  
 地獄 (松筆五二〇三〇)  
 地獄の沙汰 (松筆五二〇三〇)  
 癡兀坊 (松筆五二〇三〇)

智藏 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の像 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の頭 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の首 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の足 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の手 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の目 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の鼻 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の口 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の舌 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の歯 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の毛 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の髪 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の爪 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の指 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の掌 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の背 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の腰 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の腹 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の尻 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の腿 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の足 (松筆五二〇三〇)  
 地蔵の趾 (松筆五二〇三〇)

智證大師 (松筆五二〇三〇)  
 智仁勇 (松筆五二〇三〇)  
 痴人説夢 (松筆五二〇三〇)  
 治穢 (松筆五二〇三〇)  
 耻辱 (松筆五二〇三〇)  
 チス (松筆五二〇三〇)  
 映簀 (松筆五二〇三〇)

治水 (松筆五二〇三〇)  
 チセ (松筆五二〇三〇)  
 チソ (松筆五二〇三〇)  
 チヂ (松筆五二〇三〇)  
 チヂカ (松筆五二〇三〇)  
 チヂミ (松筆五二〇三〇)  
 チヂメ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネカ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネミ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネメ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネネ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネノ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネニ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネニカ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネニミ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネニメ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネニネ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネニノ (松筆五二〇三〇)  
 チヂネニニ (松筆五二〇三〇)

乳 (松筆五二〇三〇)  
 乳の粉 (松筆五二〇三〇)  
 秩父 (松筆五二〇三〇)  
 秩布 (松筆五二〇三〇)  
 秩 (松筆五二〇三〇)  
 秩の像 (松筆五二〇三〇)  
 秩の頭 (松筆五二〇三〇)  
 秩の首 (松筆五二〇三〇)  
 秩の足 (松筆五二〇三〇)  
 秩の手 (松筆五二〇三〇)  
 秩の目 (松筆五二〇三〇)  
 秩の鼻 (松筆五二〇三〇)  
 秩の口 (松筆五二〇三〇)  
 秩の舌 (松筆五二〇三〇)  
 秩の歯 (松筆五二〇三〇)  
 秩の毛 (松筆五二〇三〇)  
 秩の髪 (松筆五二〇三〇)  
 秩の爪 (松筆五二〇三〇)  
 秩の指 (松筆五二〇三〇)  
 秩の掌 (松筆五二〇三〇)  
 秩の背 (松筆五二〇三〇)  
 秩の腰 (松筆五二〇三〇)  
 秩の腹 (松筆五二〇三〇)  
 秩の尻 (松筆五二〇三〇)  
 秩の腿 (松筆五二〇三〇)  
 秩の足 (松筆五二〇三〇)  
 秩の趾 (松筆五二〇三〇)





**長座** 傳(餘三ノ二九) 中の誤(餘三ノ三六) する時の心得(三卷三ノ一九) す(からす)(桶三ノ二ノ二五)

**長沙** 考(桶三ノ二ノ二五)

**長子** 嫡子(分)(南嶺三ノ一六) ば才足らすといふ(南嶺三ノ七) 「ヨ」子ヲモ見ヨ

**長者** 敬する事(訓淺五三) 「ウチ」氏長者ヲモ見ヨ

**長者教** (足辨二ノ三七)

**長上** 一ノ事(松筆二ノ一九ノ五) 「ナカヅカ」ヲモ見ヨ

**長上** 物の長たる人の心掛(雲津二ノ二二) 人の上たるもの心得(梅叢三ノ三) 月一〇三)

**長上官** (南留四ノ二二)(南留二ノ二二) 詰司長上の事(兼烟二ノ二二)

**長壽** 長生(雲津四ノ二六) 多壽(老牛下ノ二〇)(玄同三ノ中ノ七)

長命の人(龜尻四ノ二九)(松筆六ノ二五)(〇九ノ二七) 松柏鶴龜之壽考(隨意八ノ三九) 老而益壯健(隨意八ノ三九) 長命の養生(杉本一齊の) 井農夫陵平の説(雲錦二ノ一三) 早世の子度々ありし家の呪(松筆九八ノ三〇) 暮臥不獲首(技藝二ノ一七) 道三の狂歌(櫻塚三ノ五) 願ふに足らず(龜尻二ノ一六)

**長所** 人を用ふるに其(を)以てす(キ)事 (松筆八ノ一六)(松筆八ノ一六) 彼に長なるものを此に短なり(不問三ノ七) 牛に鼠を捕らさんとする論(南嶺二ノ二二) 一歳の兒に器物を撰はしむる事(松反下ノ一九) 「ヒト」人を用ふるヲモ見ヨ

**長會我部氏** (松筆七ノ四ノ五) の姓(白紳一〇ノ一八)

**長會我部盛親** 大阪出陣の様(二話四ノ一六)

**長徳寺** 駿州(二話二九ノ四)

**長白山** (松筆六ノ二五)

**長範馬場** 尾張名所(龜尻三ノ五)

**長明燈** (藝苑三ノ九)

**長樂寺** 常陸國(一話二ノ四〇)

**長吏** 諸寺の(松筆一ノ一〇) 「エタ」穢多ヲモ見ヨ

**町** 一段(里)(兼燭二ノ九、一〇) 一段(松筆二ノ四二)

**町人** 武士の交際無用(一話四五ノ四二) 武士の地に(差置)く事の禁制(一話四五ノ三三) 眞享頭(松筆九ノ一八) 胡衣の御願(我衣三ノ一) 胡刀「タイ」帯刀ヲモ見ヨ 「シヤ」商人ヲモ見ヨ

**帳** (安隨一六ノ九)(安夜三ノ二八)(安隨八ノ三)

**帳臺** 「ヒヤ」百子帳ヲモ見ヨ

**帳簿** 帳の字(梅日三ノ二七) 正月十二日に帳簿をなす事(桶三ノ二ノ四)

**帳** 一ノ字帳に同し(談小二ノ四一)

**張禹** と張侯論(龜尻三ノ二八)

**張雲客** 揚貴妃贈(詩)(餘四ノ二八)

**張子韶** 參妙喜偈(餘二ノ一〇)

**張瑞圖** 畫家(一話二ノ三四)

**張成** 名工(一話四ノ一九)

**張仲景** 神醫(隨意五ノ四五、四六)

**張燧** の學(隨意七ノ二四)

**張斐** 明人(一ノ事)(白紳二ノ二五、一六)

**張飛** の龍書(松筆七ノ九、九九ノ五)

**張文相** の書(昆陽一八一)

**張文成** 遊仙窟(龜尻二ノ五ノ五)

**張本** (松筆八ノ三四)

**張良** の隱遁(茶筆三ノ一四)

**聽音機** ルーフルの圖(龜尻三ノ三三)

**聽雪** といふ辨(松筆六ノ三三)

**貞觀政要** 承兌の跋ある(續長七七八)

**貞福寺** 尾州中島郡(龜尻一六ノ七)

**定木** (松筆九ノ三〇)

**定齋藥** (世談四八)

**定西法師** の傳(昆陽一四)

**定使** (松筆九ノ三五)

**定林寺** 筑後國(一話二七)

**丁字頭** 燈花を喜ぶ事(桶三ノ三ノ七) (燕石三ノ四三)

**丁子茶色** 衣類(二六) の流行(賤小二六)

**丁半** は調半なり(松筆三八ノ一)

**趙岐** 後漢(餘五ノ二四)

**趙衰** のよみ方(撈海下ノ二五)

**趙子昂(孟頫)** の書(餘二ノ一)

**趙普** 宋(の)才器(訓淺二二)

**趙與慈** の簪の字(隨意四ノ一)

**趙李經過密** の義解(撈海下ノ二二)

**應宣** (松筆八ノ二五)

**應御下文** (松筆九ノ五三)

**提灯** てうちんの本字(南留五ノ二二) 挑燈(骨董中ノ四、下後ノ二八)(松筆一〇ノ四六)

**行燈** (傍用一三三) 燈籠(〇ノ下ノ三) 燈籠(〇ノ下ノ四) 盆の移替り(宮川四ノ七) 魚腹の初め(四方花ノ一〇) 十二(後昔一) 骨董下後ノ二九) 神社佛閣(大)の制止(一話四〇ノ四三) 銅の鏝をつくる事(一話二五ノ三三) 「アン」行燈ヲモ見ヨ

**提灯に釣鐘** の語(瓦礫二ノ一)(松筆七五ノ二九)

**提灯纏** (談小四ノ四六)

**提菓子** 「サウ」皿ヲモ見ヨ

**チユ**

**チユ**

**錫銭司** (松筆二一九ノ一九)

**チヨ**

**ちよい** 昔辭に(さいひ) ちよ(中ノ二)

**ちよち** 小兒の(おろ下ノ二〇)

**ちよつかい** さいふ詞(松筆九八ノ二五)

**ちよぼ** 白魚に幾(といふ)シラ(白魚ヲモ見ヨ)

**ちよろまかす** といふ詞(辯遊九ノ四三)

**千代女** 加賀(奇跡一五二) 小井井眞顯(宮川二ノ一)

**千代能尼** (老一三) 加賀の句(春波五〇)

**千代能尼** (老一三) 傳と歌(龜尻二八ノ二〇)

如大尼の歌の初五字(閑次四ノ九) 桶の底の歌に付て(桶初ノ二〇)(松筆八五ノ三八、八九ノ二二)

無著尼(爰埃八ノ一六)(松筆八九ノ二二)

**千代萬世** の義(年々六ノ二二)

**著** 不可容易(隨意四ノ三三)

**著述** 著百卷著難於讀漢卷書(隨意二ノ三)

**著帳戸** 不能無病(松筆一〇ノ三二)

**寵** 古今集作者の中の名(傍用二八)

**寵愛** 人の(を)得るの法(雨窓四二) 買怨(松筆八七ノ二)

**重五** 重三重九といふ語(隨意六ノ二三)  
**重字** に々々を書く事(安隨七ノ三六)  
**重陽** 九月九日の節句(孝經一ノ一一) 故事(隨意四ノ一六) 九月九日登高(隨意四ノ一三) 大阪の景況(浪花九)

**重量** 輕重雜記(二話一ノ六)  
**懲慙録** の作者考(采燭一ノ六)  
**猪牙舟** 山谷舟(「フテ」船ヲモ見) 猪口の本字(南留三ノ二二) ちよく、鍾(嬉遊二ノ下ノ一八) 猪子 聖牛の解(隨意一ノ六)  
**勅** 「セツ」詔勅ヲ見ヨ  
**勅** の字(安隨三ノ五〇)(松筆六ノ五三)  
**勅額** 取扱に付上野教當より寺社奉行(差出したる書付(平日六ノ一五))  
**勅勘** 勅許(傍廂二ノ九)  
**勅旨田** (玉か二ノ一一)(松筆六四ノ四〇)  
**勅使門** (箕埃七ノ二三)  
**勅授** の義(安隨三ノ五四)  
**勅封** (松筆九七ノ二九)  
**女冠** (松筆七七ノ一七)  
**女官** 裝束「シヤ」裝束ヲ見ヨ

**女子** にも子息といふ(松筆一〇〇ノ五〇) 能使視家貧(隨意三ノ一四) 「フテ」婦女ヲモ見ヨ  
**女子教育** 女兒に教るに當りし(松筆八〇ノ三〇)  
**女將** (松筆九五ノ七六)  
**女色** 色精洩れ易し(理齋一ノ一三) 酒色に耽るもの(戒(くせ)三七) を遠くへき彭祖の語(隨意一三ノ二二) 老僧の嘆(閑次四ノ二八) 附僧道士の爲に墮落せし事(隨意二六ノ五) 淫婦數人に福す(松筆一〇九ノ四一) 三島の平太郎三年奉公の事(そいり二) 常佐眼をさぐる事(そいり三八) 「シキ」色慾ヲモ見ヨ  
**女賊** (松筆九七ノ三五)  
**女尊男卑** (隨意七ノ三)  
**女直** 考(藝苑二ノ一四)(采燭一ノ北夷一七)(隨意三ノ一〇)  
**女帝** 我國の龍を得たるもの(隨意二五ノ六) の裝束(白柳九ノ二四) 「タイ」帝王ヲモ見ヨ  
**女郎** といふ字(安隨一ノ六)  
**女郎蟲** 「シヤ」常元蟲ヲ見ヨ

**除色録** の文辭(談小二ノ三九)  
**除授** 二字の別(談小五ノ三)  
**除書** の字義(一話二三ノ一一)  
**除名** の罰(松筆一一九ノ二〇)  
**除目** 「チモ」除目ヲ見ヨ  
**除夜** (藝苑七ノ二〇)  
**除夜** 守歲(分談(松筆二二〇ノ一〇) 鬼道(消閑五) 藝祭(安隨九ノ一五)(二上二二) 大阪にて一に夢飯を食ふ事(浪花九) 元の曹漢英(詩(餘餘二ノ七))  
**猪山人** 文苑英華にある一といふ人(談小一ノ一三)  
**猪水包** を以て天地を説く始(續昆九)  
**貯蓄** 豊年にを爲す(き事(花月六五)) 「シヤ」常平倉ヲモ見ヨ  
**貯肉** 鳥肉を收藏する法(筆上ノ九) 二十を「さいふ(隨意一ノ七) 付下貼、おりは、むた口(嬉遊四ノ二四、二五)  
**初蒲一** 「ハク」博奕ヲ見ヨ

**チラ**  
**散し書** 「シヨ」音狀ヲ見ヨ  
**散し物** (安隨一四ノ一九)  
**散しふくさ** (柳記下ノ二二)  
**治亂** の理二條(摺拾一八、一九) 兵亂の源(摺拾五六)

天下治本亂木(安隨一三ノ一九) 「チイ」政治ヲモ見ヨ

**チリ**  
**ちり** 御一を賜ふ(松筆一〇五ノ八) ちりとちり 付あんだ(柳記上ノ一九) ちりやたらり (三養二ノ一四)  
**地理** 詳述而疎近(隨意一ノ三四) 古今土地の變遷(閑耕一ノ一三) 地形(北(海西二ノ二〇)) 華夷一覽圖説(二話四七ノ二二)  
**塵** ちりといふ(老牛中ノ三九)  
**塵をむすぶ** といふ詞(幽遠下ノ八)  
**塵地** 「ナシ」梨地ヲ見ヨ  
**塵塚お松** (閑次一ノ二二)(武俗七〇)  
**塵塚談** 解題(塵塚一)  
**塵掃** さいばりの(北邊一ノ三〇)(老牛上ノ二九)  
**縮緬** (孝經三ノ二三)(玉か八ノ三〇) 織出の島(嬉遊二ノ下ノ三三)  
**チレ**  
**治療** (花月八八) 氣を病を治する事(塵塚一七) 薬用より死後の名を重んじし話(奥波三四) 法付咒數十件(雲錦四ノ一七ヨリ)

**チロ**  
**ちろり** といふ器(松筆一〇〇ノ三八)  
**チロ**  
**呢話** (松筆六六ノ七二)  
**地黃煎** (世談四二)(おる上ノ五)  
**地黃坊檜次** 一ノ一五) 事蹟考(北邊上) 大酒官の事蹟考を贈ることは(一話一九) 「サク」酒戰「スイ」水鳥記ヲモ見ヨ

**チン**  
**ちん** ちんがら (嬉遊六ノ下ノ四)  
**ちんと** さいふ詞(松筆一〇〇ノ一)  
**ちんぶんかん** (嬉遊九ノ四二)  
**獅** (嬉遊二ノ六)(隨意五ノ三七) ちん犬(傍廂七八)  
**朕** (松筆六三ノ四三)  
**塵** は粉末をいふ并紫一類の事(白筆上ノ四七、四九)  
**沈安願吾** 懲慙録に記せる一(東屋下ノ五)  
**沈香樹** (居龍二七)

**沈著** 神色泰然(隨意二ノ一九) 大刀進上の使者(藝苑七ノ五七) 從容として切腹せし者の話(一話五ノ一三) 「セキ」關戸木工左衛門「ヒコ」彦坂重繼 「モウ」毛利師就ヲモ見ヨ  
**沈の花足** (安隨四ノ一一)  
**沈勇** 松平輝綱の客の事(意す一九五) 凶賊を捕へ(柔術家の話(意道七七)) 「チン」沈著「ユウ」勇ヲモ見ヨ  
**鎮惟厚** (安隨一九ノ五九)  
**鎮子** といふもの(松筆一〇九ノ五八)  
**鎮守** (松筆九二ノ一)  
**鎮守府** (餘餘三ノ三三)  
**鎮西氏** の墳(老牛下ノ三三)  
**鎮西九黨** (安隨二〇ノ二二)  
**陣笠** 後三年合戦給眷物の内一の圖(半日六ノ一一)  
**陣小屋** 取おきの事(安隨一一ノ三二)  
**陣拾遺廟** 考(安隨一ノ四)  
**陣僧** (松筆二二ノ二二)  
**陣大鼓** の初(理齋四ノ一七) 孔明の(安隨二〇ノ四六) 「タイ」大鼓ヲモ見ヨ  
**陣中** にて思む(きもの(一話二一ノ四二))

**陣羽織** (安随二ノ七) (五樂一ノ三三)  
 九鬼家船手 (半日三ノ三七)  
**陳簡齋** 宋の詩人陳興義 (一話四〇ノ一)  
**陳元贊** 子靈位 (關原三九ノ二六) 書孔  
**陳后山** 宋の詩人陳無已 (一話四〇ノ一)  
**陳濟** (餘一ノ二九)  
**陳東** 獻徵録にある一さいふ人 (談小一ノ一三)  
**陳祥道** 兄弟の著禮書樂書 (隨意五ノ四四)  
**陳彭年** 宋の詩人 (支同三ノ上)  
**質** の字義 (松筆一五ノ三六)  
**質銀** 諸職入下直に可致論達 (半日一話二ノ二四、二五)  
**礎基簿** の解釋 (關原二ノ二二)  
**珍書考** 解題 (難江三ノ二二) 評言 (茶筆二ノ二三)  
**珍重** といふ詞 (南留二ノ一五)  
**珍重坊道安** 傳 (一話三七ノ二四)  
**枕中鶴** をよめる歌 (隣女二ノ二二)  
**知筒** (松筆九五ノ二八)

**つ** の字 (幽遠下ノ二三) (南留一ノ二五)  
 (關原二九ノ二二) (白筆上ノ一)  
 「と」と通音 (安随三ノ四一)  
 「と」と古音相通 (筆下ノ四)  
**津** といふ名 (燕石一ノ二二) (意維前下ノ三八)  
**津** の百姓騒動「イツ」揆ヲ見ヨ  
**ツイ**  
 ついとほり といふ俗語 (松筆九五ノ四)  
**衝重** 「サン」三方ヲ見ヨ  
**對句** 無き句 (關原三ノ二五)  
 單掛 (松筆一〇五ノ二二)  
 逆句掛合 (松筆一〇五ノ二二)  
 對句掛合 (松筆一〇五ノ二二)  
 好對句 (假世四) (同四三) (理齋五ノ二五)  
 有無の好 (一話三五ノ四三)  
 網天四海の好 (隨意七ノ四〇)  
 都真香の好 (餘一ノ四)  
 服部元符物茂卿の秀句うたひし話 (松筆四ノ四)  
**堆朱** (續遊二ノ下ノ二八) (松筆九六ノ二八)  
 別紅 (松筆一五ノ四九)  
**追従** 一詞 (松筆四ノ二二)  
**追悼** 愛女の七々願文 (幽遠下ノ二三)  
 逝きし子を思ひて (幽遠下ノ二五)

父道喜居士五十回忌の詞 (幽遠下ノ二六)  
**追儼** (比古三ノ七) (松筆六ノ三〇、六)  
 唐土の夜遊 (藝苑七ノ二二)  
 兵衛長田神社の事 (安随一九ノ二二)  
 尾州大國神社正月の事 (關原三六ノ一六)  
 尾州國府宮の奇風 (關原一〇ノ三五)  
 筑前香椎宮の奇風 (關原九ノ二五)  
 鬼神餘論の内 (關原二ノ一八)  
 「セツ」節分ヲ見ヨ  
**追放** の刑 (南留一ノ七) (關原四二ノ一)  
**追捕使** 一押領使の補任 (關原五ノ一)  
 一の事 (南留二ノ一八) (如關二七ノ二二)  
**道物** (松筆六ノ一〇)  
**朔** (松筆九二ノ四〇)  
**續松** 「カル」骨牌ヲ見ヨ  
**ツウ**  
**通史** 司馬光の (餘一ノ二六)  
**通師** (松筆一〇五ノ八)  
**通書** (關原上ノ三二)  
**通信** 鳥の傳書 (難未四ノ二八)  
 「シヨ」書狀ヲ見ヨ

**通人** 十八大通 (蜘蛛九ノ四九)  
 「イク」遊客ヲ見ヨ  
**通天犀帶** (松筆六七ノ一八)  
**痛風** の妙藥 (兼度三ノ一三)  
**ツエ**  
**杖** 論 (一話一八ノ四) (理齋四ノ二〇)  
 の竹 (一話一八ノ四) (餘一ノ二五)  
 の竹 (一話一八ノ四) (餘一ノ二五)  
 龍虎梅竹の (半日八ノ二二)  
 圓位上人の (傍廂四九)  
 圓位上人の (傍廂四九)  
 施節の詩 (一話一五ノ四四)  
 「ハト」鳩杖ヲ見ヨ  
**ツカ**  
**つかさ** 岸の (松筆一二ノ四四)  
**つかもなき** といふ詞 (辯遊九ノ四二)  
**つがり** の解 (安随一ノ三二)  
**都賀庭鐘** (一話四〇ノ三二)  
**柄** 管 (白紳九ノ八)  
**柄袋** の代に傘を用ひし事 (八水二)  
**塚** (老牛下ノ四八)  
**塚越菜陽** か狂言の作 (俗耳九)

**家田虎** か兄弟 (隨意三ノ二三)  
 奉白河侯書 (半日八ノ一)  
**津金氏** の由緒及古文書 (一話二四ノ二)  
**津輕** 古屬出羽國 (如關二〇ノ一九)  
**津輕石** 蘇鶴 (藝苑二ノ一三)  
**津輕笛** (世事二二)  
**櫻木** 考 (年々五ノ二三)  
**束の間** の穢解并出處 (關原一ノ二二)  
**遣はし** さ被遣さいふ詞 (難江五ノ五二)  
**資人** (松筆九二ノ六九)  
**ツキ**  
**つきつけ賣** 一名押賣「オシ」押賣ヲ見ヨ  
**月** 一々の名義 (如關一ノ四)  
 正五九月を替月とする事 (安随一九ノ二六)  
 正五九月を替月とする事 (安随一九ノ二七)  
 (燕石一ノ四、六) (二四)  
 正五九月を三替月さいふ (三養一ノ二六)  
 「ワル」閏月ヲ見ヨ  
**月** の別名 (圓珠九)  
 日月を金鳥玉兔さいふ事 (閑次一ノ一)  
 一の中の宛 (松筆七九ノ一〇)  
 一の異名 (松筆五〇ノ一四)  
 一の古字 (一話二二ノ一)  
 一の興 (花月二)  
 田毎の (橘港二ノ四ノ六)

の盈虧 (餘一ノ二三)  
 上弦下弦 (閑耕二ノ三)  
 寶永四年星を貫く (關原三ノ二九)  
 範長一の歌 (理齋六ノ二四)  
 水上一の歌 (理齋六ノ二四)  
 「ツツ」月蝕ヲ見ヨ  
**月落長安半夜鐘** といふ句 (一話二〇ノ四五)  
**月影を** 色にてさける (樞閣下ノ三四)  
**月暈** 月の五色暈 (辯遊一〇ノ下ノ一〇)  
 一を消す法 (屠龍一九)  
**月瀬** の梅 (橘港初ノ一ノ一五)  
**月草** 鴨頭草文露草 (難江四ノ四二)  
 鴨頭草 (一話三ノ一五)  
 一を消す法 (屠龍一九)  
 の事 (玉か四ノ三五)  
**月と風裸になりて角力哉** (秋里上ノ七)  
**月の行衛** の歌の出處 (隣女一ノ二五)  
**月待日待** (桂林上ノ二四) (三養四ノ一三)  
**月見** (慶長一五)  
 中秋看月會 (藝苑七ノ一五)  
 月にまき處 (年々一ノ一)  
 十五夜十三夜 (隨意八ノ一六) (南畝上ノ一五)  
 十五夜十三夜を愛でせし古昔 (消閑三ノ一五)  
 十五夜十三夜を愛宿に配つ事 (難江六ノ一三)  
 十三夜の月 (安随四ノ一) (同一五ノ一六) (孝經一ノ一二) (隨意五ノ三七) (乘

燭ツキ一ノ六(隣女二ノ四八)(玉カ一三)  
 一三(鹽尻二三ノ一四)(松友上ノ四)  
 (松筆七〇ノ三五)  
 十三夜に月を賞する初(鹽尻一ノ一九、  
 九ノ一七)  
 八月十五日(牛馬五三)(松筆一五ノ七)  
 九月十三夜の故事(如蘭二四ノ一〇)  
 七月の月に勝れたるはなし(閑耕二ノ三)  
 禁裏御歌會(鹽尻一三ノ三二)  
 鳥羽殿八月十五夜(御歌御遊(玉カ五  
 ノ三五)  
 大阪の様(浪花九)  
 唐土并長崎にて初春望月を祝ふ事(鹽  
 尻二二ノ五)  
 中秋の月の陰晴并詩歌(茶筆一ノ四)  
 月を見てよめる歌(鹽尻三七ノ四五、四六)  
 名所の月をよめる歌(鹽尻二二ノ三〇)  
 八月十五夜三島の水心亭に月を見てよ  
 る歌并序(遊京上ノ九)  
 春宵の月をよめる歌(鹽尻二二ノ三〇)  
 春宵の感(鹽尻二二ノ五)  
 頼月九夜十三夜の歌(松筆一ノ一七)  
 九月十三夜癒れる時よめる歌(鹽尻三六  
 ノ二四)  
 江月不随流水去(鹽尻五三ノ六)  
 「イモ」芋名月ヲ見ヨ  
 月やあらぬ 業平カ 玉カ六ノ三  
 月役 さいふ材木(鹽塚四〇)  
 月讀神社 登岐國并山城國の  
 鶴ツキ 三稻負鳥(碩鼠五ノ二四)

承足ツキ (松筆九四ノ二六)  
 接木 (孝經四ノ一)  
 木の綴ツキ (松筆一五ノ二)  
 撞ツキ 賢木殿之御魂 の義(玉カ四ノ五)  
 次侍從 (松筆九三ノ三八)  
 假山 「ニ」庭園ヲ見ヨ  
 築山殿 家康室一の宗系(設小一ノ  
 の名(設小三ノ三六)  
 楓弓 「ユ」弓ヲ見ヨ  
 頭巾 (沿革(我衣七五)(寛天二五)  
 の説(閑耕三九)  
 品々(設小五七)  
 兜巾、出羽、桂包、ほあて  
 角巾、丸、岡崎、熊取  
 もつ、う、隠元、なげ  
 、わく、山崎、おんとう  
 、黒船、御高祖、おもり  
 、胡、御高祖、おもり  
 (遊遊上ノ一五ヨリ九)  
 色々、紫、丸、赤  
 紙、紫、丸、赤  
 、はる、置、なんば  
 紅、毛、くら、細  
 隠元、赤、長半、おぼろ  
 、おと、忍、縮  
 、おとし、おもり、縮  
 とも、奇特、氣儘

角ツキ 袖(柳筆中ノ八ヨリ三二)  
 氣儘(奇跡二)  
 袖ツキ (用捨下ノ二七)  
 大明(我衣二二五)  
 山崎(橋本二ノ三三)  
 桂包(遊遊三ノ上ノ一八)  
 に作り罷(遊遊三ノ上ノ一八)  
 破り様の事(遊遊三ノ上ノ一八)  
 禁裏の書付(半日三ノ七)  
 「ハ」帽子一ツク(覆面ヲ見ヨ)

ツク  
 つく打たる 鎌矛の(松筆  
 一五ノ二二)  
 つくねん坊 (足新二ノ一〇)  
 つくも髪 (傍廂九二)(比古六ノ七四)  
 (鹽尻二二ノ九)(松筆一五  
 ノ二二)  
 つぐら (松筆七二ノ二、七四ノ三〇)  
 机 しもさの遊勝(筆上ノ一〇)  
 結(鹽尻一〇ノ六)  
 京傳(古一記(擁書三ノ一七))  
 鴉ツキ つくおとし(遊遊二ノ二二)  
 土筆 ミ食合はせもの(安隨一九ノ三五)  
 土筆色 (松筆一〇五ノ三八)  
 筑紫紀行 の作者考(梅日三ノ二〇)  
 筑紫琴 「ヨ」琴ヲ見ヨ  
 筑紫三女神 の説(權閣下ノ四二)  
 筑波山 の名義(南留一ノ二三)

筑波踊 漢土の(設小四ノ二四)  
 筑摩祭 一圖説(曲漫上ノ一八)  
 佃島 の築立(遊遊二ノ三〇)  
 の變遷(望海三二)  
 築土 地名訛謬の中(燕石三ノ二二)  
 築土明神 (望海二〇)  
 躰跡の辻 (笈埃二ノ二八)  
 造花 心菜(安隨一七ノ五二)(北邊三ノ三  
 別春(足新三ノ一〇)  
 作り花(遊遊六ノ下ノ四三)  
 造る 眞似するを(さいふ(松筆一〇ノ六  
 ノ四七))  
 作り泉 (松筆九五ノ二五)  
 作り物 種々の(松筆四ノ一五)  
 作り土 といふ布片(白紳三ノ五)  
 ツク  
 黃楊 朝葉(一話二ノ三二)  
 附帯 「オ」帯ヲ見ヨ  
 附木 發烟(遊遊一〇ノ下ノ三)  
 附木店 「ホ」本郷ヲ見ヨ  
 附け物 繪き花付たる童(安隨六ノ二  
 九)  
 祭の赦免(安隨一五ノ二四)  
 「サ」祭禮ヲ見ヨ  
 鬮ツク 鬮一輩を求めたるによりて  
 罪を得し事(如蘭一六)

ツク  
 つこもり 晦日(一三四)(松筆九二ノ四〇)  
 ツサ  
 杜撰 といふ文字(隨意三ノ三三)  
 ツシ  
 辻 といふ文字(一話一五ノ三七)(閑耕四  
 ノ三五)(南留一ノ三)  
 (遊遊八ノ二三)(笈埃一ノ六)(世談  
 一七五)(閑耕上ノ一七)  
 辻か花 さいふ染模様(柳筆上ノ一ノ五  
 一)  
 辻君 「イ」淫賣女ヲ見ヨ  
 辻斬 の流行(窓二二六)(宛小中ノ七  
 八)  
 辻酒盛 (松筆九二ノ五七)  
 辻取 「カ」強姦ヲ見ヨ  
 辻話 露の五郎兵衛(奇跡六)  
 「カ」講談師「ナ」唾ヲ見ヨ  
 辻番 江戸中の初(一話四八ノ三八)  
 高割の布子(南留上ノ一五)  
 辻祭 (鹽尻三三ノ九)  
 岐神の事(鹽尻一五ノ一九)  
 辻社 「シ」神社ヲ見ヨ

厨子 (玉カ八ノ三五)  
 厨子棚 (安夜四ノ三)(安隨八ノ七)(松  
 筆一五ノ四七)  
 津島 尾州(四家七名宇寄合組(鹽尻二  
 三ノ一八)(同六ノ七、九ノ七)  
 津島渡 (閑耕一ノ二四)  
 津島神社 尾州(三ノ一六)の異説(鹽尻四  
 津島午頭天王(鹽尻三六ノ三一、三二)  
 津島祭の事(鹽尻三六ノ三二)(曲漫上ノ  
 一四)  
 の神宮、侍平野氏の事  
 (鹽尻三六ノ三三)  
 「ヨ」午頭天王ヲ見ヨ  
 對馬國 (香椿二ノ一)  
 の式社(玉カ九ノ三二)  
 ツス  
 豆子 「サ」皿ヲ見ヨ  
 ツタ  
 つたなし といふ詞(答問一)  
 津田休市 「キ」休市ヲ見ヨ  
 津田將監 岐阜の戦に(殿りの事  
 (白紳七ノ六)  
 津田宗及 (白紳七ノ六)  
 頭陀寺碑 (東屋下ノ二二)

頭陀囊 (昆陽二〇)

● ツチ

つち 土は神の事なり(南留一ノ三三)  
 土 といふいやしめ詞(松筆六五ノ五〇)  
 土一揆 (松筆九〇ノ四)  
 土蜘蛛 (安隨二ノ五)  
 土倉 (松筆一五ノ二二)  
 土園子 (松筆八七ノ四一)  
 土なぶり 又砂あそび(嬉遊六ノ下ノ三)  
 土荷 天子其他の高貴自ら給ふ(松筆九三ノ七六)  
 土御門院 の院内小御所庭作りの事(閑自二ノ四)  
 土御門内裏 (玉が四ノ三五)  
 土餅 (松筆六二ノ二〇)  
 土屋 土屋倉(松筆二ノ一八)  
 土屋敷置 の直言(白紳六ノ一四)  
 土牢 「ラリ」牢獄ヲ見ヨ  
 樋 よー井ーの名種々(松筆三ノ一〇)  
 ● ツ

つゝ ー、つゝぐれ、つゝぐらかり、つゝしる(松筆一五ノ一一)  
 つゝぐれ といふ詞(松筆一五ノ一一)  
 つゝしむ といふ詞の意(南留二ノ三二)  
 つゝどめ ーの説(松筆二二ノ一四)  
 つゝの御嶽 拾遺集のツ、ミノタケハ、の誤なる事(玉が三ノ二二)  
 つゝみなく 又つゝみなくといふ詞(玉が二ノ五)  
 つゝやく といふ詞(松筆一五ノ二二)  
 つゝら といふ詞(松筆一八ノ四〇)  
 筒井氏 和州諸將傳(觀尻三二ノ一六)  
 筒井順慶の死を秘せる事(觀尻三二ノ一七)  
 筒井順慶の死并其臣の殉死(觀尻三二ノ一八)  
 筒井順慶の商人一揆を起す事(觀尻三二ノ一八)  
 筒の火 といふ忍びの自傳(安隨二ノ一三)  
 筒もたせ (嬉遊九ノ一八)  
 頭痛 ーの呪(觀尻三二ノ一六)  
 頭痛山平念寺 の縁起(閑次二ノ三三)  
 恙 無の義(安隨五ノ二二)(玉が二ノ五)  
 管粥 (提燈五ノ二五)

都築經家 の馬術上手の事(秋齋二ノ二)  
 躑躅 大 ーの事を記せる書(奴風馬酔木とー)(筆字中ノ三ノ碩鼠一ノ三)  
 昔八重 ーの少かりし事(嬉遊二ノ四二)  
 杜鵑の流行(足齋二ノ三四)  
 丹波深志野の(筆字中ノ一五)  
 櫻塔 國説(觀尻三三ノ三二)  
 播磨國萩の櫻(發見二ノ一一)  
 躑躅岡公園 上州館林 ー(如蘭三七ノ一六)  
 衝梁 檜柱(銀屑一六)  
 堤 の柳(松落三ノ四〇)  
 堤氏藏書目錄 (一話四ノ三三)  
 堤中納言 (嬉遊附ノ一四)  
 包み焼 といふ料理(嬉遊一〇ノ上ノ四)  
 鼓 つゝみといふ名詞(南留五ノ一〇)  
 小 ー(安隨四ノ二九)(世談一〇五)  
 手 ー(世談一〇五)  
 拖 ー(安隨一三ノ七)  
 拍子 ーの相通(秋齋二ノ四)  
 信貴山 ーの廟(發見二ノ一〇)  
 山子規 ー(松筆六二ノ四四)  
 孔明の銅 ー(松筆六二ノ四五)  
 ーを買ふまき贈答の狂歌(窓道八八)

「クラ」喚嬌娘ヲモ見ヨ

鼓嵩 の歌の事(觀尻九ノ二六)

鼓瀧 の歌(樞閣下ノ三三)

囊床子 「シヤ」床子ヲ見ヨ

葛籠 さいふ籠の名(唐龍一〇)

綴れ織 織絲(藝苑一ノ二三)

綴れ錦 克絲(藝苑一ノ二二)

● ツト

つと入 (嬉遊八ノ四)

つとふ 集るをーといふ(圓珠二九)

つとめて といふ詞(安隨二〇ノ二四)

● ツ

つなせ 「コノ」鯛ヲ見ヨ

つなぬき といふ物(松筆九四ノ二八)

綱不知 さいふ地(發見八ノ一)

綱引 (嬉遊四ノ一八)

網河の戯(藝苑五ノ一八)

ツハリツロ

ツハリツロ

ツハリツロ

ツハリツロ

網渡り (藝苑五ノ四)

海嘯 石州にて見たる(發見四ノ二)

● ツネ

常に言出さぬもの (四方月ノ三)

● ツ

角 人を誘ふ法(理齋一ノ八)

角 人への生(一)事(三發三ノ八)

角鹿桃葉 の小傳(兎小中ノ三八)

角大師 心をめる發句(假世三八)

角管 武州 ー村(一話三三ノ一四)

鹿角菜 の効能(兎小下ノ六六)

● ツハ

つはもの の義(松落一ノ三〇)

唾 ツといふ名(燕右一ノ二三)

鏢 「タツ」刀劍ヲ見ヨ

棒 京都御所にあらず(隨意三ノ一四)

山茶花をーと混する事(觀尻一七ノ八)

ツハリツロ

ツハリツロ

ツハリツロ

ツハリツロ

元和寛永頃の流行(嬉遊二ノ三七)

棒市 といふ地(唐龍三三)

棒々山 小傳(如蘭三ノ一九)

棒餅 (安隨一九ノ六五)(發見四ノ二二)

● ツヒ

芽花 食 ー則肥(安隨八ノ一〇)(安夜四ノ九)

燕 の由来(隨意七ノ二〇)

燕 石 ー(觀尻三九ノ二九)

燕 ーの事を作るを嘉瑞といふ(梅目一ノ三)

燕 貞 ー(隨意三ノ四〇)(觀尻三九ノ二二)

燕 附木 ーといふ、蝶々「玩具」(嬉遊六ノ下ノ四一)

燕 附木 ー(松筆七ノ二三)

燕 附木 ー(桂林上ノ一一)(二上三五)

燕 附木 ー支那人の貧賤する燕窩の事(兎小中ノ二四四)

燕 附木 ーツハリといふ詞(難江一ノ四六)

● ツヒ

つひぢ (松落二ノ一九)

ツハリツロ

ツハリツロ

ツハリツロ

ツハリツロ





鶴 ミタツと同物(園珠三)

鶴 一種類(鹽尻四〇) (二四) 一日の飼料(遊遊二二) (二四) 頼朝の放し(老牛上ノ三三四) 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

鶴の脛 さいふ形容(北邊二ノ三九)

鶴見 金澤の入海(原(柳菴一ノ二八))

鶴峰 勢前(海西一ノ二八)

鶴峰戊申 の光(海西一ノ二八)

劍 京都修業の事(海西一ノ二四)

劍の刃を渡る さいふ事(幽遠上ノ七)

劍明神 越前織田庄(鹽尻三八)

都留郡 甲斐國都留郡(一話一三ノ二二)

椽 考(難江三ノ四四)(白筆上ノ五)

弦袋 (松筆九五ノ七三)

弦巻 神功皇后(安隨二ノ一九)

釣瓶 竹の(玩具)(遊遊六ノ下ノ四四)

大神人 イメ(天神人ヲ見ヨ)

徒然 の出處(鹽尻一ノ一九)

徒然草 一作の時代(春下ノ一三)

菟蓐泥武 仁徳記にある(一話一三ノ二七)

ツン ぶんざり さいふ茶具(一話八ノ一八)

つんざひ (安隨二ノ五〇)

づんどう切 (松筆九五ノ二八)

鴟武者 (松筆八四ノ七八)

て をニテの場合に用ふる事(閑耕四ノ三)

て 人を(老牛下ノ二九)(二上八六)

て さいふ調(安隨一〇ノ七)(二上五九)

て 以一加額(難江四ノ八四)

て 手洗所の水門、ぬれ後(松筆五ノ六)

てい 雪路直の(遊遊一ノ五ノ二九)

てい さいふ見戯(遊遊六ノ下ノ一)

丁 丁字義(理齋五ノ一七) 丁字訓(遊遊附ノ三) 丁字病 (隨意五ノ四) 丁東 丁字義(如蘭三五ノ三三) 豆 さいふ語の出處(松筆四〇ノ八) 亭 某家さいふに某亭とかく事(玉か一四) 定 一字(鹽尻一ノ一八) 定家の烟 義(柳記下ノ一四) 定額 (松筆一三ノ三) 定額の女婦 (安隨一五ノ二五) 錠 一の相場(續見一六) 貞安上人 大雲院(筆中ノ一) 貞松房 の最期(松筆一ノ六) 貞女 貞節の婦人の話(窓道四九) 常陸丈部子氏の貞節(餘五ノ一七) 浪花の(窓道九八) 長と換櫓(閑耕二ノ二二) 松前の(見小中ノ八) 「キツ」節義「レツ」烈女ヲモ見ヨ 貞晚僧正 の剛直(窓二五九) 程伊川 不解論語文義(隨意四ノ九) 程嬰杵臼 不怨人(驗齋仁ノ三五) 程嬰杵臼 不怨人(隨意七ノ二〇)

程限 一説(松筆六四ノ四二) 程子 の名(餘五ノ二二) 程子學 (松筆五ノ九) 程朱學 異説まち(驗齋仁ノ二六) 邪説三種を駁す(驗齋仁ノ二六) 邪説を誦する(驗齋仁ノ一六) 「シ」儒學ヲモ見ヨ 程濟 忠節(驗齋禮ノ二四) 庭園 「ニハ」庭園ヲ見ヨ 庭訓往來 今川帖と考(南嶺三ノ四) 月ノ二 庭訓 今川帖と考(南嶺三ノ四) 廷寄 の制(松筆八六ノ一) 啼 の字義(松筆六三ノ三六) 鄧曲 及變曲(遊遊六ノ上ノ九) 鄧曲撰要 八 目錄(一話一七ノ二) 帝王 に関する名稱(松筆六三ノ四〇) 皇帝 天皇帝(松筆六三ノ四一) 「チヨ」女帝「アラ」王ヲモ見ヨ 手石彌陀 (松筆八八ノ三七) 鄭成功 の傳(尊雅附)(一話二四ノ二七) 國姓爺の事并線香の初(白神六ノ一六)

鄭奏舍 鄭成功の孫(一話一八) 鄭和尙 辭世の頌(消閑二二) 鼎足 の説(松筆九七ノ二四) 涕唾便利 (松筆一四ノ一七) 泥炭 薪土(松筆八六ノ一五) 蹄鐵 「マ」馬ヲ見ヨ 棟梁 「ヤマ」山吹ヲ見ヨ 邸報 (續見四三) 艇板 (續見五二) テウ てうさい の解(見集九九) てうち(あは) (遊遊六ノ下ノ二) てうちの渡り (松筆七ノ三三) てうと、といふ俗語の字(安隨八ノ二五) 吊 吊字と一字(乘燭四ノ六)



**敵** のお蔭(松筆一ノ二ノ二八) 族少ふして多きは天助なり(松筆八ノ七ノ二) 寇族可盡(松筆九ノ四ノ四) 出来秋 さいふ事(松筆七ノ二ノ二九) 溺器 碎華美の一條一對(隨筆四ノ二〇) 溺死 者を救ふ(松筆七ノ四ノ二九) 狄仁潔 人を救ふ方(松筆七ノ四ノ二九) 怒如調饑 の義解(技藝一ノ一七) 適莫 の出處(擲海上ノ三)

●テウ

てくの坊 (松筆九ノ二ノ二七、九三ノ九) 手草 (孝經四ノ九) 手ぐすね引 さいふ事(松筆九ノ二ノ二) 手具足 (松筆九ノ二ノ七) 手車 さいふ兒戯(擲遊六ノ下ノ七) 天吞糸 (擲遊二ノ四ノ一) 蟲絲(昆陽一三九) ●テコ てこする さいふ俗語(平日一三ノ三二) てこな さいふ言葉(四方花ノ一四) 「マ、」音聞(一ノ一モ見)

てこのぼう さいふ詞(擲遊六ノ上ノ四) 「テウ」てくの坊ヲモ見ヨ 手古 一の者、一仕、一棒(松筆六ノ一ノ二五) 手兒奈 一、手兒、手兒呼吸(松筆一ノ二ノ三) ●テサ 手相 閑白四ノ二) の月簡理(隨筆六ノ九) 「サウ」觀相ヲモ見ヨ ●テシ てし 万葉集にさいふ辭に義之また大王と書く事(玉か六ノ二八) 弟子 「シテ」師弟ヲ見ヨ 手品 弄玉、放下師、放下僧、やふり僧、小切子、文織、兎師、輪鼓、豆藏、藏袂伎(松筆九ノ九ノ五) 品玉(松筆九ノ九ノ五) 放下師(松筆九ノ九ノ五) 放下師(松筆九ノ九ノ五) 柳上ノ一ノ六二、上ノ二ノ三六) あや竹又織(柳上ノ一ノ六二、上ノ二ノ三六) 繩たらし又細めけ(柳上ノ一ノ一七) 放下上技(梅日一ノ三九) 「ハウ」放下ヲモ見ヨ 手品節 (我衣一五) 手鹽 「サラ」皿ヲ見ヨ

手酌酒盛 狂歌師の江戸構(蝶遊附ノ九) ●テス 出洲 の漢語(松筆一〇九ノ二四) ●テタ 手代 さいふ事法師にもいへり(玉か七ノ六) 術 又手術(松筆九五ノ九八) ●テツ てつち 小童をさいふといふ(松筆六ノ三) てつ さいふ詞(玉か一〇ノ三八) てつべん さいふ俗語(松筆七八ノ八四) てつるもつる さいふ俗語(橋本二ノ二ノ八) 鐵 我國に産する(多波上ノ二) 鐵英 「カナ」ヲ見ヨ 鐵蓋嶺 さいふ甲「カウ」甲冑ヲ見ヨ 鐵冠道人 さいふもの四人あり(餘餘二ノ四) 鐵櫃 さいふもの(松筆六ノ二ノ二) 鐵丸所 伊豆海邊の(松筆七八ノ二) 鐵券 (松筆六七ノ二)

鐵舟 舟の船(世談一五三) 鐵尺 「ケイ」文鎮ヲ見ヨ 鐵樹 (昆陽五〇) 鐵線花 (世談五六) 鐵槌子 「イン」陰莖ヲ見ヨ 鐵鑄 鑄二ノ一六 三推(昆陽六五) 鐵砲 詐いふ事をさいふ(擲遊九ノ四) 鐵砲 (世談七五)(談正七二)(松筆六四ノ二)(九二ノ七三) 飛銃(松筆三三) 提筒(松筆一ノ七ノ三) 風銃(松筆一ノ七ノ三) の名(種子島、鳥銃(半馬四六) 二(理齊六) 一(松筆八四ノ七) 二(四) 渡來の國(隨筆三七ノ一八) 種子島 (安隨一四ノ二)(松筆九三ノ五六) 佐々木少輔より相傳(隨筆四八ノ四) 玉込等銃術の事(安隨三ノ一五) の火蓋の銃の中を空にする事(安隨一ノ一五) の音強く鳴らざる法、の筒先か下けて打つ法(安隨二ノ四六) 支那の鳥銃(一話二九ノ二四) 蒙古の寇(一話四ノ五) 家康の(一話四ノ五) 竹橋殿の(一話四ノ五) 新大に付村觸(平日八ノ二六)

鐵砲鍛冶 の國友を名乗る事(傍照二七) 鐵砲草 さいふ植物(笈埃八ノ一〇) 鐵砲せり合 (松筆九六ノ三二) 鐵砲始 (松筆九三ノ五〇) 鐵面皮 厚面皮、厚顔、薄面皮(松筆七八ノ九) 面的皮千枚張(松筆九〇ノ三五) 鞍耕録 の抄註(雜末四ノ二五) 手甲 (松筆九八ノ二五) 手繼證文 (松筆一〇〇ノ四五) 手次坊主 (松筆一五ノ二〇) 別紅 (松筆一五ノ四九) 撥火 さいふ藝(藝苑五ノ二二) 徹書記 「セイ」正徹ヲ見ヨ ●テ、 て、 父をさいふ(幽遠上ノ九)(松筆九五ノ四五) 「テ、」父ヲモ見ヨ て、ら 「シタ」下帯ヲ見ヨ ●テナ 手なし さいふ詞(柳記下ノ二) 手習 さいふ漢字なり(一話四ノ二二) さいふに車を押す如し(松筆七七)

ノ三二) 手習師匠 江戸の(無筆多し) (鷹塚七九) ●テニ てにをば さいふ事(南留一ノ一〇)(南七) にはの略(安隨八ノ四〇)(安夜五ノ二七) ●テヌ 手拭 (擲遊二ノ上ノ二八) 手拭のかせ (松筆二ノ三三) ●テハ 出羽 雪中(紀行(兩次)ノ二二) 國(替摺二ノ六) ●テヒ 手拍子 (擲遊五ノ二三) ●テフ てふ 衣ほすの(南留三ノ四) 貼 葉一刺爲一(隨筆五ノ一七) 帖 の字(松筆六四ノ四二) 牒 一字か膝と書く事(乘燭五ノ四)

蝶 離れぬものに用ふる事(閑次三ノ三)

蝶子の字義(醍醐下ノ一一)

夢にさなる(松筆六三ノ五)

蝶花形 (松筆八五ノ二)

蝶花形 (鹽尻三ノ四)

蝶花形 (遊東京ノ二〇)

提夫利 (安隨八ノ七)(安夜四ノ五)

手ふりをして (松筆一〇ノ八)

テハ てへれば 者といふ事(玉カ四ノ二)

テマ 手纏 二品(春淡中ノ二)

手招き (松筆六七ノ四八)

手鞠 「マリ」鞠ヲ見ヨ

テモ 手もすま といふ詞(北遊三ノ一)

テヤ 手矢に持 といふ事(松筆九六ノ二)

テラ

てらつゝき 「キツ」啄木鳥ヲ見ヨ

てらふ 賦本「とよむ」(松筆六四ノ四六)

街ふ (松筆八三ノ五二)

寺 「シイ」寺院ヲ見ヨ

寺入 といふ事(松筆八三ノ二〇)

寺小屋 (橋本初ノ三ノ一八)

寺阪吉右衛門 義士(春上ノ二七)

寺町百卷 ミ開阿のうた(一話二ノ三)

テリ 照射 (福園上ノ四〇)

照々坊主 (嬉遊八ノ二五)(擁書四ノ一八)(松筆九四ノ四)

テル 出る杭は打たる、(松筆九三ノ三五)

テン てんがふ といふ語(柳筆上ノ一ノ四六)

てんじん 琵琶のてんじん(ゆか)

天 かアマツラさいふ(圓珠三)

天 一ハナカさいふ(鹽尻三四ノ三七)

天命なきにいふ(玉カ一四ノ三八)(同)

の説(安隨七ノ四二)(安夜三ノ二)(松筆六三ノ四)

の字(安隨一七ノ一六)

に任するといふ事(花月四)

一語(花月一〇八)

非(理)法(松筆四ノ二〇)

嗚呼の物語(玄同一ノ上ノ一八)

天一坊 の實説(瀨田三九ノ四二)

天永寺 尾張(鹽尻二一ノ一八)

天河 箭木のよみ方(春淡上ノ二四)

天下 一非一人之の出處(乘烟三ノ一六)

の事計り盡し難し(白神一ノ五)

「ヨク」國家ヲ見ヨ

天下 嬉遊九ノ四〇(宮川一ノ二)

天下太平 國土安穩 といふ語(松筆七ノ一七)

天下取 (安隨三ノ四二)

天下ノ僧 二階(松筆九四ノ三二)

天海僧正 南光坊の長壽(鹽意四ノ二)

天蓋 竹格(松筆九〇ノ八)

天行健 といふ易の卦の事(乘烟三ノ二)

天陰 隲下民「相」協厥居(鹽意五ノ一四)

天氣 晴雨の事(花月六)

天時 占候(世事二)

天 かく中つるもの言(花月八〇)

天 かく中つる老婆の語(閑次一ノ二)

天 農氏よく「か知る」(四方月一三)

天 探春歴記の法(鹽意四ノ一八)

天 猿入(松筆七ノ三)

天 天無雲三日中雨(鹽筆上ノ二八)

天 八月十五夜雨則明年正月元日晴(鹽意二ノ四)

天 大風大水を知る事(世事二五)

天 夕月の形によりて「なト」事(閑次一ノ一)

天 視月占水旱(梅日二ノ一)

天 天癸 「ガメ」龜非日和ヲ見ヨ

天 天狗 (安隨二〇ノ二五)(閑耕三ノ二)

天狗 (半馬四七)(鹽苑二ノ三)

天狗 (林上ノ一六)(暗語下ノ二)

天狗 (八ヨリ二)(松落二ノ四)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗 (如蘭一八)(松筆三ノ一)

天狗の爪 (一話一五ノ五)

天狗の熱鐵を呑むに似たる 事(松筆八ノ二九)

天狗の面 王の鼻(玉カ八ノ四五)

天宮孔子 事(春淡八九)

天寛叢書 の目錄(一話三二ノ二八)

天鷄 (鹽意四ノ二六)

天刑星 の畫像(鹽尻四ノ一八)

天鼓 の妖(蜘蛛二七)

天語通 海野幸典「」の評(後書一)

天后 「スイ」永天宮ヲ見ヨ

天子 の稱(鹽意七ノ一一)(同七ノ二四)

天子 (松筆二ノ一四四六三ノ五二)

天子 (の異稱(鹽意八ノ四一)

天子 (の養(年々六ノ七)

天子 (か天孫といふ(安隨二ノ一三)

天子 (か王と思ふ事(南留二ノ一七)

天子 (起臥の稱(安隨二〇ノ一九)

天子 (不親迎(鹽意七ノ一九)

天子 (平日の裝束(安隨一九ノ一五)

天子 (の冕(鹽意七ノ三〇)

天子 (唐土 生目の祝典(鹽意六ノ四)

天子 (の徳に怪異多し(鹽意三ノ三四)

天子 (「テン」天皇ヲ見ヨ

天市星 (松筆六三ノ一六)

天井 (嬉遊一ノ上ノ一)

天井 (の辨(秋齋二ノ二五)

天井 (の辨(秋齋二ノ二五)

天井 (の辨(秋齋二ノ二五)

天井 (の辨(秋齋二ノ二五)

天井 (の辨(秋齋二ノ二五)

天 格「ミ」承襲との別(松落三ノ五〇)

天上 物を極るを「さいふ」(松筆一〇ノ九)

天上 物(松筆三ノ九)

天上天下 唯我獨尊 といふ語に付て(鹽意二五ノ七)

天酌 (鹽意四ノ二〇)

天守 一(松筆七九ノ二二)

天守 一(松筆二二ノ二四、一一)

天守 城の「は」天主なる事(橋拾四八)

天主教 「ヤソ」耶穌教ヲ見ヨ

天壽院 「ヤソ」殿大阪を遷る、始末(白)

天書 (白筆上ノ三四)

天書 降る(鹽意七ノ二七)

天色 「ソラ」空ヲ見ヨ

天神 「イソ」遊女ヲ見ヨ

天神 の稱(南留四ノ一八)(海西三ノ二)

天神 「テン」天満宮ヲ見ヨ

天神講 (嬉遊五ノ五)

天神七代 地神五代(鋸屑二七)

天神諸命以 の訓方(如蘭二五ノ三〇)

天神壽詞 讀(安隨七ノ二七)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

天神林村 常陸(松筆一一五ノ一八)

**天神山** 武州——「イツニ色氏ヲ見ヨ」  
**天棘** 皇孫——といふ事(玉叶七ノ四)  
**天孫** 皇孫——といふ事(玉叶七ノ四)  
**天體** 望遠鏡にて——を窺ふ(閑次ノ三)  
 日月之體(隨意ノ四二)(居龍二ノ四)  
 「テン」天文ヲモ見ヨ  
**天台座主** の始(鹽尻四ノ一五)(松筆九三ノ五九)  
 代々(難江七ノ五四)  
**天台宗** の正流(鹽尻五ノ二四)  
 支那に——の傳布(一話四ノ七)  
 の新發意(安隨二〇ノ二七)  
 の兩派と法智尊者(鹽尻五ノ四七)  
 僧正の始(理齊六ノ二二)  
 法務の始(理齊六ノ二二)  
 三大部五小部(鹽尻九ノ二二)  
 金口相承の事(鹽尻九ノ二二)  
**天台闕文** 宋國求——(松筆二二五ノ二)  
**天道** 澤菴和尚の語(一話六ノ一)  
 或は應と或は應せず(松筆八四ノ六)  
**天道宮** (鹽尻二八ノ四)  
**天道法師** の舊跡(一話二ノ二七)  
**天地** の形(隨意六ノ三三)  
 論(隨意八ノ六)  
 圓形(昆陽一〇〇)  
 陰陽の理(橋本初ノ三ノ一四)

佛書所謂の理(鹽尻四六ノ二七)  
 の分るの時(松筆九五ノ七)  
 の始難子の如しといふ説(松筆七九ノ一四)  
 猪水胞を以て——を説くの始(續長九ノ九)  
 久方の天あらわれの地(安隨九ノ三〇)  
 大江匡房の言葉(理齊二ノ一五)  
 「テン」天ヲモ見ヨ  
**天地開闢** (安隨七ノ一九)(安夜二ノ一)  
 西洋の——(春波一〇二)  
 「カイ」開闢ヲモ見ヨ  
**天智紀** 天智天武兩紀年號(難未一ノ四)  
**天智天皇** の上天(閑耕二ノ七)  
 「アキ」秋の田ヲモ見ヨ  
 「イン」印度ヲモ見ヨ  
**天竺** 「イン」印度ヲモ見ヨ  
**天竺德兵衛** (茶筆四ノ二四)  
**天衝** 大——の指物(松筆一〇九ノ三九)  
**天燈** 詩(松筆六七ノ四)  
**天徳寺** さいふ紙被「ヨキ」夜着ヲ見ヨ  
**天女** 降て男に戯るゝ事(半日六ノ三)  
 の天衣(鹽尻一ノ一三)  
 來下(笈埃八ノ七)  
**天然** 「シセ」自然ヲ見ヨ  
**天の梅** といふ植物(笈埃八ノ九)  
**天の時** (眼雲一ノ二二)  
**天馬石** 阿波國の——(理齊六ノ三)

**天盃** 天酌、御通(松筆六二ノ三一、七三ノ一)  
**天拜山** 鏡前の——(笈埃七ノ四)  
**天保** の年號(松筆六四ノ二三)(談小五ノ二八)  
**天妃** (松筆七九ノ三二)  
**天平感寶** といふ年號(昆陽二九)  
**天秤か折れる** といふ俗語(松筆九五ノ二三)  
**天秤棒** 勅又は——(難遊二ノ七)(橋本初ノ四ノ八)  
**天獸羅** の初(細糸一八)  
**天變少將** (春波上ノ一四)  
**天變地異** 「トチ」土地陷没「ヘン」變災ヲモ見ヨ  
**天満宮** 北野——贈位贈官の時化現の鍋島家の渡唐天神の給(白紳三ノ一六)  
 水鏡天神の像(閑耕二ノ二)  
 渡唐天神(隣女二ノ三)(奴風二ノ一)  
 北野の御説といふ歌(玉叶八ノ五〇)  
 渡唐天神感得の事、同天神の事(閑耕二ノ八)  
 渡唐天神(暗器上ノ二八)(閑耕二ノ一)  
 薩唐天神の贊(一話一九ノ三五)  
 薩天錫、温洪序——の贊(松筆一〇六ノ五)  
 「テン」天神「スカ」菅原道真ヲモ見ヨ  
**天武天皇** 論(餘五ノ四三)  
 遙拜天照大神(鹽尻五三ノ一)  
**天明** 改元の詔(一話三九ノ二七)  
 年間に災害多き事(鬼小下ノ二)

**天命** の説(安隨三ノ一〇)(訓淺四六)  
 六(餘二ノ二九、三六)  
 の禍福(鹽筆四ノ一〇)  
 に幸不幸あり(白紳一ノ二)  
 命と徳(餘四ノ二八)  
**天目** の圖(安隨二ノ一七)  
 といふもの(松筆一〇五ノ二二)  
**天目山** 支那——(松筆五二ノ一四)  
**天文** の疑點(病問五五)  
 略(如蘭一話一七)  
 天明四年の顯象(一話八ノ二六)  
 巳の五月十九日天象の圖(鹽尻五ノ二二六)  
 文化年間——の研究(春波九)  
 「ア」安倍泰親「テン」天體ヲモ見ヨ  
**天文學者** (一書二ノ三三)  
**天文臺** (松筆一七ノ五七)  
**天龍川** (玉叶七ノ二八)  
 の訓(閑次三ノ一一)  
**天龍役** 大天龍小天龍の役(白紳三ノ三三)  
**天龍八部** 佛者頓爲の抄物(鹽尻四七ノ二五)  
**天祿歌合** の序(難未六ノ一)  
**天祿永終** (眼雲一ノ一七)  
**天祿獸** の圖説(燕石三ノ二六)  
**天皇** の名稱(鹽尻七ノ一〇)(如蘭二六ノ一七)  
 二五(松筆五〇ノ一五)(談小二ノ一七)  
 の稱號よみ方(一話四八ノ三九)  
 みかど、すべらき、おほきみ、すべらみこと、おりのみや(圓珠三〇)

すめらみこと(乘機一ノ一)  
 我國至尊を——と稱する事(鹽尻一八ノ五)  
 太子等の號(隣女一ノ二)  
 追號(難江三ノ七三)  
 歷代諸帝の異稱(鹽尻五ノ三八)  
 出家せられたる諸帝(鹽尻一ノ二三)  
 以乳母姓爲し名(孝經一ノ二二)  
 日々の供御(一話一ノ一九)  
 御衣の日常(一話一ノ二二)  
 装束の召し様(居龍三ノ二二)  
 元服の時(玉叶七ノ二二)  
 崩御のよし山陵に告給ふ宣命(玉叶七ノ二七)  
 崩御々入棺の儀(玉叶三ノ九)  
 の位牌の所在(一話二ノ二四)  
 「オク」論「テン」天子ヲモ見ヨ  
**天皇星** (松筆六三ノ一四)  
**天王寺** 攝州四——兩三五(笈埃七ノ二三)  
 の鐘(四方月一〇)  
 攝州四の物(一話二ノ二五)  
 の突上(一話一七ノ三三)  
 の額の筆者(閑次二ノ三〇)  
**天王寺未來記** 「タム」補正成ヲ見ヨ  
**天王寺村** は徳頭を造らす(橋本二ノ二)  
**天王寺屋** 大阪の舊家——五郎兵衛(浪花二六)  
**天王祭** (一話一九ノ八)  
**貂** 鹿なき間の——はこり(松筆七六ノ四)  
**田達音** 「タ」田達音ヲ見ヨ

**田樂** (安隨七ノ七、八ノ三〇、一九ノ五一)  
 雜考(卷五ノ内)  
 田舞(鹽尻一ノ一八)  
 芝の番組(難遊二ノ八)  
 三六(難遊二ノ四八)  
 堀河帝の永長元年大——の事(鹽尻一四ノ二)  
 洛陽記(鹽尻一五ノ二〇)  
 王子の(一話二二ノ三三)  
 奈良井四座の樂(松筆九ノ二〇)  
 「ノウ」能樂「サル」猿樂ヲモ見ヨ  
**田樂** といふ食物(難遊一〇ノ上ノ一一)  
 豆腐(世談四二)  
 「トウ」豆腐ヲモ見ヨ  
**田樂賣** 大阪にて——の呼び聲(浪花三三)  
**田樂法師** (安隨一ノ二二)(笈埃八ノ一)  
 の圖(藝叢三ノ八)(閑耕四ノ五)  
**田樂病** (松筆九八ノ三三)  
**田制** 本邦古の——(橋本初ノ一ノ二二)  
 井田の事(山下二四)(續長一〇四)  
 諸國田地の高の事(南留四ノ二五)(南辨承久親後宣旨式目追加(山下一〇)  
 圭田(松筆一五ノ三三)  
 公田私田(南留四ノ八)(南辨一)  
 公解田(孝經二ノ三)  
 佐田(松筆一〇〇ノ五二)

田宅 松筆四ノ二三  
 田文 松筆一ノ五ノ三六  
 田票 シヨシ文ヲ見ヨ  
 殿下 尊稱(安隨三ノ七)(同一九ノ二四)(若梧一ノ下ノ二二)  
 殿上 拾玉三ノ一九  
 殿中 稱(安隨五ノ一九)  
 殿中刃傷 書せられたる人々(二話一三ノ三)  
 傳記 系圖、記録、一の書(鹽尻三ノ一四)  
 傳奇 併優考ノ内(白雜考卷五)  
 傳九郎染 賤小二七  
 傳教大師 略傳(鹽尻一ノ二四)(松筆八ノ一三)  
 傳國體 「サン」三種神器ヲ見ヨ  
 傳戸病 松筆六ノ一七  
 傳習録 餘五ノ三七

傳生子 「コ子ヲ見ヨ」  
 傳奏 裝束(白神四ノ二六)  
 傳通院 慶長以來の次第(若梧四ノ一)  
 傳通院 江戸の門前町(白神七ノ六)  
 傳燈寺 美濃の僧別殿(鹽尻二ノ一〇)  
 傳の方 綱吉の愛妾五丸殿(憲三二五二)  
 傳馬 給ふ(松筆一ノ二二)  
 轉居 移徙忌赤衣、移徙粥(梅日二ノ三)  
 轉失氣 漢(善菴一ノ二一)  
 轉注 一説(百家説林卷九ノ内)(如蘭一ノ一)  
 轉法輪 居三三  
 轉蓬 といふ漢語(隨意六ノ二六)  
 點 「カテ」加點ヲ見ヨ  
 點心 (安隨二ノ一五)(辯遊二〇ノ上ノ七)  
 點心 (同二〇ノ上ノ二九)(松筆八ノ一四)  
 支那俗語の出處(隨意三ノ三三)  
 小飯非時(鹽尻八ノ一四)  
 シヨシ食事、食物ヲ見ヨ  
 點のうち人なし といふ詞(幽邊上ノ四)  
 添水 「カ、案山子ヲ見ヨ」

繩頭 「ハナ」ヲ見ヨ  
 篆隸萬象名義 といふ書名(擁書二ノ三一)  
 ト  
 と 止字を登の假字に用ふる事(比古六ノ四五)  
 と 例(松筆八九ノ一七)  
 都 字音(白筆下ノ一五)  
 戸 狐(辯遊一ノ上ノ一五)  
 妻 一(辯遊一ノ上ノ一五)  
 妻 一(辯遊一ノ上ノ一五)  
 方立(辯遊一ノ上ノ一四)  
 支那尺の(昆陽一三八)  
 ●トイ  
 士井利勝 の父(鹽尻三六ノ二三)  
 の雅量(憲三三九)  
 の名言(春波一三三)  
 ●トウ  
 どうして といふ俗語(安隨八ノ二五)  
 (安後五ノ二)

どうぞ といふ俗語(安隨八ノ二五)(安夜五ノ二)  
 どうくめぐり 付まわりくの小佛(辯遊六ノ下ノ二七)  
 どうくたらし 猿樂の(辯遊六ノ上ノ二)  
 どうもかうも といふ詞(松筆一〇六ノ六)  
 どうもせぬ といふ詞(松筆一〇六ノ六)  
 どうもん 田圃を(さいふ)(鹽尻三〇ノ二)(同三四ノ五)  
 どうやら といふ俗語(安隨八ノ二六)(安夜五ノ四)  
 どうらん の本字(鹽尻三〇ノ一八)  
 逗 の字(乘燭四ノ一〇)  
 洞 洞蟻の一字(昆陽一四〇)  
 洞院 大炊殿を(と改めらるゝ事(玉コ一三ノ一八)  
 洞窟 松筆八六ノ二三  
 諸國の(屠龍八)  
 洞房語園 解題(温知叢書第一編ノ内)  
 洞房語園考異 解題(温知叢書第六編ノ内)  
 藤 科(昆陽一三九)  
 科(安隨一ノ三、二ノ二二)  
 古人以數爲(隨意六ノ一九)

頭子錢 (昆陽八八)  
 頭腦酒 (眠雲二ノ一五)  
 等阿法師 一枚法語并歌(二話六ノ一)  
 東伊 賴町(武俗二)  
 東夷 物茂卿の(さいひし事(難江二ノ八五))  
 東叡山 「ウ」上野ヲ見ヨ  
 東海氏 の墓(一話六ノ三四)  
 東海寺 品川(望海五二)  
 東海道 澤庵和尚石碑の邊にある丸石(八水一六)  
 東海道 名所記六卷(温知叢書第一編ノ内)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)  
 東海道 往來の路(鹽尻八ノ三五)

東宮をたかひにゆづりて 「コキ古見」  
 東宮雅院 (玉コ一三ノ三八)  
 東宮御息所 (玉コ五ノ二二)  
 東慶寺 鎌倉松岡(一話二〇ノ三〇)  
 東湖禪師 の山來(春波五三)  
 東西 騒敷を鎮むるに(といふ事(松筆一ノ一八)(同二ノ二ノ八)  
 東西南北 の漢字(隨意五ノ四一)  
 東西洋考 中の日本に關する難句考(談小一ノ四四)  
 東照宮 紅葉山(一話四ノ三八)  
 東照宮 百年祭に法皇の御詠(鹽尻四ノ一〇)  
 日光二百年神皇御代中次第(半日八ノ二七)  
 日影に付真草小身者の書上(半日二ノ二五)  
 名古屋 遷宮式(鹽尻一六ノ三)  
 尾州 神幸并奏樂の事(鹽尻二五ノ三〇)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)  
 同樂典(鹽尻四五ノ一八)





華藏院 (柳記下ノ一三)  
御珠の熱燻と春日田樂 (雲錦二ノ一)

白玉翁の好むの徳 (老長二ノ四)

以詩 (松筆八六ノ一八)

豆苗 (蕪樓上ノ一八)

凍膠 (蕪樓上ノ一八)

胴服 (瓦礫一ノ二二)

動物 (鳥の羽、獸の毛、魚の鱗 (醜蘭下ノ一〇))

物化 (世事三六)

寄生 (水林野の三種あり (醜尻九ノ三三))

郭景純の紅賦 (松反下ノ三〇)

「テウ」鳥獸ヲモ見ヨ

桐柏山 (餘餘二ノ七)

桐油 (世談七八) (談正五五)

棟梁 (番匠のかしらを) (隣女二ノ四七) (松筆九六ノ九二)

棟梁之任 (松筆八三ノ五一、八六ノ五九)

●トエ

兔園會 (兔集ノ初)

兔園會集説 解題 (兔集一)

兔園冊 の故事 (雜末四ノ四) (餘餘二ノ七)

兔園小説 解題 (兔小ノ首)

●トオ

とをかやうか 十八日な (玉か二ノ六)

十列 (の義 (安隨四ノ三二))

十園子 (宇都の山の) (「タン」園子ヲ見ヨ)

●トカ

とかく (さいふ詞 (安隨三ノ二五) (安夜五ノ三))

とかた (さいふ詞 (玉か三ノ一八))

とがらす (さいふ詞 (松筆九五ノ一六))

戸隠賊 (側古蹟碑文 (如蘭三四ノ二六))

蜥蜴 (傍廂一五八)

禁中無 (附自二ノ三)

富樫介 (長享之頃の) (考 (鹽尻一三ノ六))

●トキ

土器 (大小の名 (安隨三ノ二五) (洛北畑枝の) (荷 (雲錦二ノ二))

春日神社の (兼度一ノ二〇)

尾州にて (を製する地 (鹽尻二ノ七))

「タウ」陶器ヲモ見ヨ

土岐氏光 (の忠節 (鹽尻六ノ二八))

土岐道圓 (儒者 (一話三六ノ三))

土岐頼稔 (丹後守) (の賢明 (憲す二二六))

土岐頼康 (鹽尻二ノ四)

土岐六郎 (の夢 (一話三三ノ三〇))

土牛 (作 (松筆二二〇ノ二))

時刻 (通川無回流 (鹽尻五三ノ二二))

時 (青春不再來 (鹽尻三〇ノ六))

時 (澤庵和尚寸陰の戒 (理察一ノ三))

時 (光陰矢の如し (不問六))

時 (一月得四十五日 (隨意二ノ三三))

時 (焚香知 (梅日四ノ三三))

時 (の數 (老牛中ノ二))

時 (然後言 (の解 (撈海下ノ二七))

時 (時をつくる (といふ詞 (玉か六ノ三六))

時 (時な (といふ事 (玉か二ノ六))

時 (の鐘 (安隨三ノ一三) (世談一三六))

時 (更鐘 (燕石一ノ一六ノ八) (茶羅前下ノ四七))

時 (持更 (昆陽一三六))

時 (の數 (の事 (世事九二) (居龍五五) (南留三ノ一八) (鹽尻七ノ二二) (安隨一ノ二一))

時 (泰廟十七回忌 (鹽尻四〇ノ三))

時 (泰山公三回忌 (國主葬拜の裝束 (鹽尻三九ノ二))

時 (家士拜禮の節座次順序の事 (鹽尻八ノ五))

時 (尾張中將逝去 (半日二ノ三四) (同二三))

時 (藤中好子の逝去 (半日一四ノ三))

時 (尾州御家人の始 (鹽尻二九ノ二二))

時 (尾州の御納戸役 (鹽尻四八ノ二二))

時 (尾州引旗指物 (鹽尻五三ノ三三))

時 (尾州の御納戸 (鹽尻四七ノ一六))

時 (尾州の外山屋敷一見の記 (半日三ノ二九))

時 (尾州の五段長屋 (半日二ノ二二))

時 (德川氏 (水戸) (の封邑 (一話三三ノ一) (難江七ノ五九))

時 (三藩傳等の誤 (談小三ノ二六))

時 (德川氏 (清水) (の諸士 (被仰渡 (半日二))

時 (清水殿逝去の書付 (半日二ノ二))

時 (德川氏 (田安) (田安中納言の逝去 (半日))

時 (同上并辭世 (半日一三ノ一六))

時 (高尙院の學徳 (談小五ノ二二))

時 (德川三家 (の支關 (上る時帶刀の事 (八水二))

時 (德川十六將 (鹽尻七ノ二二))

時 (德川幕府 (の治世 (自神二ノ一五))

時 (の政略 (茶筆三ノ一七))

時 (幕府中國の鎮撫に心を用ひし事 (鹽尻二〇ノ九))

時 (幕府故事談一巻 (溫知叢書第二編の内))

時 (時もり鐘鼓をうつ (松落四ノ五五))

時 (「トク」時計ヲモ見ヨ

時 (時の節 (安隨三ノ五四))

時 (桃花鳥 (の訓み標書き標 (南留三ノ三))

時 (菟裘 (「イン」隱居ヲ見ヨ)

時 (菟裘賦 (の事 (昆陽二二))

時 (常盤國 (安隨六ノ一一))

時 (常盤橋 (を昔は大橋といひし事 (瀬田六))

時 (兜巾 (遊遊六ノ下ノ四一) (松筆九ノ二二) 「ツキ」頭巾ヲモ見ヨ

●トク

とく (といふ詞 (松筆九五ノ一六))

とく (といふ俗語の解 (鋸屑二九))

とく (トクハンスウ (といふ戯 (俗耳七))

徳 (「松筆一四ノ一一」)

徳 (化馳如神 (猿懸支徳 (海西二ノ一二、一三))

徳 (王者五行の (松筆八二ノ二七)

徳 (五連の (松筆八三ノ四三)

徳 (天子無失 (則天下不亡 (松筆八四ノ三三))

徳 (無にして人に用らる (は罪なり (松筆九〇ノ四二))

徳 (「タウ」道徳「トク」徳義ヲモ見ヨ

徳 (人の善行と過失 (餘餘五ノ一四))

徳 (久保町長兵衛の (假世六))

柳營殿中の制(紫ゆ八) 正徳二年將軍職繼承に付被仰出(一話一  
將軍家贈官の宣命(一話三ノ三八)  
寛文元年幕府在座金銀價額(一話二ノ一  
幕府諸役前記(一話一三ノ七)  
幕府役人の弊風(一話二七ノ三)  
德川家重 尾州中納言の逝去(一話四〇  
德川家千代 誕生並逝去(半日二ノ一八)  
德川家重室 證明院の事(一話一三ノ  
三〇)  
德川家繼 有章公元服并將軍宣下始末  
正徳五年將軍の婚儀(鹽尻三ノ四三)  
不例の時祈禱の事(鹽尻一ノ  
八)  
德川家綱 治世記録授書(一話二六ノ三  
三)  
誕生に付後水尾帝より祝の御書  
付并將軍家下記(鹽尻二ノ二四)  
將軍宣下記(半日一ノ一五)  
唐人國姓爺(一話一七)  
の運を比する事  
の義誼并位記(鹽尻四ノ三ノ五)  
贈位の宣旨寫(鹽尻二ノ二)  
德川家齊 文恭公逸事(内安三)  
當御代譜(一話三ノ九)  
諸學士文化年賀大孫詩(一話三ノ三)  
寛政七年八月十三日御成道筋(半日二ノ  
二)  
七月朔日上意書付(半日七ノ一)  
文武獎勵の書付(半日七ノ三)

德川家宣 文昭院の實母(鹽尻五ノ二  
六)  
文昭院將軍御下次第(半日一ノ一九)  
寶永六年昇進之勅使并響應(鹽尻三ノ一  
一五)  
寶永六年上意之趣寫(一話三四ノ三五)  
公家御對顔并御能(半日二ノ  
三三)  
の世至心院の事(一話一三ノ三  
二)  
御至心院の逝去(半日二ノ一六)  
德川家光 大猷院將軍宣下記(半日一ノ  
四)  
同參内次第(半日一ノ九)  
の櫛を日光に送れる供奉の人々  
(一話二ノ五)  
の聰明(總道八〇)  
の名譽(總道六四)  
谷中にて拔木せる老翁と語る  
(一話五ノ二)  
ある童の活麗を愛してよめる歌  
(鹽尻三ノ三)  
大猷院御屋の燒失(堀田二七)  
德川家康 隆慶四度目の甲子  
(鹽尻四ノ一)  
降任考(鹽尻五ノ一五)  
神君贊公安夫人讚(鹽尻二ノ一六)  
の母公(鹽尻二ノ九)  
令子の早世者(鹽尻一ノ七)  
太政大臣の命を辭して祖先の贈  
官を請ふ(鹽尻一ノ八)  
神宮の御影(一話一六ノ一八)  
木下町樂師寺 御影の贊(松筆一  
三ノ八)  
の行狀并武功、徳量、の

福分(橋拾一、一七)  
駿河にて儉約の事(雨窓二)  
番士の不在を尋る事(白秘一七)  
よく諫言を容る(鹽尻一ノ六)  
神祇を敬す(松筆一〇六、三〇)  
天主の遺徳に地鎮の祈禱を退く  
事(鹽尻三ノ三五)  
能く臣下を撫育す(松筆一〇六  
ノ四九)  
下民の怪我せる者に膏藥を賜ふ  
事(窓一ノ九七)  
不義亂行を戒めし事(鹽尻一〇  
ノ二八)  
の教訓(提醒一ノ一)(鹽尻一三  
ノ二)  
人才を擧ぐるに注意せし事(駿  
臺義ノ四七)  
の人才登用(白遺考一〇ノ一)  
(白雜記)  
難劇を好み伶官を寵したりとの  
解(白遺考一〇ノ一)(白雜記)  
の力量(如蘭三五ノ二)  
薩するに臨み刀を死因に試まし  
む(標燈一三)  
逝去の際不思議ありし事(白紳  
八ノ二五)  
高阪彈正 天下に主たるを知る  
(橋拾一七)  
の豊太閣に對する關係(談小一  
ノ一)  
の用ひたる机視(松筆一〇四ノ  
二六)  
の馬廻り(鹽尻一〇ノ二五)  
の鐵砲(一話二九ノ三六)  
の花押(鹽尻五ノ一)  
「トウ」東照宮ヲ見ヨ  
德川家慶 飯田町御成(半日二ノ一七)

德川孝恭院 の逝去(一話七ノ四四)  
德川清康 の室(白紳五ノ一九)  
の繼室(談小二ノ二  
七)  
德川國丸 の二女(談小四ノ五)  
の逝去(一話四〇ノ四二)  
德川竹千代 誕生に付往復の賀狀(一  
話一八ノ二八)  
は松君と學子なりし事(鹽尻  
一ノ八九)  
の出生(談小二ノ二二、三二)  
の封高(談小三ノ二五)  
駿河大納言の滅亡(一話二六  
ノ五)  
の秩祿(難江六ノ一六)  
の附人切腹の事(談小四ノ六)  
の小事(鹽尻五ノ三三)  
の室(鹽尻四七ノ一  
九)  
德川忠吉 の逝去(鹽尻四七ノ二八)  
の室(鹽尻四七ノ二八)  
德川龍治代 尼の逝去(一話  
四〇ノ四二)  
德川種姫 誕生(半日二ノ一八)  
德川格姫 誕生(一話一〇ノ三八)  
德川親氏 誕生(談小五ノ一  
二)  
德川綱重 石碑發見(北條下ノ一)  
の法號(鹽尻五ノ三四)  
三十三回忌の次第  
(鹽尻二四ノ一)  
德川綱誠 尾州大守 一の記(鹽尻  
一〇ノ九)  
の履歷略(鹽尻二五ノ二五)  
轉任の節女房奉書の  
寫(鹽尻一三ノ〇)  
逝去の前兆(鹽尻二〇ノ一)

贈位官宣命の寫(鹽尻四六ノ二  
〇)  
并夫人の逝去并送葬の事(鹽  
尻三ノ一五)  
學を好む(橋拾二三)  
登川の者に正直なるもの多き事  
(鹽尻三七)  
の母の素性(談小二ノ四三)  
の母に位階勅許(鹽尻五ノ三  
三)  
〔シヤ〕生類御憐れ見ヨ  
德川貞恭院 紀州(一話一三  
ノ三)  
の誕生并逝去(半日二ノ一  
八)  
德川豐三郎 烈公年譜略(如蘭一ノ六)  
景山公逸事(如蘭二ノ二二)  
阿部正澄 阿部正澄の生れ給ふ  
を悦ばす(白紳五ノ二〇)  
の百年忌(鹽尻四三ノ八)  
の台廟の謚名(閑散下ノ二五)  
の製世(談小一ノ三  
八)  
家光に讓世の節(白秘三九)  
の母(談小二ノ三二)  
の女早世(鹽尻四一ノ一七)  
の逝去、法號、殉死者(鹽尻  
三六ノ五)  
の性行(談小一ノ二三)  
德川秀康 の卒去年月并贈官(鹽尻二六  
ノ一八)  
の二百五十回忌(半日二ノ一  
八)  
德川總姫 誕生并逝去(半日二ノ一  
二)  
德川萬壽姫 誕生并逝去(半日二ノ三三)

德川萬千代 長澤康忠の名跡  
の母(談小三ノ二五)  
德川松千代 西山(年打上ノ四七)  
の事(窓一ノ三)  
終焉の逸事(鹽尻一八ノ四)  
の居室を襲たす(談小五ノ三  
六)  
の儉徳(橋拾七)  
本朝通鑑の記事を「改めしむる事  
「ホシ」本朝通鑑ヲ見ヨ  
の致仕并綱條へ贈りし詩(鹽尻  
二九ノ四)  
の書翰(一話二五ノ六)  
中院内府七十ノ賀に「よりの祝詞  
并答(年打上ノ五〇)  
西山公自筆十ヶ條贈書(松筆七四ノ二六)  
對山公久能山の參拜(窓一  
三三)  
德川光貞 尾の瑞公宸筆を避し事(鹽尻  
九ノ四二)  
の仁心(談小三ノ四五)  
卿の和歌(鹽尻四四ノ一六)  
(同四ノ三四)(同三八ノ一五)(同二六  
ノ二)  
德川耀姫 の逝去(半日四ノ二二)  
德川義直 の剛直(鹽尻四三ノ一〇)  
せし事(鹽尻九ノ三三)  
尾州一の宮の縁起を秘せしむ  
陳元齊語 逝去の識(鹽尻二八ノ八)  
墓(鹽尻三九ノ二六)

の葬儀の日に誤る事(鹽尻一ノ二四)  
 遺物(鹽尻一五ノ四)  
 尾の 諸家系譜の亂雜なるを嘆す(鹽尻二〇ノ一六)

徳川義行  
 の薨去(鹽尻三七ノ四四)

徳川吉通  
 の家祖相繼に付一條近衛兩家祝の書(鹽尻三一ノ一四)  
 有徳公の繼立(一話三ノ一四)  
 將軍宣下始末(鹽尻四五ノ一五)

徳川吉宗  
 元服并將軍宣下始末(鹽尻五〇ノ一)

延享度將軍の御表(一話一ノ二九)  
 將軍となるの識(一話二ノ四五)  
 の徳(摺拾八)(同二九)  
 奥女中の美なるものを放つ(摺拾二九)

駒場野の狩(鹽尻四九ノ一八)  
 の讀り金(我衣三二)  
 徳廟の詩(一話三ノ五)  
 南龍公仁慈の餘徳(摺拾二)

徳川頼宣  
 行狀(摺拾四)  
 海を渡らざりし事(白柳三ノ三)  
 國史三藩傳の評(談小三ノ二六)  
 水戸領の石高(談小三ノ三〇)

徳川頼房  
 の位階と藤高(談小三ノ二六)

徳義  
 人情(談小四ノ一六)  
 を好まざるはなし(鹽理即明徳(海西一ノ一))  
 (トク)徳ヲモ見ヨ

徳政  
 (昆陽九)(松筆四ノ二二、四〇ノ一)  
 (〇、六五)一三、同八、九〇ノ四)

(摺拾二ノ一四)  
 の義(一話五ノ四七)  
 あれば亂違からず(多波上ノ二六)  
 の弊(鹽尻三六ノ二七)(續昆三四)

徳日  
 (摺拾五ノ一)(松筆一〇五ノ四)  
 (長田知足齋)の奇事(蘭叢三ノ二二)

徳本  
 尾張(鹽尻四五ノ二)

徳本和尙  
 (宮川三ノ七)

徳利  
 (松筆六六ノ五七)  
 定家の一と勝頼の備前(八水一五)

荒神の(一話二五ノ二七)

徳力良顯  
 カサ(一話二五ノ三〇)  
 をアスといふ事并草烏頭的事「アス」ヲ見ヨ

毒水  
 (北邊三ノ二五)  
 「タマ」玉川ヲモ見ヨ

毒吸石  
 (藥苑二ノ一一)

毒木  
 (傍廂六八)

毒虫  
 に整れし時の藥(閑自三ノ二四)  
 出羽國の(兼徳二ノ五)

獨角獸  
 「サイ」犀ヲ見ヨ

獨居  
 用意のうた(一話五ノ四七)

獨身  
 の心安さ(鹽尻三八ノ二二)

獨斷  
 將臨軍則不受君命(松筆九七ノ三三)

讀書齋叢書  
 の目錄及解題(雜末二ノ一六)

讀經  
 龍雲禪師のいへること(松落三ノ四)  
 「フツ」佛經ヲモ見ヨ

讀書  
 好學者(隨意一ノ一)  
 能學者(隨意二ノ一八)  
 の益(隨意二ノ二二)  
 の好惡(隨意三ノ三六)  
 知(隨意三ノ三六)  
 の心得(北邊一ノ三四)  
 の用心(閑叢三ノ二二)  
 の法(閑叢三ノ二二)  
 (〇、二八)一四(春波三五)(多波中二二)一八(三〇)  
 ふみよむ事(玉か二ノ二二)  
 偏見を讀む(安隨五ノ三〇)  
 古書を讀むに心得べき事(摺書一ノ三三)  
 (如蘭三ノ一〇)  
 今の眼を以て古を見る(からず(年々四ノ一))  
 書は精細に讀む(一話四ノ一九)  
 十通(安隨一八ノ五)  
 推量(安隨一八ノ五)  
 文章と(法(隨意三ノ二〇))  
 應奉(一話一ノ二〇)  
 破万巻(下筆如有神(隨意八ノ二五))  
 物の名をわしりて實を知らず(多波中一ノ一九)  
 して病を得しもの言(花月四二)  
 多隨俗呼(雜末三ノ七)  
 音伊の聲(隨意一九ノ三二)  
 夜問の制限(病問六三)  
 鶴峯成中(隨意五ノ一六)  
 「法四」(一話一ノ二二)  
 「クカ」學問ヲモ見ヨ

讀書臺  
 諸士の(餘餘二ノ一〇)

讀書燈  
 (北邊四ノ三五)(燕石五ノ六)(松筆六ノ三五)

讀書錄  
 薛瑄の(餘餘一ノ三四)

木賊  
 刈(雨窓二五)

得失  
 一得一失(梅叢二二)

得替  
 (松筆一〇四ノ一六)

羊麻草  
 の名(燕石一ノ二五)

犢鼻巾  
 といふもの(松筆一〇五ノ三八)

犢鼻輝  
 「シタ」下帯ヲ見ヨ

岳兒  
 浪華の(兼叢二ノ二六)

獨體  
 大(一話一三ノ二六)

獨體盆  
 「サカ」盃ヲ見ヨ

土花八裂  
 の解(松筆七八ノ九四)

土官  
 (續昆四)

トク  
 抜の妙藥(理齋三ノ七)  
 身に針等のたたる時の藥(白柳三ノ五)  
 抜の法(松筆七ノ三三)  
 といふ言葉と文字(善菴一ノ一七)  
 白鳴鐘(時辰表(松筆八六ノ一六))  
 漏刻(土圭(松筆七〇ノ四))  
 斗鶴(一話五ノ四六)  
 水鏡(鹽尻三八ノ一七)  
 玻璃漏(撈海上ノ一九)  
 和蘭の目(ソソ子ウエイヌル(續昆四四))

トク  
 我國の始(安隨二ノ一六)  
 白鳴鐘渡來の初(橋卷初ノ一八)  
 「トキ」時の鐘ヲモ見ヨ

時計草  
 (世談六三)

トク  
 とこふ  
 といふ詞(松筆七一ノ一九)  
 とこふ  
 咀か(南留五ノ二)  
 ところづら  
 ハトコロカッラなる事(圓珠七五)

土公星  
 (松筆六三ノ一九)

床  
 をユカといふ(圓珠五)  
 押板(遊遊一ノ上ノ八)

杜工部詩集  
 集千家註批點(一話四ノ二七)

常夏  
 といふ詞(松筆九〇ノ二二)  
 「ナテ」撫子ヲモ見ヨ

常世國  
 (安隨七ノ二二)(安夜二ノ九)(年打上ノ二二)(安隨三ノ二五)

所尊光  
 か詩歌(摺書二ノ八)

石花菜  
 の名(燕石一ノ二二)  
 な心大キク事(南留一ノ三二)

水晶繪又瓊脂(藥苑九ノ三三)

トク  
 どさくき紛れ  
 といふ詞(松筆八五ノ五)

土佐國  
 澤木履(一話二六)  
 に火葬なし(玉か七ノ二六)

土佐氏  
 畫家(世談一五二)

土佐光茂  
 畫工(鹽尻一ノ二三)

土佐光信  
 (安隨一九ノ二)

土佐繪  
 「エ」繪畫ヲ見ヨ

土佐日記  
 のき様(南留一七)  
 の附注(玉か四ノ五)

土佐日記考證  
 岸本(後書三五)

土佐節  
 (後書一三)(遊遊六ノ上ノ三)

土藏  
 「クラ」倉庫ヲ見ヨ

土左衛門  
 溺死者を(一話三)

都祭堂  
 といふもの(昆陽三八)

外様  
 といふ名稱(談小三ノ二二)

登山道  
 大(松筆一〇五ノ三)

トク  
 としめ  
 源氏物語の(考(玉か三ノ一六))

刀自  
 (安隨一ノ二八)(閑次二ノ一七)(藥苑三ノ二五)(原進三六)

の字源(南留三)

といへる名義(閑次二ノ一七)

を丁年と書く事(比古六ノ四三)

に頁の字を用ふる事(比古一〇ノ一)

「フチ」婦女の稱ヲモ見ヨ

**年又歳** (松筆六三ノ五二、六五ノ八) 歳(歳)年の字用所の別(隨意六ノ三二) 歳の略字に才字を用ふる事(善養一ノ二)

**測量法** (松筆九九) 歳日并に年號の一字に十二支を配して年を記する事(南畝上ノ二) 丙午丁未の一年を凶歳として忌む事(柳菴三ノ五) 三合といふ災年(年々五ノ一五) 丙午の年を忌む事(燕石一ノ五) 二十三年なまをいふ事(南留三ノ三) 實年(官年)(松筆九三ノ六三) 齡(ヨ)ハヒと訓む(自柳一〇ノ二) 年饑 さいふ語(眼雲一ノ一九)

**年男** (松筆九五ノ五三) (鹽尻三三ノ二〇)

**年神** (鹽尻三三ノ二〇) 歳星所在(隨意二ノ二七) 年玉 さいふ詞(燕石四ノ七) 年不取川 武藏野の川(半日五ノ二) 年取島 丹後(安埃六ノ二一) 年の市 淺草の橋(紫ゆ二四) (塵糞州忠海) (秋里上ノ一八) 年の矢 さいふ詞(北邊四ノ二二) 年忘れ 忘年(藝苑七ノ二〇) (松筆五ノ五)

**豊島清光** の碑(理齋一ノ一四)

**豊島刑部** か井上正就を殺害の事(窓十ノ八)

**豊島頼經** の墓(談小四ノ四五)

**豊島郡** 武藏國(一話三四ノ二二)

**豊島屋** 江戸鎌倉河岸の繁昌(我衣五ノ八)

**泥鰌** (錦厨九) 泥鰌の訓(松筆三ノ二二) 骨接の初非大阪の調製法(浪花二三) 圖書集成 さいふ書(桂林下ノ一〇) 度人 さいふ事(難未四ノ八)

**トス** とすれば さいふ詞(松筆六七ノ三三) 斗撒 さいふ事(松筆六七ノ四七) 十筋右衛門 さいふ事(足新二ノ八) 遺魂(下ノ七二二)

**トセ** 徒善 「セン」善ヲ見ヨ

**トソ** 屠蘇 (藝苑六ノ二二) (鹽尻四ノ一六) 難江(如關三ノ五) (松筆六ノ六、六一) 酒の名(隨意三ノ三九) 酒の方(安隨三ノ五三)

**戸田采女正** 大垣侍從追悼長歌短歌(一話一九ノ三八)

**戸田忠次** (三郎右衛門)の履歴(自柳九ノ一四)

**戸田忠昌** (山城守)の豐量勝れし事(窓十一ノ二七)

**戸田茂隆** 古學に眼を開きし證(松筆一一ノ一四) 戸柳 車(浪花一五)

**トチ** どぢぐぢ (松筆八四ノ六) とちめん坊 (用捨中ノ一〇)

**土地** の變遷(安埃三ノ二) 有盛衰(松筆八五ノ五) 水土の性によつて物に善惡あり(松筆八ノ二七) 争士先據者爲勝(松筆一〇〇ノ三〇)

**隣の疝氣** 解題(温知叢書第九編の内)

**トチ** とね めせといふ事(自柳九ノ六) 「サン」散位ヲモ見ヨ 職(司)(松筆一〇〇ノ四三) 散位 (談小三ノ一七) 利根川 の水滸(半日一ノ二五) 舍人 事(一話二二ノ二) 兵衛をもトナリと訓む事(鹽尻二九ノ一) 近衛府 (鹽尻一四ノ一一) 舍人親王 のよみ方(安隨一六ノ一一) 舍人のねや (松筆七六ノ二二) 秦皮 の木(玉が三ノ一九)

**トノ** どのひもの 解(年打上ノ六九) 殿 (安隨三ノ上ノ三〇) 「キウ」宮殿ヲモ見ヨ さいふ尊稱(秋齋一ノ五) (若梧一ノ下) 殿 (松筆六二ノ五三) 殿 (松筆四ノ二) 女にもといふ事(安隨四ノ一三) (松筆二二ノ三)

**土地陷没** (松筆九七ノ二二) 房州にて(半日四ノ二二) 上州安中の(半日一ノ三三) 丹後成相寺境内地變の届(一話三三ノ二二) 北地にて地の陥りし事(自柳七ノ一六) 土中埋没 土中に埋れて死す(半日一五ノ一) 戸帳 佛前の(鹽尻四七ノ二八) 橡 「ツル」橡ヲ見ヨ

**トツ** とつぐ 又めあはずといふ詞(玉が八ノ一) といふ詞(松筆八四ノ二八) (如關六ノ二五) 捕繩(嬉遊四ノ六)

**とつたり** 捕繩(嬉遊四ノ六)

**衲衣** 「ソウ」僧衣ヲ見ヨ

**十津川** 大和國(安埃五ノ三) 咄嗟 の字義(昆陽一三五) 咄と笑ふ さいふ事(松筆八三ノ五四) 鳥取繪 「エ」繪畫ヲ見ヨ 鳥取造、鳥取部 (年々六ノ二三) 突鼻 (安隨四ノ五)

**トテ** といふ(き詞を)とことのみいひし例 (松筆八九ノ一七)

**とて** といふ詞(安隨一三ノ四一) とてものことに といふ俗語の字(安隨八ノ二六) (安夜五ノ四)

**度牒** 度牒、告牒、公驗(安隨一六ノ二二) 公驗、戒牒(松筆九三ノ七) 南留二ノ二四(松筆七三ノ二九) の制(藝苑一ノ三) を發する(松筆八ノ三七) の寫(閑次二ノ三二) (松筆九三ノ五三)

**土手** 土手で喰ふ 齒なき人の物食ふ(一八) といふ(松筆一〇九ノ二九)

**土手節** (嬉遊六ノ上ノ一三) (用捨中ノ一) 「コウ」小唄ヲモ見ヨ

**ト、** と、 「ソオ」魚ヲ見ヨ といふ(安夜二ノ二二) (おる下ノ二) 「フホ」父母ヲモ見ヨ 十時氏 (松筆九三ノ八) 届く さいふ詞(松筆八四ノ二八) 都々平文哉 の解(揚海上ノ二九)

**トナ** 戸波惣兵衛 御材木石奉行支配穴太頭二人由緒書(一話四六ノ二五)

主殿 「中將」の法印(安隨二二〇二)  
宿直物袋 (松筆九五ノ四一)  
宿直物袋 「フク」袋ヲ見ヨ

トハ

とほうを失ふ さいふ詞(松筆一一ノ六)  
とほうもな さいふ俗語(福徳初ノ四二)(松筆一〇六ノ五五)(婦遊九ノ二)  
とはら 山の(松筆一一ノ二〇)

トニ

鳥羽繪 (世談一五八)  
鳥羽僧正 の遺跡(四方月一九)  
鳥羽離宮 (玉四ノ五〇)  
不問語 解題(不問一)  
帳 「チャ」帳ヲ見ヨ

トヒ

どびやうし の本字(南留四ノ一九)  
鳶 の子集立の語(花月七四)  
鳶口 水溜(春淡下ノ一六)

鳶の者 (婦遊一ノ上ノ三)  
町火消人足和睦の記(兎小中ノ一七)  
「セウ」消防ヲ見ヨ

酩酊酒 の解(撈海上ノ二)  
飛石 の高サ(松筆一〇五ノ二五)  
飛魚 (松筆五一一ノ二)

トフ

飛魚海 (松筆七八ノ七〇)  
飛梅一夜松 の詩(松筆六七ノ五)  
飛園子 (世談三九)  
問屋 又すあひ(婦遊一一ノ二、三)  
江戸十組 といふ名稱(世談一八〇)  
土瓶いかけ さいふ流行詞(雲錦四ノ二)

トフ

とふく さいふ詞(松筆六ノ二)  
とふひ 烽火(梅月四ノ二)  
とぶろく の本字(梅月四ノ二)  
「サク」酒「トヒ」酩酊酒ヲ見ヨ  
十府の菅藪 (年々二一九)(比古六ノ四八)(玉三ノ一ノ四)  
とほかみ 中ノ一九(二上八五)(老牛

とほさぎ さいふ詞(如蘭二六ノ二六)

とほじろく といふ詞(松筆六一ノ八)  
杜市 の境遇(餘餘五ノ一)  
遠くて近きもの (四方月ノ三)

トヘ

遠江 の國の名(南留五ノ一八)(笈埃八ノ二)  
遠吠 犬の漢字(松筆八〇ノ六)  
遠山氏 の姓付直景の事(白神一〇ノ一六)  
遠山景氏 地理に精しき事(柳菴一ノ二八)

トヘ

通り悪魔 (閑談三ノ一七)(世事一三四)  
「クワ」怪異ヲ見ヨ  
十市 の假字(福徳下ノ三)  
大和國 地名考(難江二ノ六〇)  
十市氏 の姓(白神一〇ノ一六)  
望遠鏡 徳川吉宗 外國に求む(閑談四ノ四)

トミ

とみに といふ詞には早の字を用ふ(か)  
前にといふ詞(老牛下ノ八)  
富 地名に「ミ」稱する事(松筆七八ノ四〇)  
富春叟 「タナ」田中吾ヲ見ヨ

富鏡

富鏡 の興行(寛天五)(一話八ノ三二)  
富鏡の歌を論ず(一話一五ノ三九)  
護國寺の宮つき(高田豊沙門のときみ)谷中  
とみ興行の禁止(半日一三ノ三六、四〇)  
唐土の百兩さみ(撈海上ノ二)

富加岡

富加岡 の名(奴風二〇)  
深川 のかき様(老長六)

富田知信

富田知信 の姓(白神一〇ノ一八)

富永伴意

富永伴意 外科醫 の逸事三條(窓す二三)

富永孫四郎

富永孫四郎 の祖先(鹽尻六ノ二四)

富本豊前様

富本豊前様 か受領の會(半日一四ノ九)

トモ

奇南木 「カウ」香ヲ見ヨ  
とも さいふ(き詞を)と「このみいひし例  
友 「ホウ」朋友ヲ見ヨ  
朝 なたもと訓む事(隨意三ノ二六)  
輛 (安隨四ノ五二、一一ノ三五、一五ノ二七)  
神寶の圖(鹽尻三六ノ三)  
豊田八幡の(安隨三ノ二七)

巴

巴 輜絡は神紋なり(安隨六ノ八)  
の字(鹽尻三九)  
巴文、輜絡、繪輜(松筆七五ノ五五)

巴女

巴女 比賣の比(隨意三ノ二二)  
大阪製の(浪花六)

燈油

燈油 一年の高(俗耳七二)  
大坂製の(浪花六)

燈火

燈火 ともしびあぶら火(圓珠三〇)  
古の燭をとる式(昆陽一八一)  
燈籠の形(松筆一〇五ノ四四)

燈欲減増光

燈欲減増光 といふ事(一話一七ノ二六)  
伴野十左衛門 事(一話二四ノ三九)  
伴林光平 の眞蹟并傳(如蘭一五ノ二三)  
供人 侍士供の物の喧嘩(窓一四七)  
供廻り 在番の輩遠國へ使者の道中  
旗下の士江戸廻りの節(人數の事に  
付白石忍見書(白雜考七ノ七、三二)

吃訥

吃訥 北條義時か の数(松筆九二ノ二〇)  
の歌(理齋五ノ二二)

トヤ

外山の里 秋篠の(閑耕一ノ一)  
外山屋敷 「トク」徳川氏「尾州」ヲ見ヨ

トヨ

土用 (南留二ノ三二)  
豊崎文庫 の尙書(遊京下ノ二二)  
豊臣氏 絶滅の說(白神三ノ二〇)  
豊臣北政所 かの拾文(一話一四ノ二〇)

豊臣秀次

豊臣秀次 の官位(鹽尻八ノ一〇)  
諸百十番を註せしめし時の話(鹽尻  
九ノ一九)  
生書の始末并三成謀害の原因(鹽尻  
六ノ九)

豊臣秀吉

豊臣秀吉 の出生地(一話六ノ七)  
羽柴秀吉の姓名の出處(鹽尻  
一〇ノ二八)(松筆六ノ二五)  
木下氏を名のりし事(松筆一一ノ  
四六)  
の両親(兎小中ノ一一)  
の父母并木下と名乗る事(鹽尻三ノ  
二二、六ノ一〇)  
の奥方の素性(雨窓四)

の直容(桂林上ノ二三)  
 の蘭(一話二ノ三〇)  
 評(翁草二ノ二二〇)世事一〇六  
 關白亦突越之(論餘二ノ二二二)  
 兩朝平樂録の(隨念一ノ二二三)  
 唐長日本(海西二ノ二二五)  
 日本外史の(自稱太閤の説(難江六ノ七二))  
 公卿補任の姓を定むる事(鹽尻三ノ一〇)  
 が光秀を討ちし一因(鹽尻五ノ二二三)  
 一)の目的(傍廂一五五)  
 の平功(摺拾三四)  
 の密達(理齋三ノ一六)  
 密達を戒む(北峯中ノ一五)  
 臣下の諫をよみ容れし事(白秘五ノ一)  
 諸臣の刀を見て其主を中てし事(柳菴一ノ二二)  
 茶坊主の詞に感ず(白秘四七)  
 武士の酒臭を咎めず(名古屋陣に臨月夜に侍御すに參られし事(白秘一〇三))  
 頼朝の像を撫す(鹽尻四ノ二二〇)  
 民を使ふ(提燈一ノ七)  
 の殘忍(閑耕二ノ一七)  
 家康會見の家(筑埃八ノ一一)  
 陣中に菜を生たるを見る(白秘一七)  
 割粥を食す(雨窓二八)  
 の紙子羽織(一話四ノ四〇)  
 の物數寄(一話四ノ四五)  
 關白視の獻立(柳菴一ノ二〇)  
 自ら稱名を遺言す(鹽尻四ノ六)

トラ

近衛勅奏の書面(白秘一〇ノ二九)  
 群世の和歌(一話一ノ四)鹽尻一〇  
 の書(昆陽八二)  
 聚樂亭の戯れ書(理齋三ノ一七)  
 か常達を見る(きうた(四方花ノ二一))  
 豊臣秀頼(は秀吉の實子にあらず(鹽尻八ノ一五))  
 の誕生(理齋二ノ二二)  
 のの誕生に豊臣家の滅亡を前告せるも(白秘二七)  
 のあり(白秘二七)  
 の最期(鹽尻二ノ九四)  
 の落着(鹽尻二ノ九四)  
 の幼子國松の討ち(事(鹽尻三ノ六九))  
 トラ(梅日一ノ四〇)  
 武字をトラといふ(事(世事一三))  
 蜀(説(半日一ノ一))

朝鮮在陣の時(を討とりし話(雲道三七))  
 朝鮮にて宗氏の臣(狩の事(半日二ノ一))  
 談三則(論餘三ノ一)  
 義(松筆五ノ五)  
 「テカ」手筒(一話六ノ三九)(世)  
 虎カ石(大磯の(一話六ノ三九))  
 付大磯三石(おろ上ノ二二)  
 虎とのみ用ひられし(といふ事(松筆八三ノ五))  
 虎に與へし身(といふ事(松筆八四ノ九))  
 虎而冠(といふ語(松筆一〇九ノ三二))  
 虎の頭(唐の頭(鹽尻八ノ六)(安隨八ノ二二)(安夜四ノ二〇))  
 虎の子渡し(桶菴二ノ五ノ八)  
 虎の前(大磯の像(鹽尻七ノ三二))  
 虎の門(の死所(鹽尻一ノ九))  
 虎は死て皮を留め(人は死して名を殘す(松筆八七ノ三五))  
 虎は千里の箆を越す(といふ諺(松筆八〇ノ一九))  
 虎藥師(鹽尻三ノ二〇)  
 寅(の字の代に才の字を用ふる事(安隨一ノ一三))  
 同く代に(才字を用ふる事(老牛中ノ二二))  
 銅鑼うつ(といふ詞(鹽尻九ノ二六))  
 「トラ」ミラ者ヲモ見ヨ

トリ

とりうて(といふ詞(松筆七ノ二四))  
 とりかぶと(松筆五ノ一三)  
 とり子(ヤウ)養子ヲモ見ヨ  
 の養子(遊遊二ノ一八ヨリ)  
 の名(鹽尻五ノ六)  
 といふ名(圓珠六三)  
 といふ名(安隨一三ノ二二)  
 とのかい(は)雄子(松筆一〇五ノ一九)  
 文藝文(傍廂一〇)  
 の言(輪軒一五)  
 の語に通せし女の事、公治長井百長話(閑自三ノ一〇)  
 自ら名を呼ぶ(松筆八五ノ三)  
 の群(茶筆三ノ八)  
 柱(茶筆一ノ〇)  
 の卵の雌雄(鹽尻四三ノ一)  
 諸の病を治す法(燕石五ノ五)  
 古の病を治す法(如蘭二ノ一)  
 古代(類を利用せし事(如蘭二ノ一))  
 怪(幽遠上ノ四)  
 怪(幽遠上ノ四)  
 見(於如意岳(閑自三ノ一))  
 を損せぬ様に遠方へ送る方(松筆一五ノ二二)  
 「テウ」鳥獸「コト」小禽ヲモ見ヨ  
 鳥(玩具の折居の(遊遊六ノ下ノ三七))  
 鳥(玩具の松越の(遊遊六ノ下ノ三七))  
 鳥(人名)の作の佛像(鹽尻一ノ四二)  
 鳥合(小鳥合(遊遊二ノ一八)玉が二三ノ一八)遊遊二ノ一八)

鳥合権現

鳥居(一話九ノ一九)傍廂一四〇(三)  
 鳥居(養三ノ一八)鹽尻五ノ四三(居龍一五)雨窗三ノ九(鹽尻二八ノ一八)  
 (松筆一〇ノ一四六)八ノ二八(六八)  
 の名稱(長頭一五)  
 考圖入(鹽尻四七ノ九)  
 の起因(鹽尻一ノ五五)  
 鳥居氏(三州)の光(鹽尻八ノ三一)  
 鳥居耀藏(を誇れる萬葉振の長歌及短歌(一話四五ノ五))  
 鳥居勝高(強右衛門)の辭世のうた(雨)の子父の名を襲く事を辭す(窓二〇八)  
 か死に就く様を描きし旗(如蘭一六)漢土の(論餘三ノ五)  
 鳥居戸(松筆一六ノ一〇)  
 鳥おとし(解題(百家説林卷八ノ内))  
 鳥追(遊遊五ノ三八)(世談一二三)(鹽尻一〇)  
 鳥籠(昔の(遊遊二ノ二〇))  
 鳥貝(世事一一)  
 鳥口(「ヤハ」矢筈ヲ見ヨ)  
 鳥さし竿(松筆三ノ一五)  
 鳥樗(の論(秋齋一ノ二〇))

鳥付柴

鳥付柴(安隨一九ノ六〇)  
 鳥間屋(を十軒と定む(我衣二六))  
 鳥なき里の蝙蝠(といふ諺(孝經四ノ五)隣女一ノ一一)  
 鳥の子(松筆七八ノ七〇)  
 鳥の子(といふは衣服の色目なり(居龍卯重(松筆六ノ二二))  
 鳥のせうやう物(の發(傍廂一三〇))  
 鳥戰(掠鳥ミ雀の合戦(富川四ノ八))  
 鳥邊野(京都)——(雲津三ノ一四)  
 鳥屋(の停止(一話四ノ三七))  
 鳥商人(鳥さし)江戸——の定(遊遊二ノ二二)  
 「トリ」鳥間屋ヲモ見ヨ  
 鳥山佐太夫(詩道に於ける(閑)散上ノ七)  
 鶏のそら音(松筆六ノ九、七七一)  
 取賣(「タウ」道具屋ヲ見ヨ)  
 取替早物語(閑耕四ノ二七)  
 取成し(朋輩の(品あるへき事(白塔(松筆二二ノ六、九五ノ七六))  
 西の市(とりのまのまの(三養四ノ一))  
 鳥の町(近事七)  
 度量衡(度量考(一話四一ノ九)(談小一ノ三二))  
 度量衡(權書一ノ二八)(難江四ノ八八)

●トル 大名の封土に何處を——といふ事 (談小三ノ四七)

●トロ 秋齋三ノ二

とろ、汁 の名稱(半日五ノ四)

泥 ウヒヤ、コヒヤ、ヒガリヤ、ドロ皆同し (圓珠二四)

泥繪 「エ」給齋ヲ見ヨ

泥田を棒で打つ といふ事 (松筆九四)

泥坊 といふ詞(足薪一ノ六二)(世事八九)

●トワ といふ詞(松筆七ノ一六)

とわたる といふ詞(松筆七ノ一六)

●トン といふ俗語(橋卷初ノ五ノ二)

とんだ事 といふ俗語(橋卷初ノ五ノ二)

とんと といふ詞(松筆八五ノ三〇)

どんぶり 「ハナ」紙袋ヲ見ヨ

どんみり といふ俗語(橋卷初ノ二ノ二)

呑 字用詩格(一話三ノ七)

惇 一字二音の事(乘烟五ノ四)

頓 一字の字義(綴見八二)

頓阿上人 小僧(長春上ノ四)

頓 四百回忌并手向の歌(半日二ノ一〇)

頓智 東方朔の(技癡一ノ二八)

妻子の(長陽一六八)

某家留守の(窓す一三〇)

岡本半助の(窓道二八)

波多兵衛の(理齋一ノ三四)

間部氏の(窓道五三)

細野忠兵衛の(窓道六六)

松平信綱の(窓道八四)

天海僧正の(窓道八四)

「ア」粟田祭「イ」石ヲ見ヨ

頓鹿馬 の義(一話三ノ九)

頓的 又頓敵といふ詞(柳記下ノ三三)

逐齋 「シミ」清水赤城ヲ見ヨ

屯食 (安隨一九ノ四〇)(松筆二二ノ二六)

屯田 「テン」田制ヲ見ヨ

蜻蛉 (橋卷二ノ二ノ一)

蜻蛉 (南辨一六)

秋津島との關係(比古四ノ四九)

の一名「ちち」(比古四ノ五)

胡梨即「やんま」(扇龍二三)

の尾州の方言(鹽尻九)

を捕ふる法(松筆四ノ四)

蜻蛉翻 (安隨四ノ三七)(築苑五ノ八)(松筆九五ノ一九)

返り、板落、中返り、杉立、もどり打、猿

蜻蛉玉 (遊遊二ノ中ノ一九)

貪欲 なるもの末(梧拾六一)

因果談豊前澤田村の事(秋里上

「ヨク」欲情ヲ見ヨ

●ナ 魚を菜といふ(秋齋一ノ三)(鹽意二ノ九)

眞菜庵菜(秋齋四ノ二五)

名 「シ」人名「モノ」物の名ヲ見ヨ

那 那移の「字解(乘烟二ノ一八)

●ナイ

内安録 解題(内安一)

内憂外患 (談小二ノ二八)

内宴 (松筆六五ノ二四)

内學、外學 (松筆六三ノ三八)

内記所 (松筆六ノ一四)

内舉 (松筆八七ノ四、七)

内慶盤所 考(安隨一〇ノ二、二〇ノ四五)(二上六六)

内教、外教 (松筆八ノ三四)

内教坊 (松筆六ノ二二)

内侍宣 「タイ」内侍宣ヲ見ヨ

内侍所 の御神樂(二話八ノ八)(玉が六ノ八)

内書 の義(松筆一〇四ノ一六)

内膳 職(松筆六ノ七)

内損 又内症(梅日二ノ三〇)

内藤氏 松平 (一話三ノ二九)

内藤如安 「ヨミ」小四飛ヲ見ヨ

内藤忠勝 (和泉守)永井信濃守を殺害の事(窓す八八)

内藤新宿 内藤青山兩家の邸(柳卷四ノ五)

に遊女屋の開業(半日二ノ一七)

に遊女屋の開業(半日二ノ二〇)

内辨 外辨(安隨一九ノ一五)

東坊城綱忠續 (閑白四ノ一三)

「ン」辨官ヲ見ヨ

●ナウ といふ詞(松筆九五ノ二二)

なう といふ詞(松筆九五ノ二二)

●ナカ なかきををくる といふ歌(隣女一ノ二六)

なかつかみ 豹を (留二ノ二二) といふ(南)

なか といふ詞(安隨六ノ三六)

ながむ といふ詞(松筆八ノ三)

ながめ柏 (松筆七ノ二八)

ながめて といふ詞(松筆二二ノ四八)

ながら といふ文字(安隨一九ノ四七)

ながら 作の字訓(擲海上ノ二二)

ながら といふ詞と文字(傍廬三六)

中井敬所 書世にすくれし語并其詩(擁書三ノ一〇)

中井養菴 (誠之)の傳(不問一)(同四九)

中井竹山 (幸太夫)か詩(一話七ノ三七)

中井豊民 の小傳(宛小首ノ三)

中江藤樹 の學風(閑散上ノ二三)

に遊女屋の開業(半日二ノ一七)

に遊女屋の開業(半日二ノ二〇)

中踊 (遊遊五ノ二〇)

「オト」踊ヲ見ヨ

中帶 文中結(松筆九六ノ一)

中川實範上人 一の歌(松筆一ノ五)

中川修理 の姓(自神一〇ノ一八)

中川忠英 事(猿燒二一八)

中河 (北邊四ノ一九)

中神 「コン」金神ヲ見ヨ

中神守節 の小傳(隅田川考解題ノ内)

中澤道次 心學者 (遊遊九ノ五三)

中島正佐 の四書古義(閑散下ノ三八)

中洲 「オホ」天橋築地ヲ見ヨ

中墨物 (松筆六ノ八)

中園季豊 の當意即妙(大海一九)

中達 絶交を——といふ(松筆九四ノ七)

中手奥手 (松筆八三ノ三)

中臣氏 (鹽尻二ノ二二)(二七ノ二二)

中臣鎌足 「フチ」藤原鎌足ヲ見ヨ

中臣稜 (松筆九五ノ九〇)

の文(鹽尻三ノ五)

の詞(安隨五ノ二七)(同三ノ三三)

の詞に付て(安隨六ノ二)

の詞「ト」ヒレ「イ」ヲ子「コ」ヲ子の義解(鹽尻二ノ一三)

の詞死のはたたちの讀み様(鹽尻四ノ三)

稜の文中「古久美の説(安隨三ノ三四)

被神さ墨物(安隨九ノ一九)

人家にて三種あり(安随五ノ一六)  
 「サク」佐久奈太理ヲモ見  
 中臣壽詞 の本支并解釋(玉か一ノ一)  
 中取 (松筆六ノ一)  
 中根氏 の系圖(白紳六ノ一)  
 中根元珪 算術家(一話一三ノ三七)  
 中野 の紀行(一話一九ノ一五)  
 中野左助 事(信濃一)  
 中院通茂 の嚴厲(大海一三)  
 中院文庫總夫の時の  
 芭蕉布を好みし事(安随九八)  
 水室のうた(鹽尻四三ノ一)  
 指輪の時よめるうた(鹽尻二九ノ一)  
 中院通村 柳和歌の徳によりて歸京ありし事(安随八四)  
 中の戸 (安随三ノ四八)  
 中御門天皇 寶永七年御即位次第(鹽尻天皇の寵臣(大海一三))  
 天皇の寵臣(大海一三)  
 中御門宣胤卿記 (玉か一ノ一九)  
 中御門宗行 遠州藩川にての聯句(玉か四ノ一四)  
 中原廣道 「イシ」石野平藏ヲ見ヨ

中倍 (松筆一〇四ノ二一)  
 中村一氏 の馬印(一話四ノ三八)  
 中村加久 俳優(一話一ノ七)  
 中村勘三郎 芝居座元(一話二ノ四一)  
 中村内藏介 銀座 かつ驕奢(一話三四)  
 中村慶子 俳優(一話一三ノ四四)  
 中村式部 (白紳三ノ一七)  
 中村七三郎 俳優(五代目)中村少長か句古少長驛路の辨(江落六五)  
 中村新藏 儒者(一話三六ノ四〇)  
 中村新兵衛 の剛勇(一話四ノ四一)  
 中村暢齋 の性行(園散上ノ一三)  
 中村仲藏 (俗耳三二)  
 中村元勝 の父(鹽尻四七ノ二)  
 中山大納言 の御誓一件(半日八ノ二七)  
 中山貞藏 の傳(茶筆四ノ一〇)  
 中山備前守 子に誡めし事(白紳二ノ七)  
 中山信名 (柳洲)の小傳(百家説林卷六)  
 中ゆひ (松落二ノ五九)  
 中ゆふ といふ詞(松筆九七ノ一六)  
 永井直勝 の姓附其親(白紳一〇ノ一八)の出世(一話三二ノ一)

永井尚長 (二四)(松筆一〇六ノ四三)内藤和泉守の爲に害せらる(窓一八八)  
 永井尚政 (信濃守)教訓を非伊直孝に請ふ(窓五〇)  
 永言 (松筆九六ノ二二)  
 永野采女 (鹽尻四二ノ四〇)  
 永原如閑 か連歌名譽の事(望海六二)  
 長歌 「ウタ」歌ヲ見ヨ  
 長唄 (解遊六ノ上ノ一一)(二)(如蘭三六ノ八)(松筆一五ノ五九)  
 長尾隼人 福島家の勇士(一話一三ノ一四)  
 長具足 (松筆一三ノ二八)  
 長けき といふ詞(松筆九二ノ四〇)  
 長久手、役 に遇ひし長壽の女(鹽尻四七ノ二)  
 長坂氏 秀次敗軍の標(白秘一八)  
 長崎 港の事(世談一七八)  
 長崎 移されし事(白紳六ノ一五)  
 寛永年間平戸より漆器の事(白紳六ノ九)  
 正徳新令の事(内安一一)  
 居留の外人(達)(一話三〇ノ三一)

古文書の寫(一話一六ノ三三)の風俗并に外人居留地(筑埃七ノ一)  
 南歌の 見聞記(一話首ノ二八)  
 實錄大成の抄録(一話三七ノ二)  
 の奇風(解遊一ノ下ノ一〇)  
 の女は眉を剃らず(鹽尻五五ノ六)  
 初午の行燈(奴風三二)  
 の杜餅と幸木(骨董中ノ二九)  
 文化七年四月 大雪(半日一ノ二八)

長崎實錄大成 といふ書(一話三七ノ二)  
 長崎土産 といふ書(一話四三ノ二九)  
 長澤十二家 三州(鹽尻二五ノ二八、四八ノ三三)  
 長澤城 の落城年月(霞小四ノ四)  
 長澤順平 老儒(一話三三ノ四〇)  
 長篠役 の園の事(白紳三ノ三二)  
 長髓彦 の住みたりし所(機書一ノ二四)  
 長髓大神 (松筆七八ノ一)  
 長瀬神社 (暗語下ノ一)  
 長上 のよみ方(松落四ノ二三)  
 長手 道の 一(松筆八三ノ一)  
 長手拭 (秋簪三ノ二)  
 長瀨 出羽國(白紳二ノ二五)  
 長宿直 (松筆九五ノ八九)  
 長寝坊 (足跡一ノ五九)  
 長びく といふ詞(松筆八ノ五)

長夫 (松筆九五ノ八九)  
 長卷 (安随二ノ二〇)(松筆九三ノ三一)  
 長町 大阪の景況(くせ五〇)  
 長持 (假世四一)  
 長持 (安随八ノ二〇)(安夜四ノ二五)(孝經四ノ四〇)(解遊一ノ下ノ二二)  
 長持 (玉か二ノ二〇)  
 長屋 (孝經四ノ三三)(松筆二二五ノ四四)  
 長山雪子 賢婦(年打上ノ四五)  
 長能 歌人の名の訓(安随一〇ノ二二)(二七七八)  
 長柄橋 (安随八ノ二一)(安夜四ノ二八)(松落三ノ五六)  
 長柄宮 (拾玉一ノ一〇、一一)  
 媒人 中人(世帯七八)中媒女(冠給仲人)すあひ(松筆九八ノ一三)  
 媒人 一口(鹽尻四ノ四〇)(松筆九〇ノ二三)  
 媒人 (白紳九ノ七)  
 轅切 「クル」車ヲ見ヨ  
 仲買 冠給仲人(解遊一ノ三三)  
 仲山高陽 の小傳(百家説林卷七)讀譯鶴助ノ首

帯下 の妙樂(松筆一〇四ノ三三)  
 半井氏 (一話二五ノ四一)の傳(半日六ノ一四)  
 半井下養 (一話四八ノ四四)  
 流 大、小(松筆七三ノ一)

ナギ 無き力を出す 又無き手を出すといふ(伊豆山の 一)(川拾上ノ二四)  
 椰の花 の神輿(安随六ノ五)  
 椰 波眼とかく事(圓珠一四)  
 長刀 (松筆八四ノ六九)  
 奈木茶多(松筆五ノ四)  
 尾尾松は なる考(傍廂八一)  
 ナツ 泣真似 平仲の黒涙(鹽尻八ノ二三)  
 ナク 奥なく等の 一といふ詞(松筆八六ノ四〇)  
 なぐれる といふ詞(松筆九五ノ六六)  
 無くてよきもの (關秋二三)(四方月一)をよめる狂歌(松筆二二五ノ一三)  
 無くなりしもの 今絶へたるもの(後昔三〇)



なげ といふ語(櫻園下ノ五)  
なげいたまふ 古物語の詞(安夜五ノ一七)

なげき (松筆一〇ノ六)  
長押 敷居(茶筆三ノ二)×松落三ノ  
間木(松筆六ノ二二)

●ナニ

名子浦 越中國(閑耕一ノ三五)  
名古屋 近傍の岡(鹽尻二ノ一六)  
元禄五年の 戸数井人口(鹽尻二ノ  
四ノ四)の方言(鹽尻六ノ一七)

名古屋合戦 (鹽尻四六ノ一)  
名古屋城 の沿革(鹽尻六ノ八)  
鎮の事(鹽尻三ノ三五) 大主土木事始の日記  
建築逸事(如蘭二四ノ一四)

名古屋玄歯 の醫法(鹽尻一三ノ二二)  
名古屋山三 (遊遊五ノ二四)(鹽尻三ノ  
三)  
名古屋山左衛門(安隨二〇ノ七)  
名古屋三左衛門(鹽尻二八ノ二〇)×松筆  
八八ノ一)

名残 の義(玉一〇ノ二九)  
和難伎 「ハラ」破ヲ見ヨ

●ナメ  
なだれ といふ詞(松筆九五ノ九)  
鉦 爪無(安隨一ノ九)  
灘 の字義(居龍二五)  
名對面 殿上の名詞(安隨四ノ二)  
名高浦 紫の(玉九ノ一三)  
哪噠 (乘烟五ノ二)  
茶種 安政頃の相場(浪花六)

●ナチ  
那智 の如意輪像の開帳(鹽尻二ノ六)  
那智山 (笈埃六ノ一九)

●ナツ  
なづさふ といふ詞(玉六ノ二七)  
夏の七快(雲津三ノ五)  
夏の日の詩(鹽尻二六ノ六)  
僧侶の結解(雲錦四ノ一三)(年々二  
ノ二)  
「ケコ」夏籠ヲモ見ヨ

勿來關 義家(松筆一五ノ二九)  
奈吳海 「アコ」阿湖海ヲ見ヨ

納言 龍作井の住所(安隨一八ノ一〇)  
六ノ一三(談小五ノ三)  
「タイ」大ナモ見ヨ

●ナサ  
菜さう (遊遊二ノ四)  
情 の説(松筆六四ノ六)  
「ミン」人情ヲモ見ヨ

●ナシ  
なし 無に紛るゝといふ詞(安隨五ノ  
三五)

梨 なしありのみ(圓珠二ノ一)(南留二ノ  
六)(遊遊八ノ九)  
梨繪 (安隨四ノ七)  
梨地 聖地と沃懸地(安隨三ノ一六)  
馴染 さいふ詞(松筆八六ノ四六)

●ナス  
なす 如の字の古訓(磨屑三五)

夏の雨 は馬の脊をわくる(南留上ノ一  
二)(梅日ノ六)  
夏の蟲 (圓珠五)  
夏目左衛門 の忠死并其子(窓す一  
四二)  
名次山 の地理考(閑耕一ノ一七)  
納豆 (瓦礫二ノ一六)(橋本二ノ一〇)  
殿 殿(松筆一〇四ノ四〇)  
座禪 漢名(遊遊一〇ノ上ノ一五)  
久喜(安隨三ノ四一)(二ノ二二)(二〇ノ  
六)

●ナテ  
なてふ といふ詞(南留三ノ五)  
瞿麥 常夏といふ(隣女一ノ二)  
撫子と常夏(圓珠三ノ北邊一ノ二二)  
冬の(傍廂二七)  
名手莊 大塔御領(支同一ノ下ノ  
一)(同三ノ下ノ三〇)

●ナト  
など といふ俗語の字(安隨八ノ二五)(安  
夜五ノ二)  
●ナ、  
七色賣 庚申の(用捨中ノ一三)  
「カウ」庚申ヲモ見ヨ

茄子 の性(春波二一四)  
初 松とき(話八ノ二六)  
若 若瓜(北邊一ノ二二)  
秋 嫁に食はずの義(安隨一九ノ二  
二)(孝經三ノ二五)(暗語下ノ一〇)(鹽  
尻四七ノ一八)  
秋 秋(あさ)の種子漬(松筆六七ノ四三)  
那須 肥後國(提醒四ノ一一)

那須野 (笈埃七ノ二二)  
那須禰 (年打上ノ五八)(精軒二六)  
那須七騎 (安隨二〇ノ四三)  
那須宗高 天徳寺某の物語を聞  
て落涙せし話(駿臺義ノ二  
八)

那須湯 扇的(理齋四ノ一五)  
那須湯 (松筆八八ノ四九)

●ナセ  
なせ といふ詞(安隨一〇ノ二二)(二上六  
六)(橋本初ノ五ノ二)

●ナソ  
謎 (二話三〇ノ二二)(閑耕四ノ三〇)  
「古き」字(付)遊遊三ノ三一、  
なぞ(三養一ノ一四)(北邊四ノ五)  
(松筆七二ノ三〇)

七草 七種(理齋四ノ一一)  
七種菜(鹽尻二ノ一五)  
一種の七種(南留上ノ二七)  
「な」の始(一話三九ノ四四)  
日本のはやし詞(三養一ノ五)(松筆一〇  
〇ノ三八)  
七くり湯 (精軒二〇)  
七子 (三養一ノ二七)  
魚綾(松筆六六ノ三九)  
七子鞘 「タツ」刀劍ヲ見ヨ

七瀬川 出羽の瀬川(藝苑三ノ一六)  
七つさや さいふ詞(難江二ノ九七)  
七ツ寺 尾張の(牛馬六一)  
七ツ物 (蒼梧三ノ一四)  
七不思議 甲州及馬喰町の(見  
ナフ)小上ノ九一)  
七相替 (比古六ノ四七)  
斜ならず さいふ詞(安隨六ノ一五)(南  
留三ノ八)

●ナニ  
某 ムを「の」字に用ふる事(鹽尻五ノ八)  
名にあふ 又名にしおふといふ事(松筆  
六九ノ八)  
何事のおはしきすかは知らねとも  
のうた(松筆八五ノ三三)

**難波** なには又みつ (圓珠三〇)  
**難波川** の修造 (雲錦二〇三二)  
**難波津** 歌によめる (松筆一〇七ノ四)  
**難波堀江** 考 (孝經二〇八) (拾玉一ノ八)  
**難波宮** のうた (拾玉一〇二)  
**難波村** は古の難波の京 (續見一〇三)  
**難波屋十右衛門** か奢侈 (松筆九八ノ二六)  
**浪速園** (拾玉一ノ一)  
**浪花五人男** (假世四三) (曲波下ノ二) (宮川一ノ一三)  
**浪花の蘆** は伊勢の演歌 (幽遠下ノ二〇)  
**浪花の風** 解題 (浪花一)  
**浪花の都** (拾玉一ノ三)  
**ナメ** の名稱 (孝經三ノ九) (松筆一五ノ二三) (松筆四ノ四二) (松筆九八ノ二) (松筆一〇〇ノ四) (松筆一〇〇ノ四) (宿老庄屋 (玉ウ八ノ四四))  
**ナノ** なのりぞ藻 (圓珠三二)  
**名乗** 「シン」人名ヲ見ヨ

**名乗朝臣** 「アソ」朝臣ヲ見ヨ  
**ナハ** なばえ といふ詞 (松筆七四ノ二七)  
 繩 俵の横を不動といふ (鹽尻三三ノ一) (端手) 左り接の事 (鹽尻二七ノ一八) (松筆八ノ四五) (鹽尻三五ノ三二) (荒島小差 (安隨二〇ノ二三)) (一房 (松筆九二ノ五五))  
**ナフ** **細手** (松筆八三ノ一)  
**細抜け** 又繩たりし及繩切りの勢 (柳筆上ノ一ノ一七)  
**那波道圓** 道春に面會を斷絶す (窓一ノ四三) (の諺言 (傍廂二二)) (窓迫八二)  
**那波魯堂** の清帯 (四方月ノ二五)  
**ナフ** **なふ** をこなふ等の一といふ助語 (安隨六ノ八) (松筆九五ノ五〇)  
**なぶさ** といふもの (松筆一〇五ノ九)  
**なぶり** といふ詞 (幽遠上ノ六)  
**なぶる** といふ詞 (幽遠上ノ六)  
**納靴** の字義 (雜末四ノ五)  
**魚群** (雲錦二ノ一〇)  
**ナハ** **鍋** あしなへ、かな、主 (瓦礫一ノ三〇)  
**鍋島某** 勅使御馳走役に付御告 (半日一三ノ四)  
**鍋島勝茂** の室 (鹽尻一〇ノ一七)  
**鍋尻やく** といふ諺 (嬉遊九ノ四三)  
**鍋取** といふ古製 (用捨上ノ七)  
**鍋わり坂** (塵塚三四)  
**ナホ** **直江兼續** 石田三成と (鹽尻四) (の文學 (茶筆三ノ二)) (の詩材 (白筆八ノ八九)) (の詩材 (白筆八ノ八九)) (閑寛王状 (松筆九八ノ二三))  
**直如** 矢 (松筆九二ノ三九)  
**直衣** (安隨一四ノ一) (白紳四ノ二〇) (直垂の直の字 (安隨一六ノ二二)) (の制并鳥帽子 (安隨一四ノ二二)) (の二種 (安隨五ノ六)) (御引 (安隨一四ノ五)) (ヒク) 直垂ヲモ見ヨ  
**直し釘** (おろ下ノ一六)  
**直し物** (安隨四ノ一六) (松筆九七ノ三)  
**直仁親王** の蹴鞠堪なりし事 (閑自二ノ三)  
**直毘靈** の評に答ふ (答問三四)  
**直會** (安隨一九ノ一九) (隣女一ノ二) (若梧五ノ下ノ三八) (松筆七五ノ五三)

**ナメ** **名もしるし** 定家の一 (の歌の事 (玉ウ一二ノ二六))  
**ナヤ** **なやす** といふ詞 (松筆九五ノ一〇〇)  
**納屋** といふ名稱 (老牛中ノ三九)  
**ナヨ** **鯛魚** 「ボラ」鯛ヲ見ヨ  
**ナラ** **なら** 「ハ」尻ヲ見ヨ  
**ならす** といふ詞 (松筆九六ノ一二)  
**なら葺** の中葺 (苑小中ノ七一)  
**奈良** 百五十年前の (橋初ノ四ノ一) (の庭園 (骨董中ノ二八)) (解題 (溫知業書第八編ノ内))  
**奈良柴** (松筆一ノ一〇)  
**奈良七寺** (松筆一ノ一〇)  
**奈良大佛** の像より露の流れ落ちし事 (玉ウ一四ノ一五)  
**奈良茶** といふ料理 (嬉遊一〇ノ上ノ一)  
**奈良茶飯** 金龍山の (谷跡九) (四)  
**奈良漬** 「カワ」香の物ヲ見ヨ

**ナミ** **波** 波の名義 (松筆七ノ一八) (鹽尻三三ノ一) (片男波 (秋齋一ノ一)) (女男波 (松筆九五ノ三二))  
**波除杭** の漢語 (松筆二五ノ五)  
**並河五郎** の父 (假世三六)  
**並木** (松筆八八ノ一七) (の六字并唐の故事 (鹽尻一九ノ一〇)) (街樹 (昆陽一三三)) (列樹 (諷小ノ五一)) (唐土の (四方月ノ二四)) (路傍の (淺草) の櫻 (雜書三ノ二))  
**涙法師** 又なきむし (用捨中ノ九)  
**ナム** **南無** の字義 (傍廂二二) (隨意三ノ三八) (神前にて (唱) (し例 (松話四〇)) (南無阿彌陀佛 (松筆一四ノ一五))  
**ナメ** **なめん** だら といふ詞 (幽遠下ノ八)  
**菜飯** (嬉遊一〇ノ上ノ二)  
**滑川談** の流行 (隨意一ノ一一)  
**滑りたるもの** (松筆六四ノ三三)

**奈良土産返答** の評(一話二ノ二一)  
 槽 とカシハと同物(圓珠二八)  
 槽の葉の意味(白筆下ノ二三)  
 槽崎景忠 カ勇武の譽(茶筆二ノ二二六)  
 櫛(牛馬二六)  
 雙の丘 の東の墳に位を授けられた事(玉か二ノ三三)  
**ナリ**  
 なりざり 「イノ」支猪餅ヲ見ヨ  
 なりんぼ (嬉遊二ノ一九)  
 也 の字川法(松筆九七ノ三二)  
 成柄 の字(安隨一三ノ四一)  
 成田 といふ詞(松筆一〇〇ノ四六)  
 成田氏 武州の事(鹽尻三六ノ八)  
 成田無二左衛門 強賊(意テ三四三)  
 業平天神 (南留一ノ三三)  
 鳴物停止 仁木頼景法師のみまられる事(玉カ七ノ六)  
**ナル**  
 なるかみ いづち又——といふ名「ワイ」雷ヲモ見ヨ  
 成島道筑 の和歌(一話二ノ四三)  
 成瀬氏 の系圖(鹽尻六ノ一六、三六ノ四)

の祖(鹽尻一五ノ九)  
 成瀬川土左衛門 さい(る)力士(奇跡三一)  
 成瀬隼人 の正分家(談小二ノ四五)  
 成瀬 紀の關の——(玉カ九ノ一〇)  
 鳴瀧 といふ地名(松筆七ノ三三)  
 鳴子 引板(松筆九ノ二四)  
 鳴門 「アハ」阿波——ヲ見ヨ  
 鳴るは瀧の水 (三巻二ノ二四)  
 鳴海 驛と——寺(鹽尻四五ノ一四)  
 鳴海瀧 名所繪に——あり(鹽尻二ノ六六)  
 鳴海寺 尾州——(鹽尻四〇ノ一八)  
 鳴海平藏 錢奉行——の事(瀬田四ノ一)  
 南留別志 の評(年々六ノ八)  
**ナレ**  
 なれこ舞 (嬉遊五ノ三三)  
 馴公 (安隨一ノ三三)  
 馴者 といふ詞(松筆一〇六ノ三三)  
**ナワ**  
 名和長年 の父嚴正なりし事(雲筆四ノ八)

なん といふ詞(安隨六ノ二八)  
 なんかん といふ詞(嬉遊九ノ四六)  
 なんじやもんじや の木(嬉遊二ノなんのかの さいふに及ばずさいふ俗語(安隨八ノ二五)  
 なんぼ といふ俗語(橋本初ノ四ノ八)  
 難 中の——(鹽尻三〇ノ三三)  
 難解難入 (松筆八四ノ三三)  
 難經 を解くもの(餘餘二ノ二二)  
 難後言 の作者(鳥おとしの首)  
 難澁 といふ詞(松筆九ノ二六)  
 難城事迹傳 といふ書(一話二三ノ二九)  
 難船 に機を切りて斬る事(擁書四ノ三)  
 難(難) せし我國人に支那人の興へし木房州漂着の——(一話四四ノ一四)  
 難波次郎 の舊孝(雲筆一ノ一五)  
 南岳大師 (秋齋二ノ三)  
 南化和尙 の狂詩(假世三三)  
 南歸雁 「カン」雁ヲ見ヨ  
 南宮 美濃——社家の事(白紳四ノ三三)  
 南掌國 の貢象(一話三三ノ二二)  
 南禪院 の名木(南政上ノ一五)  
 南泉禪師 紀州に——の眞跡あり(白紳三ノ一三)

南村櫻耕録 といふ書(餘餘四ノ二七)  
 南池院 (松筆六五ノ二五)  
 南忠 大阪の處刑(一話七ノ三七)  
 南廷 の義(安隨二〇ノ五三)  
 南朝 の年號(松筆五ノ一)  
 南朝 後村上天皇與國年中の官兵(鹽尻八ノ一七)  
 正平三十四年頃の——御領(鹽尻三六ノ一四)  
 南北朝和議のさま(鹽尻三二ノ一九)  
 南北朝のさま(鹽尻八ノ一九)  
 南の神靈北朝に移る事(鹽尻一九ノ一三)  
 遺臣の捕獲(鹽尻三六ノ八、一五)  
 の公卿補任(玉カ七ノ四九)  
 「ナン」南朝ヲモ見ヨ  
 南朝殿粉 (一話三五ノ三四)  
 南條山人 「カハ」川名祐ヲ見ヨ  
 南條中務 ——主従父子和合の事(白秘三〇ノ二六)  
 南天 (骨董上ノ九)(南留二ノ一)  
 南都八景 ——所見(松筆二ノ一七)  
 南方紀傳 は世に希なる事(鹽尻三七ノ三二)  
 南方鐺 「クメ」鐺ヲ見ヨ  
 南部 天明三年の荒饑(宛小中ノ五九)  
 南北朝 の事(難江七ノ六九)  
 「ナン」南朝ヲモ見ヨ  
 南北分鏡 の義解(難末四ノ五)

南畝莠言 の草稿抄(一話一七ノ二五)  
 南洋諸島 裸形の國(茶筆三ノ二二)  
 南容 と敬叔とは別人なり(鹽尻六ノ四四)  
 南鏡 の字義(四方花ノ二八)(松筆七七ノ三五、九ノ二三)  
 編冊 銀を——さいふ(難江二ノ三七)  
 藏鈎 (鹽尻五ノ三)  
 藏鈎 (嬉遊四ノ三一)  
 男色 ——又かはつるか(北邊四ノ一七)  
 男色 といふ(三巻二ノ二二)  
 を俗にお釜といふ事(嬉遊九ノ三五)  
 (松筆六ノ七三)  
 若衆 垂髪、喫食、兒若氣(松筆六ノ六、九)  
 男籠(嬉遊九ノ三四)  
 渡り小姓 香具賣(嬉遊九ノ三六)  
 和漢の始(鹽尻二六ノ四)(嬉遊九ノ三四)  
 網子殿の籠(理齋四ノ一七)  
 白川院——を好み給ひし事(鹽尻四二ノ一五)  
 善光院殿 に溺るゝ事(難江七ノ三二)  
 猿樂の美童 宮千代九上下の籠をうけし事(鹽尻三ノ二八)  
 田樂歌 舞伎の少年——を賣りし事、小草履取に美童を撰ひし事(嬉遊九ノ三五)  
 淺井周防守 に因りて出奔の事(鹽尻一三ノ二二)  
 文明の頃 流行の事(鹽尻七ノ四〇)  
 一兒二山王(柳筆上ノ一三六)  
 美少年を安阿彌が作さいふ事(還魂上ノ八)(同下ノ二五)(足齋二ノ四三)

男女 相對死(一話二ノ九)  
 「カク」娼童「ヤラ」野郎ヲモ見ヨ  
 古代 氣形の相違(鹽尻八ノ三二)  
 の合集に付桓武の制(鹽尻三四ノ二七)  
 の數(南留五ノ一七)  
 唐國上ノ四一)  
 女化爲男(鹽尻七ノ二二)(意道三四)  
 男化爲女、女化爲男(鹽尻三ノ三八)  
 男化爲女(閑耕二ノ二四)  
 「オト」男「メ」女ヲモ見ヨ  
 納戸 の名稱(安隨一九ノ四六)  
 女名(孝經四ノ三一)(玉カ八ノ四〇)  
 軟飽 ——最甜(技癢二ノ一〇)  
 軟瑪腦 (筆上ノ六)  
 ニ  
 に 「ミ」をとのてに(難江二ノ八〇)  
 (北邊四ノ一七)  
 と「ミ」と同じ意に通ふ例(難江五ノ四〇)  
 「の」に「ミ」と近し又「ミ」にも近し(難江七ノ三〇)  
 「ミ」の別(難江五ノ二七)(樞閣上ノ二八)  
 境を——とむ事(南留三ノ五)  
 「ミ」と相通(安隨一ノ二七)  
**ニウ**

柔弱 若き人々の一なるを嘆す(花月六六)

●ニカ  
二階から落ての後にはひまになりけり(松筆八八ノ一六)

二階堂氏 の姓(白紳一〇ノ一五)

二階堂政行 (安隨六ノ三七)

二階の上 といふ事(松筆九八ノ二)

二合 (松筆九四ノ二九)

二監 芳野監と和泉監(松棟一ノ二〇)

膠 の用法(安隨一四ノ三)

佛に一本用ふる事(松筆一四ノ一九)

似顔繪 (傍廂三三)(遊遊三ノ一三)(櫻塚三九)

の初(寛天二二)

乾笑 「ニシ」錦繪ヲモ見ヨ

「アヲ」笑ヲ見ヨ

●ニキ  
にきび の磯(理齋五ノ一六)

饒速日尊 の御殿(鹽尻三五ノ三)

握飯 燒飯、屯食(松筆五二ノ二二)

二禁 (松筆九三ノ四三)

●ニク  
にくるべ を釋迦牟尼佛とかく事(南留三ノ五)(老牛中ノ六)(擁書)

憎きもの (傍廂一三)(關秋七)

元僧種子庭可憐の詩(鹽尻二ノ一七)

(脇餘一ノ二〇)

肉色 (松筆九五ノ三三)

といふ詞(松筆一二ノ四〇)

肉翅 (橋本二ノ五〇)

肉食 (安隨四ノ四八)

佛氏(安隨九ノ四)(二上五)(多波上ノ四)

我國忌(始(隨意四ノ九)

獸肉を食ふ事(難江六ノ八)

「キエ」忌穢(シツ)獸肉ヲモ見ヨ

肉生 の製法(昆陽五九)

肉罩 (東屋下ノ三)

肉店 支那の屠肉家に焚燔の像を置く事(鹽尻一七ノ二)

肉飛 の字義(昆陽二七)

二宮 三宮(松筆六ノ一一)

二月 ささらぎを歸佛と書く事(平日五ノ一)

北る といふ字(餘餘一ノ二四)

●ニケ  
にげほとばしり といふ詞(答問一一)

逆水 武藏國(傍廂一二)(撈海上ノ二)

唐土にもあり(撈海上ノ一三)

二絃 關説(茅窓中ノ三七)

●ニヒ  
にこやか といふ詞(幽遠上ノ六)

濁酒 「サケ」酒ヲ見ヨ

●ニサ  
二三次 「ツカ」塚越榮陽ヲ見ヨ

●ニシ  
虹 關説(一話四五ノ一一)

を見て天氣を占ふ事(兎小上ノ一一)

西尾忠政 (豊後守)の事(談小五ノ二五)

西尾八幡 の神祇(白紳九ノ二四)

西川如軒 天文学家(一話三六ノ三七)

西三條實隆 父子の事(山下二二)

西根甚五左衛門 (窓二四九)

西久保八幡 (望海二五)

西八條 清盛の弟(の考(居龍三七)

西はれの家 の義(松筆五ノ二二)

西原弘和 小傳(兎小首ノ二)

西丸裏門番 の頭の役名(平日二ノ二四)

西村壽軒 書家(一話三六ノ三九)

西山宗因 「ツツ」宗因ヲ見ヨ

錦 錦織(松筆五ノ一四)

古「蜀江」織の「遊遊」二ノ下ノ三

蜀江(安隨一ノ一八)(安夜一ノ二〇)

小車(松筆六三ノ三〇)(二〇ノ四四)

東車(安隨一九ノ五)

蝦夷(松筆八六ノ三)

倭考證(海四一ノ二二)

錦繪 江戸の「近事」一四(燕石三ノ三)

江戸繪(放給(遊遊三ノ二))

紅繪又江戸繪(世談一六〇)

東の「は」まり(宮川四ノ二一)(話二五ノ三三)

地紙形(の發行(平日一三ノ一五))

役者繪彩色の始(後書二一)

「エ」繪畫「ニカ」似顔繪ヲモ見ヨ

錦を着て夜行か如し といふ諺(松筆九)

錦の浦 (松筆七八ノ二九)

錦旗 「キン」錦旗ヲ見ヨ

仁科信盛 高遠の落城(一話四ノ四五) の戦死

二十 念の字(乘燭四ノ一)(隨意七ノ三)

を念といひ又瀧浦といふ(隨意ノ七)

廿冊冊の字(鹽尻三九ノ一八)

二十一史 (安隨一ノ三二)(談小四ノ三三)

考(一話一五ノ四)

今十七史に宋送金元四朝の別史を加へてとする事(南畝上ノ一七)

鮮明なる (一話三六ノ三六)

二十三祖 天竺(一話二八)

二十三屋 「クシ」攝屋ヲ見ヨ

二十四孝 (昆陽一八五)(世事二二)

二十八日 幕府の時(一話四〇ノ二三)

後談(白秘五)

二十枚勘解由 大阪陣の時(義をくらへて)の月の説(閑階下ノ一五)(南畝上ノ一)

二鐘亭半山 といふ人(見た京物語解題の内)

二乗 家語五儀解中(の義(愚樓上ノ二))

二乗根性 といふ事(二話四ノ二)

二所ノ關 奥州(松筆一〇九ノ三六)

鯨 (松筆二一五ノ一五)

●ニセ  
修 の字(難江二ノ二〇)

似せ繪 「セウ」肖像ヲ見ヨ

二千石 (松筆九二ノ二八)

●ニソ  
二足三文 (骨董中ノ二〇)

●ニタ  
にた山 といふ俗語(橋本二ノ一九)(擁書二ノ一九)

●ニチ  
日途 僧一傳(世事一六)

日用 の字(松筆七九ノ八)

日羅 は僧にあらす(秋意二ノ二五)

日蓮 大蓮明院といふ事(鹽尻五ノ七)

救免状(一話二六ノ三三)

の文(平日一〇ノ二八)

の歌(松筆九五ノ四六)

日蓮宗 を駁せる著述の事(一話二六ノ八)

當家宗名目(一話八ノ五)

の無稽なる事(鹽尻四ノ一七)

の邪(鹽尻五ノ二二)

我神祇を外にする事(鹽尻四三ノ四九)

京大佛供養に出ず(松筆一〇六ノ四九)

の片意地(松筆九四ノ四六、九五ノ二)

が他宗を誹謗する事(鹽尻四ノ八)

罵念佛(鹽尻五ノ一八)

の誹謗(武俗五三)

淨土宗 の對論(の詭狀(鹽尻一三ノ二六)

祐天に説破る、一徒の不法(鹽尻五ノ二八)

道却院實案の寫(鹽尻四三ノ四)

斷邪顯正編の被文(鹽尻二ノ一)